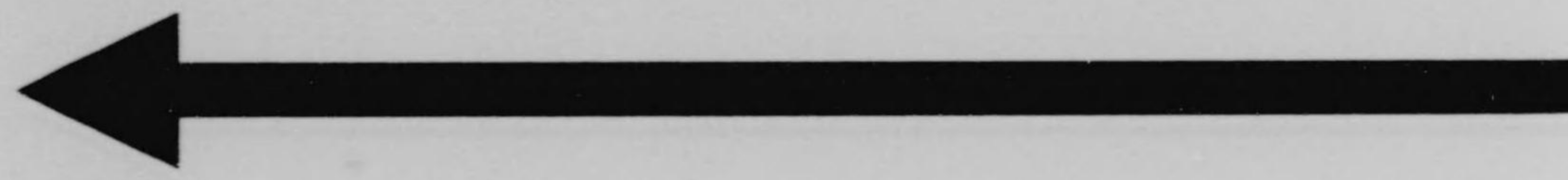


380

291



始





IF 4M 53

650.21  
MAR 3 1915

~~380.29~~  
↓  
生

380  
29



林學博士 松波秀實遺稿

明治林業史要後輯

大正  
13. 4. 15  
内交







### 故林學博士 松波秀實君小傳

博士ノ幼名ハ誠次郎、舊南郡藩士日戸綱三氏ノ二男、慶應元年三月十四日、盛岡市外東中野村ニ生レ、夙ニ恬ナク實見秀治氏ノ養育ヲ受ケ。資性沈著、嬉戯ヲ好マス、童時頗ル老成ノ風有リ。明治十五年、東京山林學校ノ創設セラレルヤ、敢然岩手中學ヲ退キテ之ニ入り、十九年同校廢止、東京農林學校ノ設置ニ際シ、其ノ林學科第一年ニ移ル。此ノ間松波家ノ養嗣子トナリ、二十一年八月業ヲ卒ヘ引續キ母校ノ研究生トナル傍、明治法律學校ニ學ヘリ。二十二年八月農商務技手トシテ山林局ニ勤務シ、二十五年一月同局第一課長心得トナリ、翌年十一月農商務技師ニ任ジ、二十七年二月出テ大阪大林區署勤務トナリ、尋テ其ノ署長ヲ命セラレ。二十九年六月山林局勤務ニ復シ、三十年六月林務課長トナリ爾來數次官職名ニ移動アリタルモ常ニ局内ニ在テ重事務ニ執掌シ、又三十四年命セラレテ海外林業ヲ視察シ、大正八年推薦ニ依リ林學博士ノ學位ヲ授ケラレ、其ノ後功勞ヲ以テ從三位勳二等ニ叙セラレタリ。惟フニ、博士ハ大正十一年五月辭職スルニ至ル迄、官界ノ閱歷實ニ三十有四年ニ亘リ、終始一貫、我林政ノ爲ニ盡瘁シ、彼ノ明治三十二年以降二十三年間ヲ費シテ完成セル國有林野特別經營事業及大正十年創設ノ公有林野官行造林事業ノ如キ、博士ノ在官中最モ精力ヲ傾注セルモノニシテ、尙公務ノ餘暇、明治林業史要ヲ著シ、次テ其ノ後輯ヲ編纂シ、維新以來ノ林政沿革ヲ明ニセリ。加之、博士ハ勇退後ト雖敢テ筆所スルヲ屑シトセス、終生帝國林業ノ爲ニ努力センコトヲ誓ヒ、之ヨリ東奔西走、大ニ其抱負ヲ實現セントシタルニ、天齡ヲ假サス大正十一年九月十四日遼瀋不歸ノ客トナレリ、薨去ノ報天聽ニ達スルヤ特ニ祭菜ヲ賜ヘリト云フ。

## 前 言

一曩ニ予ノ明治林業史要ヲ著スヤ敢テ之ヲ大成スト云フニ非ラス、唯是維新以來紛糾錯綜セル事蹟ノ徑路ヲ明カニシテ以テ後賢ノ爲ニ修史上ノ資料ヲ編次シタルニ過キス該卷頭ノ自序不文ト雖聊カ此ノ間ノ心事ヲ披瀝セリ本輯ニ於テ亦云爾

一本輯ハ主トシテ最近數年間ノ事蹟ヲ採録セリ、然ルニ冠シテ明治ト稱スル所以ノモノハ前者ノ繼續ニ係ルヲ以テナリ、依テ別ニ後輯ノ二字ヲ附シテ其ノ意ヲ明カニス尙編纂ノ體例亦前著ニ倣ヘリ

一明治大正ヲ通シタル林政中ニ於テ特筆スヘキ二大事業アリ、一ハ即チ國有林野特別經營事業ニシテ、他ノ一ハ即チ公有林野官行造林事業ナリトス、前者ハ二十三年間繼續シ今ヤ豫期ニ倍蓰スルノ成績ヲ以テ終結セリ、後者ハ現時尙創始ニ屬スルモ亦有終ノ美ヲ濟サムコトヲ必セリ、後來林業史ヲ編スル者アラハ請



フ之ヲ閑却スルコト勿レ

一明治林業史要中北海道及新領土ノ森林ニ就テハ其ノ片影ヲ露ハシタルニ過キサ  
リシヲ以テ本輯ニ於テハ遡テ之ヲ記載セリ

一本輯ヲ編纂セムトスルニ當リ山林局ニ於テハ石原清逸君、北海道ニ於テハ林駒  
之助君、臺灣ニ於テハ山崎嘉夫君、朝鮮ニ於テハ後藤房治君、樺太ニ於テハ安  
藤一次君等ノ諸彦ヨリ多大ノ援助ヲ得タリ又以上諸彦ヨリ寄與セラレタル材料  
ノ全部ヲ網羅セサリシハ予カ諸彦ニ辜負スル所鮮少ニ非ラス、茲ニ謝意ヲ表ス  
ルト共ニ諒恕ヲ請フ

大正十一年八月

松波秀實

# 明治林業史要後輯 目次

## 第一編 林 政

第一章 總說	一
第二章 森林ノ行政機關	四
第一節 國有林系統ノ行政機關	四
第二節 一般森林ノ行政機關	五
第三章 治水事業	六
第一節 治水關係地調査	六
第二節 公有林野ノ造林獎勵	六
第三節 荒廢地復舊補助	七
第四節 既墾地復舊補助	七
第五節 保安林及開墾禁止制限地ノ標柱建設	七
第六節 森林組合ノ設立獎勵	七
第七節 國有林野ノ砂防設備	六
第四章 林野ノ整理	八

目次

一



第一節	御料林野ノ整理	八二
第二節	公有林野ノ整理	八五
第五章	公有林野官行造林ノ開始	八八
第六章	林業ノ指導獎勵	一〇八
第一節	一般林業ノ獎勵	一〇八
第二節	森林火災保險ノ開始	一三四
第三節	博覽會及共進會ノ開催	一三六
第七章	林業試驗場ノ獨立	一三四
第八章	森林協議會ノ開催	一四一
第九章	森林教育	一四四
第十章	森林所得稅	一四五
第十一章	木材ノ規格統一	一四六
第十二章	林產物ノ貿易	一四八
第二編	國有林野ノ經營	一五一
第一章	保護管理	一五一
第一節	社寺保管林	一五一

第二節	委託林	一五三
第三節	森林主事ノ表彰	一五三
第二章	特別經營事業ノ終了	一五五
第一節	國有林野特別經營事業ノ沿革	一五五
第二節	事業創始當時ノ計畫	一五七
第三節	當初計畫ト實行トノ對照	一五八
第四節	特別經營事業ノ效果	一六四
第五節	結論	一八五
第三章	施業	一八六
第一節	施業案ノ編成方針	一八六
第二節	開墾適地ノ調査及處分	一九七
第三節	產物ノ特別處分	一九八

第三編 北海道及新領土ニ於ケル森林經營

第一章	北海道	二〇四
第一節	維新後ノ林政沿革	二〇四
第二節	國有林	二二三



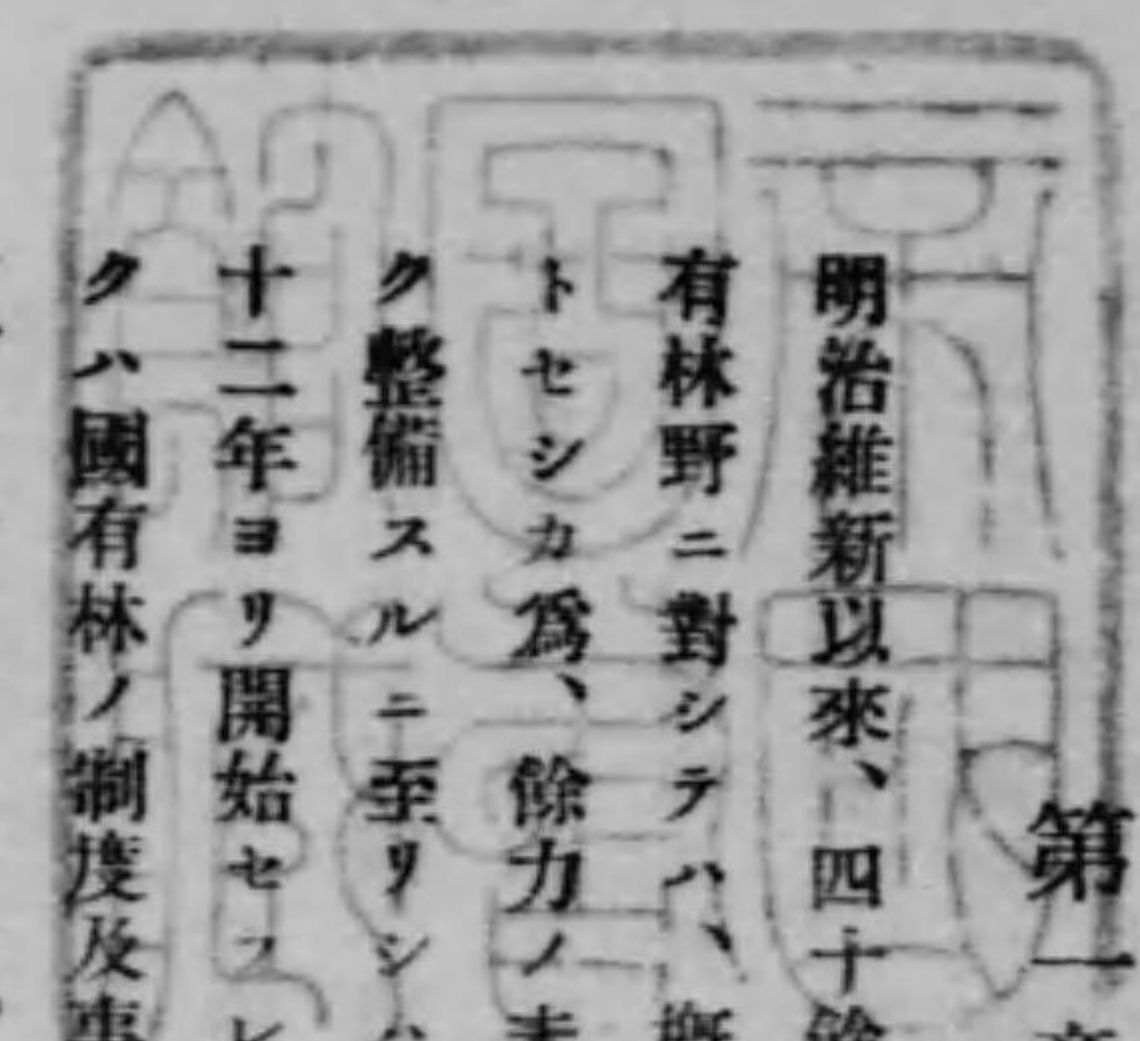
目次	四
第三節 一般森林	二二五
第二章 樺太	二二八
第一節 領有以來ノ林政沿革	二二八
第二節 國有林	二三四
第三章 臺灣	二三八
第一節 領有以來ノ林政沿革	二三八
第二節 一般森林	三三四
第三節 樟腦及樟樹造林	三三七
第四章 朝鮮	三四三
第一節 日韓併合後ノ林政沿革	三四三
第二節 一般森林	三四六

# 明治林業史要後輯

林學博士 松 波 秀 實 著

## 第一編 林業

### 第一章 總說



明治維新以來、四十餘年間ニ於ケル林政ノ施設ハ、主トシテ國有林野ニ重キヲ措カレタルヲ以テ、一般公私有林野ニ對シテハ、概シテ見ルヘキモノナシ。是レ敢テ等閑ニ付サレタルニ非ラス、國有林野ノ施設ヲ急務トセシカ爲、餘力ノ未タ之ニ及フ能ハサリシニ由ルナル可シ。然リ而シテ、國有林野ノ諸般事業、今日ノ如ク整備スルニ至リシハ、林區制度ノ設置ニ胚胎スト雖、其ノ整備ヲ促進シタル最大ノ要因トシテハ、明治三十二年ヨリ開始セシメタル特別經營事業ヲ推ササルヲ得ス。若シ夫レ、本事業ノ開始ヲ見サリシナラハ、恐クハ國有林ノ綱度及事業上ニ於テ、現在ノ進歩ヲ實現スルコト、今日ヨリ見テ尙十年、二十年ノ後ニ俟タサル可ラサリシナラン。如此、國有林野ハ特別經營事業ノ爲ニ、急速ノ發展ヲ遂ケタルモ、公有林野ニ對シテハ久シキ間、林政上何等施設セラルルコト無カリシカ故、濫伐ニ繼クニ濫伐ヲ以テシ其ノ保續的生產ヲ圖ルモノ洵ニ寥寥、大部分ハ荒廢ノ儘ニ推移シ、延テ治水上至大ノ影響ヲ生スルモノアルニ至レル状態ナリキ。故ヲ以テ、政府ニ於テハ、夙ニ之カ整理統一ノ促進ヲ考慮セルモ、時機未タ熟セス、漸ク明治四十年改正森



林法ノ發布ト同時ニ、全國ニ亘リテ公有林野ノ一大整理ヲ決行スルコトトシ、先以テ部落有ヲ市町村ニ整理統一ノ手段方法ヲ講シ、入會ノ整理ヲ行ヒ、管理區分ヲ爲ス等、必要ナル各事務ヲ進捗シ、一面、國有林野ニ對スル諸般ノ企畫ト共ニ、兩々相俟ツテ林政ノ運用ヲ完フシ、茲ニ一般林業ヲ發展セシムルノ氣運ヲ開キ、以テ大正ノ今日ニ及ヘリ。

抑、本邦ノ林政ハ、地域ニヨリテ大別セラレ、農商務省（内地即府縣ノ行政區域ニ屬スルモノ）、内務省（北海道ニ屬スルモノ）、朝鮮總督府（朝鮮ニ屬スルモノ）、臺灣總督府（臺灣ニ屬スルモノ）、樺太廳（樺太ニ屬スルモノ）ナル五個ノ機關ニヨリテ施行セラルルモノニシテ、其ノ明治初年以來、大正四五年ノ交ニ至ル期間中ノ事蹟ハ、明治林業史要ニ於テ、已ニ之ヲ輯録セルカ故敢テ茲ニ複説セサルモ、要スルニ、明治年間ヲ通觀スレハ、内地ニ於ケル國有林ノ制度ヲ大成シ、漸ク歩武ヲ各地ノ一般林政ニ及ホシタルモノト稱スルヲ得ヘシ。現在ニ於テ、尙繼續シツツアル彼ノ治水事業ニ屬スル荒廢地ノ復舊、公有林野ノ造林獎勵、森林組合ノ設立獎勵、開墾地復舊補助等ハ暫ク之ヲ問ハス、新ニ施設セラレタルモノニハ、樹苗養成獎勵アリ、竹林造成ノ獎勵アリ、其ノ他全國又ハ府縣ヲ區域トスル社團法人タル山林會ノ特定事業ニ獎勵ノ爲國庫補助金下付ノ規定ヲ設ケラレ、又特筆スヘキ公有林野官行造林事業ノ實施セララルアリテ、一般林制林業ノ如何ニ發展シ來リタルカヲ知ルニ足ルモノアラン。

加之、大正九年九月、農商務省ニ於テ開催セル、全領土森林協議會ハ、帝國林政統一上ノ一序幕ニ相當スルモノニシテ、之カ具體的實行ニ關シテハ、將來順次其ノ歩ヲ進ムヘク、又前述ノ國有林野特別經營事業ハ、大正十年度ヲ以テ其ノ結末ヲ告ケタルカ故、内地ノ國有林野ハ、整理的臨時業務ヲ了シ、總テ經常事務トシ

テ、坦々タル一進路ノ下ニ益々發展スル所アルヘク、尋テ一般公有林野ノ施設ヲ完備シ、更ニ全領土ノ林野ヲ舉ケテ遺憾ナキ良制ノ下ニ、其ノ精華ヲ發揮スルノ日遠カラサルヘキヲ信ス。

而シテ、歴代農商務大臣ノ、大林區署長會議及地方長官會議、府縣林務主任官會議其ノ他ニ於ケル訓示ハ、我邦林政ノ變遷發達ノ沿革ヲ考察スルニ足ルヘキヲ以テ、左ニ之ヲ掲ケ、以テ年々事業及制度發達ノ事蹟ニ於ケル梗概ヲ窺知スルニ便セントス。

因ニ、本編ニ輯録セル訓示中、明治三十一年及同三十四年ノ二箇年ハ、訓示ノ事蹟定カナラサルモ、稿本ノ存在セルモノアルヲ以テ暫ク參考トシテ之ヲ掲クルコトトセリ。

### 歴代農商務大臣ノ訓示

#### 一、明治三十年十月大林區署長會議ニ於ケル大隈農商務大臣ノ訓示

國家富強ノ基ハ殖産工藝ノ發達ニ在リ、殖産工藝ノ發達ハ教育ノ扶翼ニ依ルコト論ヲ俟タスト雖モ亦行政ノ施設ニ待タサルヘカラス、特ニ林業ノ如キハ適當ノ保護獎勵ナクンハ得テ其ノ發達ヲ望ム能ハサルモノトス、是レ政府ニ於テ曩ニ森林法ヲ發布シ以テ刻下ノ急ニ應ジタル所以ナリ、惟ルニ森林教育ハ漸次其ノ歩ヲ進ムルヲ見ルモ森林行政ニ至リテハ世運ノ推移ニ伴ハス、學術ノ進歩ニ隨ハス、之ヲ十數年前ニ比スルモ殆ント大差ナキカ如シ林政刷新ハ緊急ナリトス、

抑、本邦ノ地勢タル山岳起伏シテ平野稀ニ森林トナスノ外利用スルチ得サル土地少シトモ多クハ諸山秃峰ニシテ鬱然タル樹林ニ乏シク近山ハ既ニ濫伐セラレテ唯々深山ニ天然ノ眞林ノ存スルノミ、而シテ木材ノ需要ハ一年ニ増大スルニ從ヒ其價格ハ上昇シ途ニ外國材ノ輸入トナリ我木材市場ハ將ニ一大恐慌ヲ來サントス

山林ノ荒廢ハ此ノ如ク當ニ材價ニ變動ヲ及ホセシノミナラス、公安上ニモ大ニ影響ヲ及ホシ水害頻リニ到リ屋ヲ流シ地ヲ損ス、蓋シ官林ノ濫伐面積七百萬町歩アルニモ拘ハラス其收入僅ニ百餘萬圓ニ過キス之ニ反シテ治水費ハ一箇年四百萬圓ニ達ス豈寒心セサルヘケンヤ、現況其レ斯ノ



如シ、速ニ一大英斷ヲ施シ林政ヲ刷新シテ以テ百年ノ大計ヲ立ツヘキナリ、而シテ此大計ヲ立ツルニハ先ツ官林經濟ノ目的ヲ定ムルヲ要ス即チ、

- 第一、官林ノ經營ハ永遠保護ノ利用ヲ大本トシ其方案ハ務メテ遺利ナカラシムルヲ要ス
- 第二、官林ノ經營ハ地方各部及國ノ需要ニ適應スル材種ヲ最多数ニ產出セシムルニ在リ
- 第三、官林副産物ノ採取ハ主産物ヲ害セサル程度ニ限ルヘキ事
- 第四、務メテ農業及ヒ工藝ノ需要上便宜ヲ圖ルヘキ事

以上目的ヲ達スルニハ行政ノ威力ニ依リ左ノ各項ノ實行ヲ期ス

- 一、現行諸規程ヲ改正廢止シ及ヒ必要ノ規定ヲ制定スル事
  - 二、國有ト爲スヘキ官有林野ヲ確定スル事
  - 三、前項ニ依リ除却セラレタル官有林野ハ之ヲ賣却若クハ民地ト交換スル事
  - 四、官民有區分ノ事項ハ申請スルヲ得ヘキ期間ヲ定メ期滿ツレハ採用セサルヘキ法令ヲ發スル事
  - 五、存置スヘキ官有林野ノ境界ヲ確定スル事
  - 六、存置スヘキ官有林野ノ林況ヲ調査スル事
  - 七、施業案ヲ編成シテ植伐ノ順序及ヒ程度ヲ確定スル事
  - 八、深山幽谷ニ充滿スル天然林ノ利用ヲ講スル事
  - 九、未立木地ニ造林ヲ施ス事
  - 十、民林業ノ監督ヲ嚴正ニシ其發達ヲ圖ル事
  - 十一、森林教育ヲ獎勵スル事
  - 十二、森林試驗所ヲ設ケル事
  - 十三、森林保護吏養成所ヲ設ケル事
  - 十四、森林官ノ待遇ヲ進ムル事
  - 十五、府縣廳管理ノ官有山林原野ハ總テ大林區署ノ管理ニ移ス事
- 以上各項中從來既ニ着手セラレタルモノ少カラスト雖モ、其方針始終一貫セサルヲ以テ、未ダ真績ヲ得タルモノナシ、故ニ今後ハ速ニ第一項乃至第七項ヲ完了セシメ以テ官林經營ノ基礎ヲ確定セサルヘカラス、又從來ノ官林經營ヲ見ルニ常ニ消極的保守ニ傾キ只々其財產ヲ固守スルノミ

是カ爲メ未ダ技術ノ上ニ於テ改良發達セシメタルノ効績ヲ認メス官有財產ノ保全固ヨリ忽ニスルコト能ハスト雖モ、之カ經濟的利用ヲ計ラサルトキハ全國過半ノ森林ヲシテ無爲ニ終ラシメン、又從來官林行政ノ往々地方民情ト相衝突スルコトアリ、之カ爲メニ獨リ地元ノ人民ヲ苦シムルノミナラス、亦官林經營上ニ不利ヲ受ルコト少カラズ、元來官林所在地ノ人民カ官林ノ爲メニ幾分ノ恩澤ヲ享ルハ獨リ我國舊來ノ習慣ノミナラス、歐洲諸國ノ林政歴史ニ徴スルモ亦然リ、故ニ將來此弊ヲ力メテ矯正セシムルコトヲ期ス、

既ニ斯ノ如シ此等重大ノ責任ヘキ林務官タル者ハ須ラケ國家的ノ觀念ヲ抱持シ忠實ニ其學術ト經驗トヲ活用シ事ヲ處スルヤ嚴正ニシテ機敏ナラサルヘカラス、勇猛ニシテ果斷ナラザラヘカラス、

本大臣ノ森林行政上ノ方針前述セルカ如シ林務官ハ克ク本大臣ノ主旨ヲ體認シ其職責ヲ守リ其任務ヲ盡シ以テ此林政刷新ノ實ヲ舉ケンコトヲ力ムヘシ

一、明治三十一年二月地方長官會議ニ於ケル伊東農商務大臣ノ訓示

我邦森林ノ事業ハ從來適當ノ保護獎勵法ノ設ケアラザリシニ因リ他ノ事物ニ比シテ實ニ進歩ノ遅々タルヲ免カレザリシト雖モ本年ヨリ森林法施行トナリ林政ノ基礎既ニ定マレルニ付テハ此ノ法律ヲ適宜ニ施行シ着々保護獎勵ノ施設ヲ爲シ以テ新業ノ發達ヲ期スヘキナリ而シテ法ヲ圓滿ニ施行シ其目的ヲ達スルハ實ニ其運用如何ニ在リテ存スルカ故ニ森林法施行ニ付テハ直接其事ニ當ル地方長官諸君ノ任務亦大ナルヲ以テ茲ニ聊カ諸君ニ注意シ併セテ余ノ希望ヲ述ント欲ス

近年各地方至ル處水害頻々ナル重ニ其原因ヲ森林ノ荒廢ニ歸スルモノ諸君ノ知了セラル、所ニシテ速カニ森林ヲ整理シ國土ノ危害ヲ豫防スルノ措置ヲ爲スヘキハ論ヲ俟タズト雖モ而モ森林ハ又國家ノ一財源ナリ素ヨリ經濟的利用ヲ圖リ林利ノ擧カル時期セサルヘカラス即チ森林ヲ區別スルノ上ニ於テ單ニ保安ニ偏スルトキハ經濟ヲ損シ利用ニ傾クトキハ國土ノ危害ヲ招ク斯ノ如ク一面ハ國土ノ保安ヲ維持シ一面ハ經濟上ノ利用ヲ圖ルニ在ルカ故保安林編入ノ如キハ宜ク其地況林況ヲ考覈シテ一方ニ偏倚セザランコトヲ要ス保安林ト利用林ト兩ツナカラ其度ニ適セシムルヲ亦難事ナルヘシト雖モ此範圍ヲ保ツハ林政上ノ一要務ナルヲ以テ地方ノ實況ヲ知悉セラル、ノ諸君ニ於テ深ク留意セサル可ラサルコトヲ及リ且又保安ニ關係アル森林ニシテ目前ノ急ニ迫レルモノハ大抵森林法施行以前ニ編入セシカ故ニ今日保安林トナリ居ルモノ其箇所尠カラス是等ニ向ツテハ將來適宜ノ取扱ヲ要スル爲メ本年ヨリ五箇年以内ニ精細ノ調査ヲ行フコトナレハ其調査事業モ亦容易ナラス從テ之カ經費ヲ要スルナリ森林法ノ施行ニヨリテ新ニ要スル經費ニ就テハ警テ相當ノ計畫ヲ立テタリシモ豫算不成立ノ結果終ニ來年度ニ於テハ諸君ニ満足ナラズルヲ得サルハ甚ダ遺憾トスル所ナルモ已ムテ得サルノコトナルカ故ニ諸君ノ勵精ニヨリテ着々進行センコトヲ望ム

森林ノ警察ハ從來一定ノ法度ナク森林法ヲ以テ其事項ヲ規定セラレタリ森林思想ノ幼稚ナル今日從來放任シアリタル事項ニシテ新ニ制定スル法



下ニ立タシムル其實施ノ上ニ於テ困難アルヲ免カシムルヘシト雖モ元來森林警察ハ他ノ一般ノ警察事務トハ自ラ其趣ヲ異スルモノナレハ實最其宜シキヲ得森林其物ニ適應スルノ程度ヲ以テ漸次進行セハ自ラ法律ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ警察事項ノ中ニ就テ最モ注意ヲ要スルハ森林原野ノ火入ナリトス森林原野ニ火入ナリトスハ舊來ノ慣習ナルモ其取締法周到ナラザリシヲ以テ延燒ノ害比々トシテアリ爲メニ森林ヲ燒失シ一朝ニシテ數萬ノ林木ヲ烏有ニ歸セシムルノミナラス保安林ノ此害ヲ被ムルニ至リテハ國土ノ危害ヲ來ス等其影響スル所實ニ大ナルカ故ニ地方ノ習慣ヲ斟酌シ其取締法ヲ周到ニシ危險ヲ豫防スルノ施設ヲ爲サ、ル可ラス

次ニ營林ノ監督ニ至リテハ敢テ民業ニ干渉スルヲ望ムニアラサルモ林業ノ如キハ森林教育ノ普及セサル森林事業ノ發達セサル現今ノ狀態ニ於テハ之カ指示誘導ヲ爲シ以テ適實ノ施設ヲ爲サシムルニアラスンハ得テ其發達ヲ望ムヘカラサレナリ故ニ獎勵ニ監督ニ及フヘキ丈ケ力ヲ注キ以テ之ヲ指示誘導スルハ今日ノ一急務ニ屬ス而シテ森林ノ貴重スヘキヲ覺リ林業ノ利益アルヲ知ラシメハ終ニ人々自ラ進ンテ完全ノ事業ヲ施スニ至ルヘク即チ森林思想ノ發達ト共ニ森林犯罪者ノ如キハ自ラ其數ヲ減スルヲ得ン

終ニ臨ンテ尙一言ヲ要スルハ地方森林會議員ノ選定是ナリ保安林ハ國土ノ安危ニ關スルモノナレハ之ヲ審議スルモノ國家的觀念ヲ以テセサルヘカラサルハ論ヲ俟タサル所ニシテ若シ議員タルモノ一部ノ民情ニ泥ミ或ハ地方黨派ノ私情ヲ挾ムカキコトアラハ實ニ法律ノ規定ハ却テ其弊害ヲ見テ止ムノ悲況ヲ呈セシノ議員其人ヲ選フノ上ニ於テ深ク觀察ヲ要スヘキコトナラスヤ

以上只目下ノ急務ニ就テ概言セシニ過キス要ハ始メテ森林ノ法律ヲ施行スルノ今日ナルニ付之ヲ圓滿ニ運用シテ其功效ヲ擧ケンコトヲ期スルニ在リ

三、明治三十二年四月地方長官會議ニ於ケル會禰農商務大臣ノ訓示(一節)

森林ニ關シテハ既ニ前年森林法ノ公布アリシ以來一般森林監督及保安林編入解除ノ機關備ハリ地方廳ノ事務ニ層ノ緊要ヲ加ヘ且經費及技術者等ノ點ニ於テ種々ノ支障アルニモ拘ハラズ諸君ノ熱心ナル督勵ニ依リ林務上ニ一生面ヲ開キ特ニ保安林調査ニ關シテ稍其ノ端緒ニ就キタル地方モ亦少カラズ是レ諸君ノ勞ニ對シテ一言謝セサルヘカラサル所ナリ尙將來森林監督及保安林調査等ニ就テ普及周到ノ實ヲ擧ケラレンコトヲ希望ス又今回國有林野法森林資金特別會計法及國有土地森林原野下戻法ノ公布アリテ國有林野ノ管理、經營及整理ノ方法定マレリ是レ諸君直接ノ主管ニアラスト雖國有林野管理等ノ方法ニ關シテハ地方人民ノ利害ニ關スルコト諒カラサルヲ以テ諸君ノ慎重ナル注意ヲ乞ハサル可カラサルコト多クナル信ス

諸君ハ既ニ知ラル、如ク國有林野法ハ主トシテ國有林野管理ノ方法ヲ規定セラレタリト雖國有林野ニ對スル接洽者關係者ニハ國有林野經營ノ目的ヲ損セサル限リハ務メテ便宜ヲ與フルノ方針ヲ以テ規定セラレタル條項尠シトモ特ニ國有林野法第十八條ノ國有林野ノ保護ヲ市町村等ニ委託シテ或種類ノ林產物ヲ無償下付スルノ規定ノ如キハ我國古來ノ林制上往々見ル所ノ官民共同保護ノ趣旨ニ基キタルモノナレハ將來國有林保護上好果ヲ呈スヘキヲ信ス然レトモ其ノ適用上ニ就キ最モ慎重ナル取扱ヲ要スル所ニシテ實ニ流レズ嚴ニ失セズ國有林附近ノ人民ヲシテ不知不國有林ニ對シ愛林ノ思想ヲ起サシムルカ如キ狀況ニ至ラシメサルヘカラス

森林資金特別會計法ハ國有林特別經營ノ爲設ケラレタル一會計法ニ過キスト雖其ノ特別經營ノ事業タルヤ不要存置國有林野ノ處分國有林ノ實測、施業案編製、造林及森林買上ニ係ルヲ以テ亦地方人民ノ利害ニ關スルコト少シトモ殊ニ不要存置林野ノ處分ニ就テハ政府ハ周密ナル調査ヲ遂ケ慎重ナル取扱ヲ爲スコト無論ナリト雖動モスレハ裁議ノ徒ノ乘スル所ナリテ其好ナ欺騙シ裁議ヲ退フスルコトナシト云フヘカラス又國有土地森林原野下戻事件ノ如キハ下戻法ニ於テ申請期限ヲ定メラレタルヲ以テ爾來一層申請事件ノ數ヲ増シ來リ從テ裁議ノ徒ノ地方ヲ徘徊シ百方害惡ヲ逞フスルモノアルハ既往ニ微シテ知ルヲ得ヘキナリ

以上述フル所ニ對シテ居常諸君ノ配慮ヲ乞ヒ或ハ本省又ハ本省直轄ノ官衙ニ注意ヲ與ヘラレ或ハ地方ノ狀況ニ依リテハ公衆ニ訓戒セラレ、等諸君ノ職權内ニ於テ適應ノ處置ヲ施サレンコトヲ希望ス

四、明治三十二年五月大林區署長林野整理支局長會議ニ於ケル會禰農商務大臣ノ訓示

今回諸君ヲ召集シタルハ森林資金特別會計法ニ伴フ經營事業ノ實施、國有林野法及國有土地森林原野下戻法ノ施行トニ付諸君ノ注意ヲ請ヒ且諸君ノ意見ヲ諮ハシカ爲ナリ抑此等諸法ハ久シク林政界ノ問題トナリ幾タヒカ成ルニ垂ントシテ遂ニ之ヲ見ルニ至ラザリハ朝野ノ共ニ認メテ以テ遺憾トセル所ナリシカ今ヤ多年ノ希望タリシ諸法律發布セラレ之カ實施ヲ見ルノ時運ニ到來シタルハ實ニ林政上一一生面ヲ開キタルモノニシテ本大臣カ國家ノ爲諸君ト共ニ慶賀スル所ナリ然レトモ是レ唯幾カニ基キ肇メ建テタルニ止マリ其ノ有終ノ美ヲ濟サシムルト否トニ至リテハ一ニ法律運用ノ如何ニ在リテ存ス而シテ此ノ要局ニ當ルモノハ中央ニ於ケル諸君トニ外ナラス諸君ノ責任實ニ重大ナリト云フヘシ思フニ此等諸法律ハ實施ノ期既ニ到達セルアリ又且目下ノ間ニ迫ルアリ而シテ事實ニ百年ノ大計ニ關シ慎重ノ施措ヲ要スルヲ論ヲ俟タス其ノ創始ノ今日ニ於テ宜ク大ニ實施ノ法ヲ講シ以テ違算ナキナ期セサルヘカラス依テ茲ニ二三重要ノ事項ヲ列擧シテ聊カ諸君ノ注意ヲ望マン

第一、森林資金特別會計法ニ基ケル特別經營事業

特別經營ノ事業ハ不要存置國有林野ノ處分、國有林野ノ買割、施業案編成、造林及森林買上ニ係ルコトタルハ既ニ諸君ノ熟知セラレ、所ナリ諸君ハ年來ノ經驗ニ依リ能ク此等新事業ノ經營ニ當リ其ノ大成ヲ告ケラル、ハ本大臣ノ深ク信スル所ナリト雖唯諸君ニ特ニ望ム所ハ此ノ事業タル全ク臨時ノ革新事業ニシテ尋常一様ノ常務ト同一視スヘカラサルノミナラス權義ニ關スルコト頗ル重ク技術ヲ要スルコト又少カラ



スシテ實ニ事重大ニ屬スルヲ以テ部下職員ノ採用ヲ荷モセズ官紀ヲ振肅スルハ勿論異常ノ勉勵ヲ以テ事ニ從ハレンコト是レナリ此ノ事業ハ  
間接ニ地方人民ノ利害ニ關スルコト少カラサルヲ以テ畿ニ地方官召集ニ際シ注意シ置キタリ諸君ハ事宜ニ應ジ地方官ニ協議シ公衆ニ調成ヲ  
爲サシムルヲ得ヘシ特ニ林野處分ノ如キニ至リテハ之ヲ既往ノ事蹟ニ徵スルニ往々奏議ノ徒徘徊シテ國民ノ愚直ニ乘ジ以テ其ノ害惡ヲ逞フ  
スルコトナキニアラス依テ部下職員ノ監督ニハ周密ナルヲ要スルノミナラス處分上ニ關スル書類ノ如キハ嚴ニ秘密ヲ保チ禍ヲ未然ニ防カン  
コト切望ニ堪ヘサル所ナリ

第二、國有林野法ニ關スル件

國有林野法ハ主トシテ國有林管理ノ方法ヲ規程セラレタリト雖國有林野ニ對スル緣故關係者ニハ國有林經營ノ目的ヲ損セザル限リハ務メテ  
便宜ヲ與フルノ方針ヲ以テ規定セラレタル條項少シトモ特ニ

一、國有林野法第十八條ノ國有林野ノ保護ヲ市町村等ニ委託シ或種類ノ林產物ヲ無償下附スルノ規定ノ如キハ我國古來ノ林制上往々見ル所  
ノ官民共同保護ノ趣旨ニ基キタルモノナレハ將來國有林保護上好結果ヲ呈スヘキヲ信ス然レトモ其ノ適用ニ於テ周到ノ注意ヲ爲サレハ  
反テ種々ノ弊害ヲ生スヘシ依テ執行上寬ニ流レテ失セテ漸ク以テ國有林附近ノ人民ヲシテ不知不識國有林ニ對シ愛護ノ思想ヲ興起セ  
シムルノ狀況ニ至ラジメ同時ニ森林保護費ノ節約ヲ圖ラサルヘカラス尙ホ市町村委託林規則取扱上ニ付十分協議セラレ意見ノアル所ハ詳  
述セラレンコトヲ望ム

二、社寺保管林ニ關シテハ主トシテ要存置ノ上地林ニ付其ノ地勢、林況、保護ノ難易等ニヨリ適當ノ區域ヲ定メ社寺ニ保管セシメントス從  
來社寺ノ委託林ニアリテハ政府モ保護費ヲ節減スルノ目的ヲ達スルコト能ハス社寺モ亦應分ノ收入ヲ得ルモノ少カリシハ諸君ノ知ル所ナ  
ラン今同國有林野法中社寺保管林ノ事ヲ規定シタルハ從來ノ缺點ヲ除キ双方ノ便益ヲ圖ラントスルニ外ナラス尙社寺保管林ニ關スル規則  
取扱上ニ付協議セラレ意見ノアル所ハ詳述セラレンコトヲ望ム

三、境界測量ニ關シテハ從來法律ヲ以テ何等ノ規定ヲモナサ、リシカ爲ニ之カ實施上往々不便ヲ感シタルヲ以テ今回國有林野法中隣地主  
ノ立會境界設置等ニ關スル規定ヲ設ケタリ依テ將來此ノ事業ノ進捗ヲ助ケルコト少カラサルヘキヲ信ス然レトモ萬一法律ヲ特ニ苛酷ノ  
取扱ヲ爲スカ如キコトアルニ於テハ執法ノ弊ヲ見ルノミナラズ以テ特ニ此ノ點ニ注意セラレンコトヲ望ム

四、部分林ニ關シテハ從來之カ規定アリシト雖其ノ結果良好ナラサリシハ諸君ノ知ル所ナラン今般特別經營事業ヲ施行ハルニヨリ國有林野  
ノ無立木地ニ造林ノ事業起ルヘキヲ以テ將來大ニ部分林ヲ新設スヘキ必要ナシト雖從來ノ部分林ニ對シテハ國有林野法及其ノ他ノ法令ニ

ヨリ整理ヲ計リ且其ノ存續期間満了シテ地方ノ狀況ニ於テ大ナル差支ナキモノハ漸次之ヲ解除スルノ方針ヲ取ラレンコトヲ望ム

第三、國有土地森林原野下戻法ニ關スル件

本法發布ノ結果爾後一層ニ申請事件ノ數ヲ増加シ來ルハ必然ナルヘシト雖本年度ヨリ右申請事件調査ノ爲特ニ職員ヲ配置スルニ於テハ一層  
督勵シテ調査ノ流弊セザル様注意アラントナ望ム

本件ハ地方ニヨリテハ奸誣輩ノ爲ニ煽動セラレ良民ノ迷惑ヲナスモノ少シトモ依テ地方官ニモ注意シ置キタレハ時宜ニヨリテハ協議ヲ遂  
々相當ノ處置ヲ爲スナ得ヘシ

又本件ニ關シテハ林野處分ト同シク部下職員ノ監督ヲ嚴ニシテ調査上ノ秘密ヲ保タシムルコトハ特ニ注意ヲ要ス  
以上法律ノ實施上ニ關スル諸件ニ付テハ諸君ト相議リ充分ニ意見ヲ開陳セラレンコトヲ望ム

五、明治三十三年十一月大林区署長會議ニ於ケル藤田總務長官ノ訓示

本日農商務臣ノ挨拶アルヘキ苦ナリシモ急ニ製鐵所ニ關スル用務生シタルヲ以テ諸君召集ノ時期ニハ在リタレトモ俄カニ九州へ出張セラレルコ  
トトナリタリ尤モ二十日頃ニハ歸京ノ豫定ナルニヨリ其ノ上ハ更ニ諸君ノ意見ヲ聞カル、コトモアルヘク又御話モアルコトナラン  
就テハ過般内閣ノ更迭ハアリタレトモ本省大臣ハ林政ノ方針ヲ別ニ更革セラル、コトハナイ諸君力御出ニ成ツタニ付テハ大臣ヨリ此ノ趣意ヲ御  
話シセラル、答ナリシニヨリ本官ヨリ御話スヘシ諸君ノ任務タル山林ノコトハ其ノ職責甚々重大ニシテ且長年月ヲ要シ一朝一夕ニ成功スヘキ  
モノニアラス故ニ中途ニシテ方針ヲ變更シテハ整理ヲ期スカラス即チ終始一貫セザルヘカラスアルモノナルニ付一層奮勵シテ好成績ヲ擧グルコトナ  
期セラレヘシ

六、明治三十四年中大林区署長會議ニ於ケル平田農商務大臣ノ訓示

林区署ノ制度ハ明治十九年從來ノ山林事務所ヲ廢シテ新ニ設置セラレタルモノニシテ爾後多少ノ變更ヲ經タルニ拘ラス依然トシテ存續シ以テ今



日ニ及ヘリ林區署ノ職務タルヤ國有林野經營ノ要衝ニ立ツモノニシテ其職務頗レ重要ナリトス森林ノ興廢ハ氣候ノ調和ニ關シ農業ノ盛衰工業ノ發達水産ノ繁殖ニ影響スルハ勿論水源ノ涵養ニ河川ノ消長ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ森林經營ノ如何ハ最モ國民ノ安寧殖産ノ盛衰ニ對シ一日モ之ヲ忽ニスヘカラス蓋シ政府ハ森林特別經營ノ事業ヲ計畫シ其基礎方ニ立ツカ整理ニ屬スル法規モ亦精々備ハレリ而シテ其進由スヘキ方針ハ既ニ當時ノ大臣ヨリ訓示セラレタルヲ以テ今亦本大臣ヨリ之ヲ陳フルノ必要ヲ見ス右經營事業ノ創始セラレタルヨリ以來既ニ三年諸君ハ銳意之ニ從事シ今日ニ於テ稍々其緒ニ就カントスルニ至リタルハ斯業ノ爲ニ賀セサルヲ得ス然ト雖特別經營ノ事業ハ百年ノ大計ニ屬シ之カ實施ノ方法其宜シキヲ得ルト否トハ國家經濟ノ損益ニ重大ノ關係ヲ有スルカ故ニ其局ニ當ル者固ヨリ慎重ノ注意ヲ爲ササルヘカラス今ヤ國勢ノ發展ト社會ノ進運トハ林業ノ整備ヲ促カシテ息マズ薪炭ノ需要ハ石炭ノ發達ト與ニ漸次ニ低下スト雖木材ノ必用ハ日ニ益々多大ナルニ至ル而シテ薪炭用ハ之ヲ民林ニ委ネテ可ナルモ木材ハ主トシテ之ヲ官林ニ資スルノ外ナシ故ニ産業ヲ振起シ國力ヲ培養スルヲ以テ國家最大ノ急務トスル今日ニ當テ森林ノ經營ニ任スル當局者ノ責最モ重大ナリト謂ハサルヘカラス特別經營ノ期間ハ猶ホ十有餘年ヲ餘スト雖事業ハ時ニ或ハ豫定ノ期ニ違フコトヲ免レシテ歲月ハ復タ人ヲ待タズ而シテ經營ノ事業ハ又一方ニ於テ之カ經費ニ供スヘキ收入ヲ得ルニ非サレハ遂ニ其目的ヲ達スヘカラス故ニ諸君ハ豫メ之ニ當ルノ決心ト用意トアルヘキハ更ニ言フ所ナラズ雖造林事業ニ務メ木材ノ利用ヲ開發シ其販路ヲ擴張シ林業ノ利益ヲ増進シ其收入ヲ確實ニスルコトヲ圖フサルヘカラス林業ノ國家ニ貢フ所ノ責任ヲ重且ツ大ナリ希クハ諸君ト共ニ森林經營ノ目的ヲ達シテ斯ノ重責ヲ全フセンコトヲ若夫今後施設スヘキ細目ニ至テハ林局長ヨリ諮問スヘキヲ以テ諸君ハ充分意見ノ在ル所ヲ開陳セラレンコトヲ望ム

七、明治三十七年三月大林區署長會議ニ於ケル清浦農商務大臣ノ訓示

露國ニ對シ宣戰ノ大詔發セラレタル結果我林區署在野ノ軍籍者四百四十五名中召集ニ應ズル者今日ニ至ルマテ既ニ百五十名ニ達セリ其ノ他ノ者モ日ナラスシテ命令ニ接スルニ至ル軍籍者ハ林區署員ノ全數ニ比スレハ殆ト五分ノ一ニ當ルノミナラス何レモ少壯有爲ノ人士ノミナレハ其一時林區ヲ去ルニ至ラハ事務上ニ事業上ニ多大ノ影響ヲ來タスヤ論ヲ俟タズ然レトモ今ヤ軍國多事野共ニ非常ノ覺悟ヲ以テ奉公ノ誠ヲ効スノ秋ニ當リ吾々又非常ノ奮發ヲナシ協力一致勉勵事ニ當リ以テ事務及事業ノ進行ニ毫一妨礙ヲ受ケシメサルノ工夫ト覺悟アルヲ要ス是ハ官職ニ在ルモノ、當然ナスヘキ任務ナラシメナラス又國民トシテ最要ノ義務ナリト信ス諸君宜シク此ノ旨ヲ體シ部下ヲ督勵セラレヘシ

一般政費ニ就テモ三十七年度豫算不成立ノ爲當切ノ計畫ヲ變更セサルヲ得サルニ至レリ是レ事案ノ進行ト遺憾トスル所ナレトモ實ニ止ムヲ得サルコトニ屬ス諸君ハ其ノ範圍内ニ於テ緩急前後ヲ考察シテ可成丈々事業上ニ障礙ヲ來ササルコトニ注意セラレヘシ又豫算内ニ屬スト雖事ノ緩急ト輕重トヲ考察シ經費支出上細大トナク政費節約ノ旨趣ニ依リ處理セラレヘシ

客年十二月林區署官制ノ改正ニ伴ヒ小林區署長ノ職權大ニ擴張セラレタルハ元ト林務ノ刷新ヲ圖ルニ出テタルモノナリト雖周到ナル監督之ニ應

件スルニ非サレハ得テ其ノ好果ヲ收メ難シ固ヨリ官制ノ施行日尙淺キカ故ニ法規ノ運用上或ハ敏捷ヲ缺クモノアラシク監督員タルモノ業務ヲ監督スルト同時ニ懇篤指導ヲ以テ過失ヲ未然ニ防グノミナラス小林區署員智識ノ開發ヲ圖ルヘシ從來大林區署ノ監督員ハ責任上名アリテ實ナカリシカ如クナリシモ將來ハ監督上直接ノ責任ヲ負ハシムル方針ナルニヨリ此點ニ付テモ特ニ注意セラレヘシ

今般勅令第十八號ヲ以テ三十二年勅令第三百六十三號ニ追加セラレ隨地契約賣拂ノ範圍ハ大ニ擴張シタリ抑々本省ハ夙ニ林野ノ開發ニ着眼シ或ハ運搬設備ニ或ハ施業案ノ編成等々其ノ事業ヲ進捗セリト雖此計畫ヲ遂行シテ豫定ノ目的ヲ達センニハ林産物ノ供給ヲ容易ニシ社會ノ需要ニ應スルノ途ヲ講セサルヘカラス特ニ構寸及構寸軸木、漆器、椎茸、經木、樟腦、樟腦油等ハ我邦有數ノ輸出品ナレハ其原料ノ供給ニハ最モ注意セサルヘカラス今ヤ民有林ニ於ケル材料ハ漸ク減退シ中ニハ殆ント缺乏セントスルノ憂フヘキ狀況ナレハ其原料ノ供給ニハ最モ注意セラルトキハ之等工藝品ノ原料タルヘキ林産物ハ其材料豐富ナルニ拘ハラズ其製造業者ニ對シ確實ニ之ヲ供給スヘキ方法ヲ缺如セル爲メ當業者ノ不便ハ勿論森林經營上ノ不利亦尠シトモ是レ製造業者ニ對シ隨地契約賣拂ノ途ヲ開カレタル所以ナリ、又施業案ニ基ク毎年度所伐豫定ハ多ク造林ノ豫定ト密接ノ關係ヲ有シ兩者相俟テ森林ノ經營ヲ完カラシムルモノナリ而シテ更新上ノ都合ニヨリ事業ニ經驗アル確實ナル木材業者ヲシテ其事ニ當ラシムルノ必要アル場合甚々多シ是木材業者ニ隨意契約ニヨリ賣拂ヲ爲スノ途ヲ開カレタル所以ナリ諸君ハ此ノ勅令ノ趣意ニ據リ林業ノ發展ト國家ノ利益ヲ増進センコトニ深ク留意セラレ適當ノ措置ヲ取ラレンコトヲ望ム此ノ如ク隨意契約ニヨリ賣拂ノ範圍大ニ擴張セラレタル結果トシテ賣買當事者ニ至大ノ便利ヲ與フルト同時ニ或ハ弊害ノ之ニ伴フナキ時期シ難シ依テ豫メ調査ヲ密密ニシ監督ヲ周到ニシ此ノ弊害ヲ未然ニ防クコトニハ特ニ注意ヲ望ム所ナリ

樟腦ハ我邦ノ特有産ナレハ其ノ原料タル樟樹ノ造産ト供給トニハ深ク注意セサルヘカラス特ニ最近ニ於ケル外國市場ノ狀況、摸擬品ノ製造ノ研究、樟樹林養成ノ計畫等ヲ考察スルトキハ或程度ニ達スルマテハ年々愈多量ノ生産ヲナスコトハ獨リ財政上緊要ナルノミナラス實ニ國家經濟上忽諸ニ付スヘカラサル所ナリトス故ニ原料供給上必要ニ應シテ便宜ノ處置ヲ取ルト同時ニ樟樹ノ造林及保護ニ付テハ今後一層深厚ノ注意アルヲ要ス

本大臣ノ諸君ニ希望スル所大凡以上述フル所ノ如シ若夫レ之カ實施上ノ條件等ニ至リテハ諮問事項ニ就キ若ハ主務局長ヨリノ協議事項ニ就キ十分意見ヲ述ヘラレンコトヲ望ム

八、明治三十八年三月勸業諮問會ニ於ケル清浦農商務大臣訓示ノ節略

今般第二十一回帝國議會ノ協賛ヲ經テ發布セラレタル當省主管事務ニ關スル諸法律ノ施行上其他ニ關シ一而地方廳當該主任官ニ諮詢シテ其意見ヲ聽キ一面當省ヨリ指示又ハ協議ヲ遂ケルノ要アルニ依リ茲ニ今回各位ノ參集ヲ煩ハシタル次第ナリ



前條法律中或ハ現行法ノ一部分ヲ改正シタルモノアリ或ハ全然新制ニ係ルモノアリ要スルニ執レモ竹産業ノ發展国力ノ充實ヲ圖ルノ上ニ於テ極メテ緊要ノ規定ニ屬スルヲ以テ其施業監督上ニ付テハ特ニ慎重ナル注意ヲ加ヘラレ之ヲ運用上モ遺算ナキヲ期セラレンコトヲ切望ス

林業調査ニ關スル事項ニ付協議ヲ要スル點ヲ述フヘシ近年各種ノ林産物ハ頓ニ其需要ヲ増進シ供給之ニ伴フ能ハサルノ狀況ナルヲ以テ或種ノ物品ノ如キハ外國輸入ニ因リテ僅ニ其ノ需要ヲ充足スルモノアルヲ見ルニ至ル又彼ノ外國輸出ノ前途有望ナル諸産物ノ如キ今ニシテ之ヲ開發ノ途ヲ講スルニアラスハ他日途ニ噤齟ノ悔アルヲ免カレザラントス隨テ此等産物ノ生産運搬ノ方法販路並ニ消費ノ狀況等ヲ調査スルハ洵ニ刻下ノ急務ニ屬スルノミナラス之ニ關スル保護獎勵及監督手段ノ研究ノ如キモ亦實ニ緊要ノ事ナリトテ殊ニ現今木材業ノ發展ヲ策スルニ際シ之ニ影響ヲ有スル諸種ノ慣習其他ノ事項ヲ調査セサルヘカラサルハ固ヨリ論ヲ俟タズ故ニ重要林産物其他林業ニ關スル調査上ノ件ニ付篤ト協議ヲ盡サント欲ス面シテ其ノ協議ノ事項ハ山林局長ヨリ詳細ニ之ヲ陳述スヘキ筈ナリ

九、明治三十八年六月大林區署長會議ニ於ケル清浦農商務大臣ノ訓示

茲ニ此ノ會合ニ當リ深ク諸君ノ勞ヲ謝ス昨年三月諸君ノ會同ニ際シ時局ニ對スル森林事務及事業ニ關シ聊カ希望スル所ヲ述ヘ置キタリシカ爾來既ニ一週歲ヲ經過シ其間森林官吏ニシテ身ヲ軍籍ニ置ク者ノ召集セラレ、コト類々ナルヲ以テ執務機關ニ多少ノ缺欠ヲ來シ惹テ業務執行上障礙ヲ生スルコトナキヲ慮リシカ幸ニシテ今日ニ至ル迄甚シク其業務ヲ阻礙シタルノ形跡ナク且昨上半年ノ經濟界ハ極メテ銷沈シ所謂「霜枯レ」ノ時代ニシテ諸般ノ事業ハ中止シ各方面ニ於ケル勤儉貯蓄獎勵ノ結果ハ又民間消費力ヲ減縮シタルニ拘ラス豫定收入ノ豫算額ヲ超越シタルカ如キ好成績ヲ得タルハ全ク諸君ノ銳意勵精以テ部下ヲ監督シ施設經營其宜シキヲ得タルノ結果タラスンハアラズ本大臣ハ偏ニ諸君ノ盡瘁ヲ多トス

國有林野ヲ開發シ之カ利益ヲ増進セシムルコトハ至急至大ノ要務ニシテ從來之カ爲計置ノ一部ヲ現實ニシ愈國有林作業者開始ヲ見ルニ至レリ是レ本大臣ノ諸君ト共ニ喜ブ所ナリ夫レ國有林ノ經營ハ他ノ官營事業ト等シク亦一種ノ營業ナリ故ニ之カ局ニ當ルノ諸君ハ須ク此趣旨ヲ服膺シ處務ヲ簡捷ニシ行動ヲ敏活ニシ且經濟ノ大原則ヲ忘ルルコトナキヲ期セラレヘシ又官行ノ事業ハ其實行ハモスレハ豫定ノ計畫ト離離シ不成績ニ終ルコト多シ明治維新ノ後「十族ノ商法」トイヘル諺ハ直ニ迂遠ノ譬諭トシテ輕侮ノ意ヲ含ミタルモノナリシカ所謂「御役人ノ事業」ハ必スシモ

皆迂遠ナリト爲スヘカラサルモ而モ概シテ民間事業ニ於ケルカ如ク敏活ナルヲ得ス蓋シ多年ノ慣習タル繁文縟禮ノ尙存スルモノアリテ未ダ容易ニ之ヲ除却スルヲ得サルカ爲ナルヘシ之ニ關シ從來屢次訓諭スル所アリシモ今猶充分ノ改良ヲ見ルニ至ラサルハ遺憾トスル所ナリ希クハ是等事業ノ經營ニ當リテハ宜ク實益ヲ先キニシ理論ノミニ偏セサルコトヲ期セラレタシ前述べ如ク從來事業ノ實行上ニ於テ動モスレハ豫定ト離離シ彼是相合致セサルモノ、多キハ蓋シ他動的關係ノ爲自然不得己モノアルニ由スヘシト雖亦當局官吏ノ施設如何ニ原因スルモノナキニシモ非ルカ如シ之レ偏ニ諸君ノ注意ヲ要スル所ナルヲ信ス繁文縟禮ハ其ノ地位ノ低キニ從ヒテ多キヲ加フルモノ、如シ故ニ諸君ハ成ルヘク商人ノ思想ヲ以テ事務ヲ處理セラレヘキハ勿論被ノ直接類繁ナル内外業務ニ當ル小林区署長ニ對シ之カ爲ニ訓授ヲ意ラサランコトヲ望ム國有林野經營ノ大計ニ關シテハ明治三十二年國有林野法規及森林資金特別會計法想ヲ以テ林野ノ整理及存廢ノ區別等重要ナルモノニ對シ悉ク其方針ヲ定メ之ニ因リテ銳意規畫經營シテ、アルカ故ニ久シカラスシテ好果ヲ收メ得ヘシト信ス然レトモ林業ノ目的ハ主トシテ諸般ノ需要ヲ充足スルニ在ルカ故ニ社會ノ趨勢ニ伴ヒテ敏速ニ之カ利用販賣其ノ他諸般ノ時務ヲ處置シ以テ變轉窮マリナキ社會ノ需用ニ應スルコトヲ計ルハ亦實ニ重要ノ事ナリ諸君ハ地方ニ在リテ親ク林業ノ操縱施設ノ衝ニ當ルノ任ニ在リ宜ク常ニ一般市場ノ商況ト内外需給ノ狀態トニ鑑ミテ其ノ趨勢ヲ機微ニ查察シ勇斷果決以テ宜キニ處ハカメテ實効ヲ收ムルノ途ヲ講セラレンコトヲ望ム國有林野作業ヲ確實ニシ之ヲ永遠ニ繼續セシメントスルニ當リテハ必スヤ其林産製造品ノ販路ヲ擴張シ内地ハ勿論海外輸出ノ計畫ヲ爲ササルヘカラス本件ニ關シテ本省ハ已ニ其調査ヲ了シ相當ノ施設ヲ爲スノ必要ヲ感シ目下豫定ノ設備ニ着手シ購入ノ機械モ亦久シカラスシテ到着スヘシト思惟ス已ニ一度作業開始ノ方針ヲ採リタル以上ハ互ニ相督勵シテ其ノ成功ヲ期シ所謂役人ノ事業ノ讓ヲ受クル勿ラントニ留意セラレタシ

官紀振興ノモトハ近來頗ニ喧傳セラレル所ニシテ幾キニ屢次之ニ言及シタルコトアルヲ以テ今復述フルヲ好マスト雖諸種ノ弊風猶ホ未ダ勸滅セリト謂フヲ得ス森林官中ニ在ツテモ往々此事アルヲ免レザリシハ洵ニ遺憾トスル所ナリ既ニ不正ノ行爲アリテ罪跡亦掩フヘカラサル者ニ至リテハ嚴正以テ直ニ之カ淘汰ヲ行ハサルヘカラスルコト固ヨリ當然ナリト雖其之ヲシテ不正ヲ爲サシメス又犯罪ノ餘地ナカラシメンカ爲適應ノ方便ヲ採ルハ蓋シ策ノ最上ナルモノナリ森林官ハ國家重要ノ財産ヲ管掌シ居ルカ故ニ往々世人ノ猜疑ヲ受ケ易シ隨テ一層ノ注意ヲ用ヒ細密ノ監督ヲ行ヒ毫モ過誤勿ラシメンコトヲ望ム然レトモ官紀振興ノ嚴酷ニ失スルノ結果却テ一面ニハ業務ヲ萎縮セシムルノ虞ナキヲ保セス又國有林作業ノ如キハ緊又チ省キ釋除カント勉ムルノ結果爲ニ弊害ヲ生スルノ虞アリ寬嚴其宜キヲ得之ニ處シテ中庸ヲ失ハサル蓋シ至難ノ事ナルヘシト雖經驗ニ富メル諸君ハ必スヤ克ク部下ヲ戒飭シ遺漏ナカルヘキヲ信ス



一〇、明治三十八年十月聖詔煥發ニ付清浦商務大臣ヨリ地方長官ニ訓諭

今般日露講和條約ノ公布ニ就テ僑渥ナル聖詔ヲ煥發セラレ

戰後ノ今日ニ於テ國民一般幸々服膺シ勳勉力行以テ國富ヲ培養セサラルヘカラス而シテ國民ナシテ事ニ此ニ從ヒ以テ其ノ効果ヲ收メシムルニ付テハ各位ノ啓迪指導ニ待ツモノノ屈指ニ違アラズ本大臣ハ各位ノ今後一層奮勵以テ特ニ左記ノ事項ニ對シ慎重ノ注意アラムコトヲ望ム  
山林ニ關シテハ我邦ノ森林タル嘗テ濫伐ノ弊ヲ受ケ荒廢ニ歸セルモノナキニアラサルヲ以テ之ヲ養成スルノ必要アルヤ言フ俟ダスト雖富豐ナル利源ノ未タ開發セラレサルモノ亦少キニアラス且ツ本邦森林ニ於ケル主副産物ハ工藝其他各種ノ原料ニ供スル等之ヲ利用スルノ餘地ニ乏シカラサルモノアリ幸ニ戰時中ニ在テモ記念其他ノ目的ヲ以テ各地造林ヲ行ヒ財力ノ充實ニ資セルコト多大ナルハ洵ニ喜フヘキノ現象ナリトス今後益々森林ノ造成開發ヲ勉ムルト共ニ林産利用ノ發達ヲ促シ海外ノ販路ヲ擴張シ以テ森林ノ利益ヲ増進セサルヘカラス蓋シ森林ノ造成ハ永遠ノ期スルノ事業ニ屬シ其開發利用及販路ノ擴張皆適當ノ計畫ヲ要スルヲ以テ須ラク其思想ヲ遠大ニシ靜意沈着之ニ方リ以テ森林ヲシテ國家財力ノ本源トアルヘシ特ニ滿洲ニ於ケル鐵道ノ大半我邦ニ歸シ運輸ノ便大ニ開ケタルヲ以テ當業者奮テ此等ノ便宜ヲ利用シ該地ニ向テ速ニ經營ノ歩武ヲ進メ以テ 捷ニ件ヲ美果ヲ取得センコトヲ望ム  
之ヲ要スルニ戰後ニ處スルノ難キハ即チ戰時ニ處スルノ難キヨリモ難シ國民タル者平和克復ノ今後ニ於テ尙一層堅忍不拔各其事ヲ勉メ其ノ業ニ勵ミ内ハ以テ生産ヲ進メ外ハ以テ貿易ヲ盛ニシ國家富強ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトヲ期スヘシ各位克ク此旨ヲ體認シ誘掖獎勵其宜ヲ得以テ我實業ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシメ以テ  
聖旨ニ副ヒ奉ラント本大臣ノ切望ニ堪ヘサル所ナリ

一一、明治三十九年三月大林區署長會議ニ於ケル松岡農商務大臣ノ訓示

茲ニ會計年度ノ更始ニ際シ次年度ノ山林經營ニ關シ諸君ノ會同ヲ求メ本會ヲ開クニ至レリ核算其他ノ詳細ハ局長ヨリ說示スヘク本官ハ林政ノ大綱ニ就テ一言スルニ止メン

山林原野ノ國家ニ於ケル其國土保安上重要ノ關係アルハ姑ラク之ヲ措キ國有林野ノ利用經營ニ就キ諸君ノ注意ヲ請ハントス日露ノ戰役ハ寔ニ曠古ノ大戰ニシテ我カ陸海軍ノ大捷ハ全世界ノ耳目ヲ聳動シタリ然レトモ之カ爲る萬ノ財用ヲ要シ我國民ハ非常ナル負擔ニ堪エタリ今ヤ平和克復シタリト雖直ニ之ヲ回復スル能ハス外國債ハ殆ント二十億ニ垂ントシ單ニ其ノ利子ノミニテモ明治二十七八年以前ノ歲入全部ニ匹敵スルニ至レ

リ然レトモ是レ實ニ已ムテ得サルノ結果ニシテ議會モ亦之ヲ認メテ議案ヲ通過セシムルニ至レリ戰後ノ財政ハ獨リ此國債ノミナラス我國ハ列強ノ間ニ伍シテ陸海軍ノ復舊ヲ要スルノ外尙ホ將來ニ向テ多大ノ費用ヲ要スルハ言フ俟ダズ然ラハ國家ハ如何ニシテ此ノ財用ニ應ヘキカ唯國民ノ富力ヲ増進セシメ以テ國帑ノ增收ヲ圖ルノ外アラサルヘカラス而シテ其ノ任務ノ一部ハ諸君ノ擔當セラル、所ナリ

抑モ山林ハ田畑ニ亞クヘキ國家ノ利源ニシテ經營其ノ宜シキヲ得ルニ於テハ其利料ルヘカラスラモノアラントス而シテ我國山林ノ面積ハ頗ル廣大ナレハ之カ地方ヲ盡シテ利ヲ擧グル時ハ殆ント無盡藏ト謂フモ不可ナキモノアラシ故ニ山林ノ利ヲ興シテ國用ニ供シ國民ノ負擔ヲ輕カラシムルハ今日ノ一大急務ト謂ハサルヘカラス彼ノ獨逸ノ如キハ山林ハ國家收入ノ一要目タルハ諸君ノ熟悉セラル、所ナラント雖畢竟彼ノ國山林ノ收利ニ富ムハ夙ニ鉅資ヲ投シテ拮据經營シタルノ結果タラスンハアラス之ニ反シテ我國カ山林ノ經營ニ着手シタルハ近年ノコトニ屬ス明治初年ノ如キ立山留山ノ舊制ハ即チ存セシト雖一個人ノ所有ニ係ルモノ、外ハ之ヲ侵害スルモノアルモ其ノ罪ヲ問フ所ナキノ有様ニシテ山林ノ利源開發ハ殆ント之ヲ閉却シタリキ是ヲ以テ我國ノ山林經營ハ日尙淺ク未タ以テ充分ノ効果ヲ奏スルノ時期ニ達セズ今日幾分ノ利ヲ産スルモノハ寧ろ舊幕時代ヨリ存スル山林ニアラサレハ即チ天然林ノ外ニ出テ是レ即チ我山林ノ面積ニ比シテ其ノ收利ノ未タ多キニ至ラサル所以ニシテ何人モ之ヲ遺憾トシ特ニ諸君ニ於テ最モ然リトセララル、所ナラン

然レトモ已ニ今日ニ至リテハ山林ニ關スル制度計畫漸次整頓シ各秩序ヲ見ルニ至レリ而シテ之ニ關スル法律命令ヲ實地ニ施行シテ山林ノ收利ヲ増進スルノ責務ハ繋リテ諸君ノ雙肩ニ在リ然レトモ今ノ法令ニ就テ說クノ要ナシ唯施設ニ關スル大要ヲ述ヘン

先ツ造林ハ地ノ利ヲ相シ樹種ヲ鑒別選擇シ勉メテ不毛ノ禿山ナカラシム可シ又宜拂ニ付テモ其宜シキニ從ヒ之ヲ實却シテ運材ノ道ヲ開キ以テ深山幽谷ニ空シク老木ヲ枯死セシムルカ如キコトナカラシムヘク製材ニ就テハ海外ノ需要販路ニ留意シテ努メテ利ヲ海外ニ制スベク不要存置林ハ條件附又ハ豫約開墾ヲ以テ公共團體若クハ一個人ニ賣下ケテ利ヲ興スヘシ保安林ハ諸君ノ專管ニアラサルモ水利災害ニ注意シテ地方ノ利益ヲ増進セサルヘカラス境界査定ニ關シテハ從來訴訟ノ起ルモノ少カラス山林臺帳ノ如キアリト雖多クハ維新後ニ成レルモノニシテ粗糲ヲ免レス而シテ査定スル所ハ多クハ人跡稀レナル幽僻ノ地ニ屬スルヲ以テ頗ル至難ノ事務タルヲ免レス一旦訴訟ノ起ルアリト雖福證ノ以テ徵スヘキモノナク人ナシテ人民ノ訴フ所亦必シモ無理ナラサルヲ感セシムルコトアリ官ハ必シモ人民ト爭ナ構フルヲ以テ本旨トスルニアラス是等ハ實際ニ處シテ參酌其ノ宜シキヲ得ンコトヲ期セサルヘカラス以上列舉シタル所ハ孰レモ學理ニ照シ實驗ニ徵シ百事周到ノ注意ヲ以テ山林ノ地方ヲ盡クシ收利ヲ舉クルニ努メサルヘカラス此外部下ノ監督亦嚴正ナランコトヲ要ス彼ノ深山幽谷ノ中ニ僅々タル實拂ヲ出願スル者アルニ方リ一小吏ノ之ニ直接スル場合ノ如キハ輒モスレハ情弊之ニ伴ヒ爲ニ不正濫職ノ行動ナキヲ期シ雖シ偶々刑法ノ制裁ヲ受クル者ナキニアラサルモ不正ノ行爲アリタル者悉ク制裁ヲ受クルヲ必シ難キト同時ニ又世ニ惡評アル者必ス不正ノ行爲アリトスヘカラス故ニ平素最モ精細ナル注意ヲ以テ部下ヲ戒飭センコトヲ要ス又山林ノ副産物ニ就キ往々ニシテ微細ナル違犯事件ヲ摘發シテ刑法上ノ處分ヲ求メ徒ラニ人民ヲシテ其ノ處置ノ苛酷ヲ怨嗟セシメ終



ニ人民ヲシテ野火ヲ防視セシメ甚シキハ火ヲ山林ニ放ツニ至ラシム是等ハ青靄ノ慮置人民ノ怨嗟ヲ招クノ致ス所ニ外ナラス故ニ是等ノ慮置ニ關シテハ地方ノ慣例ヲ精査シテ其ノ區別ヲ立テ本省ニ進達セラレンコトヲ望ム

上來述フル所諸君一對シ或ハ遠東ノ派タルモノナキヲ保セサルモ要ハ諸君カ職務ニ忠實ニシテ精勵以テ山林ノ利ヲ興シ國家ノ財用ヲ充實シテ國民ノ負擔ヲ輕カラシムルト同時ニ農工商ニ資スル所アリ以テ戰後ノ經營ヲ完フスルニ至ランコトヲ期セサルヘカラス

一一、明治三十九年五月地方長官會議ニ於ケル松岡農商務大臣訓示ノ略節

今回各位ノ會同ヲ機トシ當省主營事務ニ關シ數言ヲ述ヘ以テ各位ノ留意ヲ請ハント欲ス

國富ノ増殖ヲ圖ルノ最急務ナルハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ナルモ戰後ノ今日ニ在テハ特ニ其ノ急要ヲ加フルヲ見ルナリ而シテ國富ノ増殖ハ一ニ之ヲ産業ノ振興ニ據タサルヘカラス産業ノ振興ハ當業者勤勉事ニ從フニ由ルヘシト雖亦各位ノ啓迪指導ニ待ツニアラスンハ得テ其ノ目的ヲ達スヘキニアラス本大臣ハ切ニ各位ノ今後一層奮勵以テ特ニ左記ノ事項ニ對シ慎重ノ注意ヲ拂ハレンコトヲ望ム

我國ノ森林面積ハ極メテ廣大ナルヲ以テ經營其宜キヲ得ルニ於テハ國家ノ好財源タルヘキハ各位ノ既ニ知ラル、所ナリ殊ニ民林ハ運材ノ便多キノ地ニ在ルヲ以テ宜シク之ヲ經營テ獎勵スヘキナリ近來林業發達ノ顯著ナルハ畢竟各位ノ啓發指導宜キヲ得タルニ由ルモノニシテ今後尙ホ一層各位ノ勵精ニ待タサルヘカラスモ一ニシテ足ラズ譬ヘハ森林法ニ於ケル荒廢林野ニ對スル營林ノ指定若クハ造林命令ノ如キハ僅ニ二三ノ府縣ニ於テ施行セラレタルヲ見ルニ過キス蓋シ我國ノ如キ一時荒廢ヲ極メタル林野ニ於テハ往々此等ノ強制方法ニ因ルノ止ムヲ得サルモノアラム敢テ各位ノ考慮ヲ望ム殊ニ公有林野ハ地方團體ニ於ケル基本財産トシテ最モ適當ノ性質ヲ有シ政府力國有林野ヲ不要存置林野トシテ市町村ニ賣拂フモ亦主トシヤ市町村ノ基本財産ヲラシメ以テ地方團體ノ基礎ヲ強固ニシ其地方ノ收入ヲ増大ナラシムルノ總旨ニ外ナラス而シテ此目的ノ爲ニ國有林野市町村ニ賣拂ヒタルモノ既ニ一萬二千町歩以上ニ達セリ幸ニシテ數年以來各位ノ熱心ナル誘導ニ因リ公有林野ノ整理漸ク其ノ緒ニ就カントスルハ各位ノ度々同フスル所ナリ然レトモ事業ノ前途ハ尙ホ遠道アリ之ヲ最近ノ調査ニ徴スルモ營林方法ヲ既定セルモノ尙幾ニ其ノ五分ノ一二過キス面カモ其ノ内未タ必シモ完全ナリト云フヲ得サルモノナキニアラス此等ニ付テハ更ニ各位ノ注意ヲ促カシ益々之ヲ利用經營ノ途ヲ講セラレンコトヲ望ム森林ノ經營ニ關シ尙ホ一ノ注意ヲ望ムヘキハ造林樹種ノ選定是レナリ抑々樹種ノ選定タル廣ク世界市場ノ需給ニ鑑ミサレ可ラザルハ言ヲ俟タサルモ之ヲ我國ノ現狀ニ徴スルハ榲栲ノ植林ノミニ熱中シテ他ヲ顧ミサル弊ナキニアラス殊ニ民林ニ於テ然リトス我國特産ノ樹種ニシテ之ヲ供給ヲ潤澤ナラシムルヲ得ハ新ニ利ヲ海外ニ收メ得ヘキモノ枚擧ニ遑アラズ、譬ヘハ樟腦ノ原料タル樟樹植栽ノ如キハ既ニ各位ノ誘導ニ由リ漸次多キナリ加ヘントスルハ大ニ慶スヘキノ現象ナリ願クハ益々之ヲ獎勵ニ力メラレンコトヲ其他船舶用材タル榲栲、製紙原料並ニ包裝材タルヘキ榲類、經木真田燻寸軸木ノ原料タル白楊並兵器用材、鐵道枕木タルヘキ胡桃栗等ノ如キ亦皆保護植栽ヲ獎勵スヘキモノナリトス從來此等ノモノハ世人ノ注意ヲ惹クコト充分ナラザリシヲ以テ今ニ於テ適當ノ保護ヲ加フルニアラサレハ遂ニ其跡ヲツノ不幸ナキヲ保セズ

我國木材工藝ハ尙幼稚ニシテ殆ント見ルニ足ルヘキモノナク僅ニ經木及經木真田等二三ノ外國ニ輸出セラル、モノアルヲ見ルノミ此等ハ我國將來林産物品ノ利用上至大ノ關係アル事項ニシテ之ヲ獎勵ハ實ニ國家ノ急務ナリトス又森林副業ノ改良モ亦大ニ之ニ意ヲ用フルヲ要ス即チ樟腦木炭ノ製造法改良、酸石炭製造ノ如キ遺利ヲ收メ得ヘキモノ夥カラス此等ノ誘導獎勵ハ特ニ各位ノ力ニ俟タサルヘカラス

保安林ハ國土ノ保安ヲ維持スルニ重要ナルハ姑ク之ヲ言キ其調査並ニ編入後ノ監督ニ關シ尙各位ノ留意ヲ請フヘキモノアリ他ナシ現ニ保安林ニシテ比較的必要ノ程度低キ森林ナキヲ必セス又實際保安ノ必要アルニ拘ハラズ普通林タルモノナシトセス惟フニ年々政府力巨萬ノ治水費ヲ出スモ尙能ク河川ノ氾濫溢溢ヲ防止スル能ハサル以上ハ保安林ノ調査ニ於テ更ニ一層ノ精査ヲ加フルヲ要ス各位ハ既ニ此等ノ點ニ留意セラレ、ヲ信スルモ現在ノ調査ニ由レハ本調査ノ最モ善ク進行セルハ僅ニ十數縣ヲ算スルニ過キス加之明治三十一年前後ヨリ著手セル森林法施行以前ノ保安林ニ關スル施業法ノ指定モ亦未タ完了スルニ至ラズ或ハ恐ル此ノ如クニシテ長日月ヲ經過セハ往々荒廢ヲ來シ保安ノ用ヲ爲サ、ルモノヲ生スルニ至ランコトヲ是亦各位ノ督勵ニ由テ著々其ノ進行ヲ計ラレンコトヲ望ム

次ニ戰時記念林ノ計畫實行共ニ其宜キヲ得タルハ大ニ慶スヘキノ事ナリト雖今後尙ホ周到ナル注意ヲ加フルニアラサレハ或ハ功チ一貫ニ缺クノ虞ナキニアラス既ニ此目的ニ供スル爲、賣拂ヒタル國有林野一萬七千五百町歩餘ニ及ヘリ此等ハ戰後ノ今日ニ於テモ適宜ノ機會ニ乘シ益々増林ノ獎勵アラシコトヲ望ム以上ハ特ニ其綱要ヲ擧グルニ過キス冀クハ各位能ク此意ヲ體シ一層ノ勵勵ヲ注意トシテ其事ニ從ヒ我實業ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシメ以テ能ク其任務ヲ盡サレンコトヲ

一二、明治三十九年七月大林區署長會議ニ於ケル松岡農商務大臣ノ訓示

今春諸君ノ會同セラレテ諸君ニ望ムニ山林ノ收入ヲ増進シ以テ國民ノ負擔ヲ輕カラシムヘキヲ以テセリ爾來諸君ハ銳意其衝ニ當リ著々好果ヲ收メツ、アルハ本大臣ノ深ク悦ブ所ニシテ又其ノ勢ヲ多トスル所ナリ而カモ年度ノ經過ハ未タ其中ニモ達セズ冀クハ豫期ノ收入ヲ擧グルニ於テ違算ナカラシコトヲ願フニ國家財政ノ趨向ハ益々膨大ナラントスルニ拘ハラズ戰後ノ創痍尙未タ癒エス隨テ民力ノ休養ヲ謀リ他日ノ備ヲ爲スハ刻下ノ急務ナリ然レモ國力ノ充實ハ須臾モ懈ルヘカラス是ヲ以テ私經濟ノ收入ヲ擧クルノ局ニ當レル諸君ノ責任ニ益々重キヲ加ヘサルヲ得スハカモ願フ我カ山林ノ地方如何ヲ願ミルニ決シテ發展ノ餘力ナキモノニアラス唯其地方ヲ盡サシメ以テ多大ノ收入ヲ擧ケ國力ノ充實ニ資スルハ主トシテ諸君ノ手腕ニ俟タサルヘカラス

密ニ官制ヲ改メ分課ノ組織ヲ正シタリ今其ノ要ヲ一言セシニ大林區署ノ事務ハ山林收入ノ増進ト共ニ益々擴張シ來レリ是ヲ以テ此等事務ノ間ニ



分劃ヲ立テ適當ノ官職ヲ設ケルノ要アリ而シテ林區署ノ事務ヲ大別スレハ普通行政事務、技術ニ關スル事務及會計事務ノ三トス仍テ之ニ應ジ舊制ヲ改メ官職ノ分界ヲ明ニシテ蓋シ舊官制ハ事務ノ分界明瞭ヲ缺キ往々ニシテ適材ヲシテ適所ヲ得セシムル能ハサルノ憾ナキニアラス官職ノ名稱モ亦簡便セルヲ以テ是亦改ムル所アリ之ヲ要スルニ官制改正ノ本旨ハ事務ノ敏捷ト周到トヲ謀ルニ外ナラサルヲ以テ諸君ハ能ク其旨ヲ體シ以テ部下ノ選叙ヲ慎ミ能ク不整別シテ學クヘキヲ舉ケ斥クヘキヲ斥ケ之ト同時ニ各機關ノ調和ヲ謀リ適材ヲシテ適所ヲ得セシメ賢ヘハ尙ホ四肢ノ人體ニ於ケルカ如ク其一舉一動ニ毫末ノ障礙ナカラシメ以テ新官制ニ依リ好成績ヲ擧ケラレンコトヲ切望ス

終ニ望ミ尙ホ一言ス來年度以降ノ山林收入ニ關シ豫メ稽查審究シ或ハ實拂方法ニ或ハ利用方法ニ其他荷クモ山林收入ノ目的ニ資スヘキモノハ決シテ之ヲ忽テ付スヘカラス冀クハ諸君社會ノ進運ニ鑑ミ以テ林政上ノ施設ヲシテ時代ノ要求ニ應ル、カ如キコトナカラシメンコトヲ他ノ詳細ノ事項ニ至リテハ之ヲ局長ノ説示ニ讓ル諸君之ヲ諒セヨ

一四、明治四十年四月地方長官會議ニ於ケル松岡農商務大臣ノ訓示

地方長官各位、各位ハ十數日以前ヨリ召集セラレテ中央政府ノ施政ノ事ニ關シマシテハ總理大臣始メ各省所管大臣ヨリソレソレ詳細ノコトモ御承知ニナリマシタコトデアリマスルカ本日ハ諸君ノ御來集ヲ求メマシテ本省所管ノ政務ニイテ其要略丈ケ一通リ御話ヲ申シタト思ヒマス其御話ハ格別時間モ要シマセズ積リテゴサイマスガ其後ニ於キマシテ豫テヨリ段々御意見ノ出テ居リマスル次第モゴザイマスルガソレ等ニ就テ或ハ其中ノ問題ヲ定メテ御會議テモスルカ又ハ多數イコトデゴザイマスルカラソレハ文書ヲ出テ居リマスル分ハ大體本省ニ於テモ差置カス調査ヲシテ取捨スルコトデアリマスルカラ特ニ口頭ヲ御陳述ヲ必要トスル諸君ガ其點ノ御述ニナリマセウガ其ノ邊ノトコロハ尙諸君ノ御考ニヨリマシテ如何様ニ致シマシテモ宜シクゴザイマスシ又今日テ其邊ノコトノ終リヲ告ケルコトガムヅカシイト云フコトデゴザイマスレハ御都合次第デ日ヲ先キニ定メマシテモ本省ニ於テハ差支ハゴザイマセウガ又諸君ニ於テ色々御多用ノ中テゴザイマスルカラ御都合モゴザイマセウ其邊モ御考ヘ置キ下サルコトニ致シタト後程ニナツテ何レトモ御極ニナランコトヲ希望致シマス

當省ノ所管ノ事務ニ於キマシテ別段新シイ點ハ多クモゴザイマセウ前々ヨリ既ニ諸君ノ施行上御熟知ニナツテ居ル以外ニ格別ノ變ツタコトモゴサイマセウガ唯金額若クハ其他ノ方法ニ於キマシテモ本年度ニ於テ以前ヨリ稍々異ナル所ノモノナリ二御話シヨウト思フノデアリマス

山林ノコトニ就テ簡單ニ御ハ致シマス我帝國ニハ山林ノ多イト云フコトハ著ルシイ事實デアリマシテ國有林御料林公有林社寺有林私有林合計二千一百萬町歩位アルノデアリマス而シテ國有林カ一千二百萬餘町歩公有林カ九百餘萬町歩餘テゴサイマス然ルニ維新以後山林經營ト申ス方ヘハ十分手カ届イテ居リマセウ尙今日モ其通リ漸ク此ノ一兩年山林ニ宜シクシナケレハナラヌ山林ヨリ利益ヲ收メナケレハナラヌト云フ議論力起リマシテ少シハ事實ニ現ハレテ居リマスケレトモ田畑ニ於ケル如クニハ民間モ政府モ力ヲ入レテ居ナカツタデアリマス

ソレ故ニ從來便利法ト申シマスモノモ甚ダ簡略テ譬ヘハ國土保安林ノ方ヲ重クスルトカ或ハ警察ノ制度ノミヲ稍々綿密ニ規定シテアルト申ス位ノコト山林ヲ利用シテ是ヨリ大ニ利益ヲ擧ケルト云フ方ノコトニハ甚ダ行届イテ居リマセウ因テ當年ハ森林法改正案ヲ提出致シマシテ議會ニ大多數ヲ以テ通過シタルコトデゴサイマス其ノ改正ノ重ナル趣旨ヲ申シマスルト第一ニ公有林ノコトデアリマスガ國有林ヨリモ民有林ヨリモ公有林特ニ町村有ノ山林原野カ今日一番惡イ有様ニナツテ居リマス是ハ獨リ我國ノミナラス何ノ國ニ於テモ人情ノ自然トシテ私有物ヲ受スルガ如クニハ行兼ヘルモノト見エ公有林ハ收利ガ少ナク或ハ荒廢ニ傾キ易イソレ故各國政府ニ於テモ森林法ノ規程中殊ニ公有林ニ對シテ嚴密ナル法制ヲ設ケラレテアルノデアリマス我國ノ公有林ノ現狀ハ一般ニ惡イノデアリマス動モスルト公共團體ヘ國有林ヲ唯下ケテ與レ分ケテ與レト申出テルノデアリマスソレ故ニ改正法律ニ於テハ公有林ノ荒廢ヲシテ居ルモノヲシテ能ク利用セシムレハ然ルヘント地方長官ニ於テ見込マシテ申出ハ施設案ヲ作ラセテ地方長官ノ認可ヲ得ラレト云フヤウナ規定ヲ設ケタノデアリマス二百三十四萬町歩即チ耕作ヲシテ居ル田畑ニ近キ程ノ面積ヲ以テ居ル山林原野カ是ヨリ面目ヲ改メテソレノ施設案ヲ定メ順序ヲ逐フテ山林ノ利益ヲ擧ケルヤウニ行キタイト云フノカ立法ノ趣旨デアリマス諸君ニ於テモ先ツ此公有林ニ向ツテ御注意ヲ拂ハレタイノデアリマス其次ハ山林ヲ持ツテ居ル者モ所謂林道運搬ノ不便ノ爲ニ山深キ所ニ其材ハアリナカラ之カラ之ヲ市場ニ出スコトノ困難ナルモノカアリマス即チ奥山ノ方カラ材木ヲ出サウトスルトキニハ他人ノ土地ヲ經過シナケレハナラヌコトカアル然ルニ其他ノ土地ヲ經過シナケレハ自由ニ使用スルコトカ出來ナイ強イテ使用ヲ求ムレハ非常ニムツカシク或ハ損失カ多クテ利益ガ少ナイ等種々ノ弊害カアリマスソレテ此新法ニ於キマシテハ適當ノ補償金ヲ拂ツテ他人ノ土地ヲ使用スルノ權利ヲ認メ場合ニ依レハ收用スルコトモ出來ルト云フコトニ致シマシテ一ツノ道ヲ開キマシテハ適當ノ補償金ヲ拂ツテ他人ノ土地ヲ使用スルノ權利ヲ認メ場合ニ依レシガタイ所モゴサイマスカラソレ等ハ此組合ノ方テ協同シテヤルト云フコトニ致シタ次第デアリマス此山林制度ニ付キマシテハ從來餘リヤラヌ所ノコトヲ是ヨリ始メテヤラウト思ヒマスノテ勅令ヲ初メ命令等モ數々要スル次第デアリマス時間ノ都合ニ依リ後ニ局長カラ御話スルコトモゴザイマセウカ死ニ角森林法ヲ改止イタシタノハ面積ノ廣キ國有林ノミナラス公有林民有林チモ以前ヨリハ一層面目ヲ改メテ山林ノ利益ヲ收ムルト云フノカ眼目テコサイマスカラ其點モ御承知置キテ願ヒタイト思ヒマス

一五、四十年七月大林區署長會議ニ於ケル松岡農商務大臣ノ訓示

森林經營カ我國家經濟上忽ニスヘカラサルハ今更言フノ要ナシ然レトモ從來森林法ノ規定セル所ハ主トシテ事後ノ監督ニ急ニシテ往々森林ノ利用ヲ增進助長セシムルノ點ニ於テ缺クルモノアルヲ免レズ是ニ於テカ嚴正ニ之カ改正ヲ企圖シ既ニ御裁可ヲ得テ公布セラレタルハ諸君ノ熟知セラレル所ナリ而シテ之カ實施ノ期モ亦將ニ近キニアラントス仍テ今此機ヲ利用シ森林法改正ノ趣旨ニ付テ述ブル所アラソ

現行森林法ノ制定セラレシヨリ以來歲々閉ミスルコト十星霜此ノ間ノ經驗ニ徴シ尙又現下ノ國狀ニ鑑ミ到底從來ノ如キ消極的方針ヲ以テ甘スル



ヲ得ス一轉以テ積極的ニ利益ノ増進ヲ謀リ森林ノ經營ヲシテ國家ノ進運ニ伴ハシムルノ要アリ此目的ノ爲ニ一ハ森林產物ノ運輸ヲ便ナラシムルカ爲他人ノ土地ヲ使用收用シ得ルノ途ヲ拓キ二ハ從來個人企業トシテ利用ノ困難ナルカ爲棄テ、顧ミサリシ未利用林モ之カ利用ヲ開發センカ爲組合組織ノ便ヲ設ケ以テ森林ノ經營者ヲシテ安シテ其業ニ從フヲ得セシメントス此二者ハ共ニ今回改正ノ骨子ニシテ之ヲ豫期ノ効果ヲ收ムルト否トハ一ニ運用ノ妙如何ニ存ス各位ハ宜シク此旨ヲ體シ後日ニ於テ遺憾ナキヲ期スヘシ

竊テ國有林野ノ經營ニ關シテハ各位カ銳意勵精ノ結果著々其緒ニ就キツ、アルハ本大臣ノ特ニ多トスル所ナリ之ヲ森林收入ニ見ルニ三十九年度ニ於テハ其豫定額前年度ニ比シ稍大ナル増加ヲ爲シタルニ拘ハラズ綿々トシテ豫定以上ノ收入ヲ舉ケルコトヲ得タリ蓋シ各般事業ノ勃興ト共ニ諸種ノ工業發展ヲ來タシ經濟界ノ活動顯著ナルモノアリシニ由ルト雖抑亦諸君カ常ニ精到ナル注意ヲ以テ施設經營其宜シキヲ得タルニ因ラヌンハアラズ本大臣ハ各位ノ勞ヲ謝スルト共ニ深ク自ラ意ヲ強ウスルモノアルヲ喜ブ

更ニ本年度森林收入豫定額ヲ見ルニ昨年度ニ比シ増大セルコトハ諸君ノ知悉スル所ノ如シ年度開始後一般經濟界ハ一時變調ヲ呈セントスルノ傾向アルニ似タリシカ木材界ハ幸ニシテ甚タシキ影響ヲ蒙ラサルノミナラス處分ノ實績ニ就テ見ルモ材價ノ騰貴ヲ示シ相當ノ收入ヲ舉ケタルニ微スレハ當初ノ豫定額ヲ充實スルハ固ヨリ難事ニアラザルヲ信スト雖產物處分ノ實行ニ就テハ常ニ周密ナル注意ヲ怠ラサルニ力メラレンコトヲ望ム

又來年度森林收入ニ付テハ更ニ尙ホ一層ノ增收ヲ期シ得ヘキモノアリ益々各位ノ奮勵ニ俟テ所多キヲ覺ユ然レトモ之カ增收計ルニ付特ニ留意ヲ促スヘキモノアリ之レ他ナシ元來增收ノ圖ルト云フハ徒ラニ伐採量ヲ増大シ之ニ因テ收入ノ増加ヲ圖ルヘシト云ヒニアラス現下處分ノ實行ニ照スニ或ハ作樂ノ方法ニ或ハ販賣ノ手段ニ幾多研究ノ餘地ヲ存ス從テ廣ク社會ノ嗜好ヲ究メ趨向ヲ稽ヘ造材製材ノ方法ヲ考究シ或ハ貯材製材ノ計畫ニ違算ナカラシメ延テ利用販賣ノ好果ヲ收ムルヲ要ス販賣ノ事タル實ニ尺寸ノ注意ヲ怠ルナク一般ノ需給ヲ察シ交通ノ便否貯財ノ情勢等ヲ精査スルニアラサレハ十分ノ効果ヲ舉ケルコト難シ各位ハ之カ爲平素部下ヲ督勵シ内外市場ノ商況ニ通シ諸般ノ經濟現象ヲ熟知セシメ機一タヒ熟スルヲ俟テ適切ナル處分ヲ爲サシメラルヘン尙ホ之ト共ニ各般事務ノ膨大ヲ來スハ當然ノ事ニ屬スルヲ以テ益々處務ノ敏捷ヲ圖リ形式ヲ後ニシテ實ノ先ニシテ社會ノ急要ニ應スルノ覺悟アルヲ要ス

終ニ臨ミ更ニ各位ノ留意ヲ請フヘキモノアリ現下我國森林ニ於テ工業用主要樹種ハ漸次空乏ヲ告ケントスルノ傾アルヲ以テ曩ニ獎勵費ヲ各府縣ニ配賦シ梓桿及漆ノ堅實ヲ企圖セリ然レトモ尙ホ保護繁殖ヲ期スヘキ樹種ハ右ノ二三ニ止マラザルヲ以テ前年造林樹種ヲ増加シ以テ其補栽ヲ促シタリ各位ハ深ク風土地質等ヲ精査シ各其適スル所ノ樹種ヲ選ビ大ニ植栽ニ力メラレンコトヲ望ム

之ヲ要スルニ我國今後ノ狀勢ニ於テハ充分ニ積極的方針ヲ採リテ森林ノ經營ヲ遂行シ其實效ヲ舉ケサル可カラズ從テ各位、事業モ益々多端ニシテ尙一層ノ奮勵ヲ要スルモノ頗ル大ナリ各位宜シク本省ノ趨向ヲ體シ銳意事ニ從ハレンコトヲ切望ス

若シ夫レ事ノ細目ニ至テハ局長ヲシテ指示セシムル所アルヘシ

一六、明治四十年九月府縣林務主任官會議ニ於ケル松岡農商務大臣ノ訓示

今回諸君ヲ召集シタル其主旨ハ森林法ノ改正積極獎勵方法其他一般林政ニ關シ能ク中央地方ノ意旨ヲ貫通セントスルニ存ス故ニ細目ノコトニ至テハ主務局長ニ於テ詳細陳述スヘシト雖其主要ノ點ニ關シ大綱ヲ一言セント欲ス

第一、營林監督ノコト

現行森林法ニ在リテハ營林監督ノ規定完全ナラザルモノアリ從テ其監督上遺憾ナキヲ得サリシヲ以テ改正法ニ於テハ新ニ之カ規定ヲ設ケ其缺點ヲ補ヒタリ抑各種ノ森林就中公有林其他入會ノ慣行アル森林ハ其面積少シトセス即チ全國ノ公有林凡百八十七萬町餘、原野七百十三萬町歩之ヲ大別スレハ二トス一ハ概テ荒廢未利用一ハ林草場ト稱シ廣大ノ面積ヲ不經濟的ニ委ス故ニ之カ恢復ヲ爲スコトハ獨リ國土保安上必要ナルノミナラス國家經濟上海ニ喫緊ノコトニ屬ス故ニ之ニ對シテ營林ノ監督ハ今後大ニ注意シ充分努力セラルルヲ要ス

第二、保安林整理及之カ調査方法ノコト

保安林及開墾ノ禁止又ハ制限ノ制度ハ一面國土ノ保安ニ重大ナル影響ヲ及ホスト同時ニ一面臣民ノ權利ニ至大ノ關係ヲ有スルモ近日ノ洪水ヲ見テ世人直ニ山林濫伐ノ所致ト云フ者多シ本年ノ洪水ノ如キハ雨量ノ夥多ナル實ニ稀有ノコトニ屬ス之ヲ一概ニ山林濫伐ノ結果ト云フハ固ヨリ穩當ナラス然レトモ山林ト水害トノ關係アルハ確實ノコトナリ舊保安林ノ整否ハ實ニ緊要ノ一大事ナリ而シテ之カ調査ハ慎重周密ノ考量ヲ經サルヘカラス然ルニ現行森林法施行前ノ保安林ノ整理ニ對シテハ其調査終了シタルモノ尠キハ遺憾トスル所ナリ仍テ此際銳意精勵速ニ調査ヲ完成セラルヘク又保安林ノ編入又ハ開墾ノ禁止若ハ制限ヲ爲シタル後ニ於ケル監督ニ付テモ十分留意セラルヘシ

第三、林業上土地ノ使用收用ニ關スルコト

改正森林法ハ林產物運搬ノ爲必要ナル場合ニ於ケル土地及水ノ使用收用ニ關スル規定ヲ設ケタリ此規定ハ林業者ノ爲多大ノ利益ヲ與ヘ斯業ノ發達上便益尠カラサルヘキハ論ナシト雖之カ實行方法ノ如何ハ又諸種ノ利害ヲ釐生スルノ因トナルコトナキヲ保セス且他人ノ財產權ニ對シ制限ヲ加フルコト多カルヘキカ故ニ常ニ慎重ノ注意ヲ用ヒ荷モ輕卒ノ舉アルヘカラサルハ勿論用水堰其他農業トノ關係交渉ヲ惹起スヘキ場合ニ於テハ特ニ細心留意シ萬々一ノ失計ナカラントナ期スヘシ

第四、森林組合獎勵ノコト

森林荒廢ノ防止、回復、森林災害ノ防禦、森林ノ開發其他森林ノ經營上多數所有者ノ合同協力ニ待ツテ必要トスル場合即チ各個人個々ノ行爲ニテハ遂行シ得難キモノ多々之レアルヘシ此等ノ場合ニ於テハ森林組合ヲ組織セシメ其目的ヲ達セシムルハ山林經營ノ便宜ヲ増進スル所以ノ途ナリトス改正法ノ組合ニ關スル規定ヲ設ケタルハ即チ之カ爲ナリ而シテ組合ノ組織ハ本來民法上ノ事項ナルヘキニ拘ハラズ特ニ強制加入ノ方法



予定メタル組合ノ成立ニ便宜ヲ與ヘ之カ發達ヲ爲サシメントスルノ總旨ナルヲ以テ組合ノ成立ヲ促サントナシテ希望ス

第五、植樹獎勵ノコト  
明治三十七年日露開戦以後政府モ銳意獎勵ヲ爲シ民間ニモ亦其有要ヲ識リタル結果或ハ戰時記念林或ハ基本財産林トシテ森林ヲ造成シタルモノ勢カラス之カ調査書ハ曩ニ地方官會議ノ際配付シタルヲ以テ諸君已ニ了知セラレタルヲ信ス而シテ此ノ有益ナル成績ヲ擧グルヲ得タルハ偏ニ地方當局吏カ奮勵努力セラレタルニ因ル所ニシテ政府ノ深ク喜ブ所ナリ然リト雖諸般木材ノ需要ハ頻年益増加シ諸種ノ建築一般ノ工藝其他木材ヲ要スル事業暨々トシテ繁多ナルニ伴ヒ之カ需要ハ遂ニ其底止スル所ヲ知ラサルモノ、如シ此狀況ヲ以テセハ必ス供給不足ヲ見ルニ至ルノ期ナキ能ハス切ニ寒心ノ至リニ禁エス殊ニ工藝的材料トシテ必須ナル樹種ニ至テハ漸ク不足ヲ告ケントスルノ状態ニ在ルニ拘ハラス此等ノ樹種ハ往々ニシテ其栽種ヲ難シトスルモノナルニ依リ植樹獎勵上一層ノ力ヲ盡ササルヘカラス隨テ工藝樹種ハ勿論其他ノモノニ至ルマテ之カ植栽ヲ誘導シ以テ木材並ニ我國特有産物ノ原料ヲ充實スルノ方法ヲ講スルコト實ニ刻下ノ急務ニ屬スルヲ以テ一層植樹獎勵ニ努力セラレヘシ以上述フル所ノ外尙一般林政ニ關シテハ十分奮勵シ各地方長官ノ命ヲ承ケ及ヒ之ヲ補翼シ以テ森林ニ依ル我カ國土ノ保全ヲ完全ナラシメ且廣大ナル我カ國ノ森林ヲシテ國民ノ一大富源タラシメントナシテ望ム

一七、明治四十一年三月大林區署長會議ニ於ケル松岡農商務大臣ノ訓示(演述)

此度ハ豫算カ通過致シマシテ、次年度ノ事業等ニ付キマシテ種々諸君ニ豫メ承知ナシテ置イテ實ヒタイト云フコトヲ招集ナシタコトデアリマス方何レ詳シイコトニ付マシテハ追々局長ヲ初メ其ノ他ヨリモ御談示ナスルコトデアラウト思ヒマス此ノ御集リノ初メニ於テ些カ御話ヲ致サウト思ヒマス  
十年度ノ森林收入ハ之ヲ前年度ニ比較ナシマスルト増加シタコトデアリマスカ結果ニ於テ如何アランカト云フコトハ内々心ニ懸ツテ居タコトデアリカ幸ニ豫算ノ増加シタニモ拘ハラス今日マテノ實績上ヨリ申スルト豫期ノ收入ヲ得ルト云フコトハ最早疑モナク或ハ豫算ヨリモ何程カ餘裕カアルカトモ思ハレル位ノ勢デアリマシテ偏ニ各位ノ精勵勤勉ニ基スルモノト信セラレマスカ自分ニ於テモ深ク各位ノ勞多トスル所デアリマス尙ホ次年度ニ向ツテモ更ニ諸君ニ要求シナケレハナラヌト云フ次第ハ諸君ノ御承知ノ通今日我帝國ノ狀勢ト云フモノハ曠古ノ大戰争ヲ行リマシテ其ノ大戰争ニ付マシテモ亦無比ノ國債ト云フモノヲ起シマシタ、之ハ是非共夫々整理ヲシテ行カナケレハナラヌ且又舊債ヲ償還シマスレハ其レ止ム譯テハナク、更ニ國運ノ發達ト云フモノヲ努メテ爲サナケレハナラヌ今日ノ狀勢デアリマスカラ其レヲ爲スニハ各種ノ殖産興業ト云フモノヲ振作シテ國力ノ充實ヲ増進シテ行カナケレハナラヌト云フコトハ實ニ政務ノ多クアル中ニ付テモ急務トスルコトデアリマス、夫故ニ政府ニ於テハ銳意百般ノ伸張計ヲ居ル次第デアリマスカ各位ニ於テモ政府ノ意ノアルトコロヲ體シテ能ク前途ニ向ツテハ深ク慮リテ

勵行シテ永遠ノ計ヲ定メテ此ノ林野ノ經營ニ於キマシテモ十分ニ御費アル様ニ致シタイ、其レニハ一面ニハ此ノ經費ノ節約ヲシテ成ルヘク少ナイ經費ヲ以テ一面ニハ收入ノ増加ヲシテ行カナケレハナラヌ其ノ歸スルコトハ國庫ノ收入ヲ増加シテ即チ國民ノ負擔ヲ減輕ナシテ行クコトヲ目的トシテ行カナケレハナラヌノデアリマスカラ其ノ邊ハ十分ニ御注意アランコトヲ希望シマス、右申ス通り國家ノ財政ハ随分困難ノ時期デアリマスカラ、各位ノ熱誠ト技術トニ依賴シテ今日我國庫ノ要求ニ應スル爲メ來年度ノ豫算ニ於キマシテモ、昨年度ニ比シマスルト更ニ多額ノ增收計ルコトニ決シタノデアリマス其ノ目的トスルコトハ區分細目等ニ至ツテハ局長ヨリ十分御談示ナスルコトデアリマスカ何ウソ右申通ノ次第デアリマスカラ此ノ目的ヲ達スルコトヲ努メラレンコトヲ要求致シマス各般ノコトニ付テハ最早度々諸君ニ御話ナシタコトモアルシ、十分御了解ニナツテ居ルコトデアリマスカラ今更ニ之ヲ繰返シテ多クノ言ヲ費スコトハ致シマセムカ、僅力ニ一ニ此ノ際御話ナシタイト思ヒマス

林野ノ經營ニ於キマシテ最モ注意センケレハナラヌノハ他テモナク、經濟ノ道アルト云フコトハ之ハ申スマテモナイコトデアリマス夫故ニ平素諸般ノ事業ヲ行ハレル上ニ於キマシテモ油斷ナク損益ヲ明カニシ改良ヲシテ行クモノハ改良ナシテ成ルヘク利益ヲ失ハヌ様ニ其レニ付テハ時期ト云フコトモアルシ、方法ト云フモノモアリマセウカ宛モ角モ國家ノ財産ヲシテ少シナリトモ有益ナラシムル様ニシナケレハナラヌノデアリマス幸ヒ年一年ニ民業ノ發達ト云フモノモアリマスルシ、尙ホマダ此ノ上ニモ林業ト云フモノ、計畫ト云フモノハ漸々ニ重キヲ加ヘテ來ル時ノ際デアリマスカラ、唯政府ノ山林ヨリ利益ヲ上ケルコト許シニ着目シテモ十分ハナイ次第デアリマスカラ、之ヲ爲スト云フ傍ニ於テハマダ一般ノ考慮ヲ煩シタイト云フモノハ民間ノ山林事業ト云フモノヲ妨害セサル様ニ見計ツテ行カナケレハナラヌノデアリマス、最モ今日マテ本省ニ於テ、山林經營ヲ爲シ木材等ヲ處理スル上ニ於テ民間ノ妨ケヲ爲シタト云フコトハナイデアリマスカ世間ニ於テハ職モスルト、民間ノ事業ヲ妨ケルト云フ聲ヲ立テ現ニ議員ニ其等ノコトヲ唱ヘテ居ル向モアルデアリマス最モ之ハ事實ニ適シタト云フコト許リテハナイケルトモ尙ホ諸君ニ於テハ將來ニ對シテモ酷ク民業ノ害ニナラヌ様ニ注意ヲ拂ツテ置カナケレハナラヌノデアリマスカラ、其ノ邊ノコトニモ一般ノ御注意ヲ煩ハシタイト思ヒマス

次ニ御承知ノ通昨午政府ニ於テ森林法ノ改正ヲシテ本年一月ヨリ實施シタコトデアリマスカ此ノ森林法ヲ改正シタ主ナル趣意ト云フモノハ帝國内ニアルトコロノ公有林、民有林等ノ狀態ト云フモノハ宜シク改良ヲシテ國土保安ノ實ヲ舉ケルト云フコトハ申スマテモナイカ、經營收益ヲ遺擲ナク進メテ行カナケレハナラヌト云フコトハ慮リ等ヨリシテ、立法ノ手續ヲシタノデアリマスカラ、各位ニ於テハ大務ノ國有林ノ經營ニ專ラ意ヲ注カレテ居ルコトハ申スマテモナイデアリマス、其ノ傍ニ於テモ夫々公有林、民有林ノ上ニモ眼ヲ注カレテ其ノ時ニ應ジ機ニ觸レテ能ク民間山林ノ經營者ヲ指導啓蒙サレル様ナコトニ一層御注意ニナリタイト思フデアリマス、既往ノ實績ニ付テ稽ヘテ見マスルト一年ニ熱誠ヲシテ諸君ノ手モ屬クデアリマスカラ隨テ山林經營ノ一般ノ狀態ニ於テモ餘程進歩シテ居ルコトハ明カナコトデアリマスケレトモ併シ尙ホ完



全ニシテ最早氣ヲ置クコトカナイト云フ程ニハ行キ難イ點モナキニシモアラシクテ、其レハ森林事業ノ自然ノ性質ヲモアリマセウカ、地積モ廣漠テアル深山幽谷杯ハ人跡モ絶エテアル、其ノ間ニ世人ノ耳目ニ觸レ難イモノモ少クナイト云フ次第アリマスカラ、諸君ニ於テ平素ヨリ十分ニ周密ナル監督ヲ加ヘテ行クト云フ御注意ヲ煩ハシタイノテアリマス、多數ノ部下ヲ率キテ參ル中ニハ地積モ廣シ人モ多シ、隨シ職カテモ、監督ノ目ノ行届カナイ點カアトシマスレハ忽チ非常ナル不利ヲ招キ或ハ產物ヲ亡失スル或ハ計畫シタ事業ノ好果ヲ見ナイテ目的ヲ失ヒ太甚シキコトヲ申シマスレト云フコトハ決シテ申シマセウカ尙ホ一層今ヨリ實地ニ付テノ監督ヲ勵行セラルルニ致シタイト思フノテアリマス、殊ニ於テ不注意ナルコト云フコトハ決シテ申シマセウカ尙ホ一層今ヨリ實地ニ付テノ監督ヲ勵行セラルルニ致シタイト思フノテアリマス、殊ニ林區署ノ官吏等ニ於テ官紀ニ違背シ太甚シキハ法網ニ觸レルト云フ様ナコトハ願クハ絕對ニ跡ヲ絶ツ様ナコトニ致シタイト思フノテアリマス、然ルニ職モスレハ今日多數ノ中ニハ官紀ニ違背シ或ハ法網ニ觸レルト云フモノカアルノテアリマスルカ、之ヲ根絶スルコトカ出來ナイノハ願ル遺憾ニ思フノテアリマス、勿論諸君ニ於テモ其ノ邊ノコトニ付テハ同感ノコトアラウト思ヒマスカ、願クハ部下ノ選叙等ニ付テハ尙更ニ慎重ニ注意ヲ加ヘテ、マタ平素ニ於テ官紀ヲ維持スル點ニ於テモ益々嚴正ニシテ官紀ニ違背シ法網ニ觸レルト云フモノヲ根絶スルコトヲ期スルト云フ様ナコトニ特ニ深ク御注意アリタイト思フノテアリマス、先ツ御話申シタイ一二ノ點ハ此ノ位ノコトニ過キナイノテアリマス、餘ハマダ局長ヨリ御話ナシマセウカ、マタ威ノ附イタコトカアルハ自ヨリモ御話ナシマセウカ、今日ハ此レヲケノコトヲ諸君ニ

一八、明治四十一年十一月大林區署長會議ニ於ケル大浦農商務大臣ノ訓示

我國ノ山林行政カ今日ノ盛況ヲ見ルニ至リタルハ主トシテ諸君ノ功ニシテ本大臣ハ邦家ノ爲深ク諸君ノ勞ヲ多トスルモノナリ然レトモ我林政ハ固ヨリ未ダ完全ノ域ニ達セリト云フヘカラス尙ホ施設改善ヲ圖ラサルヘカラスルモ頗ル多キハ言テ須タス乃チ本大臣ハ之ニ關スル諸君ノ意見ヲ聽カンカ爲茲ニ諸君ヲ招集セリ

今諸君ニ入ルニ先チ本大臣ハ二三ノ事項ニ就キ特ニ諸君ノ注意ヲ望ムモノアリ

- 一、森林ハ水源ノ涵養其他公益上重大ナル關係ナ有スルモノニシテ而モ其成長ヲ爲スニハ數十年ヲ經過スルヲ要ス故ニ荷モ經營其宜キヲ得サルトキハ損失一朝ニシテ償ヒ難ク害ノ及フ所亦頗ル廣シ是ヲ以テ任ニ森林ノ經營ニ當ル者ハ周密ナル注意ト慎重ナル態度ヲ以テ夜々其職ヲ奉セサルヘカラス抑モ森林收入ノ多キ計ルハ固ヨリ諸君ノ重大ナル任務ナリト雖徒ニ收利ノ念ニ驅ラレテ森林百年ノ長計ヲ誤リ或ハ過伐濫採ノ弊ニ陥リ或ハ伐採跡地ノ植栽ヲ忽ニスルカ如キアラハ國家ノ不幸焉ヨリ大ナルハナシ本大臣ハ切ニ諸君ノ玆ニ注意セラレンコトヲ望ム
- 二、林區署ノ事務ハ實地ニ臨ンテ事ヲ辨シ且一般人民ニ接觸スル機會太甚々多キカ故ニ一面懇切丁寧ヲ旨トシ一面紀律ヲ嚴守シ清廉ノ徳ヲ全ウセサルヘカラス諸君カ部下ノ官吏ヲ推選シ又之ヲ監督スルニ當リテハ特ニ注意ヲ玆ニ注カレンコトヲ望ム

- 三、林區署ノ事務ハ世ノ進歩ニ伴ヒ漸ク錯雜シテ又愈多岐ナラントス此ノ秋ニ方リ繁文得禮ヲ達ケテテ事務ノ簡捷ヲ期スルハ最も時宜ニ適スルモノナリ故ニ諸君ハ簡便ニ且確實ニ克ク事務ノ成績ヲ擧グルヲ念トシ常時力ヲ玆ニ致サレンコトヲ望ム
- 四、現行ノ制度ニ於テハ林區署長ノ權限ハ狹キニ失シ之カ爲ニ事務滯澁シ又處分ノ敏捷ヲ缺クノ虞懸ナシトセス依テ本大臣ハ相當ナル時期ニ於テ適宜ニ諸君ノ權限ヲ擴張シ以テ山林行政ノ振興ヲ期セントス然レトモ之ト共ニ諸君ノ責任一段ノ重キヲ加フルハ自然ノ數ナリ若シ不幸ニシテ諸君カ其職務ヲ遂行スルニ當リテ周到ナル注意ヲ缺キ運用其宜キヲ失スアラハ洵ニ林政ノ爲ニ悲ムヘク而シテ諸君ハ其責ニ任セサルヘカラス今日以後一層諸君ノ奮勵努力ヲ望ム所以亦玆ニ存ス

一九、明治四十二年五月大林區署長會議ニ於ケル大浦農商務大臣ノ訓示

今般大林區署長諸君ヲ召集シタル第一ノ用向ハ來年度以降ニ施設計畫ヲ要スル國有林野特別經營事業ニ關スルコトナリ諸問事項ハ豫テ局長ヨリ諸君ニ通達シタル著ナリ謂フ迄モナク特別經營事業ハ國有林野ノ整理ヲ爲スト同時ニ森林百年ノ長計ヲ樹テントスルモノニシテ此ノ事業開始以來幸ニ諸君ノ勞ニ因リ著々事業ノ進捗ヲ見今日ノ功程ニ達シタルハ本大臣ノ頗ル満足スル所ナリ而シテ事業開始以來ノ經驗並ニ社會事情變遷ノ趨勢ニ鑑ミ將來施設改善ヲ圖ラサルヘカラスルモノアラハ此ノ際其ノ意見ヲ開陳シ本事業ノ終了ヲ完カラシメンコトヲ期スヘシ

次ニ明治四十二年度ノ歳入歳出豫算ハ既ニ各署ニ令達シテ成ルヘク經費ヲ節約シテ事務ノ成績ヲ擧グルニ努ムヘキハ言ナ俟タズ而シテ產物處分ニ關スル從來ノ成績ニ徵スルニ計畫ノ不實行トナリ又ハ實行ニ際シテ其ノ變更ヲ要スルモノ諒カラス爲ニ歳入ノ充實不確實ニシテ甚々遺憾トス販路ノ選定、處分ノ方法ニ就キ宜シク猶一層ノ攻究ヲ重メヘシ其他ノ諸問事項ニ付テモ十分意見ヲ開陳セラレンコトヲ望ム

事務ノ簡捷ヲ期シ處理ノ敏捷ヲ計リテ事務規程ノ改廢ヲ企テ今般大林區署分課規程ヲ改正シタリ之カ豫期ノ効果ヲ收メ得ルト否トハ一ニ其ノ運用如何ニ在リ諸君ハ此ノ點ニ注意シテ實行上遺憾ナキヲ期スヘシ

大林區署管内ノ監督視察ハ從來主トシテ各課長以下ナシテ之ニ當ラシメ署長自ラ其ノ衝ニ當ルコト頗ル稀ナルハ各署共ニ事務ノ繁忙ナル今日ニ在リテハ已ムテ得サルヘシト雖本大臣ハ頗ル之ヲ遺憾トス今般大林區署分課規程ノ改正ニ伴ヒ管内監督規程ヲ改正シタルハ要スルニ監督ノ周到ヲ期スルニ外ナラス爾今此ノ點ニ就テモ一層諸君ノ留意ヲ望ムモノナリ

二〇、明治四十三年四月大林區署長會議ニ於ケル小松原農商務大臣ノ訓示

今十國幣多端ノ秋ニ方々多平ノ宿題タル官吏増俸ヲ遂行セラレタル所以ノモノハ蓋シ有能ノ材ヲ厚遇シテ專心其ノ職ニ當リ清廉已チ持シ官吏ノ體面ヲ保タシメンカ爲ニ外ナラス諸君ハ善ク此ノ趣旨ヲ體シ實踐行範ヲ部下ニ示シ格勤奉公ノ美風ヲ増進シ荷モ奢侈放縱ニ流レテ上下ノ負託



ニ背クカ如キ舉動ナカラシムヘシ  
 過般決行セラレタル行政整理ニ依リ山林局所管ニ於テモ多數ノ吏員ヲ罷免シタル結果留任ノ諸官ハ當ニ一層ノ繁務ヲ來タスヘキヲ以テ此ノ際  
 荷モ繁文縟禮ノ感アルモノハ斷然之ヲ一掃シ適材ヲ適所ニ用ヒテ一般ノ氣風ヲ振作シ處務ノ敏活ヲ期セラレヘシ  
 林業ノ如キ資金ノ回收長期ニ亘ルモノニ在リテハ計畫極メテ堅實ニシテ投資最モ節約ヲ加ヘサルヘカラス由來官業ニ付テハ往々ニシテ其ノ經營  
 散漫ニ流レ經費元多ニ失スルノ感ナキニアラサルヲ以テ諸般ノ調度建設等勞メテ質實儉素ヲ旨トシ決シテ冗漫ノ弊ニ陥ルヘカラス  
 國有林野經營ノ大綱ハ既ニ確立シテ勳カス可カラサモノアリト雖而カモ其ノ細目ニ至リテハ世運ノ趨勢ニ鑒ミ地方ノ實狀ニ應ジテ適宜取捨ヲ決  
 シ改良ヲ加フヘキモノ決シテ少ナラサルヘキヲ信ス諸君ハ宜シク平素意ヲ此ニ致シ徒ラニ舊例故式ニ拘泥シテ迂愚ノ機ヲ招クコト勿レ然レト  
 モ林業ハ元ト長期ノ事業ニシテ特ニ國有林野ノ經營ハ國家百年ノ長計ナレハ徒ラニ一時ノ風潮ヲ趁フテ碎カニ新規ノ作業ヲ擬メ又ハ既定ノ計畫  
 ナ更メテ近功ヲ貪ルカ如キハ決シテ其ノ期スル所ニアラス此ノ如キハ必ス一方ニ罅隙ヲ生シ而カモ林業本來ノ性質上容易ニ矯正スヘカラス餘  
 弊ヲ貽スヲ常トスルカ故ニ深ク戒メサルヘカラス要之國有林野經營ノ要旨ハ專ラ永遠ノ公益公益ヲ主トスルニ在リテ以テ保全利用兩ナカラ偏セ  
 ス不爾社會全般ノ利害ト地方住民ノ休戚トナ重ニ考慮シテ之ヲ調和ヲ圖クク其ノ中正ヲ得テ遺憾ナキヲ期セラレヘシ

一一、明治四十四年三月大林區署長會議ニ於ケル大浦農商務大臣ノ訓示

國有林野經營ノ事業ハ各位多年ノ盡瘁ニ依リ軌近發其ノ面目ヲ新ニスレ本官カ國家ノ爲深ク各位ニ感謝スル所ナリ茲ニ各位ヲ召集シテ本會議  
 ナ開クニ當リ本官ハ一一ノ所感ヲ各位ニ告グル所アラントス  
 嚮ニ此野大林區署管内ニ於テ曠古ノ惡徒ヲ出シタルハ本官ノ恐懼措ク能ハサル所タリ抑モ職ニ官衙ニ長タル者其ノ事務ノ舉ランコトヲ努ムヘキ  
 ハ言ヲ須メスト雖其ノ最モ意ヲ用フヘキハ平素愛撫指導ノ誠ヲ致シ監督ノ道ヲ完ウシ以テ部下ナシテ其ノ身ヲ慎ミ行ヲ勵ミ全力ヲ其ノ職トスル  
 所ニ盡サシムルニ在リ而シテ各位ノ統率スル所ハ高等官ヨリ職工人夫ニ及ヒテ其ノ階級甚ダ複雑セルノミナラス其ノ員數亦數百人ノ多キヲ算ス  
 克ク是等ノ部下ヲ御シ荷モ過意ナカラシムルハ洵ニ重大ナル要務ナリトス各位ノ日常諸般ニ已テ持至誠人ニ接シ以テ部下ニ垂レンコト本官  
 ノ切ニ要望スル所ナリ  
 聖官吏ニシテ清職ノ罪ニ問ハレルモノ年々其ノ跡ヲ絶タス其ノ所爲固ヨリ深ク惡ムヘシト雖職ヲ案スルニ往々官吏ノ本分ヲ辨ヘサルカ爲目  
 利慾ニ眩惑シ終ニ禍害ノ身ニ及フテ慮ラサル者アリ畢竟清廉謹直ノ風未ダ普ク行ハレサルニ因ルヘシ各位宜シク聖員ヲ戒飭シ官紀ノ一日モ  
 緩スルコトナキヲ期スヘシ  
 各署諸般ノ事務ヲ敏活ニ處理シ公衆ニ接スルニ懇切丁寧ナルヘキハ本官ノ屢々訓示シタル所ナリ然レニ多數ノ署員中ニハ猶或ハ此ノ精神ヲ缺如

セルモノアルヲ聞ク各位ハ宜ク部下ニ對シ一層ノ訓戒ヲ加ヘ荷モ繁文縟禮ノ弊ナカラシムヘシ  
 政府ハ來年度以降十八箇年ヲ期シ治水上ニ必要ナル諸般ノ計畫ヲ遂行シ以テ治山ノ實ヲ舉ケ依テ國土ノ安寧ヲ維持シ水災ノ慘害ヲ除カンコトヲ期  
 ス國有林野ニ在リテハ諸般ノ施設既ニ立チ又危機ヲ要スルモノ夥カルヘシト雖近年出水ノ跡ニ順ミルトキハ復改善スヘキ事項尠少ナラサルカ如  
 シ特ニ國有林野ハ多ク河川ノ流源ニ位スルヲ以テ之カ經營ノ適否ハ治水ノ根本政策ニ影響スルコト極メテ大ナリ各位須ラケ此ノ意ヲ體シ施設經  
 營毫モ疎慢ナキコトヲ期スヘシ  
 此ノ他國有林野經營上刻下ノ重要ナル問題ハ別ニ諮問案ヲ以テ各位ノ意見ヲ求メタリ各位十分其ノ所見ヲ盡シ以テ經營上一段ノ改善ニ資スヘ  
 シ

一二、明治四十五年四月大林區署長會議ニ於ケル牧野農商務大臣ノ訓示

就職以來始メテ茲ニ親シク各位ト會スルニ當リ一二事務上ノ心得ニ關シ述フル所アラントス  
 方今國有林野經營ノ事業ハ治水ノ政策ニ副ヒ木材ノ需要ト供給トヲ調和シ併セテ財政上重要ナル資源ヲ爲ス是レ各位多年盡瘁ノ結果ニシテ邦家  
 ノ爲慶賀ニ堪エサル所トス雖然國有林野ノ經營タル元永遠ノ計畫ニ基クモノニシテ今後ノ施設改善ニ俟ツヘキ事項尙其多ク國家カ各位一層ノ努  
 力ニ待ツ所至大ナリ  
 官紀ヲ振奮シ格勳奉公ノ氣風ヲ發揚スルハ官衙ニ長タル者ノ第一ニ意ヲ致スヘキ所ニシテ各位ノ一言一行ハ直ニ下僚ノ官紀ヲ弛張スルコト夥カ  
 ラス特ニ各位ノ統率スル所ハ年少微位ノ者頗ル多キヲ以テ之ヲシテ克ク清廉謹直ニ以テ官吏ノ體面ヲ保チ職責ヲ全クセシムルハ一一各位平素ノ  
 指導講習ニ賴ラサルヘカラス  
 植栽ヲシテ伐木ニ併行セシムルコトハ林業ノ本義ニシテ特ニ國有林ノ經營ニ於テ最モ意ヲ注クヘキ所タリ荷モ眼前ノ利益ヲ趁フニ急ニシテ造林  
 事業ヲ閑却スルカ如キコトアランカ林業ノ本義茲ニ亡ヒン各位宜ク萬一ノ失計ナキコトヲ期スヘシ  
 國有林野ニ於ケル治水上ノ施設ハ一般公私有林野ノ模範ト爲ルカ故ニ若其ノ宜シキヲ得サラン乎一般林政ノ弛廢之ヨリシテ甚シカラン各位須ラ  
 ク細心遠慮以テ其ノ完成ヲ計ルヘシ  
 國有林野經營方法ノ適否ハ地元住民ノ休戚ニ關スル所少カラス各位其ノ職ヲ執ルニ當リテハ常ニ地方産業ノ發達ト利便ノ増進トニ意ヲ注カサ  
 ルヘカラス是レ又自ラ國有林野經營ノ圓滿ナル成果ヲ期スル所以タルヘシ雖然是カ爲ニ漫ニ一時ノ便宜ニ走リ終ニ林業百年ノ大計ヲ傷ケルカ如  
 キハ素ヨリ事ノ本末ヲ誤マルモノニシテ深ク慎マシムルハカラス本官ノ各位ニ望ム所ハ其ノ兩々相須テ常ニ中正ヲ失ハサルニ在リ  
 已ニ各位ノ知ル如ク内閣ニ制度整理局設置セラレ總理大臣總裁ト爲リ財政整理及行政刷新ノ目的トシテ諸般ノ調査ニ從事ス財政ノ點ヨリ見レハ



現今國運發達シ國事頗多端トナリ之ニ要スルノ經費從ツテ増大ヲ致シ今後新規ノ事業ヲ息メ既定計畫ノ實行ニ止メムトスルモ自然ノ發展ニ對シ之ニ應スル甚ク困難ナル狀態ニ在リ此ノ儘ノ推移ヲ以テアセハ到底之方調和ヲ保チ難ク何等カ根本的處置ヲ要スルモアリ各位ハ直接之ニ關係ヲ有セスト雖現今財政窮迫ノ秋ニ當リ特ニ計畫セラルル所アルヘキヲ知ルヘシ行政刷新ハ繁文縟禮ヲ除キ事務ノ敏活簡明ヲ計ルニ在リ此ノ事タラハ屢反覆セラレタリト雖時ノ經過ト共ニ又自ラ能多ノ手續慣例ヲ生シ形式ニ偏スルニ至ル政府ニ於テハ此ノ際國民ノ利便ト經費ノ節減トニ鑑ミ根本的考究ヲナシ從來ノ弊ヲ一掃セントス大林區署ニ於テモ此ノ點ニ考慮ヲ運ラシ相當施設スルヲ要ス

財政ノ困難ト共ニ海外貿易ノ狀況ハ年來輸入超過シ輸出ノ進歩一般ニ期待セラレ、如クナラス輸出ノ進歩ハ種々ノ意義アルモ其ノ結果トシテ通貨制度經濟界ノ健全ニ關スルコト大ナリ其ノ均衡ヲ保ツハ健全ナル國家經濟發達上至要ノコトトス政府ハ所有手段ヲ講シ輸出ノ獎勵ヲ計ラントス林產物ノ輸出ハ年々一千萬圓内外ニ及ヒ故テ少額トナサス各位常ニ貿易ノ大勢ニ適應シ獎勵指導以テ其ノ額ノ増進ニ努ムヘシ其ノ他國有林野經營ニ關スル刻下ノ重要問題ハ別ニ詰問セルカ故ニ各位十分其ノ所見ヲ盡シ考究審議ヲ遂ケヘシ

二三、明治四十五年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル牧野農商務大臣ノ訓示

林業ノ發展晚近漸ク其ノ緒ニ就キタルハ諸君ノ精勵ニ職由スル所ニシテ國家ノ爲慶賀ニ堪エス然リト雖林野行政百般ノ施設尙ホ諸君ノ努力ニ須クモ多シ特ニ治水諸事業ハ草創ノ際ニ屬スルヲ以テ調査規畫ニ精細ノ注意ヲ拂ヒ豫定ノ年度内ニ治水ノ根本策ヲ治山ノ施設ヲ完フスルノ計ヲ樹テサルヘカラス且諸事業ノ實行ニ就テハ實施後ニ於ケル監督ヲ嚴ニシ荷モ其効果ノ廢滅スルカ如キコトナカラシムルヲ要ス

公有林野ノ整理開發ハ地方自治體ノ發達ノ基礎ト成スト同時ニ地方産業ノ興振ヲ促進スルノ目的ヲ有スルモノニシテ之カ指導獎勵ニ際シテハ幾多ノ困難ナル事情アルヘキモ公有林野ノ面積ハ國有林野ヨリ大ニシテ之ヲ合理的ニ經營スルハ國家永遠ノ福利ニ關シ其重要ナルコト國有林野ニ亞クテ以テ銳意之カ經營ニ努ムヘシ特ニ入會關係ノ整理ハ公有林野開發ノ基礎ヲ爲スモノニシテ之カ根本的ノ解決ヲ要スルモ尙ホ慎重ナル調査ニ俟タサルヘカラスヲ以テ豫メ先ツ深ク整理ノ勸奨ニ盡サルヘカラス

火入取締、森林火災ノ警防及保安林開墾禁止地ノ取締ハ主トシテ警察機關ノ力ニ依ラサルヘカラス然リト雖地方人民ヲ啓發シテ火入ノ弊害ヲ自覺セシメ林野產物採取方法ノ改善ヲ促カシ森林火災ノ警防及保安關係地ノ取締ニ協力セシムル等指導獎勵ノ手段ヲ盡スコト亦極メテ必要ノ事ニ屬ス森林副產物ノ利用及山地住民副業ノ發達ハ林業ノ利益ヲ增進シ山地住民ノ經濟狀態ヲ改善スルノ効果大ナルヲ以テ之カ爲メ必要ナル調査施設ニ意ヲ用フヘシ尙帝國今日ノ狀況ニ顧ミルニ地方ノ富源ヲ拓キ産業ヲ興シ以テ輸出ヲ增進シ輸入ヲ防遏スルハ刻下ノ急務ナリ林產物及之ヲ原料トスル製品ノ輸出入ニ就テハ特ニ諸君ノ注意ヲ望ムサルヘカラス地方行政ニ關シテハ固ヨリ地方長官各々成案アルヘシト雖直接其ノ局ニ當ル諸君ノ職責亦決シテ輕シトセス須テラ勤惰其職ニ背リ林業ノ興振ヲ圖リ時務ノ急ニ應スルニ遺憾ナカラシムルコトヲ期スヘシ

二四、大正二年十月大林區署長會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

茲ニ大林區署長會議ヲ開クニ方リ一言各位ニ告グル所アラントス

惟フニ政府今次ノ整理ハ其目的トスル所行政及財政ノ制度ヲ改革シ依テ國運ノ進展ヲ圖ラントスルニ外ナラス職ヲ本省ニ奉スル者須ラク此ノ趣旨ヲ體シ疆メテ國費ノ節用庶政ノ刷新ヲ行ヒ進ミテ國富ノ充實産業ノ隆昌ヲ期セサルヘカラス各位ノ管掌スル國有林ノ經營ハ固ト永遠堅實ノ計畫ニ屬シ今日直ニ以テ國帑ノ不足ヲ濟フニ該ラスト雖然モ其ノ產物ヲ利用スル各種産業ノ勃興ヲ促スニ當リテハ各位ノ盡瘁ニ俟ツヘキモノ決シテ尠カラズ

國有林野ノ經營ハ既ニ其ノ方針ヲ確立シ施設ノ基礎ヲ定メタリト雖之カ運用ニ至リテハ時勢ノ推移產業ノ消長ニ伴ヒ毎ニ補整改善ヲ怠ルナカラフンコトヲ要ス就中地元住民ノ繁榮ヲ助長シ地方産業ノ開發ヲ促進スルハ各位ノ重要ナル任務ニシテ又以テ國有林經營ノ成果ヲ全ウスル所以ナリ各位必ス林業百年ノ基礎ヲ備フコトナク國家永遠ノ福利ヲ慮ルト共ニ併セテ地方經濟ノ實狀ヲ參酌シ諸般ノ施設機宜ニ違フコトナキヲ期スヘシ

過般ノ行政整理ニ伴ヒ山林局所管ニ於テモ亦定員ノ減少經費ノ削減ヲ受ケタルコト輕カラズ然モ各般ノ事務日々繁忙ヲ加ヘ事業ノ範圍年ト共ニ擴大セントス此ノ間ニ在リテ緊縮ノ經費ニ依リ國務ノ伸張ニ處セントスルハ蓋シ至難ノ事ナリト雖又必ス遂行セサルヘカラス所ナリ

繁文ノ省略經費ノ節約並官吏ノ本分ニ關シテハ曩ニ總理大臣ヨリ親シク垂示セラレタル所アリ此ノ事タル由來日夜口誦反覆シテ尙及ハサルノ憾ナシトモ各位必ス遵守シテ憲ヲサランコトヲ期シ自ラ率先範ヲ示シテ部下ヲ指導シ努メテ奉公ノ實ヲ擧ケサルヘカラス

其ノ他國有林野ノ諸問題ニツキテハ山林局長ヲシテ審議セムヘシ各位ハ其ノ懷抱スル意見ヲ開陳シテ詰問ニ答ヘ地方ノ實狀ヲ披瀝シテ施設改善ノ途ヲ講シ以テ本會議ノ効果ヲ完ウスルニ努ムヘシ

二五、大正三年四月大林區署長會議ニ於ケル農商務次官(大臣代理)ノ訓示

大臣ヨリ例年ノ通訓示アルヘキ準備ナリシモ先日各位ヲ大臣室ニ招キ一應ノ訓諭アリ且目下發恙ニテ療養中ナルヲ以テ本官命ニ依リ一二ノ事項ニツキ注意スル所アラムトス林區署ノ事業ニツキテハ豫テ歴代ノ大臣ヨリ訓示若クハ詰問アリ又山林局長ヨリ詳説アリシコトナルヲ以テ茲ニ之ヲ述ヘス

一、近年政治社會ノ變動頻々トシテ起リ之カ爲下級官吏ノ間ニ不安ノ念ヲ抱キ因テ或ハ執務ノ疎忽ヲ來スコトナカラムヲ憂フ固ヨリ官吏ハ其ノ主掌スル所ニ專心勤勉ナルヘキハ言ヲ須タスト雖人情ノ弱點トシテ斯ル場合ニ際シ多少危懼ノ念無キヲ得サルモアラハ是決シテ國務ノ成



續予擧タル所以ニ非ス林區署ハ國有財産ノ管理ヲ主トスルモノナレハ性質上政變ノ影響ヲ蒙ルコト輕微ナリトス各位須ラテ部下ヲシテ其地位ニ安ンシ恒ニ職務ニ盡瘁セシムコトヲ努ムヘシ

二、小林區署長以下ノ官吏ニ係ル不正事件ノ屢々發見セラレルモノアリ是本官カ曾テ諸君ト共ニ日夜憂慮セシ所ニシテ唯其數ノ減少セムコトヲ希望シテ已マサリキ現局長ニ於テモ亦元ヨリ然リトス然モ尙事件ノ性質從來ニ比シ一層惡ムヘキモノヲ生スルニ至リテハ實ニ遺憾ニ堪エサル所ナリ若シ一般官紀ノ弛緩ニ因由スルモノナリトセムカ國有財産ヲ管理スル各位ノ爲最懼ルヘキ事ニ屬ス將來一層力ヲ效シテ所有方法ヲ講シ以テ惡弊ノ矯正ヲ圖ルヘシ

三、今回ノ會議ノ問題ハ土地ノ適正ナル利用ヲ以テ其ノ主眼トス開墾可能地ノ取調及之ニ伴ヒテ如何ナル處分ヲ爲スヘキカノ點ニツキ世人輿モスレハ開墾不要存置林野ヲ徒ニ増加シ爲ニ弊害ヲ醸サムコトヲ疑フ者アリ是畢竟杞憂ニ過キサルモ當局者亦其間ニ誤解ノ生セザラムコトヲ期セサルヘカラス今回ノ調査ハ明治二十六年不要存置林野處分ノ方針ト異ルモノニアラス唯當時調査ヲ進ムルニ急ナリシ爲自ラ改訂ヲ要スルモノアリ仍テ今日之カ完成ヲ計ルニ外ナラス其處分方法ニ關シテハ後日詳シク山林局長ノ意見ヲ聽キ大臣ノ決議ヲ仰カムトス

二六、大正四年四月地方長官會議ニ於ケル河野農商務大臣ノ訓示

林政ノ要義ハ國土保安ノ効用ヲ發揮シ林産ノ發達ヲ圖ルニ在リ治水上林野ニ關スル計畫ハ各位ト協力シテ必ス成果ヲ擧グルヲ期セサルヘカラスルノミナラス森林經營ニ關スル制限ニ基ク損失ハ之ヲ木材利用上ノ研究ニヨリテ補足シ森林利ヲ増進スルノ途ヲ講スルヲ要ス

一、保安林編入解除ニ關スル件  
保安林編入ハ治水其ノ他國土保安上ノ必要ニ基キ森林ノ施業ヲ制限スルモノナルカ故ニ其ノ編入ニ當リテハ林地ノ實況及其ノ及ボス所ノ保安關係ニ關シテ慎重ナル調査ヲ遂ケ荷モ過誤ナカラシムコトヲ期シ就中一小局部ニ拘泥シテ大局ヲ逸シ單ニ荒地復舊ヲ唯一ノ目的トシテ編入處分ヲ行フカ如キハ慎マサルヘカラス而シテ國土保安上ノ關係ハ容易ニ消滅セサルモノナルヲ以テ保安林解除ハ之ヲ荷モセス必ス當初編入ノ事由及將來ニ於ケル施業ノ影響ニ關シテ慎重考査シ公益上解除ヲ必要トスル場合ノ外ハ蓋ニ之ヲ行フヘカラス

二、荒地復舊事業ト砂防事業トノ區分ニ關スル件  
當省主管ノ荒地復舊事業ハ荒地地ヲ森林ニ復舊シ以テ治水上ノ効果ヲ擧ケムトスルニ在リ即チ其目的トスル所全ク森林ノ造成ヲ主眼トスルモノナルカ故ニ内務省主管ノ砂防事業トハ之ヲ混同セサルヲ要ス

三、治水事業ニ關スル件  
治水ニ關スル林野經營ハ河川改修工事其ノ他治水上各般ノ施設ト併行シ常ニ事業ノ緩急先後ヲ順慮セサルヘカラスハ勿論ナリト雖政府ハ諸

般ノ狀況ニ鑑ミ補助及補償ニ關シテ各必要ナル支出額ヲ豫定セルヲ以テ府縣ニ於ケル事業計畫ハ一面政府豫算ノ精神ニ稽ヘ可成之ニ伴ハシムルノ途ヲ講セラレンコトヲ望ム

四、地方森林會規則改正ニ關スル件

今回地方森林會規則改正シテ議員中職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタル者アルトキハ之ヲ免スルヲ得ルコトトセリ右ハ議員中蓋ニ缺席シ又ハ故意ニ延期ノ議決ヲ爲ス等其ノ職責ヲ盡スニ忠實ナラサル者アルトキハ之カ更任ヲ行ハムカ爲ナリ然レトモ任免ハ常ニ慎重ナルヲ要ス蓋リニ之ヲ行フヘカラスハ勿論ナルト同時ニ荷モ職務ニ忠實ナラサル者アルトキハ速ニ事情ヲ具シ内申セラレンコトヲ望ム

五、森林測候所ニ關スル件

森林測候所ハ山岳地方ノ氣象ヲ觀測シ殊ニ河川上流ノ雨量ヲ測定シ以テ治水上森林經營ノ基礎ヲ定メンカ爲ニ重要河川 水源地ニ之ヲ設置スルノ計畫ヲ樹テ既ニ二十四箇所ノ新設ヲ了シ何レモ元ト測候ノ事タル一定地ノ觀測ノミヲ以テ其ノ機能ヲ發揮スヘキモノニアラサルカ故ニ地方各種ノ測候所ト適當ノ連絡ヲ保タシメ以テ相互ノ利便ニ供スルト共ニ十分之ヲ利用セラレンコトヲ望ム

六、記念植樹ニ關スル件

今秋舉行セラレヘキ 今上陛下即位ノ大典ニ方リテハ奉祝ノ意ヲ表セシムル爲ニ記念事業トシテ植樹及植林ヲ行ヒ産業御獎勵ノ聖旨ニ奉答スルカ如キハ眞ニ適切ノ舉ナリト信ス宜シク之カ勸奨ニ努ムルト共ニ企業ヲシテ必ス成功セシムル様指導セラレンコトヲ望ム

二七、大正四年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル河野農商務大臣ノ訓示

茲ニ地方林務主任官會議ニ方リ一言以テ諸君ニ告グル所アラムトス

抑々林業ヲ振興シテ國土ノ安寧ヲ保持シ國富ノ充實ヲ企圖スルノ必要ナルハ更ニ言ナ俟タズ是レ林政ノ一日モ弛廢スヘカラス所以ナリ  
部落有林野ヲ市町村ノ所有ニ統一シ之カ施業計畫ヲ確立シテ公有林野經營ノ實ヲ完ワシ又一般森林ノ濫伐ヲ豫防シ荒地地ヲ回復シ因テ以テ治水ノ效果ヲ擧グルハ實ニ我國林政上ノ急務トシテ既ニ一定ノ企畫アリ今ヤ諸君ノ努力ニ由リ漸次之カ進捗ヲ見ツ、アリト雖其前途ハ猶頗ル遠遠ナリ冀クハ一層奮勵以テ此計畫ノ遂行ヲ期スヘシ  
林産物ノ利用ハ日ニ益々多キヲ加ヘ海外ニ於ケル需要亦漸ク増加ヲ見ントス今次ノ戰亂ニ際シテハ他ノ産業ト同シク是亦打撃ヲ免カレ、コト能ハサリシト雖モ又却テ販路擴張上良好ノ機會ヲ捕促シ得サルニアラス若シ此機ヲ察シテ措置ヲ誤ルコトナクハ轉禍爲福ノ結果ヲ齎ラスコトモ亦容易ナルヘシ諸君ハ林政ノ局ニ在リ宜シク當業者ヲ指導監督シ益々林産物ノ利用及 易ノ進暢ニ努力セシメ以テ國力ノ發展ヲ致スニ盡瘁セラ



終ニ臨ミ特ニ一言スヘキコトアリ即チ今秋御舉行アラセラルヘキ 今上陛下御即位ノ大典ニ際シ奉祝ノ誠意ヲ表シ併セテ産業御獎勵ノ 聖旨ニ 奉答センカ爲紀念事業トシテ植樹及植林ヲ行フカ如キ洵ニ適切ノ事ナリト信ス然レトモ其之ヲ行フニ方リテハ須ラケ其成績ノ確實ヲ期セラルヘ カラス諸君宜ク茲ニ留意シテ勸導指導ニ努ムヘシ 尙ホ今同諮問シタル事項ニ就テハ慎重熟議ノ上凱切ナル答申アラントナ望ム

二八、大正四年四月大林區署長會議ニ於ケル河野農商務大臣ノ訓示

曩ニ大命ヲ拜シ茲ニ初メテ諸君ト相見ユルノ機會ヲ得タルハ本官ノ欣幸トスル所ナリ 政府ハ夙ニ國有林野經營ノ方針ヲ確立シ各位ハ多年ノ力實行ノ任ニ方リ幸ニシテ著々其ノ進捗ヲ見ルニ至リタルモノアリ然レトモ國土ノ危害ヲ 防止シテ治山ノ實績ヲ舉ケ國富ヲ充實シマテ財政ノ基礎ヲ固クセムニハ今後尙一層各位ノ精勵努力ヲ望マサルヲ得ス 歐洲ノ戰亂ハ史上空前ノ大事ニシテ其ノ本邦ニ及セル影響夥カラズ然レトモ之カ爲明野費力發奮シテ産業ノ興振ヲ企圖スルノ機運ヲ得タルハ深 ク喜フ所ナリ各位ハ常ニ國有林野經營ノ地元住民ノ休戚並ニ地方産業ノ消長ニ關スルコトノ甚大ナルニ思フ致シ林業經營ノ大計ト地方經濟ノ發 達トノ調和ニ留意シテ圓滿ナル成果ヲ擧グルニ努ムヘシ 官紀ノ振興事務ノ刷新ハ國政緊要ノ要道ニシテ任ニ官職ニ在ルモノ須臾モ懈怠スルコトアルヘカラス各位ハ平素身ヲ以テ範テ下僚ニ示シ之カ監 督寬嚴宜シキヲ制シ部下品性ノ向上ニ局々格勤奉公ノ誠ヲ致サシムルヲ期スヘシ尙諮問セル事項ニ就テハ各位其ノ懷抱セル意見ヲ竭シテ審議セ ラレンコトヲ望ム

二九、大正五年四月大林區署長會議ニ於ケル河野農商務大臣ノ訓示

本日茲ニ各位ヲ招集シテ本會議ヲ開クニ當リ一言各位ニ告ル所アラントス 今次ノ戰亂ニ際シ帝國産業ノ被リタル影響ハ頗ル痛切ニシテ又其範圍ハ甚々廣汎ナリ此間善ク適應ノ方策ヲ樹テ歸決其處ヲ得セシムルハ容易ノ 業ニ非スト雖戰後ニ於ケル列國ノ狀態ニ察シ帝國産業ノ隆昌ヲ畫スルハ更ニ一層ノ重任タリ局ニ産業ニ在ルモノ奮テ職ニ殉スルノ覺悟莫カ ルヘカラス國有林野經營多年今ヤ鞏固ナル發達ヲ爲シ既ニ國家財政上重要ナル資源ヲ成スト同時ニ各種産業ノ助成開發ニ貢獻スル所甚々夥カラ ス更ニ進ンテ其廣大ナル面積ト豐富ナル蓄積トヲ以テ今後發展スヘキ諸般ノ事業ニ對シ原料供給上遺憾ナキヲ期スルヲ要ス各位宜シク帝國産 業ノ將來ヲ稽察シ施設經營上一段ノ努力ヲ加フヘシ 雖然林業ノ事タル元ト永遠ノ計畫ニシテ國家百年ノ長計ナレハ一時ノ便否一部ノ利害ニ順應シテ濫ニ之カ基礎ヲ變改スヘキニアラス須ラケ社會

全般ノ福利ト地方産業ノ利便トヲ考量シテ之カ兩全ノ途ヲ圖ルヲ要ス抑モ産業振興ノ基礎ハ學理技術ノ發達ニ在リ想フニ森林技術ノ活動期ハ方 ニ今日以後ニ在ラン各位須ク部下ノ諸員ヲ督勵シテ更ニ一段ノ研究ヲ重ク依テ國有林野經營ノ圓滿ナル發達ヲ遂ケヘシ 其他剩下ノ重要ナル諸問題ニ就テハ別ニ諮問案ヲ以テ各位ノ意見ヲ求メテ各位十分其所見ヲ開陳シテ慎重審議スヘシ

三〇、大正五年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル河野農商務大臣ノ訓示

地方林務主任官ノ會同ニ際シ一言以テ告ケル所アラントス 帝國産業ハ今次戰亂ノ爲甚大ナル影響ヲ蒙リタルニ由ラス漸次ノ力發達ノ見ルヘキモノアルハ頗ル喜フ所ナリト雖此間克ク適應ノ方策ヲ樹テ更 ニ進ンテ戰後ニ於ケル各國ノ情勢ニ察シ帝國産業ノ隆盛ヲ畫スルハ眞ニ容易ノ業ニ非ス職ニ産業ノ局ニ在ル者宜シク正ニ奮勵スル所ナカレハカ ラス惟フニ林業ノ振興ハ國富ヲ充實シ治水ノ根柢ヲ確立シ國土ノ安全ヲ保持スル所以ニシテ之カ確實ナル發達ヲ期スルハ蓋シ復々天惠ノ福祉ヲ 完フスル所以ノ道ナリ諸君ハ其ノ學識ヲ經驗トニ因リ深ク帝國産業ノ將來ヲ稽察シ林産ノ増殖ニ利用ノ開發ニ販路ノ擴張ニ指導獎勵上一層ノ努 力ヲ加ヘ以テ地方林業一段ノ進境ヲ見ルニ至ラムコトヲ期スヘシ 治水事業ハ今ヤ既ニ五箇年ヲ經過セルニ尙所期ノ進行ヲ見サルモノアリ殊ニ計畫ノ基礎タル關係地域調査ノ如キ未タ結了ニ至ラサル府縣甚多キ ハ深ク遺憾トスル所ナリ此等ハ速ニ調査ヲ完了シ進テ確實ナル計畫ヲ樹テ治水ノ實績ヲ擧グルニ努ムルト共ニ又保安林ノ如キモ之カ施設監督實 地ノ取締ニ關シ特ニ周密ナル注意ヲ加フ可シ 公有林野ハ其面積廣大ニシテ之カ開發ハ産業ノ作興ニ治水ノ効果ニ將々地方財政ニ至大ノ關係ヲ有スルニ拘ラス依然トシテ荒廢ニ委セラレタル モノ猶ホ甚多シ之カ整理促進ニ關シ勸奨上些ノ遺漏ナキヲ期スヘシ 尙今同諮問シタル事項ニ對シテハ十分意見ヲ開陳シ其ノ他協議事項ニ對シ慎重熟議ヲ遂ケヘシ

三一、大正六年四月大林區署長會議ニ於ケル仲小路農商務大臣ノ訓示

今同諮問君ノ會同ヲ機トシ一言以テ告ケル所アラントス 今ヤ帝國ハ産業及貿易上實ニ容易ナラサル時機ニ際會セルモノニシテ倍々之カ隆昌ヲ期スル爲一層ノ奮勵努力ヲ竭サ、ル可カラス而シテ之ヲ國 際ノ關係ニ見又列國ノ狀態ニ察セハ自今到底他力ニ倚賴スルコトヲ容サ、ルハ洵ニ明ニシテ必スヤ強固ナル自力ヲ培養シテ國家百年ノ長計ヲ樹 ツ、チ要ス即チ速ニ産業獨立ノ基礎ヲ鞏固ニシ貿易伸張ノ地步ヲ定メ國力ヲ充實シテ國家ノ富強ヲ確保セサル可ラス蓋ニ本省ニ臨時産業調査局 ヲ設置シタルモ亦全ク此ノ目的ヲ達センカ爲ニ外ナラス諸君ハ常ニ國土ノ保安ニ力ヲ盡シ又天賦富源ノ涵養ニ意ヲ用ヒ國富増進ノ基ヲ鞏固ナラ



シムルニ更ニ一段ノ努力スル所アラサル可ラス諸君ノ職務ハ特ニ實質堅忍ヲ要シ居常人ノ見サル所ニ大ナル苦心ヲ拂ヒ他ノ識ラサル間ニ大ナル努力ヲ爲シツ、アルモノニシテ諸君ニ對シテハ常ニ同情ノ念ヲ禁スル能ハス然レトモ此ノ人ノ知ラサル間ニ爲シツ、アル諸君ノ苦心經營コソ實ニ國力ノ發展ニ至大ノ貢獻ヲ爲セルモノナリ

固ヨリ森林ノ經營ハ遠大ノ謀ニシテ濫ニ一時ノ風潮ニ追隨スルヲ容サスト雖又徒ニ長計ニ慣レテ時運ノ趨勢社會經濟ノ變遷ニ順ミル所ナクムハ遂ニ迂遠ノ誤ヲ免カレサルヘシ故ニ作業ノ實行ニ方リテモ常ニ此等諸般ノ關係ヲ取ハ各工業ノ原料供給ニ付テモ深重ノ考慮ヲ拂フヲ要ス

又國有林ト地元トハ最モ離ル可ラサル關係アルカ故ニ國有林ノ經營ニ付テハ克ク地元産業發達ノ助成ニ力メ常ニ地元トノ調和ニ付留意スル所アルヲ要ス學理ノ研究及職務ニ對スル趣味ノ保有ハ最モ必要ナル事項ニシテ森林官ニ於テ殊ニ然リトス故ニ上ハ大林區署長ヨリ下ハ保護員ニ至ル迄常ニ此ノ心ヲ以テ須臾モ怠ルコトナク益々格別奉公ノ誠ヲ致サ、ル可ラス近時職務ニ關スル忌ムヘキ事故漸ク減少ノ傾キヲ呈セルモ由來僻遠無人ノ郷ニ在リテ國家重要ノ財産ヲ管掌スルモノナルカ故ニ深ク職務ニ興味ヲ持シ自己ノ努力ハ以テ微少ツ、ナリトモ國家ノ富強ニ貢獻セルモノナルコトノ確信ヲ抱キ忠誠事務ニ費タルコトヲ念トスルヲ以テ最モ緊要ノ事項トス實ニ此ノ趣味ト此ノ確信ハ以テ凡テノ誘惑ヲ制シ國有林管理經營ヲシテ十全ナラシムルノ要訣トス以上ノ趣旨ハ諸君歸廳ノ上普ク部下ニ徹底セシメ國家ノ爲益々奮勵努力アラムコトヲ望ム

三二、大正六年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル仲小路農商務大臣ノ訓示

府縣林務主任官會議ニ當リ茲ニ本官ノ希望スル所ヲ一言セムトス

願フニ殖産興業ハ國家富強ノ根柢タリ今次世界ノ戰亂アリシ以來我邦各種産業ノ頓ニ其ノ盛ヲ致シタルハ邦家ノ爲慶實ニ勝エサル所ナリ此ノ千載一遇ノ機運ニ際シ内ニハ益諸般ノ生産ヲ充實シ殖産興業ノ獨立ヲ圖リ外ニハ愈各種ノ貿易ヲ擴張シテ國力ノ伸暢ニ勉メ應ニ戰後ニ起ルヘキ激烈ナル國際經濟ノ競争場程ニ於テ優越ナル地步ヲ豫メ確保セムコトヲ期スルハ國家百年ノ大計ニシテ又洵ニ現下緊急ノ要務ニ屬ス然レトモ之カ適應ノ方策ヲ立テ帝國富強ノ基礎ヲ確立スルハ真ニ容易ノ業ニ非ラス曩ニ臨時産業調査局ヲ本省内ニ設置シタルハ一ニ此ノ間ニ處スルノ用意ニ外ナラス

惟フニ林政ノ要義ハ山地ノ崩壞ヲ防止シテ國土ノ保全ヲ途ケ林産ヲ増殖シテ國富ノ充實ヲ期スルニ在リ是ヲ以テ治水上ノ既定計畫ノ如キ必ス之カ成果ヲ擧ケシメムコトヲ要ス然レニ今ヤ豫定ノ三分ノ一ニ相當スルノ年所ヲ既ニ經過シタルニ拘ハラズ尙豫期ノ進行ヲ見ルコト能ハサルハ本官ノ深ク遺憾トスル所ナリ諸君ハ銳意ノ力促進ニ勉メ極力豫期ノ實績ヲ擧ケルト共ニ指導監督上遺漏ナキヲ期セラレムコトヲ切望ス

帝國ノ林野ハ廣大ニ是レ實ニ各種ノ産ニ對シ永遠ノ資料ヲ供給スヘキ天與ノ寶庫タリ殊ニ今次戰亂ノ實績ニヨリ歐洲ノ列國ハ何レモ原始産業ノ重要ナルコトヲ最モ痛切ニ感知シタリ此ノ點ニ鑑ミルモ我邦森林經濟ノ一日モ緩ラスヘカカラサルヲ固ヨリ明白ナリ職ニ林政ノ局ニ在ル者宜

シク其ノ責務ノ至大ナルヲ思ヒ大ニ發奮激勵スル所ナカルヘカラス本官ハ諸君カ深く帝國産業ノ趨勢ニ察シ其ノ豐富ナル學識ト確實ナル經驗トニ因リ一般林業ノ振興ニ關シテ今後ノ指導獎勵上更ニ一段ノ努力ヲ加ヘラレヘキヲ疑ハス

尙今回諸君ノ事項ニ對シテ十分ニ諸君ノ意見ヲ開陳セラレ其ノ他協議事項ニ對シテハ慎重熟議ヲ遂ケラレムコトヲ望ム

三三、大正七年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル仲小路農商務大臣ノ訓示

今回當省ニ開カレタル府縣林務主任官會議ノ席上ニ於テ茲ニ本官ノ懷抱セル意見ヲ述フル機會ヲ得タルハ深ク欣フ所ナリ會議ノ成績ニ付山林局長ヨリ開ク所ニヨレハ開會以來連日極メテ有益ナル事項ニ就テ熱心ニ種々ノ意見ヲ交換セラレ林政上裨益スル所夥カラサリシカ如ク本官ノ満足スル所ナリ

本官ハ別シテ森林ノ事ニ就キ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居ルモノニシテ實ニ國土保存ノ上ヨリ見ルモ又國家國民ニ最大切ナル水流水源涵養上ヨリ考フルモ森林ノ關係ハ平時ト雖モ國家ノ存立上極メテ大切ナル所ナルカ殊ニ今回ノ時局發生以來別シテ森林ニ對シテ深ク感テ深クスルニ至レリ即國防上ヨリ見ルモ軍艦船舶其ノ他各種軍需品ハ一ニ森林材料ニ待ツコト多ク又産業上ヨリ見ルモ林産物ハ各種化學工藝其ノ他諸産業ニ對シテ少カラサル貴重ノ材料トナレリ加フルニ社會的ニ必要ニシテ國民ノ日常生活上最切要ヲ感スル薪炭類ノ供給ガ一ニ森林ニ係ルヲ想ヘハ一層切實ニ其ノ重要ナルヲ考フル次第ナリ

本官ハ斯ノ如ク森林ニ對シ實ニ國家的社會的切要ヲ感スルト共ニ諸君カ遠ク都會ヲ去リテ寂寞ナル森林中ニ於テ各種ノ經營ニ從事スル點ニ付常ニ深ク同情ヲ有スルモノニシテ本官再度就任以來林務官及林務ニ從事スル人ニ對シ特ニ同情ヲ以テ各種ノ施設ニ其ノ力ヲ致シツ、アルガ將來ニ於テモ出來得ル限リ是等ニ付種々ノ計畫ヲ致サント欲スルモノナリ

今回諸君ハ各府縣ニ於テ林務ニ關係シ其ノ責任ノ重ニ當リツ、アルモノナルガ諸君ノ觀念ト其ノ働キトハ直接林業ノ盛衰興廢ニ關スルモノナレバ充分緊張シテ其ノ事務ニ從事セラル、ト共ニ林業ノ大切ナル事從テ森林ヲ愛惜スヘキコトヲ一般社會ノ人々ニ知悉セシメ深ク思フ此點ニ置カシメサルヘカラス本官ハ常ニ此點ニ留意シ種々ノ機會ニ於テ此意見ヲ述ヘ又各地方ノ狀況ヲ視察スル際ニモ常ニ此考ヘヲ以テ注意シツ、アル所ナリ然ルニ近時林産物ノ需要激増價格昂騰ノ結果動モスレハ所謂過伐ニ失シテ植林之ニ伴ハザル見ルハ遺憾ニ堪エサル所ニシテ此結果ハ森林ヲシテ荒廢ニ陥ラシムヘク又治水ノ目的ヲ達スル能ハスシテ其ノ禍害ヲ一般ニ及ボス事少ナラサルヘシ諸君ハ此點ニ深ク注意シ決シテ目前ノ小利益ノ爲ニ大利益ヲ失ヒ將來ニ禍根ヲ殘シガ如キコトナキ指導スル所ナカルベカラズ然リト雖モ現時一般需要激増ノ際ニ於テ其ノ需要ヲ充タス事ヲナサザレハ其ノ一般産業ニ及ボス影響是亦少カラザレベキナリ此間ノ調和宜キヲ得國土保安ノ目的ヲ達成スルト同時ニ一般ノ需要ヲ充タシテ社會全般ヲシテ森林ノ恩澤ニ浴セシムルコトヲ期セザルベカラズ實ニ森林ト社會トノ關係ヲ密接ナラシムルコトハ所謂森林ヲ愛惜セシ



▲ルノ途ニシテ此點ハ殊ニ國有公有其ノ他森林事務ニ從事スル人々ノ當時注意セザルベカラザル所ナリ而シテ一般國民ナシテ成ル可ク森林ヲ愛惜セシメ之ヲ保護視セシムル如キ事ナキ様緩急宜シキヲ得テ其ノ恩澤ヲ汎カ普及セシメンニハ一ハ學術一ハ經驗ノ結果ニ基キ成ル可ク永久ニ亘リ其ノ利益ヲ一般ニ及ホス途ヲ講セサルヘカラズ先進各國ハ行政上皆此途ヲ採リシモノニシテ所謂森林ノ經營ニ付テモ並ニ時代ニ相應シ國情ニ適當ナル計畫ヲ樹テシテハ學術ニ必要トシ經驗ニ必要トスルハ蓋シ言テ俟ハサルナリ諸君ノ如ク夫々學術上ノ知識ヲ修得シ又今日迄永ク實際ノ經驗ヲ積ミタル者ニ對シテハ此時局ニ於テ殊ニ林産物ヲ必要トスル現時ノ經濟狀態ニ於テ正ニ其ノ實力ヲ發揮スヘキ時ナルヲ信ス此意味ニ於テ諸君ハ斯ノ際充分ノ技能ヲ發揮シ一層林業ノ發展ニ資スルノ覺悟ヲ持セザルベカラズ此事ハ殊ニ本官ノ別シテ希冀スル所ナリ

治水上ノ事ハ昔ナ俟タサル所ナラガ山岳林野之等ハ皆河川水流ノ源ニシテ土砂崩壞ノ防止水源ノ涵養汎溢ノ防戩氣候風土ノ調和等ニ重大ナル關係ナリ有シ殊ニ之ニヨリテ無限ノ動力ヲ養ヒ更ニ水力ハ延ヒテ灌溉用水トナリ各種ノ農産物ニ對シテ少カラザル恩澤ヲ與フルモノニシテ治水ノ事ハ實ニ一日ヲ緩ブスベカラザル所ナリ府縣ハ已ニ之ニ對シテ夫々計畫ヲ樹テ、實行シツ、アルモ動モスレハ豫定ノ行程ヲ進捗セザルモノアルハ遺憾トスル所ナリ諸君ハ此大切ノ時局ニ伴ヒ今後一段ノ努力奮勵ヲ爲シ著シキ效果ヲ奏セラレンコトヲ望ム

尙各種ノ事項ニ付託シタキ事アルモ大體前述ノ敬項目ニテ其ノ要點ハ盡シ居レリ以テ克ク其ノ趣旨ヲ布告シ歸屬ノ後夫々部下並從業者ニ對シ森林ニ付農商務大臣トシテ意ノアル所ヲ知悉セシメ之ヲ一般ニ普及シ上下一致ノ力ヲ以テ今後著シキ治績ヲ擧ケラレンコトヲ望ム

三四、大正七年四月大林區署長會議ニ於ケル仲小路農務大臣ノ訓示

戰局ノ擴大時局ノ推移ニ伴ヒ産業經濟ノ情勢益々復雜ナリ帝國産業ノ基礎ヲ確立スルノ要愈々切實ヲ加フルニ至レリ職ニ産業ノ局ニ在ル者深ク時運ノ重大ナルニ鑑ミ一層ノ奮勵努力ヲ致シ國家富強ノ實ヲ擧ンコトヲ期セザルヘカラス

方今經濟界ノ高潮ハ勞動者ノ不足生産費ノ昂上ヲ招致シ特ニ土地産業ノ經營上困難ヲ來セルコト甚夥カラザル際諸君方直接國有林經營ノ衝ニ方リ事業ヲ遂行スルニ於テ容易ナラザル苦心ト努力トハ洵ニ諒察スルニ餘リアル所ナリ

然レトモ國有林ハ治水其他國土ノ保安上ニ至大ノ關係ヲ有シ一般産業ノ發展上ニ痛切ノ影響ヲ及ボスモノナルガ故ニ更ニ一層ノ留意ヲ如ヘカ施設經營ノ十全ヲ期シ苟モ事業ノ粗雑ニ流レ又ハ豫定ノ計畫ヲ紊タカカキコトナキヲ要ス更ニ國防上財政上ヨリ之ヲ見ルモ近時木材ノ世界的不足ヲ誘致セル際殊ニ國有林ノ經濟ハ重要ナル意義ヲ有シ之カ施設經營上特ニ深甚ノ考慮ヲ要スルモノアルカ故ニ諸君ハ常ニ世界ノ大勢一般林業ノ趨勢ニ察シ林木ノ増殖利用上一段ノ進歩ヲ期シ兼テ地方民トノ調和連絡ヲ密ニシ民業ノ發展ヲ助成スルニ努メムコトヲ望ム特ニ獨逸ハ林政ニ關スル大ナルモノアリ近時野生鳥獸ノ激減ニ察シ有益鳥獸ノ保護繁殖ヲ圖ルカ爲メ今同狩獵法ニ改正ヲ施シテ禁獵區ノ制度ヲ改善シ又新ニ獵區ノ制度ヲ設ケタリ諸君ハ之方改正ノ主旨ヲ諒得テ常ニ國有林ノ管理上遺憾ナキヲ期スヘシ官制ノ振興ハ治國ノ要道ニシテ局ニ重職ニ在ル者所與モ

忘ルコトアル可ラ本官蓋シ訓諭スル所アリタルニ拘ラス今同部下ノ一部ニ瀆職問題ヲ惹起スルモノアルニ至リタルハ本官ノ深ク遺憾トスル所ナリ諸君ハ平素選叙ヲ慎ミ清廉至誠以テ範ヲ下僚ニ垂レ愛撫指導シテ克ク奢侈放縱ヲ戒メ監督ヲ嚴正ニシテ格勸盡忠ノ誠ヲ致サシムルコトヲ期スヘシ

三五、大正八年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル山本農務大臣ノ訓示

府縣林務主任官ノ會同ニ際シ一言告ケル所アラムトス歐州ノ大戰今ヲ終熄シ平和克復近キニアラムトスルハ蓋シ喜フヘキ所ナリト雖將ニ來ルヘキ國際ノ經濟的競争ノ激烈ナルヘキニ想到セハ決シテ一日ノ苟安ヲ許ササルモノアリ此ノ秋ニ方リ我邦ハ産業貿易ニ對スル施設其ノ宜ヲ制シ競爭場裏ニ優越ナル地步ヲ確保セムコトヲ期セザルヘカラス

惟フニ世界ニ於ケル木材需要劇增ノ趨勢ト其ノ生産減少ノ傾向トハ近時愈顯著ニシテ林業界ノ前途ハ益多事多端ナラムトス之ヲ我邦ニ顧ミルニ林野ハ國土ノ八割ヲ占メ誠ニ國家重要ノ資源タルニ拘ラス過伐ノ弊ニ流レテ植林之ニ伴ハス其ノ結果木材供給ノ不足ヲ來シ治水上危害ノ原因ヲ爲シツ、アルハ洵ニ寒心ニ堪エサル所ナリ宜シク造林ノ促進ヲ圖リ植伐ノ均衡ヲ得セシメ以テ國家經濟上並國土保安上還算ナキヲ期セザルベカラズ特ニ我邦全林野ノ四分ノ一ヲ占ムル公有林野ハ其ノ荒廢ニ委セラレタルモノ甚多キヲ以テ速ニ之カ造林ノ完成ニ努メ其ノ面目ヲ一新セシメザルベカラズ今同之等ニ對スル施設ノ一端トシテ、新豫算ニ於テハ林業獎勵費(約十五萬圓)ヲ計上シ以テ府縣山林會ノ改善樹苗養成費ノ補助竹林改良増殖獎勵ニ努メ又治水事業ノ眼目タル公有林野造林獎勵ノ方法ニモ改良ヲ加フルニ至レリ諸君ハ克ク此ノ趣旨ヲ體セラレ拮据奮勵シテ林業振興上一段ノ努力アラムコトヲ望ム尙本會議ニ於テハ隔意ナク劃切ナル意見ヲ披瀝シ審議ヲ盡サレムコトヲ望ム、此ノ際序ヲ以テ諸君ノ願慮ヲ煩サムトスルモノアリ即チ今同政府ハ食料ノ生産増加ヲ計ル爲メ開墾ノ獎勵ヲナスニ至リ之カ爲メ必要ナル經費ノ豫算ヲ帝國議會ニ提出シ幸ニ兩院ノ協賛ヲ經テ之ヲ實行スルニ至レリ而シテ開墾ハ獨リ山林原野ノミナリトスルニアラスシテ埋立干拓等モアリト雖林野ノ開墾ニ方リテハ其ノ地形地質其他ノ關係上山林經營ヲ適當トスルカ又ハ農地經營ヲ適當トスルカヲ顧慮シ經濟上有利ナル利用方法ニ依ラザルベカラズ尙林野ノ開墾ハ治水其他ノ國土保安上影響スル所頗ル重大ナルヲ以テ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ開墾地選定ノ適切ニ行ハル、ナ期セザルベカラズ諸君宜シク此ノ關係ニ留意シ農業ト林業ト兩々其ノ目的ヲ完カラシムルニ努力セラレンコトヲ望ム

三六、大正八年四月大林區署長會議ニ於ケル山本農務大臣ノ訓示

櫛ニ休戰條約調印成リ平和克復正ニ近キニ在ラムトスルハ洵ニ慶フヘキ所ナリト雖今次ノ戰亂ハ世界經濟上說政治上各般ノ變革ヲ招來シ帝國ノ前途亦ハ外愈々多事ナルモノアラムトス局ニ當ル者宜シク深ク意ヲ致シ國富ノ増進ト人心ノ善導トナ期セザルベカラズ、國有林野ノ經營ハ固



百年ノ大計ニシテ既ニ其ノ方針ヲ確立シ施業ノ基礎ヲ定メタリト雖モカ運ニ至リテハ時勢ノ推移産業ノ消長ニ伴ヒ毎ニ補正改善ヲ念ルナカラ  
ンコトヲ要ス殊ニ近時木材ノ世界ノ不足ヲ誘致セルニ際シ國家永遠ノ福利ヲ慮リ天然資源ノ保持ヲ期スルニ最モ必要ナリ諸君ハ國有林野ニ於  
テ極力林木ノ増殖利用ノ集約ヲ圖ルト共ニ廣ク一般公私有林野ニ就テモ之カ目的ヲ達成スル爲メ常ニ助力ヲ怠ラズ兩々相俟テ國富ノ増進ニ資ス  
ヘキナリ

現業ノ進展ハ現時最モ必要ナル事項ニシテ本官ノ常ニ考慮セル所ナルカ本年度ニ於テハ新設並土木事業ノ現況ニ鑑ミ相當定員ヲ増置セリ諸君ハ  
宜ク職員ノ配置事務ノ簡捷ニ留意シ現業能率増進上一段ノ進歩ヲ期セサルヘカラス  
森林労働者ニ對シテハ近時労働問題ノ世界ノ趨勢ニ鑑ミ之カ共濟施設ノ必要切實ナルモノアルヲ認メ本年度ヨリ國有林野現業員共濟組合ヲ設置  
スルニ至リ其ノ實行ハ獨リ社會政策上重大ナル關係ナ有スルノミナラス亦實ニ新ノ種労働者共濟組合ノ模範タルニ至ルヘキヲ以テ之カ成續ノ  
擧否ハ頗ル重大ナル影響ヲ有スルモノト謂フヘシ由來此種ノ組合ハ工業的労働ニ關シテ發達シタルモノナルヲ以テ之ヲ林業労働者ニ適用スルニ  
當リテハ慎重ノ準備ト多大ノ考慮トヲ要スルノミナラス其ノ改良發達ノ將來ニ俟テヘキモノ亦頗ル多大ナリ隨テ之カ實行ニ付テハ諸君ノ考慮ト  
努力トヲ望ムコト極メテ切實ナリ

今回政府ハ食料ノ生産増加計ヲ爲メ開墾獎勵ヲナスニ至リ之ニ要スル經費ノ豫算ヲ帝國議會ニ提出シ幸ニ兩院ノ協賛ヲ經テ之ヲ實行スルニ至  
レリ各位ハ林野ノ開墾ニ當リテハ其ノ地形地質其ノ他ノ關係上山林經營ヲ適當トスルカ又ハ農地經營ヲ適當トスルカヲ順慮シ經濟上有利ナル利  
用方法ヲ執ルト共ニ治水其ノ他國土保安上影響スル所重大ナルモノアルニ鑑ミ深甚ノ注意ヲ拂ヒ以テ農業ト林業ト兩々其ノ目的ヲ完カラシムル  
ニ努力スヘシ

終ニ臨ミ諸閣僚協議各事項ニ付キ十分其ノ意ノ有ル所ヲ披瀝シ討議セムコトヲ望ム

### 三七、大正九年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

戰後歐洲各國ニ於ケル産業恢復ノ結果トシテ國際的經濟競争ハ一層ノ激甚ヲ加ヘントス惟フニ天然資源ノ開發ハ各種産業ノ根源ニシテ刻下一日  
ヲ緩ウスヘカラサルノ要務タリ此ノ時ニ際シ地方行政ノ局ニ當リ諸君ノ會同ヲ煩ハシ帝國林業ノ向上ヲ諮詢商量スルハ最モ適切ノ措置タルヲ信  
スルト共ニ此ノ機ニ於テ一言本官ノ希望ヲ述ベ諸君ノ考慮ヲ煩ハサムト欲スルモノアリ

一、戰局以來我邦諸般ノ工業ハ著シク發展ヲ來タシるニ至リ原料ヲ林産物ニ仰クモノ頗ル増加シ其ノ需  
要量ハ殆ト戰前ニ倍從セムトス從テ其ノ價格亦昂騰ヲ告ケ動モスレハ工業ノ前途ニ對シ憂慮ノ念ヲ抱カシムルモノナキニ非ス此ノ如キハ帝國  
産業ノ爲遺憾ニ堪エサル所ナレバ以テ諸君ハ宜シク純潔巧拙、技術ヲ用ヒテ未利用林ノ開發ニ努メ低廉迅速ノ採集方法ヲ實施スルノ工夫ヲ怠  
ラサルハ勿論常ニ工業原料種種ヲ調査スルト共ニ極力之カ造林ヲ獎勵シ以テ蓄積ノ増殖ヲ圖ラザルヘカラス

二、對スル要求ヲ益々大ナラシメ今キ水力ニ依ル發電ハ火力ニ依ル發電ニ倍セントス加之人口ノ増加ハ米穀ノ需要ヲ膨大ナラシメ、要ノ膨  
耕地ノ擴張ヲ促シ耕地ノ擴張ハ灌溉用水ノ増給ヲ要求セリ此ノ如キハ何レモ森林ノ水源涵養力ニ俟タサルヘカラス即水源森林ヲ備シテ流  
ノ豐富ヲ圖ルハ當ニ林業上發流運材ニ便スルノミナラス工業及食料政策上亦極メテ重要ノ條件ナリトス是レ治水事業ノ進捗ニ關シ一層諸君ノ  
努力ヲ希望スル所以ナリ

一、住宅問題ニ伴フ建築用材ノ拂底、日常燃料トシテノ薪炭ノ騰貴ハ近時益々甚シカラムトス政府ハ極力之カ需給ノ調和ヲ勸奨シ或ハ國有林木  
ノ拂下ヲ行ヒ或ハ官行増産ヲ行ヒ需給ノ圓滑ヲ圖レト雖由來帝國林野ノ五分ノ一ニ過キサル國有林ニ對シ常ニ之カ供給ヲ期待スルガ如キハ  
本末ヲ謬レモナルヲ以テ一般民林ニ於テ着々林木ノ増殖ヲ圖ルト共ニ代用材ノ利用及木材節約ノ方策ヲ考究宣傳スルヲ要ス

一、山野ニ遺利ナカシムルハ林業ノ本體ナリ宜シク利用ヲ約集ニシ苟シクモ不毛荒廢ノ地ナカラムコトヲ期スヘシ殊ニ現今經營ノ宜シキヲ得サ  
ル公野林野ノ如キハ速ニ適當ノ施業方法ヲ確立セシムルト共ニ大ニ造林ヲ獎勵セザルベカラス政府ハ此方針ノ一端トシテ公野林野ニ官行造林  
ヲ企畫シ早晚之カ實行ヲ見ルニ至ラムトス本事業ノ完全ナル成果ヲ見ルヤ否ヤハ帝國産業ノ消長ニ關スル所甚大ナルヲ以テ諸君ハ深ク此點ヲ  
顧慮シ今ヨリ之カ準備研鑽ヲ怠ラズ實行ノ曉ハ極力奮勵本計畫ノ扶翼ニ努力セラレムコトヲ望ム

### 三八、大正九年四月大林區署長會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

過去五年ニ亘ル大戰ノ結果木材ノ急激ナル需要ヲ喚起シ其ノ將來ニ於ケル缺乏ニ付テハ大ニ憂慮スヘキモノアリ我邦ハ幸ニ森林ニ對シ戰爭直接  
ノ被害ヲ被ラサリシト雖モ其ノ影響ニ依リ輸出ノ増加ト各種産業ノ進展ニ隨伴スル需要ノ増加トハ民有林ノ方面ニ於テ著シク過伐ヲ來シ植伐其ノ  
均衡ヲ失スルニ至リタルコトハ看過ス可ラザル現象ナリ是ヲ以テ森林ノ造成並ニ保護ハ洵ニ現時ノ世界ノ要求ニシテ我邦亦一日モ之ヲ緩フスマ  
キニアラス我國有林ハ夙ニ合理的ノ施業計畫ヲ定メ木材ノ保護ト國土ノ保安トニ着眼シテ植伐其宜キヲ得ルニ勉メタリト雖近時ニ於ケル炭價ノ  
調節住宅用材ノ供給等社會政策ノ要求ニ應スル爲メ伐採ヲ要スルモノ頗ル多ク伐採分量ノ決定跡地造林ノ計畫ハ勿論諸般ノ施業事項ニ付慎重ナル  
注意ヲ拂フニ非レハ動モスレハ木材ノ保護並國土ノ保安上憂慮スヘキ事態ヲ生スルノ虞ナシトセス又公野林野ノ官行造林ハ昨年ニ於テ其計畫ヲ  
立テ之ニ關スル法律案並豫算ヲ帝國議會ニ提出シタルモ不幸ニシテ議會ノ解散ニ由リ豫算ノ不成立ヲ來セリ然レトモ其必要極メテ緊切ニシテ急  
速實施ヲ要スル事項ナルヲ以テ本年度後半期ヨリ之ヲ實施セムカ爲豫算關係ニ付キ考慮中ニ屬ス故ニ若シ實行ニ著手スルニ至ラハ林區署ノ事務  
ハ更ニ一層ノ繁多ヲ加フルニ至ルヘシ諸君ハ時勢ノ進運ニ伴ヒ之ニ應スルノ措置ヲ探ラザル可カラズ就中國有林ト民業トノ關係ニ付テハ一層ノ



考慮ヲ加ヘ或ハ委託林ノ制度ニ因リ緩和ヲ圖リ又林産區分ニ付テハ能ク民意ノ通達ヲ計リ差支ナキ程度ニ於テ民業ノ發達ニ努力セラレムコトヲ望ム今日諸君ノ會同ヲ機トシ一言所感ヲ述フ

三九、大正九年六月全國小林區署長會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

茲ニ全國各地ノ小林區署長諸君ト一堂ニ會シ共ニ林政ヲ論スルノ機會ヲ得タルハ本官ノ極メテ光榮トスル所ナリ夫レ森林ハ産業上極メテ重要ナル關係ヲ有シ殆ント一國産業ノ根基ヲ爲スコトハ之ヲ林業專門家タル諸君ニ開陳スル、要テ認メスト雖我邦産業ノ現勢就中食糧問題、住宅問題、燃料問題並動力問題等ニ刺戟セラレテ近時著シク世人ノ注意ヲ惹クニ至レリ加之世界的平和ノ樹立國際聯盟ノ成立等ニ促カサレテ著シク激烈トナリタル經濟戰爭ノ現狀ニ稽フルトキハ林業ノ國家ニ負フ所頗ル多大ナリト謂ハサル可ラス諸君ノ國有林ニ於ケルハ確定シタル施業案ノ實行ヲ主眼トスト雖而モ尙各年度ニ於ケル事業ノ豫定並其ノ實行、國有林野ト地元産業トノ聯絡調節等、基本業務ハ捷テ諸君ノ雙肩ニ掛レルヲ以テ森林事業ノ漸次周約ニ進ミ社會並産業狀態ノ漸次改善セラレルニ從ヒ諸君ノ研鑽並工風ニ俟ツヘキモノ益々多カラルヘク執務上ノ興味日ニ新ナルモノアルヲ疑ハフ幸ニ此ノ機會ニ於テ從來ノ畫策ト苦心トヲ紹介セラレルト共ニ更ニ大ニ將來ノ基礎ヲ定メラレムコトヲ望ム

木炭需給ノ調節並住宅用材ノ供給ハ諸君ノ努力ニ依リ能ク豫定ノ成績ヲ擧ケ社會政策ノ實行ニ貢獻スル所少カラス茲ニ其ノ勞ヲ謝スルト共ニ一層ノ努力ヲ希望スル所以ナリ

近時財界ノ不況ニ連レ更ニ失業問題ノ聲漸ク高カラムトス過剩勞力ノ林業上ノ利用ニ付意ヲ用ヒラレムコトヲ望ム

國有林野ノ火災並森林ノ盜伐ハ諸君ノ熱心ナル宣傳ト周到ナル監視トニ依リ漸次其ノ件數ト損害額トヲ減少シツ、アルハ本官ノ頗ル満足スル所ナリ、然レトモ放牧採草ノ關係ニ依ル火入ノ實行並木材價格ノ異常ナル昂騰等ノ現狀ヨリ觀テ將來必スシモ樂觀ヲ許サ、ルモノアリ更ニ十分ノ注意ヲ加ヘラレムコトヲ望ム

官制ノ振肅ハ國勢緊張ノ要道ニシテ公ノ職務ニ從事スル者ノ須臾モ閑却スルヲ得サル所トス各位ハ平素身ヲ以テ範ヲ下儆ニ示シ部下品性ノ向上ヲ策スルト共ニ常ニ事務事業ノ監督ヲ嚴ニシ苟モ非曲發生ノ餘地ナカラシムルニ努メ相率キテ有終ノ美ヲ濟サムコトヲ望ム

四〇、大正十年四月大林區署長會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

茲ニ諸君ヲ會シテ本年度ニ於ケル森林經營ノ要領ヲ議スルニ方リ一言所感ヲ陳ントス

願フニ帝國ノ森林經營ハ諸君ノ努力ニ依リ近時頗ル長足ノ進歩ヲ爲シ國有林野ニ於テハ既ニ之カ永遠ノ計畫ヲ策立シテ特別經營ヲ打切ルノ期

ニ迫リ公有林野ニ於テハ進ンテ官行造林ヲ實行シテ大ニ國力ノ充實ヲ圖ルノ時期ニ際會セリ是レ定ニ邦家ノ爲慶賀スヘク本官ニ於テモ眞ニ欣快トスル所ナリ

夫レ國土保安、治水並木材保護ノ關係ニ見テ森林ノ重要ナルハ今改メテ絮說スルヲ要セス現時ニ在テハ食糧問題、住宅、燃料問題、動力問題等一トシテ新業ニ關聯セザルナク諸君ノ職務亦其多端ナリト謂フヘシ加之國有林野ノ事業ハ今ヤ頗ル集約ニ進ミ林區署ノ新植ニ係ル造林地ニシテ已ニ利用間伐ノ時期ニ達シタルモノ多ク之カ實行ノ爲新ニ豫算ヲ計上シタルヲ以テ本年度ニ於ケル林區署事業ハ更ニ一層ノ緊多ヲ加ヘタルヲ思ハシム幸ニ緩急宜ク制シテ經營ノ實ヲ擧グラレムコトヲ望ム

公有林野ノ官行造林ハ從來未利用ニ委セラレタル林野ニ官行造林ヲ政行シ一面國土ノ利用ヲ圖リ一面公共團體ノ基本財産造成ニ資スルニ在リテ洵ニ現時ノ要求ニ適合シタル施設ナリ然レトモ是亦其ノ運用ニ付慎重ノ考慮ヲ加フルニ非レハ九似ノ功ヲ一費ニ圖クノ虞ナキチ必ス可ラス

國有林野ト地元市町村トハ其ノ關係極メテ密接ニシテ國有林野管理經營ノ地元市町村ニ負フ所餘カラサルハ勿論地元産業ノ國有林野ニ負フ所亦多大ナリトス國有林野ノ經營ハ從來此ノ關係ニ考慮ヲ拂ヒ耕地牧野ノ提供並生業用材薪炭材ノ供給等諸君ノ用意頗ル周到ナルモノアルヲ認ム然レトモ明治維新以來幾多林政ノ革新アリタルト國有林野經營ノ著シク集約ニ爲リタルトニ依リ尙時ニ地元住民ニ困難ヲ感セシムルノ事懸ナキチ保セス斯ノ如キハ委託林制度ヲ運用シテ其ノ調節ヲ圖リ因テ以テ國有林野經營ノ實ヲ擧グルト共ニ地元住民ノ安定ヲ圖ルニ力メサル可ラス

四一、大正十年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

戰後ノ時局ニ處シ速ニ治水ノ實ヲ擧ケテ國土保安ノ根柢ヲ固クシ森林保護ノ經營ヲ完ウシテ産業ノ進運ニ貢獻スルハ林政指導ノ局ニ當ル者ノ重責ヲ任ニ地方林務ノ職ニ在ル者日夕思フ茲ニ致サ、ル可カラズ公有林野ニ在テハ明治四十四年政府ハ治水事業ノ開始ト共ニ大ニ力ヲ補助造林ニ竭シタルトモ是レ固ト治水ノ見地ニ立脚スル事業ナルカ故ニ未タ以テ完全ノ策ヲ得タリト謂フヲ得ス於是乎別ニ官行造林法ヲ制定シテ政府直接造林ノ衝ニ方リ以テ治水ト造林ト兩々相須チテ公有林野ノ荒廢ヲ恢復セムトス願ルニ歐洲大戰以來一般經濟界ノ變遷ニ伴ヒ内外共ニ木材ノ價格等シク騰貴セシ爲所有過伐ノ弊風ニ陥リ戰前戰後ノ伐採量ヲ比較スレハ其ノ數倍加セムトス惟フニ一般民林ノ施業ニ合理的節制ヲ缺クニ職由スルコト多カルヘシ斯ノ如クムハ私有林施業ノ指導督勵亦舊套ヲ襲キテ足レトスベキニアラズ帝國ノ林政ハ前途尙遠ニシテ諸君ノ任務モ亦



甚大ナリトス

産業並ニ民生生活ヲ脅威スル水災ハ尙其ノ慘害ノ跡ヲ收メス耕地ノ擴張ニ伴フ灌溉用水ノ配給亦十分ナリト云フヲ得ス治山水利ニ對スル世間ノ要望頗ル厚クシテ施設之ニ伴ハサルハ頗ル遺憾トスル所ナリ且夫レ近時産業刷新ノ時運ニ際シ其ノ無限ノ動力ノ供給ヲ如何ニスヘキカハ燃料ノ世界的缺乏ト共ニ上下舉ツテ焦慮スル所ナリ幸ニ我邦ハ到ル處河川多ク發電水力ノ流量豐富ナラザルニアラズト雖如何ニシテ此ノ水力ノ維持増進ヲ圖ルヘキカニ付テハ一ニ森林ノ經營治水事業ノ完成ニ俟タサル可ラス林政ノ前途亦多事ナリト謂フヘシ  
海外需要ノ減少ニ因リ貿易ノ不振ハ財引ノ改善ニ依リテ之ヲ振作スルノ途アルヘキモ生産ノ缺乏ニ因リ輸出減退ノ聲ヲ聞クニ至リテハ頗ル遺憾ト謂ハサル可ラス原料ノ保護ト天然資源ノ開發トハ林政當務者ノ最モ意ヲ注カサル可ラサル重要事項タルニ尙ハラス斯ノ如キ状態ヲ見ルニ至リテハ省ミテ之ヲ挽回ノ方策ヲ講スルヲ要ス諸君ハ能ク其ノ情態ヲ審ニシ潤滑ナリ各種ノ施設ヲ計量シ以テ林政有終ノ美ヲ濟サムコトヲ望ム

### 四二、大正十一年四月府縣林務主任官會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

今ヤ列國與ニ大戦ノ後ヲ承ケ創痍未タ癒エス百方之カ復興ノ計畫ヲ立テ國力ノ伸張ニ努ム我邦亦此大勢ニ鑑ミ銳意經營産業ノ振興ヲ策セサルヘカラス此秋ニ方、事業經營ノ方法ヲ改善シ學術技術ノ應用ヲ遠慮ナカラシメ以テ生産能率ノ増進ヲ圖ルト共ニ生産者ト消費者トノ需給關係ヲ調滿ナラシメ之ヲ根本的刷新ノ圖ルハ最モ當面ノ急務ト謂ハサル可ラス  
抑、林業ノ經營ハ各種木材ノ供給ヲ保護シ治水ノ根源ヲ理ムルヲ以テ要諦ト爲ス從テ其ノ施業ハ永遠ニ亘ル、合理的計畫ニ基キ之ヲ施行セザルヘカラス然レニ民有林野ノ現狀ヲ見ルニ常ニ過伐ノ弊ニ陥リ植林之ニ伴ハス將來木材ノ供給ト治水トニ於テ危懼ノ念ヲ懷カシムルモノナリトモス願フニ木材ノ需要ハ人口ノ増加ト産業ノ進展トニ倍從スルノ趨勢ヲ呈シ水源ノ保持ハ農地ノ擴張發電水力ノ利用増進ニ伴ヒ益々緊要ノ度ヲ加ヘムトス加之外國材ハ内地材ヨリモ廉價ナルガ爲ニ其ノ輸入漸ク増加ヲ見ントス今ノ時ニ方リ速ニ施業計畫ヲ樹立シ林利ノ増進ニ將又木材ノ利用ト配給ニ各地適應ノ方策ヲ按シ以テ林業ノ根柢ヲ確立スルハ最モ緊切ナル施設ト云ハサル可ラス夫レ治水各般事業ハ諸君ノ努力ニ依リ漸次其ノ効果ヲ收メ來レリト雖尙未タ豫期ノ成績ヲ舉ケルニ至ラザルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ是レ職トシテ物價騰貴ニ由リ經費ノ不足ト公有林野ノ整理運移セザルトニ原因セスムハアラス是ヲ以テ政府ハ本年度ヨリ相當豫算ノ増額ヲナシ以テ其ノ經費ノ不足ニ應ズルト共ニ更ニ公有林野ノ整理ニ關シ一層其ノ進歩ニ努ムトス素ト公有林野整理ノ目的タル一ニ地方ノ福祉ヲ増進セシムルニ外ナラザルヲ以テ一層其ノ進歩ヲ圖明ニ努ムルト共ニ之カ整理ニ當テハ諸般ノ實情ヲ精査考究シテ地元住民ノ生業ニ支障ヲ及ボサ、ラムコトニ留意セザル可ラス斯ノ如クシテ産業復興ノ期ヲ治水ノ効果ヲ收ムルニ至ラハ社會ノ進歩産業ノ發達ニ貢獻スルモノ決シテ鮮少ニ非レハシ庶幾クハ諸君將來益々奮勵努力以テ豫期ノ効果ヲ完ウセムコトヲ一言以テ訓示トス

### 四三、大正十一年四月大林區長會議ニ於ケル山本農商務大臣ノ訓示

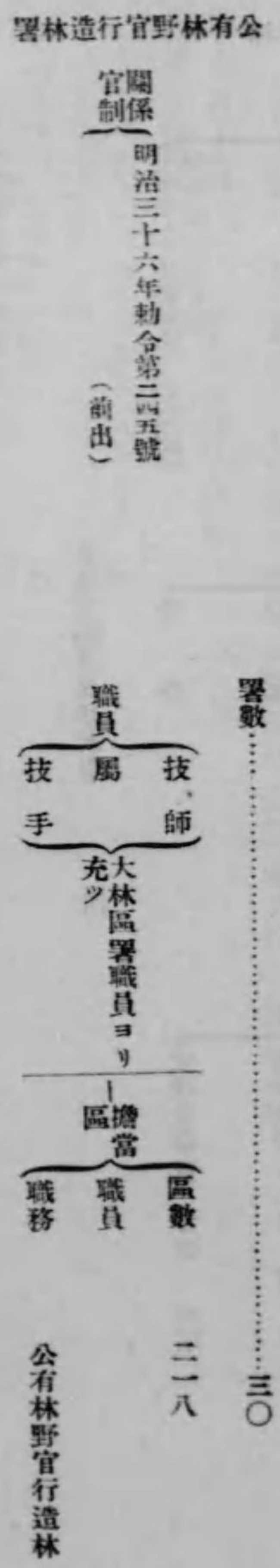
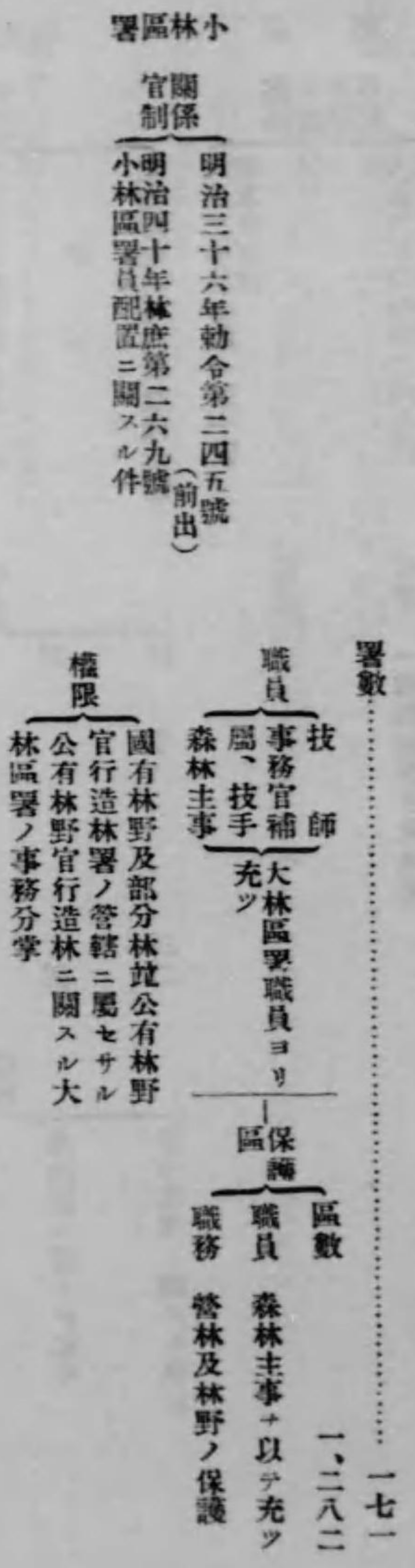
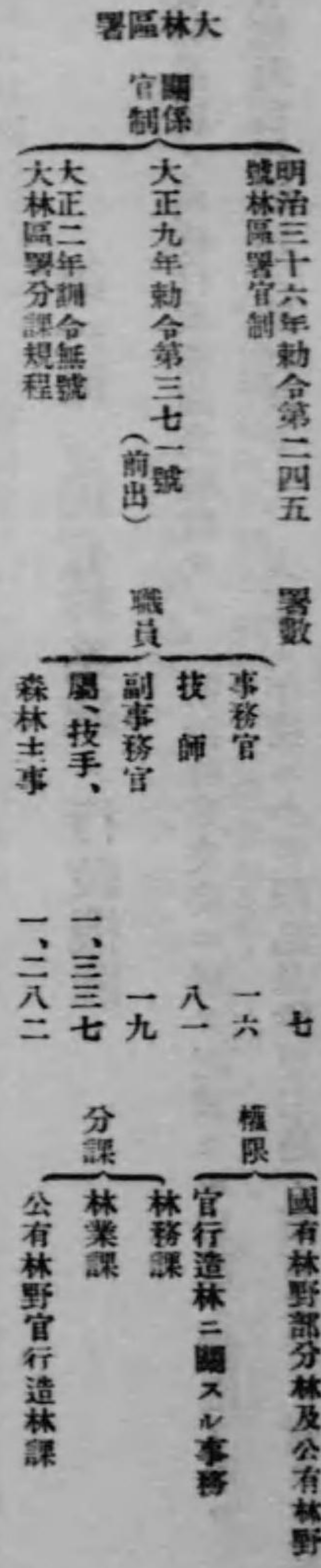
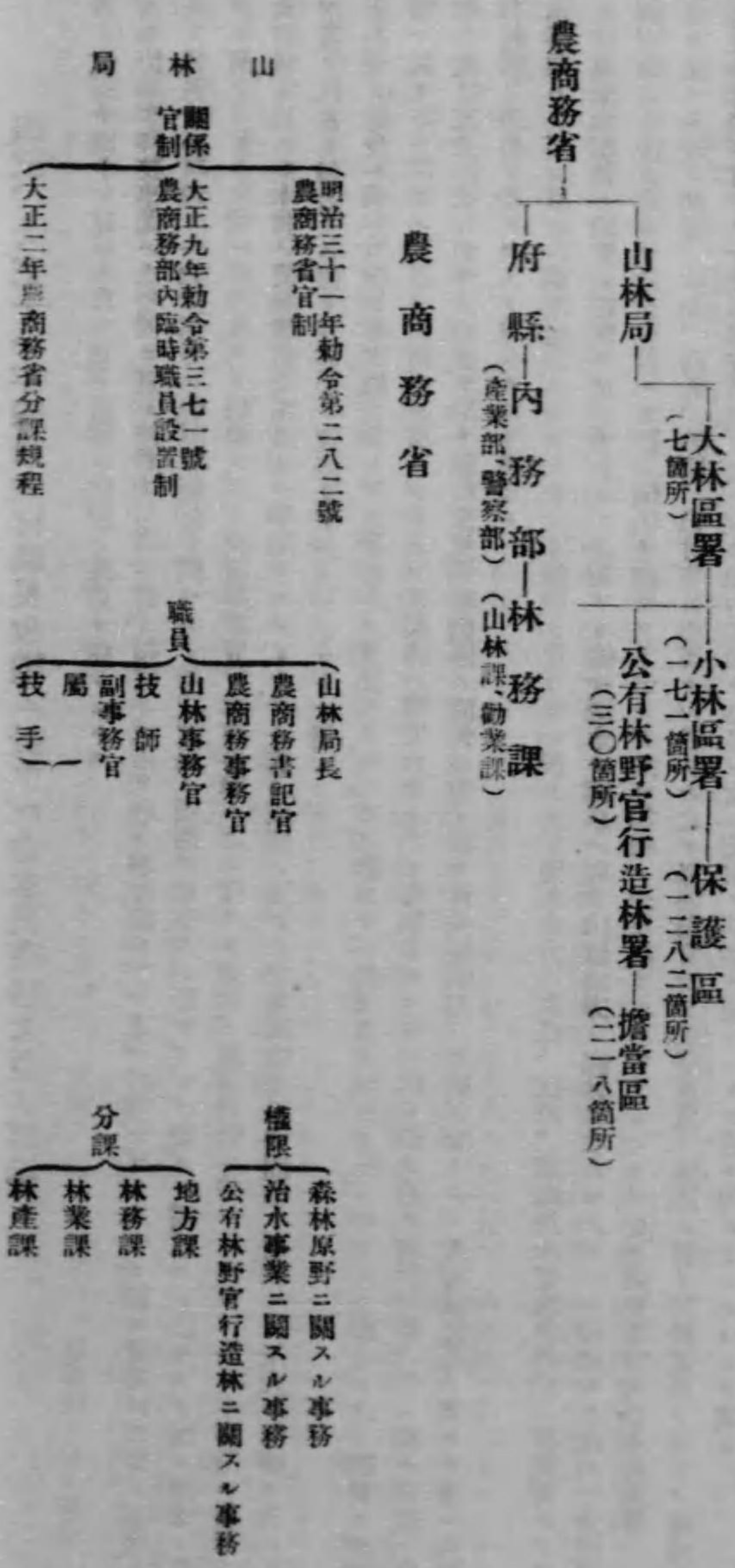
諸君ノ會同ヲ機トシ茲ニ一言所見ヲ開陳シ諸君ノ注意ヲ促サムトス  
國有林野特別經營事業ハ永年固ニ亘ル諸君ノ努力ニ因リ相當ノ成果ヲ收メ前年度ヲ以テ之ヲ打切ルコトナリ茲ニ國有林經營ノ基礎ヲ確立スルコトヲ得且ツ本事業カ一般林業界ヲ覺醒シ指針ヲ與ヘ其ノ進歩發展ノ機運ヲ促進スル所アリシハ更メテ據説スル迄モナク誠ニ國家ノ爲同慶ニ榮ヘサル所ナリ然ルニ尙一昨年度ヨリ創始シタル公有林野官行造林事業ハ之ニ代リテ諸君ノ施設經營ニ待ツヘキモノ多ク本事業ハ昔ニ不毛地ノ開發及將來ニ於ケル木材ノ需給調節上重要ナル事業ナルノミナラス其ノ成績ノ眞否ハ直接國家及公共團體ノ財政ニモ至大ノ影響ヲ及ボス次第ナレハ深甚ノ注意ト努力トニ依リ眞好ナル成績ヲ舉ケラレムコトヲ望ム  
最近科學ノ進歩ハ著シク我カ林産物ニ對シテモ新用途ノ發見セラル、モノ鈔カラス從テ其ノ利用方法ハ年ト共ニ變化シ之カ需要モ亦逐年増加ノ趨勢ヲ辿リツ、アルハ諸君ノ熟知スル所ニシテ其ノ供給或ハ需要ニ及ハザル時期アルベキナ虞ル職ニ國有林野經營ノ任ニ在ル諸君ハ宜シク此ノ大勢ニ鑑ミ冗費ヲ省キ能率ノ増進ヲ計リ林内交通運輸機關ノ完備ニ意ヲ注キ林産物利用ノ周約ヲ期スルハ勿論植伐其ノ宜キヲ得ルニ努ム荷モ國有林經營ノ方針ヲ誤ルコトナカラムコトヲ望ム  
治水事業ハ本邦ニ於ケル重要國策ノ一トシテ之カ施設ヲ怠ラサル所ナルガ就近水力、電氣、飲用、灌溉用水等流水利用ノ事業著シク隆盛ヲ來シタル結果治水事業ハ重要ノ程度ヲ更ニ増加セルノ觀アリ蓋シ流水ノ源泉ハ専ラ山嶽地方ノ森林ニ在ルモノナレハ諸君モ亦茲ニ十分留意スル所アリ國有林ノ伐採力洪水ヲ誘致シ若ハ水源ノ涸渴ヲ招來スト云フカ如キ懸嗟ノ聲ヲ起サシメザラムコトヲ要ス尙又農業牧畜水産業等トハ常ニ連絡協調ヲ保チ水源ノ涵養、砂防、防風、防潮、魚付等ニ必要ナル森林ハ之ヲ保護撫育シテ此等産業ノ保護ニ努ム開墾適地トシテノ林地開放又ハ混牧混農林業等ニ付テモ十分ニ調査研究ヲ遂ケ以テ地方産業ヲ助長シ常ニ國家ノ利益ヲ圖ルコトニ意ヲ用ヒラレムコトヲ望ム  
森林事業ハ他ノ各般ノ工業ト異ナリ機械力ヲ應用シ得ル程度比較的尠ナキヲ以テ勢ヒ人力ニ俟タサル可ラス從テ新業ノ發展ヲ策セムトセハ林業各般ニ亘ル知識ヲ有シ且技術優秀ナル多數ノ森林労働者ヲ要スルガ故ニ労働者ノ召集比較的容易ナル今日ニ於テ早ク相當ノ施設ヲ講シ優秀ナル労働者ノ養成及其ノ安定ニ付深重ノ慮ヲ拂ハレムコトヲ望ム  
官紀ノ振奮ハ常時不斷ノ事項ニ屬シ任ニ官職ニ在ル者ハ須臾モ閑却スルヲ得サル所ナリ諸君ハ多數ノ部下ヲ監督シ直接重要ナル國有財産ノ管理經營ノ任ニ當ル者ナルヲ以テ一層恪勤奉公ノ誠ヲ致シ上下ノ信頼ニ副ヒ克ク部下ヲ監督シテ其ノ過ナキヲ期セラレムコトヲ望ム

## 第二章 森林ノ行政機關



本邦ニ於ケル林政機關ノ主腦ハ、前章ニ於テ已ニ之ヲ述ヘタルカ如ク、農商務省、内務省、朝鮮及臺灣ノ兩總督府並樺太廳ニ分レ、各機關ハ各行政區域内ノ國有林野ハ勿論、公私有林野ニ關スル一般ノ政務ヲ司掌スルモノニシテ、此ノ内、内務省以下ノ分ハ、別章ニ於テ之ヲ説クコトトシ、本章ニ於テハ單ニ農商務省關係ノモノノミニ就キ、左表ニ依リ、其ノ一斑ヲ明カニセントス。

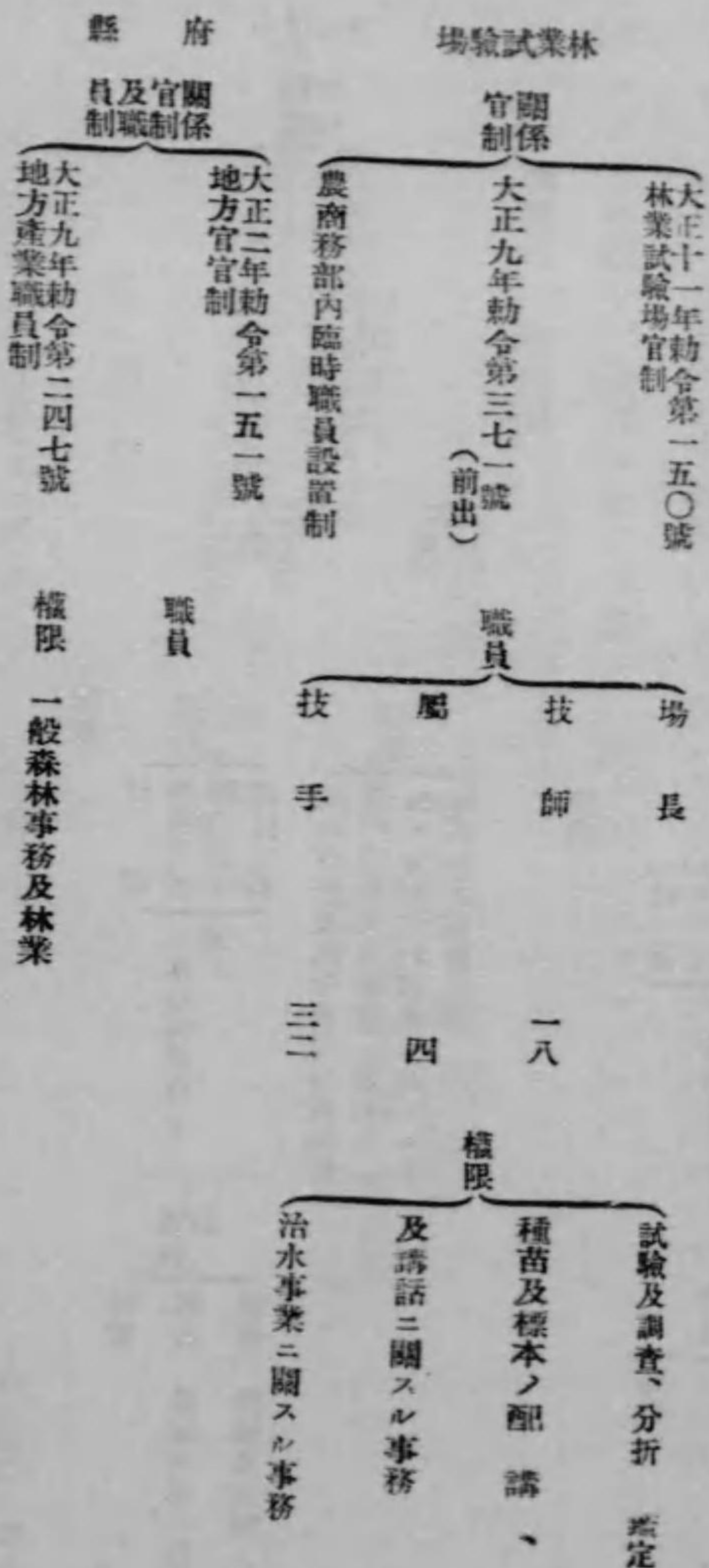
一、内地森林行政機關





備考 本表中 員ノ項ニ於テ省內各局ヲ通シタル定員若ハ山林局ト大林區署ト共通セル定員ニシテ區別シ難キモノ及臨時職員ノ定員數ハ記載ヲ省略セリ

本場支場及出張所數 四



### 第一節 國有林系統ノ行政機關

國有林系統ノ森林行政機關及組織タル、明治林業史要ニ於テ記載セル以後ノ變遷ヲ舉クレハ、大正九年度ニ公有林野官行造林ノ開始セラレ、大正十年度ニ小笠原島及伊豆七島ノ國有林野ニ對スル東京府知事ノ委任管

理ヲ解カレ、又大正十一年度ニ多年ノ懸案タリシ林業試驗場ノ獨立トナリタル外、明治三十二年度以降二十有三年ノ久シキ間繼續施行セル國有林野特別經營事業ノ打切トナリ、其ノ間官制及組織等ノ内容ニ於テ異動ヲ來シタルコト尠カラス、今之ヲ抄録スレハ次ノ如シ。

#### 其一、官制

大正八年四月、斫伐、軍需動員及土木並森林測候所ノ關係ニヨリ林區署官制及臨時職員設置制ノ一部ヲ改正シ技師一人屬技手三十七人ノ定員ヲ增加セララル。

明治三十九年勅令第五十八號山林事務ニ關スル臨時職員ノ件中改正ノ件

勅令第四百十號 大正八年四月十五日

明治三十九年勅令第五十八號中左ノ通改正ス

「六百六人」ヲ「六百二十人」ニ改ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行

明治四十四年勅令第百號農商務省ニ臨時職員設置ノ件中改正ノ件

勅令第百十五號 大正八年四月十五日

明治四十四年勅令第百號中左ノ通改正ス

「三人」ヲ「四人」ニ「四十四人」ヲ「四十八人」ニ改ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

林區署官制中改正ノ件

第一編 林政



勅令第百十七號 大正八年四月十五日

林區署官制中左ノ通改正ス

第二號中「六百七十六人」ヲ「六百九十五人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年九月、農商務部内臨時職員設置制整理統一ト共ニ、公有林野官行造林事業開始ニ伴ヒ、山林事務官三人、山林技師十人、山林屬山林技手百七十二人ノ定員ヲ増加セラル。

農商務部内臨時職員設置制抄録

勅令第三百七十一號

大正九年九月十日

第四條 治水事業ニ關スル事務ニ從事セシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム

山林事務官

專任一人

奏任

山林技師

專任四人

奏任

山林技手

專任四十八人

判任

山林屬

第五條 農商務省及林區署ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

一、國有林野特別經營事業ニ關スル事務ニ從事スル者

農商務事務官

專任

二人 奏任

山林事務官

同

一人 奏任

山林事務官補

同

五人 奏任

山林技師

同

六十一人(内一人ヲ勅任トナスコトヲ得)

山林屬

同

六百六十人

山林技手

二、公有林野官行造林ニ關スル事務ニ從事スル者

山林事務官

專任三人

山林技師

同 十

山林屬

同 百七十二人

山林技手

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十九年勅令第五十八號

明治四十四年勅令第百號

大正四年勅令第八十五號

大正四年勅令第百四十九號

大正六年勅令第百十二號

大正六年勅令第百四十六號

大正六年勅令第百四十七號

大正六年勅令第百四十八號

大正七年勅令第八十號

大正七年勅令第百七號

大正七年勅令百三十九號

大正七年勅令第三百三十二號

大正七年勅令第三百九十九號

大正八年勅令第百三十號

大正八年勅令第百三十四號

大正九年勅令第六十號



本令施行ノ際、現ニ山林事務官、山林事務官補、山林技師、山林技師又ハ山林技手ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ、山林事務官、山林事務官補、山林技師、山林技手ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトシ現ニ農商務書記官、農務局事務官、工務局事務官、山林局書記官、水産局書記官又ハ水産局事務官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ農商務事務官ニ、現ニ農務局事務官補ノ職ニアル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ農商務局ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス。

大正九年九月、公有林野官行造林開始ノ結果、林區署官制ヲ改正シテ、公有林野官行造林事業ヲ、大林區署ノ直轄トシ、新ニ公有林野官行造林署ヲ設ケ、更ニ斫伐造林事業ノ擴張ニ伴ヒ技師二人、屬技手十四人ノ定員ヲ増加セラル。

林區署官制中改正ノ件

勅令第三百七十三號

大正九年九月十日

林區署官制中左ノ通改正ス

- 第一條中「及小林區署」ヲ「小林區署及公有林野官行造林署」ニ改ム
- 第一條ノ二中「部分林」ノ下ニ「並公有林野官行造林」ヲ加ヘ同條第二項中「林野」ヲ國有林野及部分林並公有林野官行造林署ノ管轄ニ屬セサル公有林野官行造林ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
- 公有林野官行造林署ハ其ノ管轄區域内ノ公有林野官行造林ニ關シ大林區署ノ事務ヲ分掌ス
- 第二條中「小林區署長」ノ次ニ「公有林野官行造林署長」ヲ加ヘ「二十五人」ヲ「二十七人」ニ「六百九十五人」ヲ「七百九十九人」ニ改ム
- 第五條中「小林區署長ハ」ヲ「小林區署長及公有林野官行造林署長ハ山林技師」ニ改ム
- 第十條中「國有林野ニ付」ヲ削ル
- 第十一條「小林區署」ノ下ニ「及公有林野官行造林署」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ 行ス

大正十年四月、公有林野官行造林事業ノ擴張及小笠原林業試驗場出張所設置ノ爲、臨時職員技師四人、屬技

手三十八人ノ定員ヲ増加シ、又小笠原小林區署ノ増設ト斫伐造林事業ノ擴張並小林區署長ノ待遇改善等ノ爲林區署官制ノ改正ヲ行ヒ技師十五人、屬技手一人、森林主事二人ノ定員ヲ増加セラル。

農商務部内臨時職員設置制中改正ノ件

勅令第九十六號

大正十年五月六日

農商務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

(中略)

第五條中「六十一人」ヲ「五十二人」ニ「六百六十人」ヲ「六百六十一人」ニ「十人」ヲ「十三人」ニ「百七十二人」ヲ「三百九十九人」ニ改ム

(附 則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

林區署官制中改正ノ件

勅令第六十二號

大正十年四月二十五日

林區署官制中左ノ通改正ス

附 則

第二條中「二十七人」ヲ「四十二人」ニ「七百九十九人」ヲ「七百十人」ニ「千二百八十人」ヲ「千二百九十二人」ニ改ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年三月、林業試驗場ノ獨立並國有林野特別經營事業ノ打切リニ伴ヒ從來ノ臨時職員中山林局ニ在職セル者ヲ一般官制ノ内ニ包含セシメタル爲、農商務官制ノ改正ヲ行ヒ、農商務事務官五人、山林事務官補二人技師七人、屬二十人、技手七人ノ定員ヲ増加セラル。

農商務省官制中改正ノ件

勅令第四百七十七號

大正十一年三月三十一日



農商務省官制中左ノ通改正ス

第七條第二項及第三項ヲ削ル

第九條ノ三中「十五人」ヲ「二十人」ニ改ム

第十二條ノ三山林局ニ山林事務官補專任二人ヲ置ク山林事務官補ハ奏任トス、森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十四條中「七十一人」ヲ「七十八人」ニ「四人」ヲ「五人」ニ「百五十二人」ヲ「百五十九人」ニ改ム

第十五條中「百三十人」ヲ「百五十人」ニ改ム

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年三月、國有林野特別經營事業ノ打切及公有林野官行造林事業ノ擴張竝林業試驗場ノ獨立ニ伴ヒ、治水事業ニ關スル事務ニ從事スル職員中、本省ト林業試驗場トノ分ヲ分離シ、臨時職員制改正ノ爲、公有林野官行造林職員ニ於テ技師六人、屬技手二百七十四人ヲ増加シタルモ、國有林野特別經營事業ニ關スル事務ニ從事スル職員ニ於テ事務官三人、事務官補五人、技師六十一人、屬技手六百六十人ノ定員ヲ減セラル。

農商務部内臨時職員設置制中改正ノ件

勅令第四百四十八號

大正十一年三月三十一日

農商務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第四條 治水事業ニ關スル事務ニ從事セシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム

農商務事務官

專任一人 奏任

技師

同 三人 奏任

屬

同 六人 奏任

技手

第五條 公有林野官行造林ニ關スル事務ニ從事セシムル爲農商務省及林區署ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

山林事務官

專任 三人 奏任

山林技師

專任 十六人 奏任

山林屬

專任四百四十六人 判任

山林技手

第十條ノ四 治水事業ニ關スル事務ニ從事セシムル爲林業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

專任 一人 奏任

屬

同 四十二人 判位

技手

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年三月、農商務官制及會計法ノ改正竝間伐事業ノ調査、官行斫伐事業ノ擴張トナリ、又一面國有林野特別經營事業打切りノ結果、同事業系統ノ事業ニ從事スル職員中、恒久的經常事業職員ニ配置スル等、職員ヲ異動スヘキ爲、林區署官制ノ改正ヲ行ヒ、經常系統ニ於テハ事務官二人ヲ減シタルニ反シ、技師四人、屬技手百十三人ヲ増加シ、臨時部ヨリ經常部ニ變更セルモノニ於テハ、技師三十五人、事務官補三人、屬技手五百十四人ヲ増加セラル。

林區署官制中改正ノ件

勅令第四百四十九號

大正十一年三月三十一日

林區署官制中左ノ通改正ス

第二條中「十八人」ヲ「十六人」ニ「四十二人」ヲ「八十一人」ニ「十六人」ヲ「十九人」ニ「七百十人」ヲ「千三百三十七人」ニ改ム

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



林業試験場ハ、從來農商務官制第七條ニ依リ山林局ニ屬シ、林産ノ増殖及改良ニ關スル調査及試験事項ヲ掌  
リシモ、斯業ノ發展擴張ニ伴ヒ、大正十一年三月、左ノ官制ヲ發布セラル。

林業試験場官制

勅令第五十號 大正十一年三月三十一日

第一條 林業試験場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ林業ニ關スル左ノ事務ヲ掌ル

一、試験及調査

一、分析及鑑定

一、種苗及標本ノ配付

一、講習及講話

第二條 林業試験場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

技手

屬

技手

技手

技手

技手

技手

技手

技手

技手

技手

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年五月、農商務事務官一人ヲ減シテ、農商務書記官一人ヲ増加セシト、山林事務官補ヲ山林副事務  
官ニ改稱ノ結果、農商務官制及林區署官制ヲ改正セラル。

農商務省官制中改正ノ件

勅令第二百八十五號 大正十一年五月三十日

第三條中「十六人」ヲ「十七人」ニ改ム

第九條ノ三中「二十人」ヲ「十九人」ニ改ム

第十二條ノ三中「山林事務官補」ヲ「山林副事務官」ニ改ム

(中略)

附

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ山林事務官補タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ山林副事務官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

林區署官制中改正ノ件

勅令二百八十六號 大正十一年五月三十日

第二條、第四條及第五條中「山林事務官補」ヲ「山林副事務官」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ山林事務官補タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ山林副事務官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

其二、分課

大正九年三月、山林ニ關スル事務事業ノ擴張ニ伴ヒ、山林局ニ林産課ヲ増設ノ爲、農商務省分課規程ヲ左ノ  
如ク改正セラル。



農商務省分課規程中改正ノ件

文第一二九號

大正九年三月三十一日

農商務省分課規定中左ノ通改正シ大正九年四月一日ヨリ施行ス

第十六條中「及林業課」ヲ「林業課及林産課」ニ改ム

第十七條 地方課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、營林ノ監督、保安林、森林警察、其他森林法施行ニ關スル事項

二、治水事業ニ關スル事項

三、公有林野ノ統一、管理區分及入會權整理ニ關スル事項

第十八條中「及治水事業」ヲ「治水事業及林業獎勵」ニ改ム

第十九條ノ二 林産課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、林業ノ改良ニ關スル事項

二、林産物ノ改良増殖ニ關スル事項

三、山林會森林組合其ノ他林業團體ニ關スル事項

四、林業講習ニ關スル事項

五、林野及林産物ノ調査ニ關スル事項

「備考」以上ハ特ニ、山林局ニ關係セル改正條項ノミヲ掲ケタルモノトス

大正九年九月、公有林野官行造林事業開始ニ伴ヒ、大林區署ニ公有林野官行造林課ヲ新設シ、更ニ公有林野官行造林署及擔當區増設ノ爲、大林區署分課規程ヲ左ノ如ク改正セラル。

大林區署分課規程中改正ノ件

林第二八五號

大正九年九月十日

大林區署分課規定中左ノ通改正シ大正九年九月十日ヨリ施行ス

第一條中「及林業課」ヲ「林業課及公有林野官行造林課」ニ改ム

第二條中「小林區及保護區」ヲ「小林區、公有林野官行造林署保護區及擔當區」ニ改ム

第三條ノ二、公有林野官行造林課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一、公有林野官行造林地ノ豫定、設定、管理及處分並境界保護ニ關スル事項

二、公有林野官行造林地ノ施業工事其ノ他營林ニ關スル事項

三、公有林野官行造林地ノ測量ニ關スル事項

四、公有林野官行造林地ノ産物及製品ニ關スル事項

第二節 一般森林ノ行政機關

一般森林ノ行政ニ關スル中央機關ハ、國有林野經營ニ關スル中央官廳ト同一ニシテ、地方機關ハ府縣廳ノ内務部若ハ産業部、警察部ノ一分課ニ在リテ、營林ノ監督、保安林、森林警察、治水、公有林野ノ整理統一、管理區分、入會整理、公有林野官行造林ノ豫定及林業ノ指導獎勵等ヲ實行シ、明治四十四年度治水事業ノ創始ト共ニ、漸次林政機關進展ノ趨勢ヲ示シ、大正六年度ニハ林業ノ爲、特ニ獨立セル一課ヲ設置シ、専門技術者ヲ置キ、林務ヲ處理セシムルニ至リシモノ、岩手、福島、山形、山梨、静岡、三重、岐阜、長野、滋賀、徳島、愛媛及宮崎ノ十二縣ニ過キサリシカ、輒近、各種林業ノ發達ニ伴ヒ、或ハ公有林野縣行造林ヲ開始スルアリ或ハ公有林野整理統一及一般林業ノ獎勵ヲ擴張スルアリ、又ハ木炭ノ検査ヲ實施スル等アリテ、各府縣ニ依リ擴張ノ程度ヲ異ニスルモ、大正九年九月、勅令第二四七號地方産業職員制發布以來、林業ニ關スル職員ヲ充實シ、最近林務課又ハ山林課トシテ獨立セルモノ栃木、宮城、愛知、兵庫、岡山、鳥取及高知ノ七縣ヲ算スルニ至レリ。又、一般林野ノ保護取締ヲ周到ナラシムル爲、林野警察官ノ特置制度ヲ、明治四十三







山	和	德	香	愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿	沖	計
口	山	島	川	媛	知	岡	分	賀	本	崎	島	繩	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四六
一	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	六五
一五	一五	一三	七	一七	一〇	八	二	八	一三	一二	一六	六	六九六
一七	一七	一六	八	二〇	一〇	一四	九	一五	一四	一四	一七	八	八〇七

### 第三章 治水事業

明治四十三年、政府ハ臨時治水調査會ヲ設立シ、種々討究ノ結果、治水計畫案ヲ樹テ、四十四年度以降大正十八年度ニ至ル十九箇年ノ繼續事業トシ、總經費一千五百五十八萬七千五百圓ノ豫定ヲ以テ、之カ實行ニ著手シタリ。而シテ、大正十年度迄ニ調査、監督及營繕費三百三十六萬九千七百圓補助費五百七十八萬三千圓計九百十五萬二千七百圓ヲ支出シ、既定計畫ニ基キ年々進捗シ來リシモ、主トシテ物價ノ騰貴關係ニ因リ、功程ニ影響スルトコロ多ク、實行上遺憾ヲ免レサルモノアリシヲ以テ、殘餘ノ期間中ニ於テ、銳意之カ完成ヲ

圖リツ、アリ。左ニ本事業ニ關聯スル業務ノ經過ヲ述ヘントス。

### 第一節 治水關係地調査

治水上重要ナル地域ヲ保安林ニ編入シ、又ハ開墾禁止制限ノ各業務ニ付テハ、本事業開治以前ニ於テ、其ノ調査處分及取締等ヲ爲シ、爾來引續キ之カ實施ヲ怠ラスト雖、未タ十分ノ結果ヲ見ルニ至ラザリシニ依リ、本事業ヲ治水計畫ノ重要事項ノ一ニ加ヘ、明治四十四年五月林第二三六八號ヲ以テ農商務次官ヨリ左ノ通牒ヲ各府縣知事ニ發スルニ至レリ。

保安林開墾制限禁止地ノ調査及其ノ處分ニ關シテハ自今左記各號ニ依リ取扱ハレ度  
右依命通牒ス

記

第一、治水上重要ノ關係ヲ有スル地域ニ於ケル開墾ノ取締上急速ノ處分ヲ必要トス仍テ危害ノ虞ナキコト明カナル箇所ヲ除クノ外ハ先町村、大字、字等ヲ區域トシテ開墾制限ノ取扱ヲ爲スコト

前項ニ依リ開墾ヲ制限シタル區域ハ更ニ精査ノ上國土保安上必要ノ程度ニ應ジ保安林編入、開墾禁止、又ハ開墾箇所制限ノ取扱ヲナシ之ヲ整理スルコト但シ整理上必要ナル場合ニ於テハ小區域ヲ以テ開墾ヲ制限スルコトヲ妨ケス

第二、前項ノ調査ニ付テハ左記各號ヲ考査シ、尙傾斜度凡二十度以上ノ箇所ハ特ニ注意スルコト

- 一、基岩ノ強弱
- 二、土壤ノ堅軟及乾濕
- 三、基岩ト土壤トノ結合
- 四、傾斜ノ緩急及斜距離ノ長短
- 五、滲水潦水及排水ノ關係
- 六、地盤保護設備ノ當否







茨城	二六二	九、六八一	一〇八	九、六九九	二七	二〇〇	三三	一〇九、五八〇	二年六月
栃木	二五九、二七一	一、五四七、七元	三、四八八	一、八三三	二	一六、八〇六	一、六、五五五	一、五、五五五	五年十二月
三重	二八二、三三七	一、一、八八九	二、五、八七九	九〇	一	三、八二六	一、三、七〇〇	一、三、七〇〇	五年十二月
愛知	三、四四五	九、七、六四〇	九三	三、三、三九	一	一〇、一〇九	一〇、一〇九	一〇、一〇九	六年十二月
靜岡	六、四、八八四	一、五、七、八一	九三、〇七八	六、六、五七	四、二、二四	九、〇七七	三、四、八二	三、四、八二	四年六月
山梨	二、四、三、七三	二、六、六、〇三	七、八、四三〇	三、九、八〇	二、七九	三、二、七三	三、二、七三	三、二、七三	二年十二月
滋賀	二、五、八、八三	二、〇、九、七一	三、七、六八	三、六、二	一	三、〇、六〇〇	三、〇、六〇〇	三、〇、六〇〇	二年十二月
岐阜	八、八七	三、四、三、五五	一	一	一	八、八七	八、八七	八、八七	五年十二月
長野	四、七、二、五六	三、八、六、四七	四、八、八、八五	一、七、六、六三	八、四一	九、〇、九八四	九、〇、九八四	九、〇、九八四	五年十二月
宮城	三、六、〇、九	三、五、五、六六	二、三、四三	二、七、三、八	一、八	六、〇、一九	六、〇、一九	六、〇、一九	五年十二月
福島	二、六、六、〇六	六、一、五、六	四、六、五、七〇	一、九、三、三五	三、四	二、六、〇、三三	二、六、〇、三三	二、六、〇、三三	三年十二月
岩手	六、七、八	一、〇、八、八一	一、三〇	三、三、三一	一	八、二七	八、二七	八、二七	四年六月
青森	六、〇〇	二、九、六、三三	三、三、六	三、九、八、〇四	五	八、二七	八、二七	八、二七	四年六月
山形	七、七、八〇	一、六、〇、三、八	四、八	二、二、八、九	一	一、六、〇、三、八	一、六、〇、三、八	一、六、〇、三、八	五年十二月
秋田	六、九、七	五、七、七三	七、四、八	五、八、六、七	二	一、四、四〇	一、四、四〇	一、四、四〇	五年十二月
石川	二、五、七、七三	五、八、五、〇	三、八、九、二〇	一、五、八、九	六、二、六、七	五、七	三、〇、三、八〇	三、〇、三、八〇	二年十二月
富山	一、四、七、八	二、九、三、七三	一	一、四、五、八	一	一、七、六、三	一、七、六、三	一、七、六、三	二年十二月
島根	二、三、〇、〇	三、六、三、三〇	五、三、三	一、四、五、八	一	一、七、六、三	一、七、六、三	一、七、六、三	二年十二月
岡山	七、一、五、七	二、四、八、九、八	一、四、一、七	一、五、五	一	三、九、九	三、九、九	三、九、九	六年十二月
広島	六、七、三、五九	二、三、三、七、六〇	一	一	一	六、七、三、五九	六、七、三、五九	六、七、三、五九	六年十二月
山口	四、一、五、〇	二、八、一、九三	一	一	一	四、一、五、〇	四、一、五、〇	四、一、五、〇	二年十二月

二、治水關係地處分成績

(自明治四十四年 至大正九年)

和歌山	二、三、八、三三	二、六、五、〇七六	二、四、一、三三	三、三、三、六九	三、三、一、九二	三、三、三、九	二、五、一、二四	三、八、五、七四	五年十二月
徳島	四、〇、四、三九	一、六、八、四、一五	一、六、〇、六、一	八、〇、九	一、〇、一	一、五、一	四、一、八、六、一	一、六、九、二五〇	六年十二月
香川	六、六、六、五	八、一、三、〇〇	五、五、九	一、四、三	一	七、三、〇四	七、三、〇四	八、一、三、〇〇	五年六月
愛媛	二、二、六、七	二、八、二、四〇	二、三、三、三	一、六、四、九七	三、三、九、六一	三、三、九、六一	三、三、九、六一	三、三、九、六一	三年十二月
高知	二、一、八、三三	九、五、〇、五〇	二、三、三、三	二、四	三、三、九、六一	三、三、九、六一	三、三、九、六一	三、三、九、六一	三年六月
福岡	一、二、八、一	三、七、一	三、三、七	一、四、四、六	一、九、九	一、四、四、六	一、四、四、六	一、四、四、六	七年十二月
大分	八、八	二、九、八、七七	五、九	三、四、四、〇	一、三、七	一、三、七	一、三、七	一、三、七	六年六月
佐賀	九、〇	三、〇、三、九	二、三、三	六、五、六	一、〇、六	九、七、三、三	九、七、三、三	九、七、三、三	五年六月
熊本	八、九、七	九、七、七、四	一、五、九	六、五、六	一、〇、六	九、七、三、三	九、七、三、三	九、七、三、三	五年六月
宮崎	四、九、一	一、五、九、九、一	一、五、九	一、五、九、三	二	六、〇、〇	六、〇、〇	六、〇、〇	五年十二月
鹿児島	四、三、四	五、四、〇、〇	二、五、三	二、八、七	二	六、七	六、七	六、七	四年十二月
沖縄	四、九、五	二、二、七、八	一、九、二	一、七	九、五	六、七	六、七	六、七	七年十二月
備考	四、五、七、八、四、五	五、八、七、〇、九、五	九、七、三、三	一、〇、八、八、七、〇	七、三、四、四、六	四、六、三、三	九、六、八、六、六	六、三、三、六、九	六年十二月
計	三、六、八、八、八、八	三、六、八、八、八、八	三、六、八、八、八、八	三、六、八、八、八、八	三、六、八、八、八、八	三、六、八、八、八、八	三、六、八、八、八、八	三、六、八、八、八、八	七年十二月

東京	一、七、五、〇	一、七、五、〇	一、七、五、〇	一、七、五、〇	一、七、五、〇	一、七、五、〇	一、七、五、〇	一、七、五、〇	一、七、五、〇
第一編	林政	保安	開墾	開墾	開墾	開墾	開墾	開墾	開墾
地方	林編	禁止	制限	制限	制限	制限	制限	制限	制限
入	林編	禁止	制限	制限	制限	制限	制限	制限	制限
計	林編	禁止	制限	制限	制限	制限	制限	制限	制限
未慮	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
分面	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月
積	日	日	日	日	日	日	日	日	日







### 第二節 公有林野ノ造林獎勵

公有林野ハ、各種ノ林野中、荒廢ノ度最甚シク、水害ノ禍根タルヲ以テ、其ノ造林ヲ治水事業ノ一大要務ト爲スニ至レルハ、素ヨリ其ノ途ナルヘシ。治水事業開始ノ當時、公有林野ノ推定面積五百七十餘萬町歩ニシテ、其ノ内二百萬町歩ハ無立木ニ屬スルモノナルモ、百萬町歩ハ將來ノ放牧採草地等ノ爲、原野トシテ存置ヲ要シ、殘百萬町歩ハ要造林地タルモノナリ。而シテ、其ノ要造林地二分ノ一即チ五十萬町歩(四十三年度補助ノ一萬町歩ヲ控除シ約四十九萬町歩)ヲ治水事業費ニ依リ造林セシメ、他ノ二分ノ一ハ公共團體自身ヲシテ漸次造林ヲ完成セシムル方針トナレリ。尙、前掲治水事業ニ關係ヲ有スル四十九萬町歩ニ對シテハ、其ノ市町村ノ事業トシテ造林スルモノニ、造林費ノ四分ノ一乃至六分ノ一ヲ國庫ヨリ補助金トシテ交附シ、別ニ國庫ト同額ヲ府縣ヨリ補助スヘキモノト定メラル。然レトモ、市町村財政ノ困難、入會關係及苗木ノ不足等ノ關係ニ依リ、豫期ノ如ク進行セザリシヲ以テ、大正八年度ヨリ造林費ノ補助額ヲ増加シ、又入會整理及部落有統一地ニ對スル獎勵金ヲ交付シ、又苗木養成ニ付テモ補助ノ途ヲ開キタリ。今、公有林野造林獎勵規則ノ改正ニ伴ヒ、補助率及補助目的ノ變遷ヲ表示スレハ次ノ如シ。

#### 一、補助率

府縣額費	(1) 統一地	(2) 從來ノ所有地	(3) 部落ノ所有地	(4) 防火線	(5) 地盤保護植樹	(6) 地盤保護工事
(1) 乃至(4)ノ國庫ト同額以上 (5) ハ四分ノ一以上	一町歩十二圓以内 ニシテ造林費ノ四分ノ一以内	一町歩十圓以内 ニシテ造林費ノ四分ノ一以内	一町歩八圓以内 ニシテ造林費ノ六分ノ一以内	工事費ノ六分ノ一以内	(1) 乃至(3)ノ例ニヨル	工事費ノ三分ノ二以内
府縣負擔額ハ國庫補助額ト同額以上	(イ) 無立木地ニ於ケル人工造林 (ロ) 伐採跡地ニ於ケル人工造林 (ハ) 天然造林	(イ) 無立木地ニ於ケル人工造林 (ロ) 伐採跡地ニ於ケル人工造林 (ハ) 天然造林	(イ) 無立木地ニ於ケル人工造林 (ロ) 伐採跡地ニ於ケル人工造林 (ハ) 天然造林	費用ノ六分ノ一以内	(自然消滅) 荒廢地復舊規則ニ依ル	(自然消滅) 同上
改正ナシ	一町歩十二圓以内 ニシテ造林費ノ四分ノ一以内	一町歩十圓以内 ニシテ造林費ノ四分ノ一以内	一町歩八圓以内 ニシテ造林費ノ六分ノ一以内	費用ノ六分ノ一以内		
改正ナシ	(イ) 造林費ノ四分ノ一以内 (ロ) 造林費ノ四分ノ一以内 (ハ) 造林費ノ四分ノ一以内	(イ) 造林費ノ五分以内 (ロ) 同上 (ハ) 同上	(イ) 造林費ノ六分ノ一以内 (ロ) 同上 (ハ) 同上	費用ノ六分ノ一以内		
改正ナシ	(イ) 造林費ノ三分ノ一以内(天然造林共) (ロ) 同上(天然造林共) (ハ) 同上(天然造林共)	(イ) 造林費ノ四分以内(天然造林共) (ロ) 同上(天然造林共) (ハ) 同上(天然造林共)	(イ) 造林費ノ四分以内(天然造林共) (ロ) 同上(天然造林共) (ハ) 同上(天然造林共)	費用ノ四分ノ一以内		
	備考					



二、補助目的

明治四十三年規程	大正三年改定	大正八年改定
(1) 市町村又ハ町村組合ノ事業タルコト	(1) 市町村、市町村組合又ハ町村組合	改正ナシ
(2) 造林	(2) 無立木地造林、伐採跡地造林、天然造林ニ分ツ	改正ナシ
(3) 防火線	(3) 改正ナシ	改正ナシ
(4) 造林ノ爲地盤保護工事	(4) 消滅	追加
	(5) 管理區分案、入會整理案、施業計畫案等ノ編成事務ノ爲府縣特置吏員ノ俸給旅費ノ半額以內ノ補助	(5) 部落有林野統一ニ從事スル特置吏員ノ俸給旅費ノ半額以內ノ補助
	(6) 公有林野入會整理又ハ部落有林野統一ノ實行ニ對シ一町歩五十錢以內ノ補助	

公有林野造林獎勵事業ノ大正九年度末現在成績次ノ如シトス。

一、公有林野造林獎勵事業成績

(一)、整理事業

イ、特置吏員補助

年度	管理區分案編成	入會整理案編成	施業計畫案編成	部落有林野統一案編成	計	國庫交付	地方費負擔	計
自 大 正 三 年 六 月	三三、五八	三〇、三六	四〇、四九	一、〇〇	一〇五、〇四	一七、八七九、〇五	一三八、九七八、二七二	二七六、八五七、四七七
同 七 年	六、〇八一	三三、六六	一五、七九	—	三六、五四一	六六、七九、五五〇	六八、六七五、一五〇	一三五、四七四、七〇〇
同 八 年	七、三三七	六、七七六	三三、二〇	九、五五四	三六、四三三	一九、五〇〇、六九四	一八、七五三、三一	三三八、二五四、〇四五
同 九 年	五九、七三三	六六、八四九	二八、六七	二五、六七	三八〇、九三五	一四七、八四〇、六三〇	一五九、五五八、九三〇	三〇七、三九九、五五〇
計	四三、二六八	五〇、四六	八六、二〇	二〇、二四	二〇〇、一四二	四六二、〇〇〇、七九	四八、九六六、六三三	九四七、九六五、七七二
備考	本事項ハ三年度ヨリ補助セルモノナリ							

ロ、入會整理及部落有林野統一補助

年度	共同使用廢止		入會整理		部落有林野統一		計
	面積	補助金	面積	補助金	面積	補助金	
大 正 八 年	五、〇五町	三、〇〇〇	一〇、九三町	一、二五七	五四、一三町	一七、八〇四	六、五三三
同 九 年	三三、〇八町	四、九一一	一九、五三町	五、五七〇	七三、六〇八	一四、八二六	三、五、四、九八
計	八七、五五	五、〇一一	三〇、四六町	六、八二七	一二七、七四一	三二、三三〇	一〇、〇〇八
備考	本事業ハ八年度ヨリ補助セルモノナリ						

(二) 造林事業

年度	造林	防火線建設	地盤保護工事	計	國庫交付	地方費負擔	計
自 大 正 四 年 六 月	三三、三三町	一、八四、六三三	六三、八〇〇	一〇三、九三三	一〇、九六六、五二五	一〇、〇九〇、一〇五	二一、〇五六、六三〇
同 五 年	三三、三三町	一、八四、六三三	六三、八〇〇	一〇三、九三三	一〇、九六六、五二五	一〇、〇九〇、一〇五	二一、〇五六、六三〇
同 六 年	三三、三三町	一、八四、六三三	六三、八〇〇	一〇三、九三三	一〇、九六六、五二五	一〇、〇九〇、一〇五	二一、〇五六、六三〇
同 七 年	三三、三三町	一、八四、六三三	六三、八〇〇	一〇三、九三三	一〇、九六六、五二五	一〇、〇九〇、一〇五	二一、〇五六、六三〇
同 八 年	三三、三三町	一、八四、六三三	六三、八〇〇	一〇三、九三三	一〇、九六六、五二五	一〇、〇九〇、一〇五	二一、〇五六、六三〇
同 九 年	三三、三三町	一、八四、六三三	六三、八〇〇	一〇三、九三三	一〇、九六六、五二五	一〇、〇九〇、一〇五	二一、〇五六、六三〇
計	三三、三三町	一、八四、六三三	六三、八〇〇	一〇三、九三三	一〇、九六六、五二五	一〇、〇九〇、一〇五	二一、〇五六、六三〇
備考	本事業ハ八年度ヨリ補助セルモノナリ						



大正	七	一三、三三三、四〇六	一五、三、四七四	一三、四六六、八七〇	一三、五五五、一九一	一四〇、八三七、六三三	一六九、三七七、八六六
同	八	一一、七五五、九〇〇	一三〇、一三三	一一、八六六、一四二	一一、二四九、二二九	一四〇、三三三、三三三	一六九、四〇八、四〇六
同	九	一〇、七三三、四三三	一一〇、二八四	一〇、五三三、七二五	一〇、二二〇、九三三	一三三、四三三、七七	一四六、六四、七四〇
計		一六、六六六、〇一〇	一、五八、六〇三	一六、八三三、四〇二	一、五九四、二五、五七七	一、六二五、五三三、七六三	一、七〇九、七七八、三三九

又公有林野獎勵規則ノ改正及之ニ關シ山林局長ヨリ各府縣知事ニ通牒セラレタルモノ左ノ如シ、

農商務省令第八號 大正八年四月二日

第二條第一號中「入會整理案」ノ下ニ「部落有林野統一案」ヲ加ヘ第二號中「防火線造設」ヲ「及防火線造設並公有林野ノ入會整理及部落有林野統一ノ實行」ニ改ム

第三條第一號中「入會整理案」ノ下ニ「部落有林野統一案」ヲ加フ

第五條中「第七號樣式」ヲ「第八號樣式」ニ改ム第一號樣式中「及防火線造設」ヲ「防火線造設、入會整理及部落有林野統一」ニ改メ注意書第二項トシテ左ノ一項ヲ加ヘ第二項ヲ第三項トス

二、入會整理又ハ部落有林野統一ニ對スル補助金ニ關シテハ合計額ノ次行ニ各補助種定ノ面積及金額ヲ記載スヘシ

第三項樣式中「入會整理」ノ下「案編成」ヲ削リ整理案編成ノ欄ノ下ニ左ノ一欄ヲ加フ

公有林野造林獎勵規則中改正ノ件

補助金交付		金額	
件數	面積	國庫交付獎勵金	府縣負擔額
		計	計

第五號樣式

大正 年度部落有林野統一成績表

統一案編成	補助金交付		統一面積	
	件數	面積	無償	有償
件數	面積	國庫交付獎勵金	府縣負擔額	計
件數	面積	計	計	計
累計				

注意

- 一、「統一面積」トハ法定ノ手續ヲ經テ部落有林野ヲ市町村ニ歸屬セシメタル面積ヲ謂フ
  - 二、統一前ニ於ケル部落有林野面積ヲ備考トシテ記載スヘシ
  - 第五號樣式ヲ第六號樣式ニ改メ以下順次繰下ケ
  - 第五號樣式中「入會整理案」ノ下ニ「部落有林野統一案」ヲ加フ
  - 第七號樣式中「及防火線造設」ヲ「防火線造設、入會整理及部落有林野統一」ニ改ム
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公有林野造林獎勵規則改正ニ關スル件

(大正八年四月二日林第八六九號)

公有林野ノ造林豫期ノ進捗ヲ見サルモノアルヲ認メ今回公有林野造林獎勵規則中一部改正相成 大正八年度ヨリ部落有林野統一案編成ニ要スル府縣ノ費用ヲ補助シ又公有林野ノ入會整理、部落有林野統一ヲ爲セル者ニ對シ補助金ヲ交付スルコトナリ尙造林及防火線造設ニ對スル獎勵金ノ補助率ヲ高ムルコトトシ右取扱方左記ノ通改メ候ニ就テハ爾今造林促進上一層ノ督勵ヲ加ヘラレ候様特ニ御配慮相成度依命此段及通牒候也

- 一、規則第二條第一號ノ補助金ハ管理區分案、入會整理案、部落有林野統一案及施業計畫案ノ編成事務ノ爲府縣ニ吏員ヲ特置シタル場合ニ限リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ俸給及旅費ノ半額以內ヲ交付スルモノトス
- 二、同上「入會整理案編成」トハ林野ノ共同使用關係ヲ解消シ若ハ關係團體間ニ入會林野ヲ分割、賣却、讓與、交換又ハ使用區域ヲ割當テ



以テ入會關係ヲ整理スル爲當該林野ニ付必要ナル調査ヲ行ヒ且ツ之カ整理ニ關スル計畫ヲ定ムルヲ謂フ

三、規則第二條第二號ノ補助金ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ノ例ニ依リ之ヲ交付ス

(一)大字其ノ他ノ部落ノ所有タリシモノニシテ明治四十三年四月以後新ニ市町村ノ所有ニ移シタル土地ノ造林

(イ) 無立木地ニ於ケル造林  
造林費ノ三分ノ一以内

(ロ) 伐採跡地ニ於ケル造林  
造林費ノ四分ノ一以内

(二)府、縣、郡、市町村組合、町村組合又ハ大字其ノ他部落ノ所有ニ屬スル土地ノ造林  
造林費ノ四分ノ一以内

(イ) 無立木地ニ於ケル造林  
造林費ノ四分ノ一以内

(ロ) 伐採跡地ニ於ケル造林  
造林費ノ五分ノ一以内

(三)防火線 費用ノ四分ノ一以内

前各號ノ補助金ニ對スル府縣ノ負擔額ハ國庫補助額ト同額以上トス

(四)大正八年四月以後法定ノ手續ヲ經テ爲シタル公有林野ノ入會整理又ハ部落有林野統一

一町歩五十錢以内但シ府縣ノ負擔額ハ府縣ノ定ムル所ニ依ル

四、規則改正前府縣ニ於テ補助金下付ノ指令ヲ爲シタルモノニ對スル補助率ハ仍從前ノ例ニ依ル

### 第三節 荒廢地復舊補助

崩壞禿瘠ヲナセル林野ハ、土砂ヲ流出シ、治水上大害ヲナスノミナラス、之ヲ放置スルニ於テハ、其ノ程度擴大シ、災害ノ及フ所益甚シカラントスルノ虞アリ。依テ、此種荒廢地四萬町歩ヲ修復シテ森林地タラシムル目的ノ下ニ、地盤保護ノ工事及植樹ヲナスコトナリタルモノニシテ、該林野ノ公有タルト私有タルト又社

寺有タルト將又事業者ノ何人タルヲ問ハス、事業ノ補助金四百萬圓ヲ以テ復舊セシメントスルニアリ。其ノ補助率ハ事業經費ニ對シテ交付スルモノニシテ、工事ニ於テハ國庫ヨリ三分ノ二、府縣ヨリ國庫補助金ノ四分ノ一合計六分ノ五、植樹ニ於テハ國庫ヨリ六分ノ一、府縣ヨリ之ト同額合計三分ノ一ノ補助トス。而シテ、大正九年度末迄ノ成績八千七百八十町歩、交付補助金百六十萬餘圓ニ過キサルハ、是亦物價騰貴ノ結果ニ依ルモノナリトス。

#### 荒廢地復舊成績

年 度	事業		補助		交 付		計 額
	地盤保護	工事	同 植 樹	國庫交付	地方費負擔	計 額	
自明治 至大正	四四 六	一七三、九九一	三五七、八〇三	七五、〇八、一〇〇	三九、〇九、五一一	一、〇八、〇七、七七一	
同	七	三三六、一五〇	七九六、五二八	一七六、四四、九三三	八五、五五、七二二	三、〇一、〇一、六五八	
同	八	四六三、三九七	九七九、九八三	三〇〇、七九、六六元	一三三、六八、三一一	四、〇四、四九、九五〇	
同	九	四三四、二九六	七五三、一七二	四〇一、五三、七九三	一六〇、一〇、一三三	五、〇七、五五、〇一〇	
計		一、九七二、九三三	六、〇五七、四七五	一、六〇三、七七一、五四九	七八、二九四、八三〇	二、三四二、〇八二、三七九	

### 第四節 既墾地復舊補助

地勢地質等ノ關係ニヨリ、開墾ヲナシタルカ爲ニ、土砂ヲ流出シ河川ニ害ヲ爲スモノアリ。斯ノ如キ土地ニシテ、之ヲ保安林ニ編入シ、造林ヲ命ジテ、森林タラシムルノ必要アルモノ六千二百七町歩ノ見込ナリシモ、其ノ耕作中ノモノニ對シ、之ニ造林ヲ強制スルハ忍ビザル所ナルヲ以テ、此等ノ内極メテ重要ト認ムル九百二十八町歩ヲ限リ施行スルコトトシ、施行地ニハ政府ヨリ當該既墾地價格ト類地森林ノ素地價格トノ差



額ノ範圍ニ於テ相當補償ヲナシ、且ツ工事又ハ造林ノ爲、現ニ作付セルモノヲ失ハシメタル場合ハ、其ノ損害ヲ補償スルコトトセリ。之レ、開墾獎勵ノ結果、輕少ノ土砂ヲ流出スルモノ迄モ、之ヲ保安林ニ編入スルノ必要ナキヲ認メタルコトト、又既ニ桑畑果樹園等トナレル土地ニ對シ、土砂扞止上相當ノ注意ヲ加フルニ於テハ、必スシモ之ヲ森林タラシムノ必要ナキコトヲ認メタルトニ依ル。而シテ大正九年度迄ニ補償シタル成績次表ノ如シ。

既墾地復舊補償成績

年 度	復 舊 面 積		補 償 金	
	田 畑	燒畑切替畑其他	土地ニ對スル補償	作物ニ對スル補償
至 大正 六	一四、八三三	一六、七九三	八、四三七	二七〇、八八八
同 七	一、七三九	三三、八〇九	三、二九八	四七、〇〇六
同 八	八、五三三	三三、七七八	五〇、二八三	七、六〇四
同 九	三、〇〇〇	一〇、一四七	三、三六七	四四、八四四
計	二八、五三四	三三、五三三	一九、四七五	四四、五三三
備考	四四年度ニハ該當事項ナシ			

第五節 保安林及開墾禁止制限地ノ標柱建設

從來、保安林及開墾禁止制限地ニハ、何等ノ標識ナク、之カ取締上遺憾ノ點少カラサリシヲ以テ、此種ノ土地ニシテ、治水上ノ關係アルモノニハ、國費ヲ以テ府縣ヲシテ標柱ヲ建設セシムルコトナレリ。本事業ハ、豫期ノ如ク進捗シ、其ノ成績次ノ如シ。

保安林及開墾制限地ノ標柱建設成績

年 度	建 設 地 面 積		建 設 本 數		經 費
	保安林	開墾制限禁止地	新 設	補 修	
至 大正 四	七〇、八五五	一、五九一	七四、〇〇八	六、五五〇	七四、七四三
同 五	三三、〇三〇	二、八二六	三五、〇五五	三、四一五	三八、四七〇
同 六	四四、七六五	二、〇七三	四六、八三八	九、八一	四六、九四九
同 七	四一、九三三	三、三九六	四五、〇三〇	七、二九	五二、〇六〇
同 八	四一、〇二二	二、四〇九	四三、四三一	三、六九九	四五、〇三〇
計	二四〇、一三三	一三、六〇五	二五三、七三六	二六、九六九	二八〇、七〇五

第六節 森林組合ノ設立獎勵

我が國ニ於ケル森林行政上、最モ注意ヲ拂フヘキハ森林施業ノ確立ニアリ。國有林及御料林ニ於テハ、其ノ基本計畫ヲ樹立シ、又公有林ハ政府ノ指導監督ノ方法如何ニ依リ、相當確立シ得ル途ノ存スルモ、唯小面積ノ民有林ニアリテハ、國土保安的或ハ經濟利用的ニ一定ノ施業法ニ依ルコト殆ント至難ニシテ、之カ合理的施業ノ誘導ハ、必スヤ合同セル組合ノ力ニ俟タサル可カラス。然ルニ、我國ノ民情、組合ニ依リ合同的ニ施業スルノ精神ニ乏シク、一片ノ法律ヲ以テ直ニ此ノ種ノ組合ヲ設立セシムルコト甚タ至難ナリ。殊ニ、荒地復舊ヲ目的トスル組合ノ如キハ半ハ私利ヲ離レタル事業ニシテ、之カ助長政策トシテハ、補助ノ適切ナルコト敢テ絮説ヲ要セサル所ナルヲ以テ、當初治水事業ノ一部トシテ、明治四十四年度ヨリ同四十八年度ニ至ル五箇年間ニ於テ、治水ニ關係アル森林組合一府縣平均十箇組合、即チ總數四百六十個ヲ設立セシメ、一組合平



均三百圓總額十三萬八千圓ヲ交付スルノ計畫ヲ以テ、爾來之カ勸誘獎勵ニ努メラレタルモ、大正九年度迄ニ九十一組合、此ノ施業面積五萬五千四百九町步ニシテ一萬九千餘圓ノ補助金ノ支出ヲ爲セルニ過キス。斯ノ如ク組合設立ノ遅々トシテ振ハサル所以ノモノハ、蓋シ、一般ニ組合思想ノ發達セサルニ基因スルニ外ナラサルヘシ。然レトモ、漸次文化ノ進展ニ伴ヒ、其ノ機運熟セントスル傾向アルヲ以テ、益々獎勵ヲ繼續スルノ必要アルハ言ヲ俟タス。本獎勵事業ノ成績ヲ示セハ次ノ如シ。

自大正二年  
至同 九年 森林組合設立獎勵成績

年 度	設立組合數	同上組合地區面積 町	獎 勵 金 円
自大正	六二	三三、五九、一七〇	一一、四〇、〇五〇
同 七	一七	一五、五四〇、七二〇	六、〇五八、九九〇
同 八	七	四、五四九、九二五	一、四九〇、四九〇
同 九	七	二、七四八、〇〇〇	八三三、〇九〇
計	九	五五、四〇九、一二五	一九、六八六、六二〇

備考 四四、元年度ニハ該當事項ナシ

第七節 國有林野ノ砂防設備

國有林野ノ砂防設備ニ關シテハ、大正五年度以降十年度ニ至ル六箇年度ノ繼續事業トシテ、總額二百六萬圓ヲ投スルノ計畫ヲ起シ、之ニ依テ年々施設シ來リタルモ、中途、物價騰貴ノ影響アリテ、各般事業ノ遂行ヲ困難ナラシムルニ至リ、砂防設備ノ如キモ、次表ニ示ス如ク計畫ヲ變更シ、尙若干豫算ヲ増加セリト雖、豫

期通り進行セサルノ遺憾ヲ免レス。

國有林砂防設備年度割豫定表

(大正七年度ニ變更セルモノ)

種類	五年度		六年度		七年度		八年度		九年度		十年度		計	單年度 六年度 七年度 八年度 九年度 十年度
	數量	經費	數量	經費	數量	經費	數量	經費	數量	經費	數量	經費		
堰堤大	三〇	六、〇〇〇	三〇	六、〇〇〇	三〇	六、〇〇〇	三〇	六、〇〇〇	三〇	六、〇〇〇	三〇	六、〇〇〇	三〇	六、〇〇〇
同 中	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇
同 小	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇	三〇	三、〇〇〇
石垣	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
張石	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
積工	一〇	五、〇〇〇	一〇	五、〇〇〇	一〇	五、〇〇〇	一〇	五、〇〇〇	一〇	五、〇〇〇	一〇	五、〇〇〇	一〇	五、〇〇〇
網狀工	五	五、〇〇〇	五	五、〇〇〇	五	五、〇〇〇	五	五、〇〇〇	五	五、〇〇〇	五	五、〇〇〇	五	五、〇〇〇
杭橋	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇	一	一、〇〇〇



林	1,000	10,000	22,500	35,000	32,000	33,400	27,500	37,500	37,000	17,100	18,000	33,000	15,600	10,000	(3)(2)(1)
水路工	1,000	10,000	22,500	35,000	32,000	33,400	27,500	37,500	37,000	17,100	18,000	33,000	15,600	10,000	(3)(2)(1)
監督工夫	20	6,000	50	15,000	50	19,500	50	33,500	20	9,000	10	4,500	200	76,500	(3)(2)(1)
雇員	20	6,000	50	15,000	50	19,500	50	33,500	20	9,000	10	4,500	200	76,500	(3)(2)(1)
監督小屋	10	1,000	20	2,000	20	2,600	20	5,000	10	1,000	10	2,000	70	8,600	(3)(2)(1)
通信運搬	1	100	1	200	1	260	1	510	1	100	1	200	70	1,000	(3)(2)(1)
雑用品	1	100	1	200	1	260	1	510	1	100	1	200	70	1,000	(3)(2)(1)
旅費	1	9,000	1	30,000	1	39,000	1	45,000	1	10,000	1	10,000	1	16,000	(3)(2)(1)
計	1	13,000	1	46,000	1	63,190	1	79,450	1	37,000	1	22,150	1	26,600	(3)(2)(1)
技手俸給	1	7,000	1	22,500	1	34,000	1	41,000	1	27,000	1	34,000	1	50,000	(3)(2)(1)
合計	1	110,000	1	446,500	1	646,190	1	794,500	1	370,000	1	221,500	1	266,600	(3)(2)(1)

該計畫ハ、施設ノ最急ヲ要スル箇所ニ付テ調査セラレタルモノニ係リ、之ヲ國有林野中ノ砂防設備ヲ要スヘキ全體ノ分量ヨリ見レハ、眞ニ些々タルモノナリ。若シ精密ナル調査ヲ遂ケ、要砂防地全部完成ノ目的ヲ以テ著手ストセハ、恐クハ幾億ノ經費ヲ費ヤスモ尙其ノ不足ヲ訴フヘク此ノ如キハ到底財政多端ナル國幣ノ克

ク應シ得ヘキ所ニアラサルヘシ。況ンヤ、特別經營事業ノ打切ニ依リテ、經費ノ捻出ハ、甚シク困難トナレル事情ノ有ル在リ。而モ、一般治水事業ノ進捗ニ從ヒ、其ノ步調ヲ共ニスルノ必要アルヲ以テ、大正十一年度ヨリハ、假ニ林地保全ノ爲ニスルモノニ在リテハ、森林費支辨トシ、營林上大ナル影響ナキモ、下流ノ障害ノ爲ニスルモノニ在リテハ、別途ノ經費ニ依ルノ希望ヲ以テ、各大林区署ニ向ケ、左記通牒ヲ發シ、之カ調査ヲ爲サシムルコトトナレリ。

國有林野砂防設備調査ニ關ス 件 (大正十年十二月山林局長ヨリ各大林区署長へ通牒)

國有林野ノ砂防植栽及設備ニ付テハ多年繼續施行シ來リ候處尙一般治水事業ノ進捗ニ順ミ相當調査ノ要アリト認メラレ候條左記事項ニ準據シ大正十二年十二月末日マテニ當局ニ着ス。様調査回報相成様致度此段及通牒候也  
追テ調査經費ニ付テハ各流域別ニ所要日數、備人料、旅費等ヲ豫定シ大正十一年及十二年度土木豫定案ニ計上相成度此段申添候

- 一、費途區分
- 甲、營林上大ナル影響ナキモノモ下流ニ及ホス利害多シト認ムルモノハ假ニ別途ノ經費支辨トシテ調査スルコト但シ技術上至難又ハ莫大ノ經費ヲ要シ實行困難ト認ムルモノヲ除ク
  - 乙、營林上大ナル影響ナキモノモ下流ニ及ホス利害多シト認ムルモノハ假ニ別途ノ經費支辨トシテ調査スルコト但シ技術上至難又ハ莫大ノ經費ヲ要シ實行困難ト認ムルモノヲ除ク
- 二、施工期間
- 甲、森林費支辨ニ依ルモノ
    - 第一期、主トシテ森林施業ノ見地ニ依リ最急ヲ要スト認ムルモノ及急施セサレハ被害ヲ増大スルノ不利アルモノ
    - 第二期、前項以外ノモノ
  - 乙、別途ノ經費支辨ニ依ルモノ
    - 第一期 河川改修、灌漑用水、水力利用其ノ他ノ公益關係上特ニ急施ヲ要スト認ムルモノ



第二期 前項以外ノモノ

三、調査方法

本調査ノ實地ニ付概測ヲ爲スモノトス但シ第一期ニ屬スル調査事項中崩壞面積、積苗、網工、編柵等並第二期工事ニ付テハ適宜ノ方法ニ依ルヲ妨ケス

四、圖書ノ調製

圖書ノ調製ハ左ノ各號ニ依ル

- (イ) 總括表 別紙様式ニ依ル
- (ロ) 説明書 各流域別(流域廣況ニ過クルモノハ支流別ニ)ニ地況(施業案規程以上可及的詳細ナルヲ要ス)林況、崩壞ノ原因及狀況、被害ノ程度、計畫ノ大要並參考トシテ既設砂防植栽及設備、御料及公私有林野ノ狀況、砂防工及荒廢地復舊事業、河川改修、水力ノ利用、上水、灌漑用水等ノ概要ヲ記載スルコト
- (ハ) 經費調書 各流域毎ニ費途及施工期ヲ區分シ崩壞面積、工事ノ種類、數量、單價、經費及雜費ヲ記載シ、設計、修繕、共進旅費等ハ計上スルヲ要セス但シ工事ノ單位ハ堰堤、護岸、編柵等ハ延長(間)、張石、網工、積苗等ハ面積(坪)ニ依ルコト
- (ニ) 位置圖 可成陸地測量部二十萬分一帝國圖若ハ二十萬分一輯製圖ヲ用ヒ關係國有林、荒廢區域、主要設備施行區域及公益事業ノ關係ヲ記入スルコト

以上

### 第四章 林野ノ整理

#### 第一節 御料林ノ整理

御料林野ハ、其ノ設定ノ當初國有林野タリシモノナルヲ以テ、舊藩以來、土地ト地元トノ關係ハ、一般ノ國有林野ト何等逕庭ヲ見ス、設定後ノ取扱モ亦兩者殆ント同一ノ軌道ヲ進ミ來レルモノ多シ。即チ林地確定ノ處置トシテ、境界査定ヲ必要トシタルカ如キ、或ハ社寺上地ニ對シテ舊來ノ緣故ヲ重シシ、委託林ノ制ヲ設

ケタルカ如キ、或ハ林地整理ノ方法トシテ、下戻其ノ他土地ノ特賣ヲナセルカ如キ、何レモ國有林野ノ處理ト稍々一致セル方法ヲ採リ來レリ。而シテ、下戻處分ハ、明治三十三年五月宮内省告示第七號ヲ以テ、御料地及立木竹下付規程ヲ公示シ、其ノ出願期限ヲ同三十四年六月末日トナシ、之カ許否ノ處分ニ付テハ、宮内省高等官及農商務省高等官並行政裁判所評定官中ヨリ選任シタル審査委員ノ審議ニ付スルコトトセリ。蓋シ農商務省ヨリ選任シタルハ、國有林野ニ於ケル下戻處分トノ均衡ヲ失セサラシメンカ爲ニシテ、行政裁判所ヨリ選任シタルハ、許否ノ本體カ行政處分ニ非ラサルヲ以テ、不許可ノ處分ニ對シ、申請人ヨリ之ヲ行政裁判所ニ出訴スルヲ得サルニ依リ、豫メ同裁判所ノ裁判ヲ經タルモノト同一ノ價值アラシメンカ爲ニ、特ニ此ノ如キ取扱ヲナシタルモノナリトス。又土地ノ特賣ニ付テハ、前記ノ如ク御料林野カ、元國有林野ヨリ編入ノ際、一地方所在ノ分ハ、其ノ全部ヲ御料局ニ引繼カレタルヲ以テ、大小ノ團地混淆シ、經營上當然整理ヲ要スルモノアルト、一面從來ノ緣故關係若ハ民有ニ適當セルカ爲、寧ロ拂下處分ヲナスヲ至當トスルモノアリシトニ依リ、明治三十一年一月告示第一號ヲ以テ、御料地特賣規程ヲ、同三十三年十一月告示第十一號ヲ以テ社寺上地御料林野特賣規程ヲ、同四十一年十二月宮内省令第十號ヲ以テ御料地拂下規程ヲ發布セラレタルモ是等ハ比較的小町歩ニシテ、其ノ多クハ緣故ノ付帶セル箇所ノ處分ニ屬シ、御料林野ノ整理トシテハ、極メテ消極的ニ行ハレシニ過キサリシナリ。然ルニ、時勢ノ發展ハ、漸次土地ノ利用ヲ促進スルニ至レルヲ以テ民間ニ拂下クヘキモノハ、速カニ之ヲ決定シ、同時ニ御料林野經營ノ基礎ヲ確實ナラシムルノ必要ヲ認メ、大正七年十二月皇室令第十六號ヲ以テ、不要存御料地處分令ヲ發布シ、特ニ土地整理ノ目的ニ依リ、積極的ニ其ノ拂下ヲ遂行スルコトトシ、大正八年四月拂下箇所ノ第一回告示ヲナシ、同十一年七月迄二十回ノ告示



ヲナセリ而シテ、該處分令左ノ如シ。

不要存御料地處分令

皇室令第十六號、大正七年十二月

第一條 御料地整理ノ爲ニ行フ土地ノ賣拂ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

賣拂フヘキ御料地ハ之ヲ公告ス

第二條 土地ノ賣拂ハ一般入札ノ方法ニ依リ競争ニ付スヘシ

第三條 土地ノ賣拂ハ左ニ掲ケタル場合ニハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 官署ニ土地ヲ賣拂フトキ

二 本令公布前ヨリ引續キ年期ヲ以テ貸付スル土地及其ノ殘地ヲ其ノ借受人又ハ土地ノ使用者ニ賣拂フトキ

三 產物特賣ノ慣行アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ特賣ヲ受クル者ニ賣拂フトキ

四 放牧ノ慣行アル土地及其ノ殘地ヲ放牧人ニ賣拂フトキ

五 本令公布前ヨリ部分木ノ仕付アル土地及其ノ殘地ヲ其ノ仕付人ニ賣拂フトキ

六 小面積ノ土地ヲ其ノ隣地ノ所有者ニ賣拂フトキ

七 地方團體ニ其ノ所在ノ土地ヲ賣拂フトキ

世傳御料ヲ解除セラレタル御料地ニ付テハ世傳御料解除公告ノ日ヲ以テ前項第二號及第五號ノ本令公布ノ日ト看做ス

第四條 前條第一項第二號乃至第六號ノ關係アル土地ハ其ノ各號ノ一ニ該當スル資格者ニ賣拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ限り適宜ニ之ヲ處分スルコトヲ得

土地ノ賣拂ニ付競争ニ付シタルモ競争者ナキトキ又ハ競争價格確定價格ニ達セサルトキハ亦前項ニ同シ

第五條 賣拂代金ハ事情ニ依リ其ノ分納ヲ許可スルコトヲ得

賣拂代金ノ分納ヲ許可シタル場合ニ於テハ買受人ナシテ擔保ヲ提供セシムヘシ但シ立木ナキ土地ノ賣拂代金ニ付テハ擔保ヲ提供セシメサルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テ分納金ノ納付ヲ怠リタルトキハ賣拂處分ハ初ヨリ其ノ效力ヲ失フ但シ既納ノ金額ハ之ヲ還付スルコトナシ

第六條 分納ヲ許可シタル賣拂代金ニハ利子ヲ附シ年賦ノ方法ニ依リテ之ヲ納付スヘシ但シ年賦金ハ各年ヲ通シ均等ナルコトヲ要ス

第七條 賣拂地ノ所有權ハ賣拂代金ヲ完納シタル時又ハ擔保ヲ提供シタル時ニ於テ買受人ニ移轉ス但シ擔保ヲ提供セシメスシテ賣拂代金ノ

分納ヲ許可シタル場合ニ在リテハ買受人ハ最初ノ年割分納金ヲ納付シタル後ハ無償ニテ其ノ土地ノ用法ニ從ヒ使用收益ヲ爲スコトヲ得

第八條 本令ノ規定ニ依ル土地ノ賣拂ハ帝室林野管理局會計ノ主管トシ之ニ關スル收支ハ該會計ノ歲入歳出トス

第九條 皇室會計令及附屬法令ノ規定ハ本令及附屬法令中別段ノ定アル場合ヲ除ケノ外之ヲ本令ノ賣拂ニ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二節 公有林野ノ整理

其一 部落有林野ノ統一

明治二十一年、市町村制ノ制定セララルヤ、市町村ヲ以テ最下級ノ地方公共團體トシ、其ノ福祉ヲ増進セシメンカ爲ニ、從來特別ノ財産ヲ有シタル部落ヲ併合シ、該財産モ亦之ヲ市町村有タラシメントスルノ意思タリシハ明瞭ナルモ、之カ爲、部落ニ對シ從來正當ニ享有シタル利益ヲ阻害スルノ危懼ナキニ非サリシヲ以テ、明治四十四年市町村制ノ改正ニ當リ部落有ノ林野ニシテ從來部落ノ所有シタルモノニ限り、部落ノ所有ヲ認メタルト共ニ、將來ノ取得ヲ許ササルノ趣旨ヲ、一層確實ニ表示セリ。而シテ、農商務省カ、特ニ其ノ統一ヲ獎勵スル所以ノモノハ、市町村制ノ本旨ニ副ハンカ爲ノミナラス、荒廢セル部落有林野ヲ善美ナル森林地タラシムルハ、治水及經濟上緊急ノ事項ニシテ、從來ノ如ク部落ノ經營ニ放委スルハ、荒廢ノ度ヲ益々進ムルコト明カナルヲ以テ、之ヲ機關ノ組織、財政ノ經理、事業ノ實行、上級官廳ノ監督指導ノ能ク行ハレ、林野經營上幾多ノ便宜ヲ有スル市町村ニ移シ、一市町村自治ノ基礎ヲ鞏固ニシ、治水ノ根源ヲ修メ、林產物ノ供給ヲ潤澤ナラシメントスルニ在リ。各府縣ニ於テモ、銳意之カ統一ヲ圖レルモ、尙從來ノ因襲ヲ固持スルモノ多キカ爲、急速ノ成功ヲ望ミ難キモノアルハ甚タ遺憾ナリトス。然レトモ、大正八年度迄ノ成績左ノ如ク



ニシテ、之ヲ明治林業史要ニ収録セル計數ニ比スレハ、一大進展ヲナセルモノト謂フヲ得ヘシ。

統一面積一〇三六、六四五町步	無償	無條件	四八四、三八〇町步
	有償	無條件	五三三、〇八六町步
	有償	條件附	一一五、五三町步
	有償	條件附	七、六二六町步
統一以外ノ離極面積			二七二、七〇一町步
統一未済面積			二、〇〇三、二二〇町步

其二、入會整理

公有林野ノ大部分ハ、古來入會ノ關係アリテ、其ノ產物採取カ、林力ニ相應スル間ハ一善制度タルヲ失サリシト雖、人口ノ増加ニ從ヒ、採取量ノ増進ヲ來タシ、林力以上ノ暴採ヲナセシカ爲、今日ノ如ク荒廢禿裸ヲ呈スルニ至レリ。從ツテ、之ヲ從前ノ儘放任スヘキニ非サルヲ以テ、當局者ハ整理ノ必要ヲ痛切ニ感シ、入會地ニ對シテハ關係團體ニ分割、賣却、讓與、交換又ハ使用區域ノ割當等ノ方法ニ依リ、之ヲ夫々處分セシメタル上、部落有ニ決定シタル土地ニ對シテハ其ノ共同使用ヲ要スル箇所ハ、之ヲ共同使用地タラシメ、一面造林豫定地及採草放牧地タラシムルモノニ對シテハ、各適當ニ區分シ、特ニ採草地ニ付テハ、各住民ニ其ノ使用區域ヲ分割シ、恰カモ自己所有地ノ如クニ之ヲ使用セシメ、漸次土地ノ改善ヲ進メントスルモノニシテ、大正八年度迄ノ左續左ノ如シトス。

二以上ノ市町村又ハ二以上ノ市町村ニ屬スレ部落ノ共同地ヲ關係市町村部落ニ分割シ又其一方ニ屬セシメタルモノ	市町村ニ歸屬	九一、七九一町步
	部落ニ歸屬	九〇、八三六町步
	歸屬未済	三六二、八七四町步

市町村經營	三三五、五二六町步
營林地及同豫定地	七八、二二三町步
其他	一一、二四三町步
開墾地及豫定地	九、四四九町步
牧場及同豫定地	一六、一四六町步
住民ニ使用區域割當採草地	一一四、二三五町步
其他共用ヲ廢シタルモノ	八九、一六八町步
未決定地	一、〇八五、五一八町步

其三、管理區分

公有又ハ社寺有ノ原野、山嶽、荒蕪地及森林タリシモノニシテ、現ニ荒蕪セルモノノ内、將來森林トシテ經營スヘキ土地ト、否ラサルモノトヲ區分セシムルコトハ、森林法施行規則ニ於ケル當然ノ業務ニ屬スルモ、現在ノ經濟狀態ヨリスレハ、森林地ト雖モ、寧ロ之ヲ開墾シテ田畑又ハ宅地トナス必要ノ箇所尠カラサルヘク又人家トノ距離若ハ地形ノ關係上、森林ヲ原野ニ改ムルヲ至當トスヘキモノ無キニ非サルヘキヲ以テ、地方ノ人口、耕地面積、牛馬頭數其ノ他各種ノ經濟狀態ト、將來ニ於ケル豫想或ハ土地ノ性質、其ノ他現狀ノ如何ヲ調査攻究シテ、林野全體ニ對スル利用區分ヲ確定スルノ必要ヲ認ムルニ至レルナル可シ。而モ此ノ如キハ極メテ慎重ヲ要スルト共ニ、容易ニ結了シ得ヘキニ非ラサルヲ以テ、各府縣ニテ於テハ、現在ノ規定ニヨリ其ノ實行ヲ督勵シツツアリテ、大正八年度迄ノ成績左ノ如シトス。

森林トシテ管理スルモノ	公有	五二七、九三三町步
	社寺有	一一、六七九町步



森林トシテ管理セサルモノ	公有	五六三、三二九町歩
計	公有	三、二五九町歩
	公有	八九一、二六二町歩
	公有	一五、九三八町歩
未決定面積	公有	一、〇八六、二七八町歩
	公有	二〇、四三六町歩

### 第五章 公有林野官行造林ノ開始

本事業ハ、夙ニ山林局ニ於ケル一箇ノ懸案トシテ、内議討究セラレタルモノナリシモ、久シク成立セス、漸ク大正七年末ニ至リテ、將來施設スヘキ重要事項中ノ一ニ加ヘラレ、爾來其ノ實行計畫ニ著手シ、翌年十二月閣議ノ是認スル所トナリ、同九年二月第四十二回帝國議會ニ該法案及九年度豫算案ヲ提出セラレ、衆議院ニ於テ可決、引續キ貴族院ニ上程中解散ノ爲、未了議案トナリ、同年七月第四十三回帝國議會ニ關係法案及豫算案ヲ再ヒ提出セラレ、兩院共滿場一致ヲ以テ可決シタルモノナリ。其ノ要旨及施行機關等左ノ如シ。

#### 其一、公有林野官行造林要旨

一、公有林野官行造林ノ必要及其ノ結果  
公有林野ノ造林獎勵ハ、明治四十三年度ニ於テ植樹獎勵事業ノ一部トシテ之ニ著手シ、明治四十四年度以降ニ在リテハ更ニ治水事業中ニ移シ、之ニ依リ施行セルモノ大正七年度迄ニ已ニ十四萬餘町歩ニ達セリ。然リト雖現在ニ於ケル公有林野ノ無立木地面積ハ、約二百萬町歩ノ多キヲ算シ、内將來森林トシテ經營スヘキモノ約百萬町歩アルヲ以テ、大正十八年度迄ニ治水事業費ヲ以テ施行スヘキ豫定面積三十五萬町歩ヲ控除スルモ、尙

約六十五萬町歩ノ無立木地ヲ殘存スヘシ。而シテ之ヲ從來ニ於ケル公有林野造林ノ成績ニ徵スルトキハ、獨リ市町村ノ力ヲ以テ、此ノ莫大ナル林野ノ造林ヲ達成セムコト固ヨリ不可能ニシテ、斯ノ如キハ殊ニ天然資源ノ豊富ナラサル我國土ノ利用上一日モ看過スルコトヲ得サル所ナルカ故ニ、其ノ約五割即チ三十三萬町歩ニ付收益分收ノ契約ニ依リ、國ニ於テ其ノ造林ヲ敢行シ、一面公有林野造林ノ促進ヲ圖ルト共ニ、併セテ將來ニ於ケル木材ノ需要ニ備ヘムトスルモノナリ。

- 右實行ノ結果ニ因テ生スル利益ハ
- (一)從來荒廢セル林野ヲ一變シテ法正ナル森林ト成シ得ルコト
  - (二)將來之カ成林ニ依リテ需要激増ノ傾向アル木材ニ對シ其ノ供給ヲ圓滑ナラシメ得ルコト
  - (三)市町村ハ無收穫ニ等シキ林野ヲ提供スルノ外殆ント資力ヲ投セスシテ之カ成林ニ伴ヒ巨額ノ收益ニ浴スルコト
  - (四)本計畫遂行ノ爲國ハ相當ノ收益ヲ得又市町村ハ最安固ナル基本財産ヲ造成シ從テ自治體ノ根柢ヲ鞏固ナラシメ得ルコト
  - (五)第二次ノ造林ハ官行ニ依ラス收益ノ一部ヲ割テ市町村自ラ優ニ之ヲ爲シ得ルニ至ルコト
  - (六)官行造林ノ結果地方公私林業ノ發達ヲ促進スルコト
  - (七)水源涵養、治水其ノ他國土保安上ニ及ホス效果多大ナルコト
- 等、其ノ主ナルモノニシテ、之カ一般經濟上ニ影響スル所決シテ尠カラサルヘシト爲ス

#### 二、造林計畫ノ大要



本計畫ニ就テハ、市町村ハ土地ヲ提供シ輕易ナル保護取締ヲ爲スノ義務ヲ負ヒ、國ハ相當ノ實行機關ヲ設置シ國費ヲ以テ造林ヲ施行シ、植伐期間ヲ通シテ之カ施設經營ノ任ニ當ルモノトス。

(イ)面積 三十三萬町步 人工植栽地 三十萬町步  
防火編林道除地 三萬町步

(ロ)期間 百二箇年

第一期 十五箇年 植栽事業

第二期 八十七箇年 撫育及伐採事業

(ハ)實行機關

三十箇所ノ事務所ヲ設ケ、大林區署監督ノ下ニ造林、土木、伐採等ヲ行フ

(ニ)造林樹種

杉、扁柏、赤松、落葉松、樺等

(ホ)年植面積

大正九、十兩年度ハ

同 十一年度ハ

同 十二年度以降ハ

同 二十三年度迄ハ

造林準備

一萬二千町步

植栽 二萬四千町步

(ヘ)國ノ支出

公有林野官行造林費ノ支出總額ハ、八千九十六萬六千三百三十八圓ニシテ、其ノ内第一期支出四千五百三萬五千八百三十九圓、第二期支出三千五百九十三萬二千九百九十九圓トナリ、其ノ第一期分ノ年次別經費次

ノ如シ。

年 度	經 費	備 考
大正九年度	五八七、〇七五圓	大正九年度ハ同年八月ヨリ實施見込ニ付經費五一六、七二圓ヲ要求ス
同 十 年 度	九九一、六〇二圓	
同 十 一 年 度	一、八八七、五九四圓	
同 十 二 年 度	二、五九五、九八七圓	
同 十 三 年 度	二、九四五、〇三四圓	
同 十 四 年 度	三、一六〇、五二五圓	
同 十 五 年 度	三、三五五、九六五圓	
同 十 六 年 度	三、四九二、三五六圓	
計	四五、〇三五、八三九圓	

(ト)市町村ノ支出

市町村ハ、土地ノ外保護費及諸税金ヲ支出スルモノナルモ副産物及撫育間伐材ノ無料採取ヲ爲スヲ以テ、之ヲ差引クトキハ現金支出總額ハ一千五百二十二萬四千圓ナリ。

(チ)收 入

收入總額ハ二十六億三千五百四十六萬二千圓ニシテ、全部第二期以後ニ生スルモノトス。

三、投資歩合及投資利廻

國及市町村ノ投資割合ハ第一期第二期ヲ通シ計算上大略五分五分トナリ、又右ニ依リ本事業ニ對スル投資利廻ヲ計算スルトキハ、國及市町村トモ各六分弱ニ當レリ。







三、駐在員ヲ設置シタル府縣  
造林地ノ選定、造林契約ノ締結其ノ他府縣事務ト聯關スル事項多キ府縣廳ニ、本造林事業費所屬ノ大林區署  
判任官ヲ當分配置セラル。其ノ内譯左ノ如シ。

- 九年度配置 一府二十縣
- 十年度配置 九縣
- 岩手、宮城、秋田、福島、群馬、神奈川、新潟、長野、静岡、京都、奈良、兵庫、岐阜、岡山、山口、鳥取、島根、徳島、熊本、佐賀
- 山形、栃木、長野、福井、三重、廣島、福岡、大分、宮崎

其三、造林豫定地及其ノ契約

一、造林豫定地

大正八年十二月山林局長ヨリ各府縣知事宛照會、同九年二月十日現在十四萬五千六百町歩ニ及ヒ、同年五月再調方照會、同年十月末日現在十五萬八千六百七十七町歩ニ上リ次テ各大林區署長ニ照會シ府縣廳調査ト林區署調査ヲ綜合シタル結果同十年三月二十日現在二十七萬四千二百九十四町歩トナリ、其ノ後ノ増減ヲ調査シタルニ同年九月末日現在三十三萬一千七百六十六町歩、同十一年二月末日ニ於テ三十三萬一千五百五十四町歩トナリ、當初計畫ノ豫定面積ヲ多少超ユルニ至レリト云フ。其ノ大林區署別内譯左ノ如シ。

大 林 區	總面積	内 譯	
		市町村有	部落有
青 森	四五、三七二	二七、七一六	一七、六五六
秋 田	二九、一四五	一六、五三五	一二、六一〇
東 京	一〇〇、五六六	六四、九五三	三五、六一三
大 阪	九〇、九二四	五九、二五〇	三一、六七四

高 知 一四、四七六 九、二九八 五、一七八  
 熊 本 二九、八一 八、八一 二、〇〇〇  
 鹿 兒 島 二〇、八六〇 六、五八五 一四、二七五  
 計 合 三三一、一五四 一九三、一四八 一三八、〇〇六  
 步 一〇〇、〇 五八、〇 四二、〇

本表豫定面積中ニハ部落有ニ屬スルモノ凡四割ニ上ルモ、一面整理統一中ニ屬スルヲ以テ官行造林ノ實施ニハ差支ナカルヘシ。

二、造林契約認可

大正十一年六月末現在ハ百七十五町村此ノ面積四萬九千八百八十七町餘歩ナルモ、目下進行中ノモノ亦尠シトセス、尙契約締結地ニ對シテハ、測量及造林案編成調査等造林實施ノ準備ニ著手セシメラル。

其四、事業施行

一、苗圃事業

大正九年度ヨリ着手シ、爾後引續キ施行シ、同十一年度豫算面積六百三十町餘歩トス。

二、新植事業

大正十一年度ヨリ新植ニ著手セリ、豫算面積一萬二千町歩トス。新植ニ伴ヒ保護設備、簡易道路ヲ設置ス。

三、官行造林ノ趣旨普及

大正九年度ニ於テ「公有林野官行造林のすゝめ」二萬五千五百部、公有林野官行造林ノ案二萬六千四百部ヲ印



刷シ、關係市町村其ノ他ニ配布シタル外、大小林區署、造林署、府縣廳ノ關係職員ヲシテ樞要ト認メタル地方ニ於テ本事業ノ趣旨ニ付説明等ヲ爲サシメ、地方民ノ諒解ニ努力セラル。同十年度以降ニ於テモ亦同シ。

(參考)

「公有林野官行造林のすゝめ」

一、公有林野官行造林ハ、市町村ノ爲メ起サレタ計畫デアリマス。公有林野官行造林ハ、從來市町村ニ於テ、資力其ノ他ノ關係カラ、造林ヲ行フ事ガ出來スニ、無立木地又ハ散生地トナツテキル土地ヘ、國ノ費用テ人工ノ造林ヲ行ヒマシテ、ソノ出來上ツタ林木ヲ、國ト市町村トガ分收スルノデアリマス。然シ之ハ市町村ノ爲メ計ルノデアリマスカラ、決シテ強制ヲ以テ行フノデアリナクテ、市町村ノ同意ガアル時ニ引受クルノデアリマス。又收益ヲ分收スル割合モ、ナルベク市町村ニ多ク利益ノ擧ガレ様ニト云フ趣旨ニナツテ居リマシテ、土地ニヨリマシテハ、地代、造林費ナドノ異ルコトガアリマスカラ、從ツテ多少ノ變動ハ免レマセシケレドモ、大體五分五分ト云フ、有利ナコトニナツテ居リマス。カウイフ譯デアリマスノニ、地方ニ因リマシテハ、官行造林ハ、公有林野官行造林ニ於キマシテハ、造林並ニ造林木ノ養成ノ必 上カラ、國ガ造林地ニ、地上權ヲ持ツコトトナツテ居リマスガ、造林ニ兼テノナイ限リハ之ヲ無料テ市町村ニ使ハセルバカリデアナク、樹木ノ伐採ヲ致シマスニ隨ヒ其ノ跡地ヲ市町村ニ返シマスノハ勿論、將來市町村ニ白ラ造林經營ヲスル能力カ充實シタ場合ニハ、市町村ニ有利ナ條件テ、造林地ヲソノ儘譲リマス。尙市町村ハ官行造林ノ後デモ、造林地内ノ柴草、落葉、落枝、菌類ナドノ產物ヲ採取スルコトハ勿論、造林地ノ二十年以内ノ間伐材ヲ採取スルコトガ出來ルノデアリマス。カウイフ次第デアリマスカラ、官行造林ト云フ事ハ、地元ノ人々ニ特別ノ不自由ヲ與ヘルモノデアリマセヌ。

二、官行造林ハ市町村ノ負擔ヲ輕クシマス。

市町村ノ所有スル林野ノ中デ、無立木地又ハ散生地デアルモノハ、假令治水上ニ重要ナ關係ハナクテモ、早晚市町村テ造林シナケレバナリマセヌ、ソシテ造林スルニツキマシテハ、市町村ガ自費テ經營スルカ、又ハ國ガ施行スル官行造林ニ依ルカ、何チラカ、一方ニ依ラナケレバナリマセヌ、然ルニ之ヲ自營スル場合ニハ全部ノ費用ハ、市町村ガ持タネバナラヌノデアリマシテ、ツマリ市町村費ナリ、夫役ナリデ、ヤラナケレバナリマセヌカラ、其負擔ハ中々容易デアアリマセヌ、ソコニナリマス、官行造林ハ、誠ニ市町村ノ負擔ヲ輕クシマス、何故カト申シマスニ、官行造林ノ場合ニハ國ハソノ必要ニ應ジテ、造林地ノ管理ヲ實行上ノ機關ヲ設ケテ植付バカリテナク補植手入カラ防火線ノ開設、果テハ間伐ノ實行、主伐木ノ賣揚マテモ、其ノ經營ノ任ニ當ツテ、尙此等ニ要シマスル總テノ費用ハ悉ク國カラ支出シマスカラ、市町村ハ唯從來通ノ租稅公課ヲ納ムル外ニ時々造林地ヲ見廻ツテ、火災、盜伐ナドニツキマシテ、消防ヲ防止ニ從事スレハ宜イノデアリマス、ソレデスカラ、無立木地又ハ散生地ヲ持ツテキル市町村テ、財力ガ乏シクテ新ニ植付ナスルコトカ出來ヌトカ、或ハ物價ノ高騰ノ爲ニ是迄ノ計畫通ニ新植ヲ繼續スルコトカ困難デアルトカ、又ハ補植手入ノ面積カ在外ニ嵩ムトカ、其ノ外市町村ノ迷惑ヲ知リナカラ、多クノ夫役ヲ課セホハ、新植ニ着手スルコトカ出來ナイナト、云フヤウナ處デハ、此ノ際早ク官行造林ヲ選ムコトカ、適切デアルト思ハレマス。

三、官行造林ニ於キマシテハ、市町村又ハ其ノ住民ハ事業上ノ心配ハ除カレマス。

ソレハ從來市町村テ造林チ自營スル場合ニハ、往々府縣カラ下附セラレタ苗木ヲ當テニシテオイダカ、數量ヲ思フ程得ラレナカツタトカ、苗木ヲ自己ノ樹苗圃テ養成シタカ、枯損カ甚ダシクテ、遂々植付數ニ不足カ出來シタトカ、苗木ヲ買入レル豫定デアツタガ、豫算ヨリ遙カニ時價カ騰ツタトカ云フヤウナ不慮ノ事故ガ起ツテ、已ムテ得ズ植付ノ計畫ヲ減少シタリ、又ハ之ヲ中止シタト云フヤウナ苦情ヲ聽クコトガアリマス。ソノ他折角今迄植付シテ來タガ殊ノ外成績ガ不買テ市町村内一般ノ氣受ケガ惡ク、從ツテ今後ノ事業ハ手控セホバナラヌトカ、補植手入ノ面積ガ増加シテ餘リ度々ノ夫役ヲ掛ケルコトカ困難デアルカラ、新植ノ方ハ引續イテ施行スルノモ如何ト、已ムテ得ズ躊躇スルヤウナ地方モアリマス、カウシテ市町村ノ當事者トシテハ、非常ニ苦心シナガラ手遣ヤ不成績ノ爲ニ、造林事業ノ進捗ヲ妨ゲラレタ例ハ珍ラシクナイヤデアリマス。ソウデアリマスガ、官行造林ニ依ルコトニシマス、事業ハ全部國テ受持マシテ、要所々々ニ造林場ヲ設ケ、相當ノ専門技術者ヲ置キ、所要ノ樹苗ヲ養成シ、ソシテ造林ノ設計、植樹、補植、下草刈リ、護根、枝打、臺切、間伐ノ外防火線ヤ歩道ノ切リ開キナドヲ行ヒマシテ、造林地ノ管理ヲ致シマスカラ、市町村又ハ市町村住民ハ居ナガラ、荒廢シテキタ公有林野ヲ能ク整ツタ立派ナ森林トスル事ガ出來ルノデアリマス、之ヲ市町村テ自カラ經營シテ行クノニ比較シマスレハ、市町村當事者トシテノ苦心ニ雲泥ノ差違カアリマス。

四、公有林野官行造林ニヨレバ、市町村ノ享ケル利益ハ夥クアリマセヌ。

官行ニヨツテ造林スル場合ニハ、下草、落葉、落枝、樹實、菌類、枝條ナドヤ、新植後凡二十年以内ニ手入ノ爲ニ切ル間伐材ハ、市町村ガ採取スルコトガ出來マス。勿論造林地ノ保護取締ノ義務ヲ負フ代價トナルノデアリマスガ、其ノ收入トシテハ、決シテ僅少ノモノデアハナイノデアリマセウ、又官行ニ依ツテ造林セラレマシタ樹木ノ中デ、前記シマシタ間伐材ヲ除イタ以外ノモノハ、總テ國ト市町村トガ分收シマス、其ノ分收割合ハ植付箇所ノ如何ニヨツテ、一様ニモ申サレマセヌガ、概シ五分五分即チ五官五民トナル答デ、市町村ハ無收入ニ等シイ林地ヲ國ニ任セタ爲ニ、殆ント資本チカケスシテ、此ノ分々前ニ與カルノデアリマス。之ヲ國有林野ノ從來ノ部分林等ニ比ヘマシタナラハ、ソノ民收割合ノ割合ノ良イコトハ、明カデアリマセウ、ソシテ國ハ植付タ樹木ノ主伐チ行ヒマシテ、產物ノ分配ヲ濟シマス、造林地ノ地上權ヲ解除イタシマ



ス、市町村ハソノ分配セラレマシタ代金ニ依ツテ、伐採跡地ノ造林ヲ行ヒマシテモ、尙巨額ノ剩餘カ出来ルノデアリマス、此ノ様ニシテ新ニ第  
二次ノ造林ヲ行フ事カ出来マスレハ、將來自治體ノ根柢ヲ固メルニ足ル安全ナ基本財産トナリマスカラ、市町村ノ受クル利益ハ決シテ餘クアリ  
マセヌ。

五 官行造林ハ地元民カ採草採柴ヲシマスニ付キマシテ何等ノ困難モ感シマセヌ。

地元民ニ於キマシテ、官行造林ノ爲ニ、是迄通ニ下草ヤ落葉ヤ小柴ナトノ無料採取カ出来ナラダラウト、懸念スル人達ガアルサウアスガ、  
此等ノ副産物ハ前項ニモ述ヘタ通り全部地元ノ取得トナル譯デアリマシテ、市町村ニシマシテモ、從來地元民ニ無料採取セタモノデアリマス  
ナラ、官業ト成ツタカラトイツテモ、別段變リガナイ筈デアリマス。國ハ植付済ノ箇所モ植付後數年ノ間ハ勞銀ヲ出シテマデモ、下草ヲ刈拂ハ  
セル位デアリマスシ、又植付ヤウトスル地面ニ、野生ノ樹木カアリマストキハ、地帯ノ爲ニ植付ノ前ニ伐採シテ置カネバナラヌノモアリマス、  
又ソノ植付タ樹デモ少シ生長シテ來マス、除伐ヤ枝打ヤ間伐ヲシナケレバナリマセヌカラ、之等ノ主副産物ハ、ソレこそ從前ニ増シテ豐富ト  
ナルデアリマセウ、從ツテ地元民ニ惡イ影響ヲ及ボスナドノコトハ、毫モ無イコト、思ヒマス。

六 官行造林ニヨリマスト地元ニ落ル勞銀ハ割合ニ多イノデアリマス。

官行造林ハ、植付ヤ手入ナト、尙モ造林上必要ナ作業ハ疎漏ナキヤウ致シマシテ、少シモ怠リマセンカラ相當費用モ入りマス、ソノ費用ハ悉ク國  
カラ支拂マスカラ、市町村ガ支拂フテ、市町村民カ收入シタリ、又夫役ニヨツテ市町村民ヲ使ツタリスルモノトハ、大シタ違ヒテ、大體同市町村民  
各自ノ現金取得トナルモノデアリマスカラ、市町村民ハ、年々コノ官行造林ニヨツテ、自己ノ取得ヲ増シテ行ケマス。今假ニ百町歩ノ公有林  
野ニ官行造林ガ始マルモノトシテ、五ヶ年間ニ杉扁柏ヲ植付ケル計算ニシマス、一ヶ年當リノ新植二十町歩トナリマシテ、植付カラ十四ヶ年  
目迄ニ、補植、刈拂、選切、枝打等ノ爲ニ使役スル人夫總數一萬三千餘人、毎年平均九百餘人トナリマシテ、一日一人ニ付一圓五十錢ト見テモ千  
三四百圓ノ手取りトナリマス、農閑期三二十日ノ間ニ取得スル賃銀トシテハ、實ニ愚カニ出来ナイ金額デ、市町村民ニトリマシテハ、確實ナ一ツ  
ノ副業デアリマス。マダ此ノ外ニ防火線ヤ歩道ノ設備、間伐ヤ主伐ノ作業ニ伴ツテ、夥カラ勞銀ヲ受ケルノモ、皆市町村ノ人々デアリマス。

七 公有林野ノ無立木地ハ割合ニ廣イカラ、今ニ於テ、速ク造林ヲシマセヌト後キツト取返シノツカヌ悔ガアリマス。

造林ノ仕事ハ多額ノ費用ガカ、リマスバカリテナク、其ノ投シタ費用ヲ回收シマシテ、利得ヲ見ルコトニナリマスマデニハ、中々歳月ガカ、リ  
マスカラ、他ノ諸事業ニ比ヘマス、何ウシテモ急ラレ易イ様ニ見受ケラレマス、殊ニ今日ノ市町村テハ、出費ガ非常ニ多端ナ折柄アスカラ、  
造林ノ方ナドニ投資スルノハ、一寸困難ノヤウデアリマス。從來治水費ヲ補助獎勵シタモノナドモ、到底豫期通ニ進マナイニ拘ハラズ、現在デ  
ハ無立木地トナツテキル公有林野ノ中、是非共森林トシナケレバナラヌ見込ノ箇所ガ、約百萬町歩モアリマシテ、ソノ中大正八年度以降ニ、治  
水費ニヨツテ補助ヲシテ造林サセル豫定ノ、三十五萬町歩ヲ除イテモ、猶六十五萬町歩ト云フ廣大ナ無立木地ヲ殘スコト、ナリマス。コノヤウ

ナ次第デアリマスノニ、我邦テハ近時木材ノ需要ガ、大イニ増加シマシテ、此ノ按配テ進ンテ行キマシタナラ、將來ハ木材ノ缺乏ヲ見ルト云フ  
虞ガアルバカリテナク、天然資源ノ豐カテナイ我邦ニ於キマシテ、林野全體ノ約四分ノ一ヲ占メテキル公有林野チ、永ク不生産ノ有様ニシテ捨  
テ置クコトハ、國土ノ利用上カラ考ヘマシテモ、國民ノ一日モ看過スルルコトガ出来ナイ所デアリマス。

八 資力ノ乏シイ町村モ、官行造林ニヨルト、基本財産ヲ造ルコトガ出来マス。

ツクム世ノ有様ヲ考ヘテ見マスト教育ト云ハズ産業ト云ハズ、ソノ外イロノノ仕事ハ、各々市町村即チ自治體ガ基本トナルノデアリマスカ  
ラ、ソレ等ノ仕事チスルニツキマシテモ、森林ノヤウナ、先ヅ一番安心テ確實デアル基本財産ヲ造ツテ置カネバナリマセヌ、トリヲカ資力ノ乏  
シイ市町村テ幸ニモ、林野ヲ持ツテキル處ハ、尙更ソノ必要ガ感セラレマス。何ウシテモ之ヲ造ツテ地方財力ノ増殖ヲ圖リ、自治ノ根柢ヲ鞏固  
ニスルト云フコトハ、亦刻下ノ急務デアラウト思ハレマス。

公有林野官行造林ノ要

一、公有林野官行造林ノ趣旨

公有林野ニ付テハ、政府ハ、明治四十四年度以來、補助金ヲ交付シテ、極力造林ノ獎勵ニ努メマシタケレドモ、右十年間ニ造林ヲ終リマシタ  
ハ、全國テ、僅ニ、十四萬町歩デアリマシテ、尙約百萬町歩ノ要造林無立木地ガアリマス。斯ノ如ク、公有林野ノ造林ノ進ミマセヌノハ、木材  
ノ世界的缺乏ノ今日、洵ニ遺憾デアリマス。是レ畢竟地方公共團體ノ財政、其ノ他ノ事情ノ爲デアリマシテ、獨リ公共團體ノ爲ニ、悲シムベキ  
コトデアアルノミナラズ、新ニ五大強國ノ班ニ入り激烈ナル經濟競争ト、重大ナル國際責任トヲ覺悟セザル可カラザル帝國ノ前途ニ對シ、寔ニ憂  
慮スヘキ事態デアリマス。是レ政府ガ、今回公有林野官行造林法ヲ制定シテ、公有林野ニ官行造林ヲ行ヒ、其ノ收益ハ、國ト公共團體トノ間ニ  
分收スル計畫ヲ立テタ所以デアリマシテ、此ノ計畫ノ趣旨ハ、一面ニ於テハ、急速ニ、全國ノ要造林公有林野ノ造林ヲ完成シテ、將來益々増加  
ノ一方ニ在レ、木材ノ需要ニ對シ準備ヲ爲シ、國家ノ富強ヲ圖ルト共ニ、他面ニ於テハ、不知不識ノ間ニ、公共團體ニ偉大ナル基本財産ヲ作ラ  
シメテ、自治ノ鞏固ヲ圖ラシムトスルノ趣旨デアリマス。此ノ方法ニ依レハ、公共團體ハ、唯土地ヲ提供シ、輕微ナル保護ヲ爲スバカリテ、  
將來儲蓄タル基本財産ヲ作ルコトガ出来マス。

二、公有林野官行造林契約

公有林野ノ官行造林ハ、國ト公共團體トガ契約ヲ結ビ、國ハ公共團體ノ提供スル林野ニ付キ、地上權ヲ設定シテ造林ヲ行ヒ、其ノ造林シタ樹木  
ハ、之ヲ國ト公共團體ノ共有トシ、伐期ニ到リ其收益チ、分收スル方法ヲ行ヒマス。此ノ契約チ、公有林野官行造林契約ト申シマス。公有林野  
官行造林ニ於テハ、前述ノ如ク、造林地ニ國ガ地上權ヲ有スル契約チ爲シマスカ、此ノ地上權ハ、造林並造林木ヲ維持スル爲ノ必要上、國ガ之



ナ有スルノデアリマシテ、造林木ヲ伐採シタ後ニハ、土地ヲ尙國ニ於テ管理スル必要ガアリマセムカラ、土地ハ造林シタ樹木ノ伐採毎ニ公共團體ニ、返スコト、ナリマス。

三、國ノ負擔

公有林野官行造林地ノ植樹、補植、手入、防火線ノ設置等、造林ニ必要ナル一切ノ行爲ハ、國ニ於テ之ヲ擔當シ、大林區署ノ監督ノ下ニ、公有林野官行造林署、公有林野官行造林署ノ無イ地方デハ、小林區署ガ施行致シマス。ソレテ愈々造林ニ著手シマシタ後ニハ、元々、公有林野ノ造林ノコトデアリマスカラ、努メテ造林人夫ノ雇上ゲニ應セラレコトヲ希望シマス。

四、植栽樹種及施業ノ計畫

植栽スル樹種ハ、公共團體ノ同意ヲ得テ定メ、其ノ植栽、伐採等ノ計畫ハ、公共團體ノ希望ヲ聞キ、府縣知事ト協議シテ定メマス。

五、公共團體ノ負擔

公共團體ハ、土地ニ地上權ヲ設定シテ、之ヲ提供スル外、林地ヲ保護スルノデアリマス。造林地ノ保護ハ

- (一) 火災ノ豫防及消防
- (二) 盜伐、誤伐、侵襲其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
- (三) 有害鳥獸ノ驅除
- (四) 境界標、其ノ他標識ノ保存
- (五) 大林區署長ノ指定アルトキハ看守人ヲ配置スルコト、

六、公共團體ノ權利

- (一) 下草、落葉及落枝
- (二) 樹實及菌蕈ノ類
- (三) 手入ノ爲伐除スル枝條ノ類
- (四) 植樹後二十年内ニ於テ手入ノ爲伐除スル樹木ヲ採取スル權利ガアリマス。從テ官行造林ヲ實行致シマシテモ、右等ノ產物採取ノ關係ハ從來ト異リマセム。

七、收益ノ分收歩合

收益分收歩合ハ、國ノ出資或公共團體ノ出資ノ割合ニ依リ計算スレバ、大體五分五分ノ割合トナルカラ、大體ハ、之ヲ標準トシマス。ケレドモ所ニ依リ地代、造林費其ノ他ノ費用ノ異ナルニ從ヒ、多少ノ異同ヲ生ズルコトハ已チ得マセム。

八、收益分收ノ方法

收益分收ノ方法ハ、國ニ於テ樹木ノ賣拂ヲ行ヒ、代金ヲ以テ分收シマス。但シ、公共團體ニ於テ、其ノ分收スヘキ樹木ヲ、將來ノ爲ニ立置ク必要ナル場合、又ハ公共團體ニ於テ建築用材ヲ必要トスル場合等ニハ、立木ノ儘分ケルコトガアリマス。

九、造林地ノ土石ノ處分或造林地ノ貸付使用

造林地ハ、樹木ノ植栽、或ニ植栽シタル樹木ノ維持ノ爲、國ニ於テ地上權ヲ設定シ、林區署ニ於テ之ヲ管理シマスケレドモ、國ガ之ヲ管理スル所以ハ、唯公有ノ無立木地ニ造林ナシマシテ、市町村ノ爲ニ、將來鞏固ナル基本財産ヲ造ル外、他意アリマセムカラ、造林地ノ土石賣拂ハ、林區署ノ承認ヲ受ケテ、公共團體自ラ爲スコトヲ得ヘク、又林區署ノ承認ヲ受ケテ、造林地ヲ無料テ使用スルコトカ出來マス。尤モ造林地ヲ他人ニ貸付ケル場合ハ、公用公益ノ爲特別ノ必要アル場合、又ハ造林地ノ事業上障害トナラザル場合ニ限リマシテ、林區署ニ於テ貸付ヲ爲シ、貸付料ハ公共團體ノ收入トシマス。

十、公共團體林業ノ將來

斯クシテ造林シタ森林ハ、杉約六十年、檜約七十年、松約四十年、樺約二十年テ伐期ニ達シマスカラ、後々輪伐ノ用意ナスル爲、早ク切取分ハ大體杉四十六年目、檜六十年目、松三十二年目、樺十六年目頃ヨリ主伐ニ着手シマシテ、各々適當ノ整理期間ニヨリ、漸次ニ伐採ヲ致シマスカラ、公共團體ハ其ノ分收金ノ一部ヲ以テ、更ニ第二次ノ造林ヲ行ヒ、永久ニ公有林野ヲ繁茂セシメ置クコトガ出來ル計畫デス。若シ公共團體ノ實力ガ充實シテ、其ノ森林ガ未ダ伐期ニ達セヌ前ニ、官收分ノ拂下ヲ受ケテ、自ラ其ノ後ノ林業ヲ營ムトスル場合ニ於テ、其ノ實力ガ充分ナリト認メタトキニハ、何時デモ契約ヲ解除シテ、土地ハ公共團體ニ返シマス。此ノ場合ニ於テハ、公共團體ハ、國ノ持分ニ相當スル金額ヲ納ムレハ、由全體ノ權利ヲ讓受ケルコトガ出來マス。尙此場合ニ於テ林地ガ未ダ幼齡林テ、利用價值ヲ持タヌトキハ、造林ノ資本金或ニ利息ニ當ル金額ヲ支拂ヘバ足リルデアリマス。

十一、官行造林實行ノ順序

官行造林ハ、公有林野ノ統一、入會整理、管理區分ノ濟シタ地方ニ付キ、實力ノ比較的乏シイ公共團體ヨリ、實行致シマスカラ、大林區署或府縣廳ノ勸誘アルトキハ、出來得ル限リ速ニ、其勸誘ニ應ズルノガ得策デス。

其六、關係法規



大正九年七月以降ニ於テ公有林野官行造林法其ノ他ノ法規ヲ發布セラル。其ノ主ナルモノ次ノ如シ。

公有林野官行造林法

法律第七號

大正九年七月二十七日

- 第一條 國ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體トノ契約ニ基キ收益ヲ分取スルノ條件ヲ以テ公有林野ニ造林ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 前條ノ規定ニ依リ造林ニ係ル樹木ハ國ト公共團體トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分取ノ歩合ニ均シキモノトス
- 第三條 國ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ニ同條ノ契約ノ存續期間中地上權ヲ有ス
- 第四條 公共團體ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野又ハ第二條ノ規定ニ依リ持分ヲ處分スル場合ニ於テハ國ノ承認ヲ受クヘシ
- 第五條 第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ノ產物ニ關スル權利ニシテ國ニ屬スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該公共團體ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公有林野官行造林地ニ付森林法ヲ適用スルノ件

農商務省令第三十三號

大正九年九月三十日

公有林野官行造林地ニ付森林法ヲ適用スルノ件左ノ通定ム  
公有林野官行造林法ニ依リ造林地ニ付テハ森林法第十八條第二項及國ト樹木ヲ共有スル者ノ持分ノ限度ニ於テ森林法第二十八條乃至第三十條ノ規定ヲ適用スルノ外森林法中國有林ニ關スル規定ヲ適用ス

附 則

本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公有林野官行造林法施行期日ノ件

勅令第四百二十五號

大正九年九月二十五日

公有林野官行造林法ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

公有林野官行造林法施行令

勅令第四百二十六號

大正九年九月二十五日

- 第一條 國ハ造林地ノ植樹、補植、手入、防火線ノ設置其ノ他造林ニ必要ナル行為ヲ爲ス
- 第二條 公共團體ハ造林地保護ノ爲左ノ事項ヲ行フノ義務ヲ負フ
  - 一 火災ノ豫防及消防
  - 二 盜伐、誤伐、侵襲其他ノ加害行為ノ豫防及防止
  - 三 有害鳥獸ノ驅除
  - 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
  - 五 大林區署長ノ指定ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 第三條 公共團體ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得
  - 一 下草、落葉及落枝
  - 二 樹實及菌蕈ノ類
  - 三 手入ノ爲伐除スル枝條ノ類
- 第四條 植樹後二十年內ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木
- 第五條 造林著手後天然ニ生ジタル樹木ハ之ヲ造林契約ニ依リ造林ニ係ル樹木ト看做ス造林著手前ヨリ存スル樹木ニシテ造林ニ係ル樹木ト共ニ生育セシムルモノ亦同シ
- 第六條 根株ハ別段ノ契約アル場合ヲ除クノ外公共團體ノ所有トス
- 第七條 造林地ノ收益分取ノ歩合ハ國及公共團體各十分ノ五ヲ標準トシ地代、造林費其ノ他造林契約ノ實行ニ要スル費用ヲ參酌シテ之ヲ定ム
- 第八條 造林地ノ收益分取ハ其ノ賣拂代金ヲ以テ之ヲ爲ス但シ大林區署長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ材積ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 賣拂代金ヲ以テ收益分取ヲ爲ス場合ニ於ケル樹木ノ賣拂及材積ヲ以テ收益分取ヲ爲ス場合ニ於ケル分取樹木ノ指定ハ當該官廳之ヲ行フ
- 第十條 造林ニ係ル樹木ニ關シ第三者ヨリ受ケタル賠償金其ノ他ノ金額ハ其ノ請求ニ要シタル費用ヲ控除シ收益分取ノ歩合ニ依リ之ヲ分取ス



- 第十條 公共團體造林ノ土石ヲ處分セムトスルトキハ當該官廳ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十一條 公用若ハ公益事業ノ爲必要アルトキ又ハ造林地ノ經營ニ支障ナキトキハ當該官廳ハ造林地ヲ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得
- 第十二條 左ノ場合ニ於テハ大林區署長ハ造林契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得
  - 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
  - 二 公共團體自ラ造林地ノ經營ヲ爲サムトスル場合ニ於テ經營ノ能力確實ナリト認メタルトキ
  - 三 契約ノ目的ヲ達スルコト能ハスト認メタルトキ
  - 四 公共團體造林地又ハ造林ニ係ル樹木ノ持分ヲ處分シタルトキ
- 第十三條 前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ直ニ收益分收ヲ爲ス
- 第十四條 前條第二號又ハ第四號ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ公共團體ハ大林區署長ノ指定ニ從ヒ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ有スル持分ノ價額ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ但シ其ノ金額方造林ノ爲國ノ支出シタル金額ト之ニ對スル重利計算ニ依ル年五分ノ利息ニ相當スル金額トノ合算額ヲ納付スヘシ
- 公共團體前項ノ規定ニ依ル金額ヲ納付シタルトキハ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ有スル權利ヲ取得ス

附 則  
本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 公有林野官行造林法施行規則

大正九年九月三十日

農商務省令第三十二號

公有林野官行造林法施行規則左ノ通定ム

- 第一條 造林契約ヲ締結セムトスルトキハ大林區署長ハ地方長官ト協議シ造林箇所、植栽樹種、契約ノ在續期間及收益分收ノ歩合ヲ定メ公共團體ニ之ヲ提示スヘシ
- 第二條 造林契約成立シタルトキハ大林區署長ハ公共團體ト共ニ造林契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ
- 第三條 大林區署ニハ別記様式ニ依ル公有林野官行造林地臺帳ヲ備フヘシ

公有林野官行造林地臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 記入番號
- 二 造林地ノ所在
- 三 造林地ノ面積
- 四 公共團體ノ名稱
- 五 契約ノ年月日
- 六 地上權登記ノ年月日及番號
- 七 存續期間
- 八 收益分收ノ歩合
- 九 公共團體ノ所有トシテ造林地ニ存置スル樹木ノ種類及本數
- 十 權利ノ處分及其ノ事由

- 國有林野臺帳規程及國有林野臺帳及圖面謄本抄本下付規程ハ公有林野官行造林地臺帳ニ關シ之ヲ準用ス
- 第四條 造林地ノ施業計畫ヲ定メタルトキハ大林區署長ハ之ヲ公共團體ニ通知スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第五條 公共團體ハ造林地ノ保護及產物ノ採取ニ付當該官廳ノ指揮ニ從フヘシ
- 第六條 公共團體ハ造林地ノ保護及產物ノ採取ニ關シ規定ヲ設ケ大林區署長ノ承認ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ
- 第七條 造林地ニ火災又ハ盜伐アルトキハ公共團體ハ直ニ其ノ防止ニ必要ナル措置ヲ執リ其ノ旨當該官廳ニ届出ツヘシ造林地ノ附近ニ火災發生シ造林地ヲ害スルノ虞アルトキ亦同シ
- 造林地若ハ其樹木ニ異狀ヲ生シタルトキ又ハ造林地ノ附近ニ病蟲害其ノ他ノ異狀ヲ生シ造林地ニ損害ヲ及ボスノ虞アルトキハ公共團體ハ其ノ旨當該官廳ニ届出ツヘシ
- 第八條 公共團體造林地ニ看守人ヲ置キタルトキハ其住所氏名ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ
- 第九條 公共團體ハ當該官廳ノ承認ヲ受ケ造林地ヲ使用スルコトヲ得
- 第十條 公共團體造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ニ付承認ヲ受ケムトスルトキハ相手方ト連署連印ノ上願書ヲ大林區署長ニ提出スヘシ
- 第十一條 造林地ノ地上權ニ關スル登記ハ大林區署長之ヲ囑託スヘシ
- 第十二條 國有林野法施行規則第五章、明治三十八年農商務省令第二十八號、明治三十八年農商務省令第三十六號、明治三十九年農商務省令第



二十五號、國有林野產物賣場規則及國有林野產物極印規則ハ公有林野官行造林地ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公有林野官行造林法施行ノ目ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第 號	國 市 郡	町 大字	字	番(ノ内)	公共團體ノ名稱	公共團體ノ所有トシテ造林地ニ存置スル樹木ノ種類及本數	權利ノ處分及其ノ事由	摘要	收益分收ノ歩合	存 續 期 間	地上權登記ノ年月日及番號	契約ノ年月日	積 實 測 面 積	面 積	臺帳面積

注意

- 一 用紙西ノ内紙
- 二 臺帳ノ附屬圖トシテ別ニ實測圖ヲ調製保存シ之ニ臺帳ノ記入番號ヲ附シ臺帳ト圖面トノ對照ニ便ナラシムヘシ
- 三 本臺帳ハ一契約毎ニ之ヲ調製シ大字、字、地番二以上ナルトキハ造林地所在欄ニハ何大字何字何番外何筆ト記載シ裏面内譯欄ニ之ヲ列記スヘシ但シ實測面積ハ圍地毎ニ合併記入スヘシ

(裏面)

内譯

郡(市)	村(町)	大字	字	地 番	臺帳面積	實測面積

(参照)

明治三十二年八月三日農商務省令第二十五號國有林野法施行規則第五章ハ貸付及使用ノ件、同三十八年十二月十五日同第二十八號ハ森林收入未納金延納許可ニ關スル件同年十二月二十八日同第三十六號ハ國有林野、產物及製品賣場ニ關シ保護金又ハ延納金擔保トシテ提供スル記名有價證券ニ關スル件、同三十九年九月十三日同第二十五號ハ國有林野ノ貸付、使用ニ關シ願書、指令ヲ省略シ得ル件ナリ

公有林野官行造林法施行手續

大正九年十月一日

農商務省訓令第九號

- 第一條 大林區署長造林契約ヲ締結セムトスルトキハ面積、植栽豫定樹種、植栽豫定期間、存續期間及收益分收ノ歩合ヲ具シテ農務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 造林契約ヲ締結シタルトキハ大林區署長ハ之ヲ農務大臣ニ報告スヘシ
- 第二條 大林區署長造林契約ヲ解除又ハ變更セムトスルトキハ農務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 造林地ニハ境界保存上必要ト認ムル箇所ニ境界標ヲ建設スヘシ
- 第四條 大林區署長耕地整理地區編入ニ關シ同意ヲ爲サムトスルトキハ當該公共團體ノ意見ヲ添ヘ農務大臣ニ稟伺スヘシ
- 耕地整理地區ニ編入シタル區域ニ付テハ造林契約ヲ解除スヘシ
- 第五條 造林地ノ施業計畫ハ大林區署長地方官ト協議ノ上公共團體ノ意見ヲ聽キテ之ヲ定ムヘシ



前項ノ施設計畫ハ一公共團體ニ屬スル林野ヲ一施業區域トシテ編成スヘシ  
第六條 前數條ニ定ムルモノノ外公有林野官行造林ノ事務ハ固有林野ノ事務ニ準シ之ヲ處理スヘシ

### 第六章 林業ノ指導獎勵

#### 第一節 一般林業ノ獎勵

本邦ノ林野中、公私有林野ノ荒廢ヲ極メタルモノ尠カラザリシヲ以テ、各府縣ニ於テモ夙ニ之カ恢復ヲ圖リ、種々ノ施設ヲ試ミタリシガ、地方財政其ノ他ノ關係上、意ノ如ク進捗セズ、豫期ノ目的ヲ達成スルコト能ハザリシニ依リ、政府ニ於テ差向キ公有林野ノ造林速成ヲ促進セントシ、公有林野造林獎勵規則ヲ發布シ、相當ノ補助金ヲ交付スルノ途ヲ開キ、之カ助成ヲ爲シタリ。然ルニ、一般民有林野ニ對シテハ、未タ何等ノ施設無ク、且民有林野ノ狀況ハ、歐洲大戰ノ餘波ヲ受ケ、林産物ノ需要激増ト共ニ、甚シク過伐ノ弊ニ陥リ伐採跡地ノ造林亦之ニ伴ハス、益々看過シ難キノ狀、一層顯著トナリタルヲ以テ、之カ對策トシテ、政府ハ造林上其ノ根源ヲ爲ス樹苗供給ノ潤澤ヲ圖ルコト、並一般林業關係者ノ協力一致若ハ一般林業ノ指導啓發ヲ其ノ要旨トスル大日本山林會ヲ初メ、各府縣山林會ノ活動ヲ期スルコト、最モ緊急ノ施設ト認メ、大正八年五月農商務省令ヲ以テ、樹苗養成獎勵規則及山林會補助規則ヲ發布セリ。又竹林ニ對シテハ、特殊ノ地方ヲ除キ、概ネ自然ニ任セ深ク顧ミザリシ結果、其ノ造成振ハス、爲ニ供給不足ヲ訴フルコト激甚ニシテ、此ノ情勢ヲ以テ推移セハ、海外輸出ハ勿論、國內ノ需要スラ充タシ難キニ依リ、竹類ノ増殖ニ付テハ、到底從來ノ如ク放任ス可カラサルモノトシ、遂ニ大正八年五月竹林造林獎勵規則ヲ發布ヲ見ルニ至レリ。茲ニ於テ一般林業ノ指導獎勵ハ、從來ニ比シ著シク面目ヲ一新セルモノ有リ。今前述獎勵ニ關スル諸規則及其ノ成績ヲ舉クレハ次ノ如シ。

ヲ舉クレハ次ノ如シ。

#### 其一 樹苗養成獎勵及其ノ成績 一 樹苗養成獎勵規則其ノ他

樹苗養成獎勵規則

農商務省令第十六號

大正八年五月五日

- 第一條 農商務大臣ハ樹苗ノ養成ヲ獎勵スル爲本制ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ左ニ掲ケル府縣ノ費用及補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス
  - 一 府縣ノ樹苗養成ニ要スル費用
  - 二 樹苗養成ニ要スル費用ニ對スル補助金
- 第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ前年度三月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ
  - 一 前條第一號ノ獎勵金ニ付テハ様式第一號ノ樹苗養成豫定書
  - 二 前條第二號ノ獎勵金ニ付テハ様式第二號ノ補助豫定書及補助金交付ニ關スル規程
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更セムトスル場合ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
  - 一 樹苗養成豫定書ニ記載シタル樹種又ハ施業經費ノ總額
  - 二 補助豫定書ニ記載シタル補助豫定金額ノ總額
  - 三 補助金交付ニ關スル規程ニ定メタル補助ノ目的又ハ補助率
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ様式第三號乃至第六號ノ事業成績表及決算表ヲ翌年度八月末日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ
- 第六條 府縣ニ於テ交付ヲ受ケタル獎勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス但シ支出スヘキ見込ナキトキハ其ノ旨ヲ決算表ニ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ其ノ金額ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ第三號ノ規程ハ前項ニ依リ殘額ヲ支出スヘキ場合ニ之ヲ準用ス
- 第七條 府縣ニ於テ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付アリタルトキハ其ノ金額及事由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ前項ノ金額中本則ニ依リ交付シタル獎勵金ニ相當スル金額ハ其ノ還付アリタル年度ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス



前條ノ規定ハ前項ノ金額ニ付キ之ヲ準用ス

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス第三條中前年度三月末日迄トアルハ大正八年度ニ限リ之ヲ大正八年六月末日迄トス

樹苗養成獎勵規則取扱ニ關スル件

林第七四三號(山林局長ヨリ各府縣知事ヘ通牒) 大正八年五月六日

從來民有林ノ植栽ハ其ノ俊採ニ伴ハス殊ニ近時木材需要増進ニ伴ヒ森林過代ノ弊甚シキモアルハ寔ニ憂慮ニ堪エサル所ニシテ其原因種々アルヘシト雖樹苗ノ不足ニ因ルモノ多キヲ認メ其ノ供給ヲ潤澤ニシ造林ノ促進ヲ圖ル爲今同樹苗養成獎勵規則公布相成候ニ付テハ之カ生産ノ増加ヲ圖ル機十分御盡力相成度尙右規則ノ取扱方左記ノ通リ知相成度依命此段及通牒候也

- 一 規則第二條第一號ノ補助金ハ大正七年度經費ニ比シ増加シタル金額ニ對シ左ノ別ニ依リ之ヲ交付ス
  - (一) 樟、櫻、榿、胡桃、漆、杉苗木ノ養成ニ對シテハ府縣ノ支出スル金額ト同額以內
  - (二) 栗、厚朴、樺、山檀、油桐、桐、扁柏苗木及農商務大臣ニ於テ必要ト認ムル苗木ノ養成ニ對シテハ府縣ノ支出スル金額ノ二分ノ一以內
- 二 規則第二條第二號ノ補助金ハ左ノ例ニ依リ之ヲ交付シ府縣ノ負擔額ハ國庫補助額ト同額以上トス
  - (一) 播種
    - 經費ノ三分ノ一以內
  - (二) 床替
    - 經費ノ四分ノ一以內
  - (三) 藥劑代金ノ二分ノ一以內

- (イ) 樟、櫻、榿、胡桃、漆、杉苗木
    - 經費ノ四分ノ一以內
  - (ロ) 栗、厚朴、樺、山檀、油桐、桐、扁柏苗木及農商務大臣ニ於テ必要ト認ムル苗木
    - 經費ノ五分ノ一以內
  - (三) 病蟲害驅除豫防
    - 藥品代金ノ二分ノ一以內
- 三 國庫補助金ハ土地購入費借地料開墾費吏員給又ハ旅費ニ對シテハ之ヲ交付セス

一 樹苗養成補助成績

大正八、九年度ニ於ケル樹苗養成補助ノ成績次ノ如シ。

地方別	施業面積	國庫補助	地方費負擔	計
東京	一、八六二二	九〇四、九六	一、六二七、三〇	二、五三二、二六
京都	七〇、九三〇五	一、〇二〇、〇〇	一、一八〇、〇〇	二、二〇〇、〇〇
大阪	八、二四一六	八七七、〇〇	一、七五四、〇〇	二、六二一、〇〇
神奈川	四四、三六一四	一、三八九、〇〇	一、六一一、〇〇	三、〇〇〇、〇〇
兵庫	六、一〇〇七	一、九一七、七五	二、三四四、〇六	四、二六一、八一
長崎	四、一八一八	一、八七五、九五	一、八七五、九五	三、七五一、九〇
新潟	六七、三五一八	一、九〇九、〇〇	二、二一七、八〇	四、一二六、八〇
埼玉	二一、〇四〇八	二、〇九五、五〇	二、四〇〇、〇九	四、四九九、五九
群馬	一三、五七一五	三、〇七四、六八	八、八四六、四〇	一一、九三一、〇八
千葉	五、三四〇六	四一二、七〇	五五八、七〇	九七一、四〇
茨城	一〇、〇三二六	九〇四、〇〇	六、二七一、〇〇	七、一七五、〇〇
栃木	八九、五九〇三	四、五七七、三七	五、九三五、〇一	一〇、五一一、三八
奈良	一五、一三〇二九	三、二一三、〇〇	三、七五〇、三九	六、九六三、三九
三重	一四、三三二一	一、九六七、五〇	一、九六七、五〇	三、九三五、〇〇
愛知	一六三、六一〇六	三、五〇二、〇〇	三、七七一、〇〇	七、二七三、〇〇
静岡	二六、七三二一	三、八三一、〇〇	一九、四四二、〇九	二三、二七三、〇九
山梨	一五、二五二九	六、六三九、六三	六、六三九、六四	一三、三三九、二七
滋賀	四八、九八二六	九、四九四、〇〇	一二、八二八、〇二	二二、三二二、〇二
岐阜	四五、四七一六	一〇、二四〇、〇〇	一三、六三三、九六	二三、八七三、九六
長野	四三、五六一三	三、九七四、八九	四、二四二、〇六	八、二一六、九五
宮城	九三、五六一三	三、九七四、八九	四、二四二、〇六	八、二一六、九五



鹿島	一五、五〇〇	二、五九二、九二	三、七三七、五二	六、三三〇、四四
宮崎	一九、八七二、九	四、五二七、〇〇	六、四二九、七一	一〇、九五六、七一
熊本	一五、五六〇、四	四、七五八、五〇	五、七三二、五九	一〇、四九一、一〇
佐賀	二、二〇三、二	九二八、八四	一、七九五、三八	二、七二四、二二
大分	五、七二〇、七	一、二四二、〇三	一、二〇三、四二	二、五四五、四五
福岡	一一、四六二、四	二、八三五、〇〇	三、一六五、〇〇	六、〇〇〇、〇〇
高知	五、三五一、六	一、〇一八、〇〇	二、五一〇、〇〇	三、五二八、〇〇
愛媛	七、五〇二、五	一、五七三、〇〇	一、八三〇、九一	三、四〇三、九一
香川	七、八五一、三	九〇三、〇〇	一、〇四八、〇一	一、九五一、〇一
徳島	一六、六五〇、六	一、六〇二、〇〇	一、六六二、〇〇	三、二六四、〇〇
和歌山	六六、二一一、九	二、三九〇、〇〇	二、五〇〇、〇〇	四、八九〇、〇〇
山口	一七、〇二二、三	二、七四五、五〇	七、八七〇、五〇	一〇、六一六、〇〇
山梨	一五、〇〇〇、二	二、五九二、九二	三、七三七、五二	六、三三〇、四四
廣島	一五、〇〇〇、二	二、五九二、九二	三、七三七、五二	六、三三〇、四四
島根	一五、〇〇〇、二	二、五九二、九二	三、七三七、五二	六、三三〇、四四
岡山	四三、五三〇、七	四、〇四六、〇〇	四、五三二、六〇	八、五七八、六〇
鳥取	六、八四〇、六	一、四九五、五〇	二、三六七、五〇	三、八六三、〇〇
富山	二七、六五二、八	三、七四二、八一	四、四〇八、三二	八、一五一、一三
石川	三六、五六一、二	五、九八〇、〇〇	一四、八六七、四〇	二〇、八四七、四〇
福井	三五、九四〇、五	一、二、五九二、七九	一、三、八五一、六六	二六、四四四、四五
秋田	九三、七七一、〇	六、五六二、七七	一〇、三七〇、六二	一六、九三三、三九
山形	四、〇七二、三	九四二、八八	九八九、一五	一、九三二、〇三
青森	三四、〇九一、五	七、一七四、七六	二〇、四〇九、〇五	二七、五八三、八一
岩手	一三、七九一、五	四、一五三、〇〇	六、一九〇、一六	一〇、三四三、一六
福島	八九、五二〇、九	三、二四七、〇〇	三、六五三、〇〇	六、九〇〇、〇〇

沖 計 一、〇七〇、五 二九八、五〇 二九八、五〇 五九七、〇〇  
 一、四八八、三七二、四 一三五、一七一、七四 二二七、二五三、四五 三七二、四二五、一九

其二、竹林造林獎勵及成績

一、竹林造林獎勵規則其ノ他

竹林ノ造林ヲ獎勵スル爲發布セラレタル規則等次ノ如シ。

竹林造林獎勵規則

農商務省令第十七號

大正八年五月五日

- 第一條 農商務大臣ハ竹林ノ造成ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ竹林ノ改良新植ノ費用ニ對スル府縣ノ補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス
- 第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ様式第一號ノ補助豫定書及補助金交付ニ關スル規程ヲ添付シ前年度三月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ變更セムトスル場合ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
  - 一、補助豫定書ニ記載シタル補助豫定金額ノ總額
  - 二、補助金交付ニ關スル規程ニ定メタル補助ノ目的又ハ補助率
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ様式第二號ノ事業成績表及様式第三號ノ決算表ヲ翌年度八月末日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ
- 第六條 府縣ニ於テ交付ヲ受ケタル獎勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス但シ支出スヘキ見込ナキトキハ其ノ旨ヲ決算表ニ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ其ノ金額ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 府縣ニ於テ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付アリタルトキハ其ノ金額及事由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ



前項ノ金額中本則ニ依リ交付シタル獎勵金ニ相當スル金額ハ其ノ還付アリタル年度ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス  
前條ノ規定ハ前項ノ金額ニ付之ヲ準用ス

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス第三條中前年度三月末日迄トアルハ大正八年度ニ限リ之ヲ大正八年六月末日迄トス

竹林造成獎勵規則取扱ニ關スル件 大正八年五月六日林第七四三號山林局長ヨリ各府縣知事へ通牒(東京、宮城、岩手、山形、秋田、沖繩ヲ除ク)

近年竹材ノ需要著シク増加セルニ拘ラス竹林ノ造成甚ダ振ハス爲ニ供給不足ヲ訴フルコト從々激甚ナラムトスルノ狀アリ此ノ勢ヲ以テ推移セムカ普ニ國內ノ需要ヲ滿タスニ足ラサルノミナラス漸ク發展セムトスル海外輸出ヲ阻止スルノ虞アリ竹林増殖ハ目下ノ急務ト認メラレ候依テ今同竹林造成獎勵規則公布相成候ニ付テハ自今一層之カ獎勵ニ御盡力相成度尙右規則取扱方左記ノ通リ知相成度依命此段通牒候也

- 一、國庫補助金ハ施業經費ノ四分ノ一以內ヲ交付シ府縣負擔額ハ國庫補助額ト同額以上トス
- 二、補助スヘキ竹ノ種類ハ苦竹、淡竹及農商務大臣ノ必要ト認ムル竹種トス
- 三、補助スヘキ事業ハ新植ニ在リテハ母竹又ハ鞭根ノ植栽改良ニ在リテハ土入、切替又ハ施肥トス
- 四、國庫補助金ハ土肥購入費又ハ借地料ニ對シテハ之ヲ交付セス

二、竹林造林補助成績

大正八、九年度ニ於ケル竹林造林並補助ノ成績次ノ如シ。

地方	施業面積	國庫補助	地方費負擔	計
大阪	五七、三六一五	一、四八九・一五	一、四八九・一五	二、九七八・三〇
神奈川	一九、〇〇〇九	八七五・〇〇	一、四二五・〇〇	二、三〇〇・〇〇
兵庫	二八、七八一七	一、三九〇・九七	二、七八九・四八	四、一八〇・四五
長崎	五八、二七〇六	一、五三六・〇〇	二、〇一一・〇〇	三、五四七・〇〇
新潟	一四、五七〇三	七一五・〇〇	一、三五六・八五	二、〇七一・八五
埼玉	一〇、三〇〇六	二四〇・〇〇	三二七・一八	五六七・一八
群馬	一五、〇五〇二	七四〇・〇〇	一、〇四〇・〇〇	一、七八〇・〇〇

地方	施業面積	國庫補助	地方費負擔	計
千葉	四五、〇三二六	一、六六九・二五	二、三六六・三五	四、〇三五・六〇
茨城	四八、六二二九	一、〇五〇・〇〇	一、三五〇・〇〇	二、四〇〇・〇〇
栃木	一四、九六〇七	一、〇一一・七〇	一、〇一一・七〇	二、〇二三・四〇
三重	一〇、八九二七	八七五・〇〇	一、一四三・二四	二、〇一八・二四
愛知	九、八七二七	三七五・〇〇	五八〇・〇〇	九五五・九一
靜岡	一九、九五一一	一、一八五・〇〇	一、七九一・〇〇	二、九七六・〇〇
山梨	二二、四三〇〇	五九七・九〇	五九七・九〇	一、一九五・八〇
滋賀	一七、〇五二〇	六、七四五・一〇	六、八〇六・七七	一三、五五一・八七
岐阜	二六、三六〇〇	八四九・〇〇	一、〇五二・〇〇	一、九〇一・〇〇
長野	二〇、九三二三	九三五・七五	九三七・二一	一、八七二・九六
福島	二〇、五七一七	七四四・七五	一、一二〇・七五	一、八六五・五〇
福井	九五、三九二二	一、二八八・〇〇	一、六八四・〇〇	二、九七二・〇〇
石川	六、一一一二	六三五・九八	六三五・九八	一、二七一・九六
富山	三二、〇〇一五	一、三七二・〇七	一、九九六・一八	三、三六八・二五
鳥取	八、九一〇一	一、五二六・五〇	一、九六一・五〇	三、四八八・〇〇
島根	六六、五八〇〇	一、五二〇・〇〇	一、九二三・〇〇	三、四四三・〇〇
岡山	三三、三〇〇九	四、五二八・二五	四、五六〇・二五	九、〇八八・五〇
広島	三八、六三一七	三、〇一一・一一	五、九九八・九六	九、〇一〇・〇七
山口	五五、一一一〇	一、〇二〇・〇〇	一、八五八・四三	二、八七八・四三
和歌山	六一、九五一一	一、七五〇・〇〇	一、九九三・五〇	三、七四三・五〇
香川	二二、九〇一三	一、〇七五・〇〇	一、五四〇・〇〇	二、六一五・〇〇
愛媛	一一、六一〇九	六七五・〇〇	一、一二五・〇〇	一、八〇〇・〇〇
高知	四三、八二〇八	一、五七一・四八	一、五七一・四八	三、一四二・九六
福岡	三〇、九三五一	一、七五〇・〇〇	二、二五〇・〇〇	四、〇〇〇・〇〇



大分	五、七七二二	八四五〇〇	八五二・二二二	一、六九七・二二二
佐賀	七、七二〇七	一、九八六・〇〇	二、四四二・二二〇	四、四二八・二二〇
熊本	四、四四二二	八四〇・〇〇	九七九・八三	一、八一九・八三
宮崎	二、八二二〇六	一、四三三・〇〇	一、七七七・二五	三、二一〇・二五
鹿兒島	七、二六〇九	一、三四五・〇〇	一、七三五・〇〇	三、〇八〇・〇〇
計	一、六八八、七二一五	五、一九七・〇七	六六、一二五・三五	一一七、三二二・四二

山林會補助規則

大正八年五月五日

農商務省令第十八號

- 第一條 本則ニ於テ山林會ト稱スルハ林業ノ改良發達ヲ圖ル爲メ全國又ハ府縣ヲ區域トシテ設立シタル社団法人ヲ謂フ
- 第二條 農商務大臣ハ山林會ノ事業ヲ獎勵スル爲メ本則ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス
- 第三條 補助金ハ左ニ掲グル山林會ノ費用ニ對シ山林會ニ之ヲ交付ス
- 一、林業ニ關スル講習、講話又ハ實地指導ニ要スル費用
  - 二、林産物ノ品評會又ハ共進會ノ開催ニ要スル費用
  - 三、林業ニ關スル調査、研究又ハ試驗ニ要スル費用
  - 四、前三號ノ外農商務大臣ニ於テ林業ニ關シ特ニ必要ト認ムル事項ニ要スル費用
- 第四條 前條第一號乃至第三號ノ費用ニ對シ補助金ノ交付ヲ受ケムトスル山林會ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ前年度三月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一、前條第一號ノ費用ニ付テハ開催地、課目、講師又ハ指導者ノ資格、員數、開催日數、聽講者又ハ指導者ヲ受ケル者ノ資格、經費ノ明細其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル豫定書
  - 二、前條第二號ノ費用ニ付テハ開催地、出品ノ種類、點數、出品者ノ資格、審査員ノ資格、員數、經費ノ明細其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル豫定書
  - 三、前條第三號ノ費用ニ付テハ種類、目的、方法、經費ノ明細其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル豫定書
  - 四、當該年度ノ總豫算書

- 第五條 補助金ノ交付ヲ受ケル山林會第三條各號ノ費用ヲ彼此流用セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル山林會ハ補助金ノ交付ヲ受ケ施行シタル事業ノ成績書及經費決算書ヲ第四條各號ニ準シ作製シ當該年度ノ總決算書ヲ添付シ翌年度八月末日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ
- 第七條 山林會ニ於テ交付ヲ受ケタル補助金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス但シ支出スヘキ見込ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ其ノ金額ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條ノ規定ハ前項ニ依リ殘額ヲ支出スヘキ場合ニ之ヲ準用ス
- 第八條 補助金ノ交付ヲ受ケタル山林會ニシテ補助金ヲ補助ノ目的以外ニ使用シ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ既ニ交付シタル補助金ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ
- 第九條 本則ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ但シ全國ヲ區域トスル山林會ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第四條中前年度三月末日迄トアルハ大正八年度ニ限リ之ヲ大正八年八月末日迄トス

**山林會費補助ニ關スル件** 大正八年五月六日林第八五六號 山林局長ヨリ各府縣知事ヘ通牒

林業ノ振興時期スルハ林業關係者ノ一致協力ヲ俟タサルヘカラサルハ勿論ノ義ニ有之就テハ今回政府ハ全國又ハ府縣ヲ區域トスル山林會ノ活動ニ資スル爲メ其ノ經費ヲ補助スルコトトナシ山林會補助規則公布相成候ニ付テハ未タ其ノ設立ナキ府縣ニ在リテハ速ニ之ヲ組織セシメ其ノ既ニ存在スルモノニ付テモ組織ヲ完備シ以テ林業ノ改良發達上適切ナル事業ヲ遂行シ其ノ成果ヲ完ワスル様特ニ御配慮相成度此段依命及通牒候也

追テ本補助金ハ山林會補助規則ニ規定スルカ如ク社団法人ニ限リ交付セララルコトト相成居候ニ付未タ其ノ組織トナラサルモノハ速ニ之ヲ變更方御努力相成度尙其ノ組織ニ付御參照迄ニ別紙定款案添附致置候

府縣山林會模範定款

第一章 名稱及事務所

- 第一條 本會ハ何々山林會ト稱ス
- 第二條 本會ノ事務所ハ之ヲ何府縣何市(郡)何町何番地ニ置ク

第一編 林政



第二章 目的及事業

- 第三條 本會ハ林業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ左ノ事業ヲ行フ
- 一 林業ニ關スル各般ノ調査、研究、試驗、及實地指導ヲナスコト
  - 二 林業ニ關スル各般ノ調査、設計、鑑定及紹介等ノ依頼ニ應ジ又ハ林業上ノ實地ニ應答スルコト
  - 三 林業ニ關シ官廳ニ意見ヲ開申シ又諮問ニ應答スルコト
  - 四 林業ニ關スル圖書、標本、器具、機械其ノ他ノ參考資料ヲ蒐集陳列シ新業ノ參考ニ資スルコト
  - 五 林業ニ關スル講習會、講話會、共進會又ハ品評會ヲ開催スルコト
  - 六 苗圃事業ヲ經營シ優良樹苗ノ配付ヲナスコト
  - 七 林産物ノ販路擴張ヲ圖ルコト
  - 八 林業ニ關スル有益ナル印刷物及毎年一回以上會報ヲ發刊スルコト
  - 九 林業ニ關シ功勞顯著ナル者ヲ表彰スルコト
  - 十 其ノ他林業ニ關シ必要ト認ムル事項ノ施行

第三章 會員

- 第四條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス
- 一 名譽會員
  - 二 特別會員
  - 三 通常會員

名譽會員トハ林業ニ關シ特ニ功勞アル者、學識經驗若シクハ名望アル者ニシテ評議員會ノ決議ニ基キ會長之ヲ推薦シタル者又ハ一時ニ金五十圓以上若ハ之ニ相當スル物件ヲ寄附シタル者ヲ云フ

特別會員トハ第三十三條ニ規定スル會費ノ外一時ニ金二十圓以上若ハ之ニ相當スル物件ヲ寄附シタル者ヲ云フ

通常會員トハ第三十三條ニ規定スル會費ヲ納付スル者ヲ云フ

寄附金ハ之ヲ三ヶ年ニ分納スルコトヲ得

第五條 本會ニ入會セムトスル者ハ入會申込書ニ住所、氏名、職業ヲ記載シ捺印ノ上之ヲ提出スヘシ

第六條 會員退會セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ退會届ヲ差出スヘシ

會員死去シタルトキハ其ノ家族又ハ他ノ會員ニ於テ其ノ旨届出ツヘシ

第七條 會員ニシテ會費ノ納付ヲ怠リ督促スルモ尙ホ指定ノ期間ニ完納セサル者ハ退會者ト看做スコトアルヘシ

本會ノ名譽ヲ毀損シ若ハ不正ノ行爲ヲナシタル者ハ評議員ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトアルベシ

前二項ノ處分ヲナシタルトキハ速ニ其旨ヲ被處分者ニ通知スヘシ

第八條 會員ハ勉メテ林業ニ關スル有益ナル事項ヲ本會ニ報告スルノ義務アルモノトス

第四章 役員

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ之ヲ名譽職トス但シ場合ニヨリ評議員會ノ決議ヲ經テ報酬及實費ヲ支給スルコトヲ得

- 一 理事 三名
- 二 評議員 若干名

理事ハ其ノ互選ニヨリ會長一名ヲ選舉ス其ノ他ノ理事ヲ以テ副會長トス

第十條 理事ハ總會ニ於テ之ヲ選舉ス但シ其ノ一名ハ府縣知事又ハ内務部長ヨリ之ヲ選舉ス

評議員ノ内一名ハ府縣林務主掌課長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ他ノ評議員ハ各都市ヨリ一名以上ノ割合ヲ以テ之ヲ選舉ス

第十一條 役員ノ任期ハ二ヶ年トス但シ滿期再選ヲ妨ケス

第十二條 役員ニ缺員アルトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ其ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十三條 役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十四條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統括ス副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ年長順ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

會長副會長共ニ事故アルトキハ評議員ノ互選ニ依リ臨時代理者ヲ選舉ス

第十五條 評議員會ノ議事ニ參與シ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第五章 職員

第十六條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一 地方委員 若干名
- 一 學術委員 若干名

第一編 林政



一 幹事 若干名  
一 書記 若干名

會長ハ前項ノ外必要ナル職員ヲ置キ又ハ事務ヲ囑託スルコトヲ得

第十七條 地方委員ハ郡長及市町村長ニ會長之ヲ委囑ス

地方委員ハ會長ノ命ヲ承ケ地方ニ關スル會務ヲ處理ス

第十八條 學術委員ハ林業ニ關シ學識アル者ニ會長之ヲ委囑ス

學術委員ハ會長ノ命ヲ承ケ學術ニ關スル會務ヲ處理ス

第十九條 幹事ハ會長之ヲ委囑ス但シ内一名ハ府縣林務主掌課長又ハ林務主任技師ニ之ヲ委囑スルモノトス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ處理ス

第二十條 書記ハ會長之ヲ任免ス

書記ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六章 會 議

第二十一條 會議ヲ分チテ通常總會、臨時總會及評議員會ノ三種トシ會長之ヲ召集ス

第二十二條 通常總會ハ毎年三月之ヲ開ク臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 會長ニ於テ必要ト認ムルトキ

二 總會員又ハ評議員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及召集ノ事由ヲ示シテ請求アリタルトキ

第二十三條 總會ノ召集ハ目的、日時、場所ヲ定メ少クトモ五日前ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 總會ノ議事ハ定款ノ變更及解散ニ付テハ出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非レハ之ヲ議決スルコトヲ得ス其ノ他ノ議事ニ付テハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十五條 總會ニ於テハ豫メ通知シタル事項ノ外議決ヲ爲スコト得ス但シ出席會員二分ノ一以上ノ同意アルトキハ此ノ限ニ非ス

第二十六條 總會ニ於テハ左ノ事項ヲ行フ

一 會務報告

二 定款ノ變更

三 功勞者表彰

四 其ノ他會長又ハ評議員ニ於テ必要ト認メタル事項

第二十七條 評議員會ハ毎年何月之ヲ開ク但シ會長ニ於テ必要アリト認メタルトキ又ハ評議員五分ノ一以上ノ請求アリタルトキハ臨時之ヲ開ク

第二十八條 評議員會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十九條 評議員會ニ於テハ左ノ事項ヲ行フ

一 會長ヨリ總會ニ提出スル議案ノ審議

二 財産及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ總會ニ報告スルコト

三 經費ノ豫算及決算並業務成績ノ審議

四 會長ノ諮問ニ應ジ又ハ事業經營ノ方法及方針ニ付意見ヲ會長ニ提出スルコト

五 林業功勞者ノ推薦

六 其ノ他定款ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項

第三十條 總會及評議員會ノ議案ハ會長之ヲ定ム

第三十一條 總會及評議員會ノ議長ハ會長之ニ當ル

議事ニ關スル細則ハ評議員會ニ諮問シ會長之ヲ定ム

第七章 庶務及會計

第三十二條 本會ノ資産ハ會費、寄附金及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十三條 特別會員及通常會員ノ會費ハ一ヶ年金一圓トシ毎年十二月之ヲ納付スルモノトス中途入會シタル者ハ入會ノ際會費ヲ納付スルモノトス

第三十四條 本會ハ寄附其ノ他ノ方法ヲ以テ基本財産ヲ蓄積スルモノトス但シ蓄積ノ方法ニ付テハ評議員會ニ於テ之ヲ定ム

特定ノ目的ヲ附セサル寄附ヲ受ケタルトキハ之ヲ基本財産ニ編入スルモノトス

第三十五條 本會ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十六條 毎年度ノ收入支出ハ豫算ニ編成シテ之ヲ爲ス

豫算ハ各科目ニ依リ款項ニ分チテ之ヲ編成シ年度開始前評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス



第三十七條 收支ノ決算ハ豫算ノ款項ニ從ヒ之ヲ調製シ毎會計年度終了後三ヶ月以内ニ評議員會ノ承認ヲ經ヘシ  
決算書ニハ其ノ年度未現在ノ財産目錄及貸借對照表ヲ添付スルモノトス  
第三十八條 本會ニ會員名簿、出納簿、財産臺帳其ノ他必要ナル帳簿ヲ設ク

附 則

第三十九條 本會ニ關シ必要ナル細則ハ評議員會ニ諮問シ會長之ヲ定ム

二、山林會補助成績

大正八、九年度ニ於ケル山林會補助ノ成績次ノ如シ

會 名	大正八年度	大正九年度	備 考
大日本山林會	八九四・七一	五、四六〇・三〇	
京都府山林會	一、四八一・七六	二、二九八・六〇	
兵庫縣山林會		九五〇・三五	
新潟縣山林會	一、〇三一・〇六	四、一九七・三〇	
群馬縣山林會	二五六・三四	六、一五三・四九	
千葉縣山林會		一、四五四・〇三	
下野 山林會		一、〇〇六・六五	
大和 山林會		九九三・一七	
三重縣山林會		一、六七五・八八	
愛知縣山林會	一、二二〇・五六	九八一・八九	
靜岡縣山林會	一、四三七・八八	三、六四二・六一	
山梨縣山林會		七〇九・三五	
滋賀縣山林會		三、七九〇・〇〇	
岐阜縣山林會	一、九六一・二〇	一、七五六・二九	

大正八年度ハ事業實施ノ運ニ至ラス

大正八年度ハ事務實施ノ運ニ至ラス

信濃 山林會	三、五七〇・八六	二、二九六・五三
福島縣山林會	一、二九九・〇七	二、四〇三・三一
岩手縣山林會		三八四・九八
青森縣山林會	九一八・五一	二、二五六・三一
山形縣治水山林會	一、〇三二・三二	二、〇二一・五七
秋田縣山林會	五三五・八〇	九七九・二七
福井縣山林會	一、〇五四・一五	二、一九六・三二
石川縣山林會	五九三・四九	一、九五三・七九
富山縣山林會		二三四・三八
鳥取縣山林會	九三八・八二	一、七四〇・六五
島根縣山林會	五五七・三一	七九〇・〇九
岡山縣山林會	一、一六五・八六	一、一六〇・七六
廣島縣山林會	六九二・〇二	二、一八四・七五
山口縣山林會	二、〇二五・〇〇	二、一八六・三二
徳島縣山林會	五五六・六九	一、一四六・七五
香川縣山林會	四七八・五九	一、四三五・二三
愛媛縣山林會		五二〇・三七
土佐 山林會	一、一四八・八九	六四八・一七
大分縣山林會	七三六・一一	六八五・五九
肥後 山林會		三、一〇三・一二
鹿兒島山林會	一、〇〇二・四三	二、九六三・三八
宮崎縣山林會	二、〇八五・三六	一、九三四・三七
計	二八、六七四・七九	七〇、二九六・〇〇



### 第二節 森林火災保險ノ開始

林業ハ長期ニ亘リ投資ヲ要スルヲ以テ、其ノ企業最モ安全ヲ期セサルヘカラス、然ルニ多大ノ投資ヲナシタル造林ニシテ、佳良ノ林相ヲ形成スルニ至レル際、一朝火災ノ襲フ所トナラムカ、年來蓄積セル多大ノ材積ト收益ノ保續ヲ併セ忽焉トシテ消滅ニ歸セシムルノミナラス、其ノ罹災跡地ハ地被物ノ焼失ト共ニ養分ヲ損耗シ、溫度ヲ減少シ、爲ニ荒廢ノ程度ヲ促進シ、國土保安上ノ危害ヲモ増大スルニ至ルコト稀レナリトセス。以是觀之、保險ナキ森林ハ、如何ニ多クノ林價ヲ有スルモ、金融業者ニ於テ之カ擔保力ヲ認メサルハ亦已ムヲ得サル所ニシテ、從來ノ例ニ依ルモ、山林原野ハ保險ノ方法ナカリシカ故ニ、田畑宅地其ノ他建築物等ト同様ニ獨立シテ擔保物件タルヲ得サリシノミナラス、他ノ物件ニ添ヘテ擔保ト爲ス場合ニ於テモ其ノ價額甚シク低級タルヲ免レサリシナリ。如斯ニシテ、林業投資ハ固定シ、一旦資金ノ必要ニ逢著スルニ於テハ、或ハ高利ノ信用貸借ニ依リ、或ハ不利益ナル條件ノ下ニ、森林ヲ賣却シ、若ハ不適當ナル時期ニ於テ、林木ヲ伐採賣却スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキハ、賄易キノ理ニシテ、自然林業ノ收益ヲ減殺シ、延テ國富ノ増進ヲ阻礙セントス。是レ不當ナル森林ノ擔保能力阻却ニ因ルモノニ外ナラス。叙上、經營上ノ不利ニ併セテ、小森林所有者カ造林ニ對スル投資後、十數年間收益ノ僅少又ハ絶無ノ狀態ニ措カルルノ不利益ナル事情ノ存スルカ故ニ、森林ノ所有者又ハ企業者ニ、連年平均ノ收入ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ、銀行ヲシテ、事業資金ノ貸付ヲ爲サシムルハ、林業ノ發展上喫緊ノ要務ニシテ、之カ爲森林被害ニ對スル保險制度ヲ相伴ハシムルニアラサレハ、森林事業ニ對スル信用ノ發達ハ到底實現シ難カルベシ。而モ森林火災保險ノ事業ハ、久シク林業界ノ要望スル所

ナリシニ拘ハラズ、容易ニ出現セサルヲ遺憾トシタリシカ、時勢ノ進歩ト共ニ、漸ク其ノ曙光ヲ現シ、大正九年十二月東邦火災保險會社ハ、該事業ノ認可ヲ得ルニ至レリ。尙未タ一般ニハ行ハレサルモ、將來相續ヲ本保險事業ノ經營者ヲ増加スルニ於テハ、林業經營上亦一大進歩ヲ來スヲ疑ハサルナリ。今東邦火災保險會社ノ森林火災保險率ヲ示セハ次ノ如シ

森林火災保險料率表 (保險金一千圓 二付一ケ年)

地方別	縣別	樹種別	樹齡別		
			三十一 年 生 以 上	自 三 十 一 年 生	自 二 十 一 年 生
北海道地方	北 海 道、 樺 太	純樹林	一〇・〇	一四・〇	一九・〇
		針葉林	一〇・〇	一四・〇	一九・〇
		混濁林	一〇・〇	一四・〇	一九・〇
青森地方	青森縣、岩手縣(二戸郡田山村ヲ除ク)、宮城縣(刈田郡七ヶ宿村大字湯ノ原ノ内字稻子山ヲ除ク)、秋田縣(内鹿角郡七瀧村大字上向(物草澤ヲ除ク)、北秋田郡早口村大字早口字早口澤ノ内小字澄川、丁間澤、沼ノ澤、逆澤)	純樹林	七・五	一〇・五	一四・五
		針葉林	七・五	一〇・五	一四・五
		混濁林	七・五	一〇・五	一四・五
秋田地方	秋田縣(鹿角郡七瀧村大字上向(物草澤ヲ除ク)、北秋田郡早口村大字早口字早口澤ノ内小字澄川、丁間澤、沼ノ澤、逆澤)、山形縣(西置賜郡小國本、南小國、北小國、津川村ヲ除ク)、岩手縣(内二戸郡田山村)	純樹林	六・五	九・〇	一二・五
		針葉林	六・五	九・〇	一二・五
		混濁林	六・五	九・〇	一二・五



東京地方	大阪地方	高知地方	熊本地方	鹿児島地方	臺灣地方
ヶ宿村、大字、湯ノ原ノ内、宇都子山、山形縣ノ内、西道縣郡、小國本村、北小國村、南小國村、津川村、新潟縣、長野縣、山梨縣、靜岡縣	大阪府、富山縣、石川縣、福井縣、滋賀縣、京都府、岐阜縣、愛知縣、三重縣、奈良縣、和歌山縣、兵庫縣、岡山縣、廣島縣、山口縣、島根縣、鳥取縣	高知縣、德島縣、愛媛縣、香川縣	熊本縣、福岡縣、大分縣(大野郡、小野市村、重岡村ヲ除ク)佐賀縣、長崎縣	鹿児島縣、宮崎縣、大分縣ノ内	大野郡、小野市村、重岡村、沖繩縣
四・五	三・五	三・五	三・五	三・五	三・五
五・五	四・五	四・五	四・五	四・五	四・五
八・五	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇
七・〇	四・五	四・五	四・五	四・五	四・五
八・五	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五
一三・〇	八・五	八・五	八・五	八・五	八・五
九・〇	五・五	五・五	五・五	五・五	五・五
一一・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇	七・〇
一六・五	一・〇・五	一・〇・五	一・〇・五	一・〇・五	一・〇・五

注意 天然林及樹齡十ヶ年未満ノ造林地ハ當分取扱ハス

### 第三節 博覽會及共進會ノ開催

産業ノ振興ヲ期スルニハ、實業教育ノ普及、理化學研究ノ獎勵、發明考案ノ保護等、何レモ有效ノ方策タルヘシト雖、博覽會又ハ共進會ヲ開催シ、各種ノ製品及原料等ヲ一場ニ蒐集シテ、之カ優劣能否ヲ品評シ、兼テ各方面ニ於ケル進歩ノ特色ヲ比較スルコトハ、國家及地方ノ産業施政上一大參考ノ資料トナルヘク、延テハ事業者ヲシテ其ノ製品原料ノ搜索或ハ改良ニ便ナラシメ、又其ノ製品ノ販賣擴布ヲ容易ナラシメ、或ハ資本者ヲシテ目前ニ投資ノ事業ヲ選擇セシメ得ル等、各種産業上ニ齎ス效果、決シテ看過ス可カラサルモノアル

ヲ以テ、政府者ハ民間有力者カ機ニ應シ斯ノ種ノ催ヲ企畫スル所以ニシテ、歐洲戰後、博覽會共進會ノ開催セラレタルモノ尠カラサリシハ蓋シ之カ爲ニ外ナラス。

今、其ノ重ナルモノヲ掲クレバ、開道五十年記念北海道博覽會、化學工業博覽會、平和記念東京博覽會及九州沖繩八縣聯合共進會等ナリトス。

#### 其一 開道五十年北海道博覽會

北海道博覽會ハ、札幌區ニ第一、第二會場ヲ設ケ、附屬水族館ヲ小樽區ニ設ケテ第三會場トシ、大年七年八月一日ヨリ同年九月十九日迄五十日間開催セリ。本會ハ、北海道應ノ主催ニ係リ、北海道生産品ヲ主トシ、府縣、臺灣、朝鮮、樺太、關東洲等ノ生産品ヲ參考品トシテ蒐集セルニ過キサリシヲ以テ、其ノ林業關係品ノ數量敢テ多シトスヘカラサルモ、本道ニ於ケル林業進展ノ狀況ヲ普ク社會ニ紹介シ、本道ノ開發ニ資シタルコト多大ナルモノアリキ。其ノ林業關係ノ出品類別ヲ示セハ次ノ如シ。

#### 第四部 林業

##### 第二十三類 木竹材

- 其一 用途ヲ特定セサルモノ 丸太材、角材、挽材等
- 其二 建築材及土木用材
- 其三 船舶、船具、車輛等ノ用材
- 其四 桶、樽、包裝、箱ノ用材
- 其五 指物、建具、樂器、銃臺、漆器等ノ用材
- 其六 經木、樅寸、軸木、屋根板、鉛筆材等
- 其七 下駄材



- 其八 雜用木材
- 其九 竹材
- 第二十四類 著色材、防腐材、着色及防腐ノ方法及成績
- 第二十五類 木竹材以外ノ林産物
  - 其ノ一 炭化製品、燃料等 木炭、木醋等
  - 其ノ二 纖維製品及原料 製紙用材等
  - 其ノ三 菌 蕈 推茸等
  - 其ノ四 工業品原料 染沒料、鞣皮原料、樹脂等
  - 其ノ五 雜林産物 樹實、樹皮等
- 第二十六類 種 苗
  - 其ノ一 種 子
  - 其ノ二 苗 木
- 第二十七類 造林、伐採、造材、運材、製材、貯材ノ方法、設備、成績並器具器械
- 第二十八類 森林保護
  - 其ノ一 森林保護ニ關スル器具、器械及藥劑
  - 其ノ二 森林保護ノ方法及成績
  - 其ノ三 有益動物ノ標本、圖畫
  - 其ノ四 有害動物ノ標本、圖畫
  - 其ノ五 有害動物ノ被害林産物ノ標本及圖畫
- 第二十九類 森林ノ施業及管理
  - 其ノ一 測量、測樹及經理ノ方法、成績
  - 其ノ二 林野整理ノ方法及成績
  - 其ノ三 林業ニ關スル團體ノ組織及事業ノ成績
  - 其ノ四 林業ニ關スル試驗ノ方法及成績
  - 其ノ五 森林植物及林産物ノ標本、圖畫

其六、林業ニ關スル特殊ノ調査及設計  
第三十類 狩 獵

- 其ノ一 狩獵産物 皮毛、羽、牙、角、骨等、
- 其ノ二 狩獵ノ方法及器具、器械

以上八類三十項目ニ區分シ、之ヲ八分掌ニ分チテ審査セリ。而シテ、本會ニ於ケル林業關係普通出品ハ七百四十二點、三百七十七人ニシテ、其ノ内受賞者金牌八人、銀牌三九人、銅牌四一人、褒狀四二人、計百三十人、即チ總人員ニ對シテ、四割ニ該當ス。右ノ外、官廳ノ出品ハ、北海道廳、帝室林野管理局札幌支局、北海道東京兩帝國大學等其ノ數、實ニ千八百五十六點ノ多キニ達シ、就中北海道廳ノ出品ニ係ル、北海道森林樹木圖譜ノ十角塔、天然更新及伐木運材狀況ノ模型並北海道帝國大學ノ特別陳列タル害蟲生活狀態模型及被害樹種等ハ多大ノ實益ヲ與ヘ、其ノ他東京帝國大學ノ乾溜製炭及各種木材強弱比較試驗等、何レモ好個ノ參考品トシテ、新智識普及上ノ一大光彩タリシヲ疑ハス。

其二 化學工業博覽會

化學工業博覽會ハ、大正六年九月二十日ヨリ同年十一月十八日迄、六十日間、東京市上野公園ニ開催セリ。本會ハ朝野ノ化學工業當業者カ、國產獎勵會ト連絡ヲ保チタルモノニシテ、之レニ參加セル區域ハ、内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東洲ニ及ヒ、規模末々大ト爲スニ足ラス、設備敢テ全シト云フヲ得サルモ、廣ク全國ニ亘リテ主ナル各種化學工業品ヲ網羅シタルノ勞ヲ多トセサル可カラス。而シテ、其ノ内林産化學ニ關スル出品ハ乾溜生成品、燐寸、漆液及漆器、紙及其ノ製品、樟腦等ニシテ、此ノ總點數一萬八千八十七點ノ多キニ達シ未會有ノ盛況ヲ呈セリ。尙農商務省ハ、本會ノ開催ヲ贊同シ、出品ノ勸誘、取扱等ニ配慮セルノミナラス、



特ニ山林局ヨリハ參考品トシテ、木材バルブ及其ノ原料、木材乾餾生成品、林野産油脂及蠟、生蠟、晒蠟、漆液、單寧ノ材料及林野産植物性染料、林野藥料、繭、松煙、草木灰製ボツタース、樟酸、木材着色標本、硫酸焦蝕板、アペマキ樹皮並其ノ製品、木材防腐劑使用ト木材防腐トノ關係、隣寸軸木材質試驗及一般工業ニ對スル林産物ノ用途等、各種ノ林産化學關係品ヲ出品シ、林産物ト化學工業トノ關係ヲ一般ニ知悉セシムルコトニ努メタリ。

其三 九州沖繩八縣聯合共進會

第十四回九州沖繩八縣聯合共進會ハ、大分縣主催ノ下ニ、大正十年三月十五日ヨリ五月十三日ニ至ル六十日間、大分縣新築廳舎及大分市新川海岸ニ於テ開催セラレタリ。時恰モ大戰以來、世界各國産業勃興ノ氣運ニ向ヒ、我カ邦亦之ニ鑑ミ産業助長ノ必要愈々切迫セルノ機ニ際會シタルヲ以テ、聯合各縣ノ出品ノミナラス、他ノ各地ヨリモ廣ク參考品ヲ出陳セシメ、聯合各縣産業ノ啓發ニ資セント務メタルモノニシテ、林業ニ關スル出品ノ如キモ、第三部ニ屬セシメ、之ヲ次ノ如ク類別セリ。

第三部 林業及狩獵

- 第二十五類 木竹材(丸太材、角材、挽材、竹材)  
加工木竹材(下駄材、挽物材、桶櫃材)
- 第二十六類 船具材、指物建築材、防腐材、着色材(グエニア材及經木材等)
- 第二十七類 林産製品(木炭、炭團、煉木炭、木バルブ、木醋、醃醃石灰、木精、木ターン類)
- 第二十八類 纖維、樹脂、菌羣、麩、五倍子、毛皮、角牙等
- 第二十九類 種子、苗木
- 第三十類 林業及狩獵ニ關スル器具器械

第三十一類 林業ノ經營及生産ニ關スル方法及成績

第三部ニ於ケル林業及狩獵ノ出品者、一千八百二十六人總品數二千百三十八點ニシテ、之カ授賞者五百五人即チ總出品人員ニ對シ二割七分ニ該當セリ。

其四 平和記念東京博覽會

世界ノ平和克復ヲ記念スヘク、東京府主催平和記念東京博覽會ハ、大正十一年三月十四日ヨリ同年七月三十一日迄百四十三日間、東京市上野公園ニ於テ開催セラル。本博覽會ハ、東京一府ノ主催ニ屬セリト雖、之レニ參加セル區域ハ、日本帝國領土、委任統治地及租借地ニ及ヒ、其ノ規模内容共ニ東京博覽會ニ比シテ、一層進歩シタルモノト謂フヘク、我カ國ニ於ケル文化ノ促進並産業界ノ刷新改善上、寄與スル所多大ナリシヲ疑ハス。今該出品ニ關スル分類ヲ示セハ、次ノ如シ。

第七部 林業

第八十類 林政及森林施設

- 一、林野ノ管理處分、統一及入會整理方法及成績、森林火災統計資料
  - 二、森林組合、山林會及其他林業ニ關スル團體ノ組織及事業ノ成績
  - 三、保安林又ハ保安ニ關係アル森林ノ施設及成績
  - 四、私有、社寺有及公有其他各種團體ノ林野施設及成績
  - 五、森林公園ノ設計及施設法
- 第八十一類 造林及森林保護
- 一、種子ノ採集、乾燥及貯藏方法及成績、苗圃ノ經營及成績(地形地質ヲ示ス圖表又ハ模型)、苗木、
  - 二、造林ノ方法及成績、造林ニ關スル器具
  - 三、有用樹葉樹ノ造林方法及成績



- 四、天然更新法及成績
- 五、有用植物林間栽培法及成績
- 六、有益有害動物及森林、並木材被害ニ關スル標本及圖畫
- 七、有益有害鳥獸及病害驅除法及成績
- 八、森林火災預防並防禦設備方法（防火線經營法ヲ含ム）
- 九、前記以前森林保護ニ關スル施設及成績等

第八十二類

- 一、伐材、造材、運材、製材、貯材及乾燥ノ方法、設備及成績、木材強弱試験ノ成績、器械、器具
- 二、砂防植栽事業（海岸砂防ヲ含ム）及成績
- 三、荒廢地復舊事業及成績
- 四、森林ノ水源涵養能力ニ關スル調査資料及統計

第八十三類 木竹材及加工シタル材料

- 一、木竹及竹材
  - 二、木竹材加工品及各製作順序標本
  - 三、塗色材、着色材、鋪道材、防虫材、グエニアリング材、耐火材、耐火又ハ木粉ヲ用ヒタル製品、各製作裝置及製作順序標本
- 第八十四類 木竹材以外ノ林産物
- 一、林産製品
    - 木炭、炭酸、醋酸、石灰、木醋、木糖、木ターレ類、燻煙灰、松煙、松根油、樟香油、樟腦原料、各製造裝置及製作順序標本
  - 二、林業副産物
    - 一、纖維原料及製品
    - 二、食用菌茸（椎茸、松茸、松露其他）栽培採集貯藏方法等
  - 三、工業品原料
    - 染料、鞣皮用樹皮及同「エキス」脂油原料、糊製標本及樟腦油、粗製護膜「コレク」樹皮、漆液、松脂、五倍子、蠟等採集貯藏法及製造裝置及成績

四二種林産物

櫛實、樹皮、根莖、採集、貯藏法等

第八十五類 狩獵

- 一、狩獵物
- 二、狩獵ノ方法（小鳥類ノ捕獲裝置等ヲ含ム）
- 三、狩獵ノ器具

以上六類二十八項ニ區分シ、之ヲ六分掌ニ分チテ審査セリ。而シテ、出品總點數ハ四千八百六十六、人員二千八百八十六名ニシテ、大正博覽會ニ比スレハ、點數人員ニ於テ約五割ヲ増加シ、之カ授賞人員ハ名譽大賞牌二、名譽賞牌三、金牌二四、銀牌九八、銅牌三九七、褒狀六九七合計一、二二一ニシテ、出品總人員ニ對シ四割二分ニ及ヘリ。又官廳出品中、帝室林野管理局出品ノ内地材ト外國材トノ比較試験成績ノ如キ、外國材輸入ノ激増セル折柄、一般ノ注意ヲ惹キ、又農商務省山林局出品ノ本邦森林ノ植伐趨勢、森林管理系統圖、各種森林施設ノ現況並林業試験成績等ハ林政及技術進步ノ概況ヲ一目瞭然タラシメ、以テ出品場裡ニ一大光彩ヲ添エタリ。尙帝國森林會出品ノ視裝寫真、住友別館、滿蒙館及外國館ニ於ケル林業關係參考品ハ、何レモ林業思想ノ普及並斯業ノ發達上、好箇ノ參考資料タリシヲ失ハス。

而シテ本會ノ開催ニ依リ九州方面ノ主要ナル林業關係品ヲ一堂ノ下ニ開陳シテ其ノ優劣能否ヲ互ニ品證セシメ一般當業者ノ智識ノ向上並普及ニ努メシハ戰後産業ノ確立上洵ニ緊要ナル施設タリシノミナラス確ニ我カ林業ノ刷新改善上ニモ一大刺戟劑タリシヲ疑ハサルナリ。



### 第七章 林業試驗場ノ獨立

林業試驗場ハ、明治三十三年當時ノ林野整理局カ、同三十二年ヨリ開始セラレタル國有林野特別經營事業ノ一部トシテ、東京府下目黒村ニ民有地十餘町歩ヲ買上ケ、試驗苗圃ヲ創設セルニ胚胎シ、爾來、數次ニ亘リテ官制及組織改マリ、其ノ都度事業ノ擴張ヲ行ヒ、大正十年十月ニ至リ仙臺、熊本ノ二支場ヲ設置シ大ニ其ノ面目ヲ一新セリ。最近年額二十二萬餘圓ヲ費シ、物理、化學、工藝、森林施業、收穫、造林、保護、氣象及混農林業等各試驗事項ニ付調査研究ノ歩ヲ進メ、隨時其ノ成績ヲ公表シテ、獨リ國有林事業ノミナラス、一般林業界ヲ指導誘掖シ、林業ノ刷新改善ノ羅針盤トナレルコトハ一般ノ認ムル所タリ。加之、近頃民有林野事業ノ進歩發達ニ伴ヒ、一般林業ニ關スル試驗研究、種苗ノ鑑定及質疑應答等ノ如キ著シク増加シ、林業試驗ハ國有林野經營上ノ機關ヨリモ、寧ロ一般林業者ノ試驗機關トシテ發達ヲ期スルノ要切實トナレル今日、依然國有林野經營業務ノ一部トシテ之ヲ取扱ハントスルハ、頗ル不徹底ヲ免レス、林業ノ進歩發達ニ副ハサルノ憾アルコト最早明白ノ事實トナリタルヲ以テ、國有林野特別經營事業ノ廢止ヲ機トシ、大正十一年度ヨリ從來ノ林業試驗場ヲ獨立セシメ、本省直轄ノ下ニ調査研究ノ歩ヲ進ムルニ至レルハ、林業上多年ノ懸案ヲ解決シ、併セテ將來ノ林業發展上大ニ慶賀セサルヘカラス。

今、林業試驗場ノ官制組織ニ關スル法規其他ヲ次ニ掲ケントス。

#### 林業試驗場官制

勅令第五百十號

大正十一年三月三十一日

本官制ハ森林行政機關ノ部ニ述ヘタルヲ以テ茲ニ再録セス

林業試驗場ノ位置並支場及出張所ノ位置及名稱ニ關スル件

農商務省告示第八十五號

大正十一年四月六日

林業試驗場ノ位置並支場及出張所ノ位置及名稱ヲ左ノ通定メ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

名	稱	位	置
林業試驗場		東京府	荏原郡目黒村
林業試驗場仙臺支場		宮城縣	仙臺市
林業試驗場熊本支場		熊本縣	熊本市
林業試驗場高林出張所		茨城縣	多賀郡桐形村
林業試驗場小笠原出張所		東京府	小笠原島父島大村

林業試驗場及其ノ支場ノ事務ニ關スル件

農商務省告示第八十六號

大正十一年四月六日

林業試驗場及其ノ事務ハ左ノ區域ニ依リ之ヲ取扱フ

本場	支場	出張所
東京府	京都府	大阪府
茨城縣	栃木縣	奈良縣
長野縣	福井縣	石川縣
仙臺支場	福島縣	岩手縣
宮城縣	青森縣	山形縣
熊本支場	岡山縣	廣島縣
長崎縣	佐賀縣	熊本縣
大分縣		



林業試驗場處務規程

農商務省訓令第三號

大正十一年四月六日

林業試驗場處務規定左ノ通定ム

第一條 林業試驗場ニ造林部、生病理部、利用部、化學部、施業部、氣象部及庶務課ヲ置ク

第二條 造林部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、種苗試驗ニ關スル事項
- 二、更新試驗ニ關スル事項
- 三、混農林業試驗ニ關スル事項
- 四、立地ノ調査ニ關スル事項
- 五、林木種子ノ鑑定ニ關スル事項
- 六、種苗ノ配布ニ關スル事項

第三條 生病理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、植物生物及病理ニ關スル事項
- 二、種苗林木及木材ニ對スル有害動物ノ調査並驅除豫防ニ關スル事項
- 三、森林ニ對スル有益動物ノ調査並増殖ニ關スル事項
- 第四條 利用部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、木材ノ物理的性質試驗ニ關スル事項
- 二、木材ノ工藝的利用ニ關スル事項
- 三、木材ノ處理及保存ニ關スル事項

第五條 化學部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、林産物ノ製造ニ關スル事項
- 二、林産物ノ分析鑑定ニ關スル事項
- 三、土壤及肥料試驗ニ關スル事項

第六條 施業部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、森林ノ施業法ニ關スル事項
- 二、林木ノ成長査定ニ關スル事項
- 三、材積算定ニ關スル事項

第七條 氣象部ニ於テハ森林氣象ノ調査觀測ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、官印ノ保管ニ關スル事項
- 二、場員ノ進退身分ニ關スル事項
- 三、場内取締ニ關スル事項
- 四、文書ノ授受發送及保管ニ關スル事項
- 五、豫算及決算並會計ニ關スル事項
- 六、國有財産並物品ニ關スル事項
- 七、他部ノ主管ニ屬セサル事項

第九條 林業試驗場支場ニ支場長ヲ、出張所ニ主任ヲ置ク

支場長及出張所主任ハ場長ノ指揮監督ヲ受ケ支場又ハ出張所全般ノ事務ヲ處理ス

第十條 場長庶務細則見習生ニ關スル規定又ハ支場若ハ出張所ノ處務規定ヲ設クルトキハ農商務大臣ニ報告スベシ

第十一條 場長ハ毎年事業ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スベシ

場所長委任事務規程

文第一、一六五號

大正十一年七月十三日

場所長委任事務規定左ノ通相定ム

第一條 本規程ニ於テ場所長ト稱スルハ農事試驗場長、蠶業検査場長、生絲検査所長、畜産試驗場長、植物検査所長、種羊場長、茶業試驗場長、工業試驗所長、花冠検査所長、蠶業試驗所長、臨時室業研究所長、陶磁器試驗所長、林業試驗場長、燃料研究所長、水産講習所長



トス

第二條 場所長ハ特別ノ規定ヲ除クノ他左ニ掲クル事項ヲ專行處理スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限りニ在テス

- 一、委託試驗ニ關スル件
- 二、講習生、練習生、又見習生ニ關スル件
- 三、月俸七十五圓又ハ日給二圓五十錢ヲ超エサル雇員ノ採罷及賞與ニ關スル件
- 四、守衛、給仕、小使及常備人ノ備罷及賞與ニ關スル件
- 五、十四日以内ノ内地出張及部下ノ職員ニ内地出張ヲ命スル件
- 六、部下ノ職員ノ看護、歸省、墓參、除服出仕、轉地療養旅行願及受験願ニ關スル件
- 七、部下ノ職員ノ大正十一年閣令第六號ノ規程ニ依ル休暇ニ關スル件
- 八、出納官吏命免ニ關スル件
- 九、官吏療治料給與ニ關スル件
- 十、備人死傷者ニ療治料扶助料及埋葬料給與ニ關スル件
- 十一、一廉五千圓ヲ超エサル工事、印刷物ノ調製、物件ノ買貸借運搬並人夫及職工ノ雇備ニ關スル件
- 十二、明治二十三年勅令第九十三號ニ依リ隨意契約ヲ爲スノ件
- 十三、工事及物件ノ買貸借ニ關シ伺濟ノ範圍内ニ於テ豫定價格指定ニ關スル件
- 十四、工事ノ竣工延期物品納入延期ニ關スル件
- 十五、翻譯料保管料手数料及謝金等ノ處理ニ關スル件
- 十六、現金前渡ニ關スル件
- 十七、官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費等五百圓以内ノ處理ニ關スル件
- 十八、價格五百圓以内ノ物品ノ亡失又ハ毀損ニ關スル件
- 十九、本省及本省所管各廳トノ間ニ於ケル物品ノ保管轉換ニ關スル件
- 二十、内閣博覽會、共進會其他ノ場合ニ於ケル參考品ノ出品又ハ貸與ニ關スル件
- 二十一、圖書、印刷物、標本等ノ配付又ハ領收ニ關スル件

- 二十二、出版物ノ雕刻、發賣、版權登錄及著作權讓渡等ニ關スル件
- 第三條 場所長事故アルトキハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代決セシムルコトヲ得
- 第四條 場所長ハ主管ノ業務ニ關シ旅費ヲ負擔シ部下ノ職員ノ出張ヲ請フモノアルトキハ之ヲ許否スルコトヲ得
- 第五條 場所長ハ其ノ專行事項ノ一部ヲ支場長又ハ場所長ニ委任スルコトヲ得

林業試驗場支場處務規定

大正十一年四月十日

試發第四〇號

- 第一條 林業試驗場ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、造林及保護ニ關スル調査及試驗事項
  - 二、林產物利用ニ關スル調査及試驗事項
  - 三、森林ノ施業ニ關スル調査及試驗事項
- 第二條 支場長ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第三條 支場長事故アルトキハ次席ノ職員其ノ事務ヲ代決處理ス
- 第四條 支場長ハ左ニ掲クル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限りニアラス
- 一、管内出張及職員ノ管内出張ノコト
  - 二、職員ノ受験、看護、歸省、墓參、轉地療養、私事旅行及除服出仕ノコト
  - 三、林業見習生ニ關スルコト
  - 四、共進會品評會等へ參考品ノ出品又ハ貸與ノコト
  - 五、日給二圓ヲ超エザル臨時雇ノ命免及給與ノコト
  - 六、巡使、給仕小使又ハ常備夫ノ備罷及給與ノコト
  - 七、一廉三百圓ヲ超エザル工事物件ノ買入借入運搬及職工人夫雇備ノコト
  - 八、一廉五十圓ヲ超エサル寫字料廣告料保管料手数料等處理ノコト
  - 九、官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費等五十圓以内ノコト
  - 一〇、價格百圓ヲ超エサル不用品ノ賣拂及其ノ處入測定ノコト



- 一一、本支場間又ハ林區署トノ間ニ於ケル物品保管轉換ノコト
- 一二、圖書、印刷物、標本、見本等ノ頒收、配付、又謝狀發送ノコト
- 一三、價格五十圓ヲ超エサル物品ノ亡失毀損ニ關スル處分ノコト但シ故意又ハ怠慢ニ依ルモノヲ除ク、
- 一四、官舎住命令ノコト

- 第五條 支場長ハ前條第一號第五號又ハ第十號ノ事項ヲ專決シタルトキハ其ノ都度本場長ニ報告スベシ
- 第六條 支場長ハ事業ニ關シ旅費ヲ負擔シ職員ノ出張ヲ請フモノアルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得
- 出張ヲ許可シタルトキハ申請書ノ寫ヲ添へ出張員ノ官氏名ヲ直ニ本場長ニ報告スベシ
- 第七條 試驗及調査事項ノ完結シタルモノハ其ノ都度又前年度ノ事業成績ハ四月十五日迄ニ之ヲ本場長ニ報告スベシ

林業試驗場高萩出張所處務規程

- 第一條 林業試驗場高萩出張所ニ於テハ混農林業試驗ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 主任ハ試驗事項ニ關シ照會往復スルコトヲ得
- 第三條 主任事故アルトキハ次席者ノ事務ヲ代理ス
- 第四條 主任ハ左ニ掲タル事項ハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ特ニ重要ノ關係アルモノ又ハ事ノ異例ニ屬スルモノハ此ノ限りニアラス
- 一、管内ヲ旅行シ又ハ詰員ヲ管内ニ旅行セシムルコト
- 二、一廉五十圓ヲ超エサル物件ノ買入借入、運搬及臨時人夫借入ノコト
- 第五條 主任ハ前條第一號ノ事項ヲ專決シタルトキハ其ノ都度本場長ニ報告スベシ
- 第六條 試驗及調査事項ノ完結シタルモノハ其ノ都度又前年度ノ事業成績ハ四月十五日マテニ之ヲ本場長ニ報告スベシ

林業試驗場小笠原出張所處務規程

- 第一條 林業試驗場小笠原出張所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一、熱帯混農林業試驗
- 二、熱帯森林植物ノ試育試驗
- 三、林産物利用ニ關スル試驗

四、造林及保護ニ關スル試驗  
 第二條 前條ニ定ムルモノノ外林業試驗支場處務規定ヲ準用ス但シ同規程第四條第七項ノ工事物件ノ買入借入運搬ニ付ハ二百圓ヲ超エルコトヲ得ス

第八章 森林協議會ノ開催

近時、木材ノ需要激劇ニ増進シタルモ、供給之ニ伴ハス、現ニ其ノ不足ヲ生シ、殊ニ軍用、船舶用、工業用等ニ必要ナル特殊材ノ如キハ、益、拂底ヲ告ケントスルニ至レリ。而シテ、輸出木材ノ大部分ハ、始ント北海道ニ於テ伐採セララルモノニシテ、「バルフ」用材モ亦北海道、樺太ノ供給スル所ニ係ルヲ以テ、同地方將來ノ施業ニ關シテハ、大ニ要望スヘキモノアリ。朝鮮ニ於テハ、回復スヘキ荒廢林地、大面積ヲ占ムルヲ以テ、甚シク木材ニ缺乏シ、臺灣ハ現在尙大材及特殊用材ヲ包有スルモノアルモ、是亦今後ノ事業ニ付、内地トノ連絡ヲ必要トスルモノアリ。然ルニ、從來此等ノ事項ニ付テ、相互連絡ヲ保チ、又ハ協議ヲナシタルコトナク、隨テ植林ノ計畫ニ、森林ノ保護ニ、木材ノ貿易ニ、將又、相互木材ノ需給、試驗事業等ニ關シ、帝國全領土ヲ背景トスル、一定ノ方針計畫ヲ有セザリシハ、林政上甚タ遺憾トスル所ナリトシ、大正九年九月二十日ヨリ五日間、農商務省ニ於テ、宮内省、北海道、樺太、臺灣、朝鮮ノ林政主腦者タル部局長會合ヲ爲シ、國防上ハ勿論、工業其ノ他一般木材ノ需給並國土保安上重要ノ問題ニ關シ、連絡ヲ圖リ、可成林業政策ノ統一並之カ實施ニ付テ、圓滿ナル共通の實行ヲ期スルヲ目的トシ、左記事項ノ協議ヲナセリ。

- 一、御料林及國有林ノ施業計畫ニ關スル事項
- 二、公有林野施業上施設スヘキ事項



- 三、保安林其ノ他林野ニ對スル監督ニ關スル事項
  - 四、林業試驗ノ連絡並其ノ配分ニ關スル事項
  - 五、林産物輸出入其ノ他之カ需給調節上施設スヘキ事項
- 當時委員トシテ出席シタル者左ノ如シ。

農商務省山林局長 中井 勳 作  
 山林技師 松 波 秀 實  
 帝室林野管理局技師 和田 國 次 郎  
 北海道廳技師 林 駒 之 助  
 朝鮮總督府殖産局長 西 村 保 吉  
 臺灣總督府殖産局長 高 田 元 次 郎  
 樺太廳殖産部長 井 本 滿 助

本協議會ハ、從來會テ試ミラレサリシ會合ニシテ、之ヲ以テ嚆矢ト爲スヘク、第二回森林協議會ハ大正十一年四月十八日ヨリ二十一日迄、農商務省林業試驗場ニ於テ開催セラレ、會議終了後、東京大林區署管内ニ於ケル農商務省直轄ノ間伐、混農林業及海岸砂防試驗地ノ視察ヲ爲セリ。當時ノ出席者ハ、農商務省ヨリ中井山林局長、白澤林業試驗場長、帝室林野管理局、北海道廳、樺太廳ヨリハ前回ノ諸氏、朝鮮總督府ヨリハ戶澤技師、臺灣總督府ヨリハ佐藤林務課長ニシテ、左記問題ニ付キ協議スル所アリタリ。

- 一、第一回森林協議事項第四ニ關シ更ニ協定ヲ要スル件

(註)本協定事項ニ付テハ左ノ各項ニ對シ協議決定ヲナセリ

- 1、林業試驗ノ聯絡並配分ニ關スル事項
- 2、林業試驗ニ於テ數ヲ以テ示スモノノ單位並定メ方
- 3、木材強弱試驗方法
- 4、間伐試驗施行上ノ標準

- 一、本邦各地ニ於ケル害蟲及害菌等ノ調査研究ヲ促進セシムル方法ニ關スル件
  - 一、材積調査及收穫表調製ニ關スル件
  - 一、木材ノ水分測定ニ關スル件
  - 一、本邦ニ於テ發表又ハ刊行セラレタル林學及林業ニ關スル論文及著書目錄編纂ノ件
- (註)以上五問題ノ協定細目ハ、林業試驗彙報第七號ニ登錄セラレタルヲ以テ之ヲ略ス
- 一、各地方ニ於ケル特殊試驗成績ノ報告並之ニ對スル意見ノ交換
  - 一、各廳ノ提案事項

本協議會ハ、單ニ一、二回ノ開催ナルヲ以テ、直ニ其ノ成績ヲ判知シ難ク、且協議ニ付セラレタルカ如キ重要ナル事項ハ、咄嗟ニ實行ノ結果ヲ見ルヘキニ非ラサルヲ以テ、其ノ眞價ハ、將來ニ期セサル可ラサルモ、要スルニ漸次會合ヲ重ネ、相互意見ノ交換ヲ行ハ、帝國ノ全領土ヲ通シテ、更ニ林政ノ向上發展ヲ來スヘク、其ノ貢獻スル所、盡シ多大ナルモノアルヤ必セリ。



## 第九章 森林教育

林業ニ關スル教育ハ、年々隆昌ニ趣キ、其ノ卒業者モ亦歲ト共ニ増加シツ、アリテ、夫々實務ニ從事シ、斯界ニ貢獻スル所尠ナカラサルハ、眞ニ喜フヘキ現象ナリトス。彼ノ大學令ニ依ルモノニハ、東京及北海道兩帝國大學ノ外、九州帝國大學ニ新タニ林學科ヲ設置シ、京都帝國大學モ亦其ノ計畫中ニ在リト云ヘルヲ以テ、遠カラス之カ設置ヲ見ルヘク、専門學校令ニ依レルモノニハ、東京及北海道兩帝國大學ニ附屬スル林學實科及盛岡鹿兒島ノ兩高等農林學校以外、三重縣管内ニ於テ津高等農林學校ヲ新設セラルルアリ。其ノ他各府縣ノ甲種農林學校中、林業ヲ以テ農業ト對等視スルカ、若ハ重要視セルモノノ總數二十四ノ多キニ及ヒ、乙種ニ屬スルモノモ亦之ト匹敵スヘシ。而シテ、前記學校教育ノ外、大正九年度以來、林業試驗場ニ於テ、毎年約一ヶ月間、荒廢地復舊技術修習ノ目的ヲ以テ、各府縣ヨリ二名宛ノ講習生ヲ選拔シ、總員五十名ノ範圍トシ、尙之ニ聽講生トシテ許サル各大林區署砂防工事擔當員ヲ加エテ、砂防工、荒廢地ノ成因ト其ノ造林、關係法規等ヲ講習スル、所謂林業技術員講習會ナルモノアリ。又大日本山林會事業トシテ、大正九年度ニ、東京帝國大學農學部教室ニ於テ、林業講習ヲナシタルニ、聽講者生七〇名の内、實地講習參加者四十八名アリテ之カ聽講者ヲ卒業學校別ニヨリ區分スレハ、帝國大學四、高等專門五七、中等專門五〇其ノ他四名ナリキ。大正十年度ニ於テモ同シク同會事業トシテ、盛岡高等農林學校教室ニ講習會ヲ開催セシ外、京都府山林會外三十四縣ノ山林會ニ於テモ、林業ニ關スル講習、講話、實地指導等ノ會合ヲナセルカ如キ、大正八年度國庫補助ノ制ヲ設ケタル以來、此ノ種ノ舉ハ、毎年續行セラルルニ至リ、普遍的ニ林業知識ヲ啓發シ、茲ニ林業ノ重要ナル所以ヲ

天下ニ周知セシムルノ氣運ニ向ヘルハ、吾人ノ竊ニ欣快ニ堪エサル所ナリトス。

## 第十章 森林所得稅

大正九年ニ改正セラレタル所得稅法、即チ現行規定ニ依ル山林ノ課稅ハ、前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ヲ基礎トシテ算定スルコトナレルカ故、結局其ノ樹木ノ保存ヲ目的トスル賣買ニ對シテモ亦納稅セサルヘカラス。從テ、同一森林ニ對シ、賣買ノ轉々トシテ行ハル場合ニ於テハ、其ノ都度、前買收價格ノ控除ヲ要シ、稅額ノ算定ト煩瑣タルヲ免レス。又山林ノ賣買ニ對シ土地ト立木トヲ分離シテ評價スルハ極メテ困難ノコトニシテ、各人見ル所ヲ異ニシ、公平ヲ得難キ嫌アルカ爲、現行規定ノ甚シク不合理ニシテ、林業ノ發達ヲ阻害スル虞アリト論議スルモノアルニ至レリ。元來、山林事業ハ、數十年ノ蓄積ニ依リ初メテ收益ヲ見ルニ至ルモノニシテ、普通生産物ノ生産トハ、其ノ趣ヲ異ニスルヲ以テ、總テ伐採シタル際課稅スルノ原則ヲ採リ、又其ノ課稅率ハ、伐採時ノ金額ニ對シ生長年數ヲ以テ除シタル金額ノ利率ニ依リ計算スヘキモノナリトノ立論ヲナス者アリ。其ノ他、種々ノ方法ニ付テ、夙ニ民間有志者ノ研究スル所トナリ、第四十五議會ニ對シ、左ノ如ク建議スルニ至レリ。

### 所得稅法中改正法律案

所得稅法中左ノ通改正ス

第四條へ左ノ一項ヲ加フ

前項所得中山林ノ所得ハ之ヲ山林以外ノ所得ト區分シ第三種山林ノ所得ニ準シタル稅額ヲ賦課ス  
第十四條第一項第三號ヲ左ノ通改正ス



山林ノ所得ハ山林伐採ニ因ル前年ノ總收入金額ヨリ其ノ植栽養成ニ必要ナル經費ヲ扣除シタル金額

所得稅法中山林ニ關スル所得ハ伐採ト否トニ拘ラス賣買讓渡即チ不動產ノ移轉毎ニ課稅スルコトナレリ例ハ土地ト共ニ立木竹ヲ賣却シタル場合又ハ立木竹ヲ尙將來存續ノ爲ニ賣却シタル場合ニ於テモ所得稅ヲ課セラレコトナレリ所得稅ノ性質タル賣却ヨリ生スル果實ニ課稅スルニ非スシテ賣却其ノモノニ課稅スル結果ヲ見ルヲ以テ本改正案ノ必要アルヲ認ム而シテ本案ハ第四十四議會ニ於テ衆議院ノ可決セル法案ナルヲ以テ茲ニ再ヒ提出スル所以ナリ。

同案ハ衆議院ノ可決スル所トナリ、貴族院ニ回付セラレタリシモ、偶々會期滿了ニ迫リ審議未了ノ儘閉會トナリ(第四十四議會ニ於テモ亦) 遂ニ議決ヲ見ルニ及ハサリシカ、改正ノ機運ハ此ノ如クニシテ、刻々醞釀セラレツツアルヲ見ル。

### 第十一章 木材ノ規格統一

工業品ノ規格統一ニ關シテハ、大正十年十月三日同調査會ニ於ケル農商務大臣ノ演說ハ、其ノ梗概ヲ知ルニ最便利ナルヲ以テ、先ツ其ノ要旨ヲ掲ケ、次ニ木材ノ規格ニ及ハントス。

#### 大臣演說ノ要旨

度量衡並ニ工業品規格統一ノ緊要ナルコトハ我官民ノ夙ニ認ムル所ナルヲ以テ大正八年六月之方調査會ヲ設ケ主ナル關係官廳ノ發願ヲ請ヒ、其ノ結果度量衡ニ付テハ之ヲメートル法ニ統一スルヲ可トストノ答申ヲ得タルヲ以テ政府ハ度量衡法ノ改正ヲ立案シ、第四十四回帝國議會ノ協賛ヲ得テ去ル四月十一日改正度量衡法ノ公布ヲ見ルニ至レリコトハ各位ノ熟知セラルル所ナリ而シテ工業品規格統一ニ關シテハ其ノ範圍廣汎ニシテ調査審議スヘキ事項頗ル多岐ニ涉ルヲ以テ右調査會ハ統一ヲ必要トスル品種統一スヘキ事項並其ノ統一實行ノ順序方法ヲ議決シ各品ノ規格ニ付テハ更ニ適當ノ調査機關ヲ設ケテ慎重ニ審議スルノ必要アリト答申セリ是レ本調査會ノ設置セラレタル所以ナリ本會ハ委員ノ數ニ於テ前調査會ニ倍シ又各方面ノノヲ網羅セルヲ以テ著々所期ノ目的ヲ達シ

得ルコトト信ス各位ハ克ク其ノ意ヲ諒セラレ學理上ノ優劣我工業ノ現狀並ニ世界ノ情勢等ニ鑑ミ適切ナル標準規格ノ選定ト其ノ普及ノ方法ニ付慎重審議ヲ以テ本會ノ目的ヲ達成スルニ努メラレムコトヲ望ム

抑モ本邦ニ於ケル規格統一事業ノ嚆矢トモ認ムヘキモノハ、明治三十六年中、官廳ノ購入スル「ボルランドセメント」試験法ヲ統一シ、爾來汎ク使用セララルルニ至リタルモノヲ擧ケサル可ラス。又日本電氣工藝委員會ノ發電機、電動機、變壓器ニ關スル主要名稱及規格ノ統一調査、又大正二年中、上水協議會ニ於ケル水道鐵管ノ標準仕様書統一、大正七年逓信省主管ノ下ニ行ハレタル標準船型ニ關スル調査アリ、工業會ノ主唱ニ係ル日本鑛業會外十三學會ノ聯合工業調査會ヲ設ケ、工業用材料並機械類ノ規準ニ關スル事項調査アリ、其ノ他建築材料聯合調査ノ木材及煉瓦ノ寸法統一等アリ、以テ時勢ノ要求ニ對スル進運ヲ看取シ得ヘシ。是ニ於テカ、政府ハ大正八年六月中、度量衡及規格統一調査會官制ヲ發布シ、更ニ同十年四月其ノ規模ヲ擴大シテ、工業品規格統一調査會官制ヲ發布シ、常設調査機關ヲ設ケテ審議セシムルコトトナレリ。該調査會ハ官廳及關係アル各種學會、其ノ他民間當業者ニ涉リ汎ク網羅セルモノニシテ、之ヲ四部ニ分チ、木材ハ其ノ第一二部(金屬以外ノ材料)ニ屬シ、大正十年十一月第一回委員會ヲ開キ、建築材料調査會ノ案ニ成レル木材規格ヲ原案トシテ調査ヲ進行スルコトニ決議セラレ、爾來今日(大正十一年五月)迄ニ會合ヲ重ヌルコト五回ニ及ヒタルモ、由來木材ノ規格タル、各地方到ル處相同シカラスシテ、多種多様ニ亘リ其ノ難駁ヲ極ムルコトハ、他ノ一般工業品ノ比ニ非ス、從テ委員會ニ於テモ議論百出シ、之カ統一ヲ見ルコト頗ル至難ノ狀態ニアリ。而シテ、會議ニ於テ早晚之ヲ決定スルニ至ルヘキモ、全國ヲ統一シテ實行セシムルコトハ官民共非常ノ努力ヲ要スヘシ。



第十一章 林産物ノ貿易

大正三年以前ノ我國ハ、木材輸出國ノ部類ニ屬シ、一箇年ノ輸出量ハ各種ノ樹種材種ヲ合セ、實ニ五百萬石ヲ超ユルノ盛況ヲ示シタルニ反シ、輸入材ハ僅ニ二十餘萬石ニ過キサリキ。而カモ、輸入材ノ約二割五分ハ特殊用途ニ供セララルル紫檀、黒檀、チーク、マホカニ、及桐等ノ占ムル處ナリ。然ルニ、歐洲大戰ノ勃發スルヤ、木材ノ貿易亦不振ニ陥リ、我國木材輸出入量激減シ、大正四年ノ輸入量僅カニ十五萬餘石、輸出量三百三十三萬石ヲ過キササルニ至レリ。尙戰後ノ好況ハ本邦各種工業ノ振興ニ連レ、木材ノ需要激増シ、材界ハ異狀ノ活況ヲ呈シ、大正七年以降年々ノ用材伐出量二千五百萬石乃至三千萬石ヲ算シ、輸入材八十二萬石輸出材三百四十萬石ニ達セリ。

大正九年中、經濟界ノ一大恐慌襲來スルヤ、我國木材ノ需要減少セルニ拘ハラズ、勞銀低落セス、一面當業者ハ極度ノ事業緊縮ヲ圖リテ伐出ノ手控ヲナスモノ少ナカラサリシト相俟ツテ需給ノ均衡ヲ失セルモノノ如ク、其ノ爲木材價格ハ却ツテ左程低落セサルノ奇現象ヲ現出セリ。偶々、米國ニ於テモ財界ノ不振ヲ來タシ之カ整理ニ力ヲ注キシ爲、勞銀材價低落シ、日米間船運賃ノ暴落スル等、極メテ廉價ナル木材ヲ本邦ニ供給シ得ルニ至リタル結果、邦材材價ト、著シキ懸隔ヲ生シ、輸入業者ハ勿論、一般木材業者ニシテ盛ニ買付ヲ行ヒ、當業者ハ互ニ相來往シテ取引ヲナシタリ。一面、米材ノ廉價ハ大ニ其需要ヲ喚起シ、大正十年下半年期ヨリ輸入量急激ニ増加シ、輸出入量前ニ逆轉シテ輸出各種材ノ丸太材積二百十二萬石ノ輸出ニ對シ、輸入ハ粗材製材併セテ二百九十萬石ヲ算シ、大正十一年ニ於テハ北米材ハ其ノ入荷愈々増加ノ傾向ヲ示シ約六百萬

石、沿海州材亦百八十萬石ヲ超エントスルニ至レリ。即チ木材輸出國タリシ我國ハ、茲ニ其ノ輸入國ト化セリ。是レ蓋シ、我國木材ノ生産減少セルニヨルモノト見ルヘカラス。畢竟ソノ原因タル運搬機關ノ發達ハ、木材ヲ世界的商品タラシメ、而カモ本邦一般物價ノ昂騰ヨリ、延ヒテ勞銀材價ノ暴騰ヲ來シタルニ反シ、一面世界海運界ノ悲境カ嵩商品タル木材ヲモ、敢テ低廉ナル賃金ヲ以テ之ヲ運搬スル結果ニ外ナラスシテ、此ノ趨勢ヲ持續スル間ハ、本邦ハ依然トシテ木材ノ輸入國タラサルヲ得サルヘシ。

自大正三年至大正十年 林産關係重要輸出品 (單位圓)

品目	年度	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
鐵道枕木		二、四四、五五二	一、六三、八八九	一、五三、六六三	一、三三、九九〇	一、九七、八五二	三、一五、八二〇	三、九五、八二一	三、一七、二九七
箱板		一、四八、六四〇	三、三三、八五四	二、六六、五四四	八、四八、七五三	七、六二、一七一	八、三三、五七七	六、四四、八七六	二、八三、四〇〇
橋寸軸木		二七、五六六	七、三、四四	七、四、四七一	一、六、四六	一、九、〇、六三	二、八五、八一九	三、二、七、三三	八、一三、三〇〇
同小函木地		二七、三三五	二、七、八〇九	二、五、二、七四	二、九、七、三四	六、四、三、七四	六、七、四、七〇	一、二、五、九、五五	八、二、三、五、六六
其他ノ木材		六、三、八、四三	四、〇、六、九七	六、八、九、七三	三、六、五、一六	五、六、三、二四	九、〇、四、四三	四、一、八、五、六三	五、三、六、一、三三
家具玩具傘柄等		一、三、六、八二〇	一、五、五、四〇三	二、五、三、七五三	三、四、四、七九	三、八、五、八〇一	五、五、〇、六八	八、五、八、四八	三、六、九、九、九
木製及真田		七、九、八七七	四、八、六、九二	五、七、四、七五	一、〇、六、五、九	四、六、八、四、九	一、五、二、五、三、七	一、四、六、三、八	一、八、三、九、九
木製バルブ		—	—	—	八、七、五、四、九	一、〇、五、〇、三、七	二、四、四、〇、八〇	一、九、二、七、四、六	一、五、五、五、九
竹		四、八、七、六五	三、八、二、三九	四、四、二、六、四	三、六、〇、二、五、六	一、八、二、四、五、三	四、六、四、一、九	八、〇、九、二、〇	五、五、五、九、三
竹製		一、六、九、五、七四	一、三、九、八、一七	一、八、七、六、五、四	一、三、七、〇、五、六	一、〇、五、〇、一、九、八	一、九、八、二、八、五、九	三、七、三、七、三、七	一、八、四、六、七、六、六
木		二、四、四、四、〇五	二、五、六、六、八	三、九、二、二、一	三、五、五、二、九、七	三、六、五、二、九、七	三、九、九、四、三、七	三、〇、九、八、六、六	一、四、六、四、四、九
椎		一、五、〇、〇、三、三	一、三、一、〇、一、〇、六	一、六、五、五、一、六	二、〇、七、〇、二、九	二、三、二、九、二、四	二、三、五、六、一、〇、一	二、三、五、六、三、九、〇	一、五、四、二、九、六



品目	年次									
	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年
木	一、〇三九、六五一	一、六三三、七八	一、七三五、六〇〇	一、五五五、六六六	三、〇〇八、五二六	七、五三、〇七	三、四六、〇三	一、〇一八、九七五	一、〇一八、九七五	一、〇一八、九七五
樟	二七六、〇〇一	三、四七五、四一五	六、二八七、七九五	五、〇〇四、一五七	三、六六六、七五五	七、八八、八七五	四、九六五、三五〇	二、〇八七、四一四	二、〇八七、四一四	二、〇八七、四一四
樟腦	二二六、六〇四	三、八七、七六三	三、〇八、二七五	三、一六、一三三	二、六八、〇七〇	三、三三、七八五	八、四一、五〇八	一、〇一八、九七五	一、〇一八、九七五	一、〇一八、九七五
樟油	二〇、六五七、九四九	一、八三六、五二九	二、七、八四五、二三五	三、三、五九四、三三	三、四、六九二、九六六	四、五、六二一、〇九〇	四、五、六二一、〇九〇	五、四、二七九、六八六	五、四、二七九、六八六	五、四、二七九、六八六
計	二〇、六五七、九四九	一、八三六、五二九	二、七、八四五、二三五	三、三、五九四、三三	三、四、六九二、九六六	四、五、六二一、〇九〇	四、五、六二一、〇九〇	五、四、二七九、六八六	五、四、二七九、六八六	五、四、二七九、六八六
其他	一三、一五一、九三六	一、七五二、〇六四	二、五、〇七五、七九五	三、八、五三三、九四九	四、五、三三〇、九三九	四、五、三三〇、九三九	四、五、三三〇、九三九	四、五、三三〇、九三九	四、五、三三〇、九三九	四、五、三三〇、九三九
合計	三三、八〇九、八八五	三、五、九六五、五八三	五、二、九二一、〇三〇	六、七、八五二、三六二	七、九、〇三三、九〇五	八、九、〇三三、九〇五	八、九、〇三三、九〇五	八、九、〇三三、九〇五	八、九、〇三三、九〇五	八、九、〇三三、九〇五

自大正三年至大正十一年 林産關係重要輸入品 (單位圓)

品目	年次									
	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年
椰子油	二、七二、九七一	一、五二、四二二	一、八二、六四四	三、九九、九七五	一、二七、三三三	六、五五、五三三	一、九七、六五一	五、五三、三三三	二、七二、九七一	五、五三、三三三
漆	六、七五、七四三	七、七六、九三三	七、七六、九三三	九、三三、四一〇	一、三三、四一〇	二、三三、四一〇	二、三三、四一〇	二、三三、四一〇	二、三三、四一〇	二、三三、四一〇
阿蘭蘇其他丁寧	四、〇〇、〇〇〇	七、七六、九三三	三、〇〇、〇〇〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
エキ	四、〇〇、〇〇〇	七、七六、九三三	三、〇〇、〇〇〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
沈香	二、〇〇、〇〇〇	三、七六、九三三	一、〇〇、〇〇〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
醋酸石灰	二、〇〇、〇〇〇	三、七六、九三三	一、〇〇、〇〇〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
オリーナ油	二、〇〇、〇〇〇	三、七六、九三三	一、〇〇、〇〇〇	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一
計	二、七二、九七一	一、五二、四二二	一、八二、六四四	三、九九、九七五	一、二七、三三三	六、五五、五三三	一、九七、六五一	五、五三、三三三	二、七二、九七一	五、五三、三三三
其他	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一
合計	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一	三、一、一、一、一

第二編 國有林野ノ經營

第一章 保護管理

第一節 社寺保管林

大正九年度末ニ於ケル社寺土地林ノ總數ハ、千二百二十七箇所、此ノ面積四萬七千七百七十九町步ニシテ、其ノ内神社ニ屬スルモノ七百七十八箇所二萬五千六百六十二町步、寺院ニ屬スルモノ三百三十九箇所、一萬五千五百十七町步アリ。而モ其ノ内稀ニハ境内編入ノ處理ヲ要スルモノアルヘク、又小面積ナルカ爲拂下處分ニヨリ社寺ニ於テ所有スルヲ便宜ナリトスルモノ等若干之アルヘキモ、要スルニ土地林ノ大部分ハ、保管林トシテ



處理セラルヘキモノナラン。而シテ、該規定改正以前ニ於テハ、其ノ設定ヲ見タルモノ、僅ニ五箇所、二千五百八十七町歩ニ過キサリシモ、爾後規定ノ改正ニ從ヒ、俄ニ出願數ヲ増加シ、大正九年度末ニ於ケル設定ノ許可二百十二箇所、二萬一千八百五十町歩ニ上リ、面積ニ於テハ全土地林ノ約二分ノ一ニ達スルニ至レリ。以上設定済ノ外、將來許可セラルヘキモノ尙尠ナカラサルヘキヲ以テ、是等ノ取締ニ付テハ、政府ニ於テモ相當ノ注意ヲ拂フノ必要ヲ認メ、農商務省ハ内務文部兩省ト協議ノ上、山林神社兩局長及山林宗教兩局長連名ノ下ニ、各府縣知事(東京、神奈川、愛知、岡山、山梨、福井、富山、山口、沖繩ヲ除ク)ニ對シ左ノ通牒ヲ發シ、以テ保管林設定ノ主旨ヲ貫徹セムコトヲ期セリ。

社寺保管林ヨリ得タル寺院ノ收得金處分ニ關スル件

(大正七年十一月二十五日林第三五一號、三號府縣知事宛山林宗教兩局長通牒)

社寺保管林規則ニ依リ社寺土地ノ國有林ナリ其ノ社寺ニ保管セシムル場合ニ於テハ許可ノ條件トシテ一般ニ左記事項ヲ遵守セシムルコトニ相成居候條保管林ヨリ享ケル當該寺院ノ收入金處理ニ付テハ特ニ嚴重ナル指揮監督ヲ爲シ因テ保管林設定許可ノ精神ヲ徹底セシムル權致度依命此段及通牒候也

追テ保管林設定許可ノ上ハ當該大林區署長ヨリ通知可致候條爲念申添候也

記

八、保管林ヨリ收入ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ主務官廳地方長官ニ届出ツルコト

前項ノ收入ノ處理ニ付テハ主務官廳地方長官ノ指揮ニ從フヘキコト、若シ違背シタルトキハ保管林ヲ解除セラルルモ異議ナキコト

社寺保管林ヨリ得タル寺院ノ收得金處分ニ關スル件

(大正七年十一月二十五日林第三五一號、一三號大林區署長宛山林局長通牒)

社寺保管林設定許可ノ上ハ可成速ニ當該社寺ヨリ提出セル保護方法書及請書寫並社寺ノ享ケヘキ利益見込額(推定額)調査ヲ添付其ノ旨地方長官ヘ通知相成度此段及通牒候也

神聖土地林保管ニ關スル件

(大正八年四月二十二日林第九五五號、府縣知事宛山林神社兩局長通牒)

神社土地ノ森林ヲ其ノ神社ニ保管認許ノ場合ハ社寺保管林規則其ノ他ニ依リ種々ノ義務ヲ負擔スルコトニ相成候條之カ履行ニ付テハ特ニ遺漏ナカラシムル權御配慮相成度尙保管林ヨリ臨時ニ多額ノ收入ヲ得タル場合ニ於テハ營繕其ノ他特別ノ事情ニ依ル費用ニ充ツルノ外ハ可成基本財産等ニ立テシメ依テ保管林設定認許ノ精神ヲ貫徹セシムル權致度依命此段及通牒候也

第二節 委託林

國有林野委託規則ハ、明治三十二年ニ發布セラレタルモ、當時ニ在リテハ、特別經營事業ノ創始ニ際シ、國有林地全般ニ亘リテ、永遠ニ存置スヘキモノト、整理處分ニ依リ拂下ケラ爲スヘキモノトノ調査ヲ進行シ、前者ハ政府ニ於テ施業スヘキ見地ノ下ニ、諸般ノ計畫ヲ樹立シ、後者ハ其ノ内地元町村又ハ町村ノ一部ニ對シ其ノ所有トシテ拂下ケラルヘキモノアリテ、委託林制度ノ積極的活用ヲ見ルニ至ラス、大正九年三月末、現在ニ依レハ、各大林区ヲ通シテ、纔ニ二十箇所、二千三百七町歩ノ設定ニ過キサリキ。然ルニ、國有林野ノ整理處分ハ、已ニ大體ノ終結ヲ告ケ、存置スヘキ林野亦確定シタルヲ以テ國有林野ト地元市町村トノ關係ノ實情ニ應シ國有林野保護ノ完全ヲ期スル爲之ト密接ノ關係ヲ有スル地元市町村又ハ其ノ一部ノ部落ニ對シ相當面積ノ林野ヲ委託シ因テ委託規則ノ活用ヲ見ルハ最早左程ノ年月ヲ要セスシテ實現セラルヘシ。

第三節 森林主事ノ表彰

國有林野ノ直接保護ニ當ル森林主事ハ、身體ノ强健ナルト共ニ、職務ニ忠實ナルヲ要シ、行動ノ敏活剛毅ナルヘキハ勿論、操持ノ清廉潔白ナラサルヘカラサルニ拘ハラズ、其ノ地位低ク、俸給亦薄キヲ以テ、奉公ノ



念特ニ強キ人士ニ非ラスンハ永續シ難ク、且其ノ職務執行ニ際シテハ、常ニ献身的ノ精神ヲ以テ、之ニ當ルヘキ位置ニ立テルモノナリ。而モ、所管ノ林野ヲ保護スルニ、如何ニ周到ナルモ、目スルニ職務上當然ノ事ナリトセラレ、之ニ反シ、若シ些少ノ過チアル場合ニハ直ニ督責セラルカ如キコト無シトセサルヘシ。之レ大ニ同情スヘキ點ナリトス。況ヤ、其ノ職務タル、林野ノ保護ノミニ止マラス、造林ニ、土木ニ、斫伐ニ常ニ寧處スルニ迫ナキニ於テヤ、然ルニ、從來功アルモ之ヲ表彰スルニ何等ノ特典ナカリシハ、誦者ノ其タ遺憾トシタル所ナルモ、大正十年新ニ次ノ規定ヲ設ケラレ、爲ニ待遇上ノ一進歩ヲ認ムルニ至リタルハ、眞ニ喜ブヘキコトナリ。

森林主事表彰規程

林第二八四號

大正十年十月二十四日

- 第一條 森林主事ニシテ盜伐ノ防止、火災ノ豫防、消防其ノ他森林警察上ニ一般職員ノ職務トシテ堆積スヘキ所爲アリタル者ニ對シテハ、表彰ト共ニ效績章ヲ授與シテ之ヲ表彰ス
- 第二條 彰狀及效績章ヲ授與セラレタル者更ニ前條ノ規定ニ依リ表彰スヘキ效績アリタルトキハ彰狀ノミヲ加授ス
- 第三條 彰狀及效績章ヲ授與セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ返納セシム
  - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 二 懲戒處分ニ依リ免官セラレタルトキ
  - 三 表彰ノ主旨ト著シク反スル所爲ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタルトキ
- 第四條 彰狀及效績章ヲ授與セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ效績章ノ佩用ヲ停止スルコトアルヘシ
  - 一 罰金以下ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 二 懲戒處分ヲ受ケタルトキ
  - 三 不都合ノ所爲アリタルトキ

前項ノ規定ニ依リ效績章ノ佩用ヲ停止セラレタル者相當期間内ニ改悛ノ狀顯著ナリト認メタルトキハ其ノ停止ヲ解キ改悛ノ狀ナシト認メタルトキハ彰狀及效績章ヲ返納セシム

第五條 彰狀及效績章ノ授與及返納並效績章ノ佩用停止及其ノ解除ハ表彰審査委員會ノ銜ヲ經テ之ヲ決定ス

第六條 各大林區署長ハ部下ノ森林主事本規程ニ依リ表彰スヘキモノト認ムル者アルトキハ事情ヲ詳具シテ稟申スヘシ彰狀及效績章ノ返納、效績章ノ佩用停止及其ノ解除ニ付亦同シ

第七條 效績章ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所屬林區署長ヲ經テ再交付ヲ出願スルコトヲ得

效績章ノ制式及其ノ形版ハ附圖ニ依ル

(附圖)



第二章 特別經營事業ノ終了

第一節 國有林野特別經營事業ノ沿革

明治三十二年度ニ於テ森林資金特別會計制度ヲ創始シ、不要存置林野ノ賣拂處分ニ依ル收入ヲ以テ特別經營



營事業ノ資金ニ充當シ漸次ニ經營ヲ進ムルコトナレルハ明治林業史要ニ於テ既ニ之ヲ述ヘタルカ如シ。爾來著々其ノ進捗ヲ圖リ森林費ニ依ル通常經營事業ト相俟テ國有林野經營ノ本義ヲ完フセンコトヲ期セシカ、大正十年度ニ至ル實行期間ハ既ニ二十三箇年ニ達シ、所謂特別經營事業ニ屬スル臨時的業務ハ總テ當初ノ計畫ヲ終了セルノミナラス、其ノ性質同一ナル事業ニシテ之ヲ擴張セルモノモ漸次連續シテ進捗セシメ是亦殆ト完了ヲ告クルニ至リ、十一年度以降ニ於テハ恒久ニ渉ル業務ニ遷移スルノ時期ニ到達セリ。之ヲ各種事業別ニ付概説スレハ、三角測量ハ既ニ完成ヲ告ケ、境界査定周圍測量及施業案編成ハ從前所要ノ分量ハ總テ之ヲ成就シ、造林ニ於テモ新植事業ノ全部ヲ終了シタレハ是等ノ業務中十一年度以降ニ於テ施行ヲ要スルモノハ主トシテ既往實行ニ對スル維持、補修ノ範圍ニ屬スルモノニシテ、即チ境界査定周圍測量ニ於テハ國有林野存廢區別ノ變更又ハ森林買上及交換等ニ伴ヒテ必要トスル事業、施業案編成ニ於テハ既成施業案ノ檢訂、造林ニ於テハ手入の事業タルニ過キス、而シテ土木事業ニ付テハ既ニ豫定計畫ニ十數倍スル分量ヲ遂行セリト雖、國有林ノ利用漸次進展シ、且世上一般ノ國有林產物ニ對スル需要切迫セルニ從ヒ年々新ニ施設ヲ要スルモノアリ、到底其ノ事業終局ノ場合ナカルヘク、整理處分ノ如キハ收入豫定額二千三百二萬餘圓ニ對シ大正十年度迄ニ六千五十九萬餘圓ヲ收入シ尙十一年度以降ニ於テ大約二千餘萬圓ヲ收入スル豫定ナレトモ、其ノ賣拂處分ハ場所及地方經濟ノ關係ニ依リ急速ニ之カ終了ヲ豫期シ難ク、林業試驗ノ如キハ基礎既ニ成リ、今後益事業ヲ擴張シ永久ニ涉リテ繼續施行ヲ要スルモノアリ、十一年度ヲ以テ國有林事業ヨリ獨立シテ存續セララルニ至レリ。

特別經營事業ノ沿革ハ大約斯ノ如クナルモ、全般ヲ通シテ之ヲ觀察スレハ、大正十一年度以降ニ於テハ殆ト既往實行ニ對スル維持、補修ノ業務ニ止マリ、其ノ性質全ク通常經營ニ屬スル業務ト何等區別シ難キニ至リタルノミナラス、假ニ本事業ヲ繼續スルコト、スルモ、今後ノ不要存置林野賣拂收入ノミヲ以テ到底所要經費ヲ支辨スル能ハサルニ至リタレハ、茲ニ國有林野特別經營事業ヲ打切り、之ヲ通常經營ニ移付併合スルニ至レルモノナリ。今左ニ本事業創始以來ノ實行狀況ヲ敘シ、其ノ成績ノ要領ヲ抄録セントス。

## 第二節 事業創始當時ノ計畫

特別經營事業創始當時ノ計畫ハ森林資金ノ收入豫定額二千三百二萬二千五百三十三圓ヲ基礎トシテ立案セラレタルヲ以テ、今日ヨリ之ヲ觀ルトキハ施行ノ必要ヲ認メタル事業ノ一部ヲ計上スルニ止マリシハ亦已ムヲ得サルニ出テタリト謂フヘシ、即チ明治三十二年度以降十六箇年間ニ於テ左記ノ五綱目ニ屬スル事業ヲ遂行セントスルモノニシテ、其ノ詳細ハ別表(當初計畫實行トノ對照第三節第二表參照)ノ如シ。

### 一、林野處分

國有林野ノ實況調査上將來國有トシテ存置ヲ要セサルモノヲ調査シ、其ノ賣拂代金ハ森林資金ニ繰入ル、モノニシテ、此豫定面積七十四萬餘町步、三十二年度以降十箇年間ノ繼續施行トス。

### 二、林野實測

國有林野ノ實況調査上將來國有トシテ、存置ヲ要スルモノ七百十七萬餘町步ノ内、實測未済ノモノ五百萬町步ニ付、三角測量及ヒ周圍測量ヲ實施スルモノニシテ、三十八年度以降十箇年間ニ繼續施行スルモノナリ。











テ之カ應急策トシテ之ヲ實行セルモノナリ。

(八) 外國出張

森林視察其ノ他ノタメ海外ニ吏員ヲ派遣セルモノナリ。

(九) 下戻調査

國有土地森林原野下戻法發布以前及以降ニ於ケル下戻申請ニ關スル調査處分及行政訴訟ニ關スル事務ヲ處理セルモノナリ。

二、當初計畫ニ豫定セル事業中實行上數量及經費ヲ減少セルモノ次ノ如シ。

(一) 三角測量

當初計畫ノ見込過大ナリシ結果ニシテ測定ヲ要スル箇所ハ明治三十九年度迄ニ全部完了セリ。

(二) 周圍測量

國有林野ノ實測面積豫定ノ町步ニ達セサリシタメニシテ其ノ性質常務的ナル僅少ノ事業ヲ除ケハ既ニ之ヲ完了セリ。

(三) 森林買上

國有林野ノ經營上本事業ニ比シ一層緊要ナル事業ノ施行ヲ要スルモノ續出セシト買上價格ノ協定ニ關シテ實行容易ナラサリシトニ因リ其ノ經費ノ大部分ハ如上喫緊事業費ニ充當シ施業林ノ買上ハ僅ニ管理經營上特別ノ必要ヲ認メタル箇所ニ局限セラレ此外運搬設備又ハ造林事業上ノ森林附屬地トシテ若干ノ土地ヲ買上ケタルモノアルニ止マレリ。

第二表

國有林野特別經營事業當初計畫及實行成績對照表

種別	期間及年數		當初計畫	實行	増(減)	當初計畫	實行	増(減)
	當初計畫	實行						
整理處分	三〇	三〇	三〇	三〇	〇	〇	〇	〇
三角測量	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
周圍測量	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
境界査定	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
施業案編成	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
人工植栽	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
天然生育	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
砂防植栽	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
苗圃	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
固定防火線	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
臨時防火線	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
成林撫育	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
處理費	一〇	一〇	一〇	一〇	〇	〇	〇	〇
計								
林道	三〇	三〇	三〇	三〇	〇	〇	〇	〇
河川疎通	三〇	三〇	三〇	三〇	〇	〇	〇	〇
貯木場設備	三〇	三〇	三〇	三〇	〇	〇	〇	〇



總計	通事務費		外國出張		共濟組合		施業林買上		水處理費		砂防設備	
	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
三,〇三三,〇五三	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇
五八,三三四,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三	六,六六九,三三三
三,〇九一,三八六	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇	三,〇一〇,〇〇〇

### 第四節 特別經營事業ノ效果

特別經營事業ノ實行成績カ當初計畫ニ比シ著シキ増加ヲ來シタルコトハ略々前述ノ如クナルモ、茲ニ森林資金會計ノ收支關係ニ付累年ノ比較ヲ表示スレハ次ノ如クナルヘシ。

#### 森林資金收支累年比較表

年度	林野拂下代		國有林野經營費		比較收入 過不足	收入ニ對スル 支出ノ歩合
	豫算額	決算額	豫算額	決算額		
明治三二	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治三三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治三四	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治三五	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治三六	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治三七	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治三八	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治三九	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治四〇	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治四一	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治四二	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治四三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
明治四四	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇
大正元	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	三,〇三三,〇五三	〇	〇



九	1,100,000	1,100,000	△ 6,000,000	△ 4,000,000	△ 2,000,000	△ 1,000,000	△ 1,000,000
一〇	1,200,000	1,200,000	△ 7,000,000	△ 5,000,000	△ 2,000,000	△ 1,000,000	△ 1,000,000
計	2,300,000	2,300,000	△ 13,000,000	△ 9,000,000	△ 4,000,000	△ 2,000,000	△ 2,000,000

備考 明治三十七年度、大正二、三、四、六及九年度ハ實行豫算額ヲ掲ケ。

前表ニ依ルトキハ森林資金收入ノ大正十年度ニ至ル決算額ハ六千五百三十八圓ニ達シ、當初計畫ノ二千三百二萬二千五百三十三圓ニ比スレハ二倍六分三厘ニ相當ス、而シテ之ニ對スル支出經費ハ同年度ニ至ル決算額五千八百四十二萬四千三百六十二圓トナリ、當初計畫ニ比シ二倍五分四厘ニ相當スヘク、差引二百十七萬百七十六圓ヲ資金殘額トシテ一般會計ニ繰入ル、ニ至レリ。

若シ夫レ本事業カ終末ヲ告ケタルニ際シ、所謂國有林野ノ特別經營カ將來如何ナル成果ヲ齎ラスニ至ルヘキヤ豫察スルニ當リテ、各種ノ事業項目ニ付一々數字の解説ヲ與フルコトハ頗ル難事ニ屬スルモノナキニアラサルモ、以下數項ニ涉リテ其ノ沿革及成果ニ付概略ノ觀察ヲ試ミントス。

一、整理處分

國有林野ノ存廢區別調査ハ、明治二十三年度乃至三十七年度間ニ施行セラレタル山林原野調査事業ニ於テ具體的計畫ヲ確定セルモノト謂フヘク、即チ其ノ實況調査ノ成績ニ於テハ七百三十五萬四千三百四十三町步ヲ要存置トシ、七十四萬五千七百七十六町步ヲ不要存置トシテ處分スルノ方針ニ在リタルモ、本調査時代ノ面積ハ多ク臺帳若ハ見込面積ヲ踏襲シ、實地トハ太シキ差異ヲ生セシカ故、特別經營事業ノ創始以來一實測ヲ經テ之ヲ訂正シタル結果、要存置林野ノ如キ多大ノ減少ヲ來セルハ亦已ムヲ得サル所ナリトス。

此ノ外存廢ノ成績ニ大ナル影響ヲ及ボセルハ民有下戻、社寺境内編入、他官廳用地ニ組換等ノ事項ニシテ、之カタメ要存置並不要存置ノ面積ヲ著シク減少セリ、尙離權ヲ爲ササルモ畜産ノタメ使用セシムヘキ放牧採草限定地又ハ離權見込ノ開墾適地等ノ加除ニ依リ多少ノ影響アリト謂フヲ得ヘク、殊ニ最近ノ開墾適地調査ニ依レハ適農地ノ不要存置ニ編入セラレタルモノ著シク増加セルカ如キハ當初豫定ニ對シテ相違ヲ來セル一因ト見ルヲ得ヘシ。今明治三十二年度以降ニ於ケル整理處分ニ關スル各種事業ノ成績ヲ擧クレハ、大正十一年三月末日現在ノ要存置林野決定總面積ハ四百十五萬五千九十九町步不要存置林野決定總面積ハ九十萬八千九百五十一町步ニシテ、内七十八萬七千七百三十三町步ハ賣拂處分濟ニ係リ、十二萬七千二百三十八町步ハ處分未濟ニ屬ス、而シテ右ノ存廢決定ニ至ル中途ニ於テハ前述ノ如ク下戻組換讓與等ニ依リ離權シ又ハ存廢ノ變更或ハ再調ヲ爲シタルモノアルカタメ實際事務取扱上處分調査ヲ實行セル十年度末累計面積ハ實ニ百五萬三千二百六十四町步ニ達シ、此ノ經費三百十六萬九千九百六圓ト成レリ、而シテ不要存置林野ノ賣拂代金ハ順次森林資金收入ニ繰入レラレタル上特別經營ノ經費ニ充當セラレ、豫期以上ノ計畫ヲ遂行セルコト既述ノ通りナルモ、本資金ハ尙一面ニ於テ日露戰役軍事費北清事變事件費歐洲大戰臨時事件費等ニ其ノ都度繰替融通セラレ、以テ國庫財政上貢獻スル所尠カラサリシモノアリ、又整理處分ノ結果ヨリ觀ルトキハ、本處分ニ依リテ從來全國各地ニ散在基布セル國有林野ヲ一定方針ノ下ニ整理統一シタルカタメ、國有林ノ保護管理費ヲ節約スルニ至リ經營上裨益スル所甚大ナリシノミナラス、拂下林野ハ或ハ公用又ハ公益事業ニ使用セラレ、或ハ市町村學校等ノ基本財産ヲ構成シ、或ハ開墾牧畜植樹等ノ用途ニ供セラレ、等夫々其ノ宜シキニ從テ利用セラル、ニ至リ、延ヒテ國民經濟ノ發展ニ資セルモノ尠カラサルヘシ。今事







施業案ノ編成ハ特別經營事業開始當時各種事業トノ按配上要存置林野ノ全部ニ對シテ之ヲ企畫シ雖キ事情アリシニ依リ、單ニ經濟上比較的優位ナル森林二百一十一萬二千町步ニ對シ經費二百三十五萬五千五百七十五圓ヲ以テ明治三十二年以降十箇年間ニ之ヲ編成スルノ豫定ナリシカ、實行五箇年ニシテ其ノ成績豫期ニ反セルモノアルニ鑑ミ計畫ニ改訂ヲ加ヘ、期間二箇年ヲ延長シ四十二年迄ニ二百十六萬餘町步ノ編成ヲ了シ、既ニ計畫面積ヲ超過スルニ至リタルモ時勢ノ進運ニ伴ヒ曩ニ經濟上ノ優位ナルノ理由ヲ以テ當初計畫外ニ置キタル森林ニ對シテモ適當ナル施業案ヲ要求スルニ至リ、又既成施業案ニ於テモ檢訂ノ時期ニ到達セルモノアリ。恰モ四十五年度ニ於テ特別經營事業ハ更ニ全般ノ計畫ヲ變更スルニ至リタレハ、施業案ノ編成亦之ニ從テ社會ノ要望ニ順應スルノ計畫ヲ進ムルコトヲ得、其ノ施行期間タル大正八年度迄ノ編成面積三百八十四萬四千七百十町步檢訂面積二百八十八萬二千六百二十三町步經費百八十六萬六千九百七十二圓ニ變更シタルカ、更ニ特別經營ノ終了期ニ至ル成績ヲ舉ケレハ大正十年度迄ノ編成面積ハ四百十萬六千五百一町步檢訂面積四百三十一萬二千七百七十二町步經費二百五十二萬六千二百二十五圓ト成リ僅ニ離島ヲ除キタル大部分ノ要存置林野ニ對シ施業案ノ編成ヲ完了スルニ至レリ、而シテ此ノ間二十有三箇年間ノ長期ニ互リ幾多ノ障礙ニ遭遇シツ、能ク此ノ成績ヲ舉ケタルニ至リタルハ洵ニ一偉業タルヲ失ハサルヘシ、施業案ノ編成タルヤ森林ヲ法正ナル狀態ニ導キ其ノ利用ヲ永遠ニ保續シ、國土ノ保安其ノ他公益ヲ保持スルノ目的ヲ以テ森林經營ノ基礎計畫ヲ確立スルニ在リテ、所謂林業百年ノ長計ノ依テ生マル、所ナレハ、之カ大成ヲ見ルニ至リタルハ國有林經營上慶賀ニ堪エサル所ナリトス。今ヤ四百十有六萬町步ノ要存置國有林ニ於ケル林木總蓄積ハ十三億七千八百八十五萬餘石ニシテ、其ノ年伐標準量ハ主伐面積四萬七百

五十餘町步主伐材積千八百三十五萬餘石間伐材積百六萬餘石ト成ルモ、施業案ノ既定計畫ヲ實行スルトキハ將來ニ於ケル林木總蓄積ハ現在ニ比シ三倍スヘク、年伐量ノ如キモ主伐面積五萬餘町步主伐材積六千六百餘萬石間伐材積千三百餘萬石ノ大サニ達シ、即チ年伐材積ハ主伐ニ於テ現在ノ四倍餘間伐ニ於テ三十二倍ニ達スヘク、而モ林種改良ノ結果現在ノ林相ハ全ク一變スルニ至リ現實蓄積ノ大部分ヲ占ムル不優位林木ハ法正ナル優位林木ニ更新セラルヘク即チ其ノ樹種別生産額ニ至リテハ針葉樹ハ現在ニ比シ約十倍シ、彼ノ昨今漸ク缺乏ヲ告ケツ、アル特殊闊葉樹ノ如キモ著シキ増加ヲ來スヘキ見込ナリトス。

#### 四、造林

特別經營開始後ニ於ケル國有林野ノ造林事業ハ、毎年ノ伐採ニ伴ヒ施行スヘキ分ヲ經常部ニ屬セシメ、從來ノ無立木地ニ於ケル造林、搬路開設等ハ、之ヲ特別經營部ニ屬セシメ、兩々相俟テ森林造植ノ完成ヲ期スルノ方針ナリキ、而シテ特別經營ニ於ケル造林計畫ハ人工植栽、天然生育、砂防植栽、苗圃栽培、搬路開通防火線築設ノ六事業トシ、明治三十二年度ヨリ著手シ、四十四年度迄十三箇年間ニ面積十四萬五千町步ヲ植栽シ、道路延長百里、固定防火線面積百三萬六千八百坪、臨時防火線面積八十六萬四千坪ヲ築設シ、河川ニ於テ面積三萬二千坪ヲ疏通スルノ豫定ニシテ、此ノ經費總額ハ七百八十一萬三千四百五十五圓ナリ、而シテ特別經營ニ屬スル造林ノコトタルヤ國有林野中無立木地ノ人工植栽ヲ要スルモノ天然生育ヲ撫育シテ成林ノ見込アルモノ及山骨露出土砂流出ノタメ砂防工事ヲ施シ苗木ヲ植栽スルニアラサレハ成林ノ見込ナキモノ等種々アルカ故ニ、之ヲ三種ニ區別シ、人工植栽ハ明治三十六年度以降四十四年度迄九箇年間面積九萬町步ニ、天然生育ハ三十二年度以降四十一年度迄十箇年間面積五萬町步ニ、砂防植栽ハ三十二年度以降三十九



年度迄八箇年間面積五千町歩ニ施行シ、之ニ要スル苗木ハ三十二年度以降四十二年度迄十一箇年間ニ合計面積五百五十町歩ノ苗圃ヲ開設シテ養成供給シ、且無立木地ノ造林實行ニ伴ヒ野火延焼ヲ防禦スルタメ其ノ周圍ニ三十五年度以降四十四年度迄十箇年間ニ防火線面積約六百三十四町歩ヲ建設スルモノニシテ此ノ經費總額ハ六百五十三萬七千八百八十六圓トセリ。

爾來之レカ實行ニ當リテハ多少更止ヲ必要トスルモノアリ、三十六年度迄ハ大體當初計畫ヲ遂行シ來リシモ、特別經營ニ屬スル他事業ニ於テ計畫ノ變更ヲ來スニ及ヒ造林計畫亦屢次其ノ更止ヲ爲セシカ、四十五年二月第五次計畫トシテ改案セラレタルモノ即チ現行ノ計畫ニシテ其ノ當初計畫トノ對照ヲ示セハ次表ノ如シ。

種類	期間及年數		當引増	量		費	
	當初計畫	現行計畫		當初計畫	現行計畫	當初計畫	現行計畫
人工植栽	九	三	三	20,000	21,133	2,940,654	8,211,774
天然生育	10	3	11	5,000	4,966	1,011,455	3,240,011
砂防植栽	8	3	3	5,000	4,741	1,284,600	8,811,770
苗圃	2	3	9	7,676,000	7,676,000	2,400,000	2,400,000
固定防火線	10	3	2	1,000	1,000	1,000,000	1,000,000
臨時防火線	10	3	2	2,880	2,880	2,880,000	2,880,000
造林監督	10	3	2	2,880	2,880	2,880,000	2,880,000
計				31,840	31,840	11,717,119	27,544,155

即チ現行計畫ハ當初計畫ニ比シテ施行期間及年數ヲ延長シ事業分量モ著シキ増加ヲ來シ、經費總額ハ二倍五分三厘ニ増加スルニ至レリ、而シテ現行計畫期間ハ大正八年度ヲ以テ打切りノ豫定ナリシモ尙多少ノ業務ヲ殘存セシヲ以テ、更ニ二箇年タケ實行期間ノ延長ヲ見タルモノニシテ、其ノ大正十年度ニ至ル經費決算額ハ二千三百七十八萬八千五百五十圓ト成リ、實ニ國有林野經營費總額ノ四割七厘ニ該當セリ。以下項ヲ更タメ事業別ノ成果ニ付略述セントス。

(イ) 人口植栽

特別經營事業ニ依リ實行セル造林面積ハ三十萬九千九百九十三町歩、此ノ經費千九百五十五萬三千八百七十七圓ニシテ總造林費ノ約半額ニ達ス。而シテ植栽樹種ヲ概觀スルトキハ針葉樹ニ於テハ杉、扁柏、赤松、黒松、落葉松ヲ潤葉樹ニ於テハ樺、樟、栗、榎、胡桃、厚朴ヲ主トシ、其ノ面積歩合ハ針葉樹八割強、潤葉樹二割弱ニシテ、針葉樹中ニテハ扁柏三割四分、杉赤松各二割四分、落葉松一割四分、黒松四分ノ順位ニシテ、潤葉樹中ニテハ樺三割三分、樟二割九分、栗九分、榎八分、胡桃七分、胡桃二分厚朴一分、其他一割一分ノ割合ヲ保テリ、若シ夫レ茲ニ前記三十萬餘町歩ノ造林地力將來幾許ノ價値ヲ産出スヘキヤヲ想定センカ、各樹種ハ夫々異リタル輪伐期ニ依リテ取扱ハル、ヲ以テ、假ニ各樹種カ其ノ輪伐期ニ達スルニ從テ、伐採セラハ、モノトセハ杉ハ大正八十七年度、扁柏ハ百九年度、赤松、黒松、落葉松ハ各六十九年度、其他ノ針葉樹ハ百二十九年度、樟ハ八十九年度、榎、胡桃ハ百五十九年度、栗、榎ハ七十三年度、栗、厚朴其ノ他ノ潤葉樹ハ六十九年度ニ於テ全部伐採シ盡サル、コト、ナルヘク、此ノ間ニ於テ收得セラル、主間伐採收穫及收入金額ヲ概算スレハ材積八億一千九十九萬石金額五十一億一千二百六十五萬圓ニ達スヘク、又喬林ニ屬スル造林樹種中



赤松ハ最初ニ伐採セラレ、ヲ以テ、其ノ主伐見込年度タルヘキ大正四十七年度ニ於ケル林木蓄積及價格ヲ見積ルトキハ蓄積五億八百三十三萬石金額十一億二千九百十五萬圓トナルヘク、尙四十七年度迄ニ收得スヘキ間伐收穫(根據更新前ノ機關ノ主伐收穫ヲ含ム)ハ材積一億三千四百二十三萬石金額二億二千六百六十七萬圓ニ達スル見込ニシテ、即チ之ヲ換言スレハ人工造林地ノ四十七年度ニ於ケル材積及價額總生長量ハ材積六億四千二百五十七萬石金額十三億五千五百八十二萬圓ニ達スルモノニシテ、明治三十二年度乃至大正四十七年度ノ六十箇年ニ於ケル平均間伐收穫(機關ニ付テハ前記同斷)ハ材積約二百二十四萬石金額三百七十八萬圓ヲ算スルコト、成ルヘシ。

(ロ) 天然生育

大正十年度ニ至ル特別經營ノ造林面積ハ五萬三千六百六十七町步ニシテ、此ノ經費二十四萬六千四百九十四圓ニ達ス、而シテ補植樹種ハ杉、扁柏、松、櫟、栗、樟其ノ他ニシテ其ノ面積歩合ハ濶葉樹大部分ヲ占ム。今前述人工造林地ニ於ケルト同様ノ想定ヲ試ムルニ、輪伐期ニ依リ伐採セラレ、場合ニ於テハ材積五千七百七十萬石金額一億四千六百八萬圓ヲ舉クヘク、又大正四十七年度ニ於ケル林木蓄積ハ二千七百六十八萬石價格五千六百三十五萬圓ニシテ、此ノ間收得スヘキ間伐收穫(機關ニ付テハ前記同斷)ハ材積千五百七十一萬石金額千六百七十五萬圓ト成ルヲ以テ、天然造林地ノ大正四十七年度ニ於ケル總生長量ハ材積四千三百四十八萬石、價格七千三百十萬圓ニ達スルモノト謂フヘシ。

(ハ) 砂防植栽

國有林野ニ於ケル砂防設備ノ内、工事ヲ主トスル砂防工ニ在リテハ經費ノ都合上ノ規模ナル實行ヲ見ルニ

至ラスト雖、造林ヲ主トスル砂防植栽ニ在リテハ明治三十二年度以來著々之ヲ進捗セシメ、或ハ山野ノ崩壊地禿瘠地ニ或ハ海岸ノ飛砂地ニ造林シテ相當成績ヲ收メ、森林造植ノ目的ヲ達シツ、アルモ、第一次植栽ノ結果直ニ以テ造林地ヲ經濟的施業林ニ誘致スル能ハサルモノ多シ、然レトモ、其ノ將來ニ於ケル林地保全林木造植ニ對シ直接的效果ノ没スヘカラサルモノアルノミナラス、豪雨ニ際シテ土砂ノ流出ヲ防止シ暴風ニ會シテ海潮飛砂ノ被害ヲ減却スル等間接的ノ利益決シテ少ナカラサルモノアリ。彼ノ山陽地方國有林ノ禿裸地カ翠色ヲ呈スルニ至リタルカ如キ、秋田縣本庄海岸、石川縣大聖寺海岸、鹿兒島縣吹上ノ濱等ノ砂丘地方カ漸次安定シタルカ如キハ本事業ノ餘澤ニ外ナラスト謂フヘシ。今明治三十二年度ヨリ大正十年度ニ至ル成績ヲ舉クレハ造林面積七千一町步經費百七十四萬九千七百二十一圓ニ達セリ。

(ニ) 其他ノ事項

以上三種ノ造林事業ニ使用セル苗木ハ主トシテ官營苗圃ノ養成ニ係リ、從テ苗圃ノ施業面積ノ如キモ七千五百八十七町步ニ及ヒ大正十年度末、成苗數ハ實ニ九億二千八百十八萬本ニ達シ、其ノ經費ハ三百六十九萬七千七百八圓(十年年度豫算ヲ包含ス)ニ上レリ、而シテ本苗木ハ一部經常部造林ニ融通セラレタルモノアルノミナラス、此外不用品トシテ民間ニ拂下ケラレタルモノアリテ、是等ハ國有林造林事業ノ進展ト相俟テ間接ニ當該地方ニ於ケル一般ノ植林獎勵ニ資セルモノナキニシモアラス、若シ夫レ前述三十六萬二千餘町步ノ無立木地ニ對スル造林ノ完成カ國土保安並治水上ニ及ホセル所謂森林ノ間接的效果ニ付テハ敢テ贅言ヲ要セサル所ニシテ、又國有林野ニ於ケル防火設備ノ完成カ民有林野ノ火災警防上利益ヲ均霑セシメタルモノアルカ如キ、或ハ造林地ニ於ケル下草落葉枝條小間伐材等ノ生産カ地元地方ニ對シ肥料燃料其ノ他ノ需給ヲ緩和シ



タルカ如キハ一ニ特別經營造林事業ノ效果トシテ數フルコトヲ得ヘシ。

## 五、森林土木

藩制時代ニ在リテハ林制上種々ナル消極的制限アリシヲ以テ、多量ノ伐採ヲ爲ス能ハサリシト、木材搬出ニハ多クノ場合河川ヲ利用セシトニ依リ、集材ノ爲一時的ノ林道若クハ河川ヲ設備ヲ爲シタルモノアリシモ長期ニ亘リテ使用スル目的ヲ以テ林道ヲ開鑿シ、或ハ河川ヲ修理シタルモノ極メテ稀ナリ、然ルニ森林利用上運搬設備ノ完否ハ事業經營ニ顯著ナル影響ヲ醸スモノニシテ、利用ノ完璧ハ一ニ懸リテ運搬設備ノ完成ニ在リト謂フモ過言ニアラサルヘシ、從テ林區署設置以來之カ施設ニ付相當注意ヲ怠ラサリシモ經費ノ出所ナク、僅ニ造林費ノ一部ヲ割キテ施行シ得タルニ過キサリシヲ以テ、工事ノ程度低ク其ノ箇所數モ極テ僅少ナリキ、サレハ特別經營ノ開始ト共ニ搬路開通ニ付計畫セラレタルモ、尙經費不十分ナリシ爲僅ニ之ヲ造林費中ニ豫定セルニ過キス、即チ明治三十二年以降三十八年度迄五箇年間ニ搬路開設百里、河川疏通三萬二千坪ヲ企畫シ、此經費百二十七萬五千五百二十九圓ヲ計上セリ、然ルニ本經營事業ノ進捗ト共ニ森林資金收入ノ著シク潤澤ナルニ會シタレハ土木事業モ亦官行所斫伐並官營製材事業ノ發展ニ伴ヒ著々之カ擴張ニ努メ當初計畫以外ニ於テ貯木場ノ増設ヲ企圖シ、又砂防設備ヲ創始シ砂防植栽ト併行シテ砂防工事ヲモ進捗セシムルヲ得タリ、而シテ當初以來大正十年度ニ至ル實行成績ハ經費千八百六十一萬五千六百九十二圓トナリ、當初計畫ニ比シ約十五倍ニ相當シ之ヲ特別經營ノ總支出ニ比スレハ約三分ノ一ヲ占ムルニ至レリ、然レトモ運搬設備ノコトタル森林利用上多々益々辨スルノ狀況ナレハ、今後尙幾多ノ新規事業ノ遂行セサルヘカラサルモノアリ、其ノ進展ノ模様ハ蓋シ林木利用ノ集約度増進ト共ニ殆ト停止スル所ナカル

ヘシ、茲ニ事業項目ニ分テ其ノ成績ノ梗概ヲ説述セントス。

## (イ) 林道開設及河川疏通

特別經營ノ當初計畫ニ於テ造林事業中ニ包含セラレタル林道開設ハ僅ニ延長百里經費百八萬千二百二十九圓ニ過キサリシカ、事業開始後二三年ニシテ全國ニ亘リ車道九線ヲ開設シ、茲ニ國有林開發ノ端緒ヲ開ケリト雖當時優秀ナル技術員ニ缺乏セルカ爲實行ノ成績頗ル不良ニシテ、竣工後ノ利用殆ト豫期ニ反セルモノアリシハ亦已ムヲ得サリシ所ナルヘシ、次テ斯道ノ專門技術員ヲ大林區署ニ配置シ、積極的經營ノ地歩ヲ固メントセシニ、偶日露戰役ニ際會シテ國庫財政ノ關係上本事業モ一頓挫ヲ來スニ至レリ、然レトモ三十九年度ニ及ヒ官行斫伐事業ノ復興及官營製材所ノ創設等利用ノ進展ニ伴ヒ土木事業ノ擴張ヲ促シ、三十九年度乃至四十四年度ノ間ニ於テハ漸次青森縣下津輕半島ニ於ケル楡林ヲ繞リテ四十一哩餘ノ森林鐵道ヲ開通スルニ至リ、茲ニ我邦ニ於ケル森林鐵道ノ嚆矢ヲ錄セルアリ、爾來鐵道ヲ開通セルモノ秋田縣下長木澤及仁鮎國有林、高知縣下魚梁瀨國有林等ニシテ、十一年三月末現在ノ總延長ハ八十五哩餘ヲ算シ、尙輕便軌道ノ敷設ニ依リテ官行斫伐作業上ノ便ヲ圖リタルモノ全國各地方ニ散在シ、其延長八百二十五哩ニ及ヒ、實ニ國有林運搬設備ノ樞軸ヲ占ムルノ現況ナリ、其ノ他運搬力低位ナル車道、牛馬道ノ如キ或ハ林野ノ保護巡視ニ供セラルヘキ歩道ノ如キハ漸次築設セラレ、是等ノ總延長ハ三千二百二十六里ニ達シ、國有材ノ運搬設備モ漸ク面目ヲ一新シタルノ概アリ、而シテ當初以來大正十年度ニ至ル林道經費ハ合計千二百九十九萬六百三十九圓ニシテ、實ニ森林土木費ノ約七割ニ該當セリ、茲ニ十一年三月末現在ノ林道築設ノ狀況ヲ示セハ次表ノ如シ。



林道種別延長經費實行成績表

種 類	延 長	經 費	備 考
鐵 道	三五	六八九、五四七	明治三十二年乃至大正十年度ノ二十三箇 年間ニ亘ル林道新設ノ實行成績ヲ示ス
軌 道	三三八	五、五三八、五一六	
車 道	三一九	一、五九六、一六八	
木 馬 道	七八	三四七、二七六	
牛 馬 道	一九八	六一五、五一七	
步 道	二、五三一	五七三、六三八	
計	三、四九九	九、三六〇、六六二	

又特別經營開始當時ニ在リテハ一般ノ運輸機關尙未タ發達セス、林産物ノ搬出亦舊慣ヲ辿リテ河川ヲ利用スル場合最モ多ク、從テ水運ハ依然唯一ノ運搬設備タルヲ失ハサリシヲ以テ、當初計畫ニ於テモ河川疎通三萬二千坪經費十九萬四千四百圓ヲ計上シ、之カ實行ヲ期シタレトモ、水運ハ其ノ作業不確實ナルノミナラス、沿線ノ護岸堤塘橋梁等ヲ破壊シ、或ハ農耕地ニ損害ヲ及ホス等ノ影響アルニ鑑ミ到底其ノ永續ヲ許サ、ルニ至リタレハ、漸次ニ軌道其ノ他ノ陸運設備ニ改善セラレ、國有林中現ニ河川ヲ利用セルハ殆ト數フルニ足ラサルノ有様ナリ、故ヲ以テ河川疎通ノ實行成績ハ林道其ノ他ノ如ク顯著ナルモノヲ見スト雖、尙大正十年度ニ至ル數量ハ七萬八千五百三十八立坪經費合計十八萬九千六百四圓ト成リ、當初計畫ヲ超過スル若干ナルニ至レリ。思フニ特別經營實行期間ニ於テ施設セラレタル運搬設備ハ主トシテ國有林中比較的大圍地ヲ爲シ、且優良ナル林木蓄積ノ豐富ナル地方ニ施工セラレ、未タ以テ國有林全般ニ普及セスト雖、之ヲ森林利用上ノ立脚點ヨリ觀察スレハ單ニ未利用狀態ニ在リシ尨大ナル森林資源ノ開發ヲ圖リ、從來林産物

市場價格ノ大部分カ運搬費之ヲ占ムルノ舊慣ヲ打破シ、爲ニ國民經濟上著シキ福祉ヲ增進セルノミナラス國有林ノ總蓄積十有三億石中直接林木ノ利用程度ヲ昂進セシメタルモノ其ノ約三分ノ一ニ及ヒ運搬費節減ニ依リ材木價額ヲ騰貴セシメ國有財産ノ價額ヲ増嵩セルコト立木資材ノミニ於テ少クモ九千萬圓ヲ下フサルヘシ、又運搬設備ノ發達ハ官行斫伐事業ノ創始ヲ促シ、官營製材事業ノ開設ヲ齎ラシ、其ノ開始以來今日迄之ニ依リテ搬出セラレタル國有林産物ノ數量ハ約一億石ノ巨額ニ達シ、尙廣ク民材ノ搬出ニ供用セラレタルノミナラス、又物資ヲ運搬シテ地方民ノ便益ニ供セラレタルモノ少カラス、爲ニ林木利用ノ集約、斫伐跡地更新ノ確實及林産物需給ノ調節等ヲ期シ、森林經營ノ根本義タルヘキ植伐ノ均衡ヲ圓滑ナラシメ、延テハ森林收入ノ増大ヲ來シ、現今ノ森林收入ヲシテ國庫財政上重要視セシムルニ至リタルハ實ニ特別經營事業ノ施設ニ負フ所甚大ナリト謂フヘシ。

(ロ) 貯木場設備

昔時木材ノ運搬方法カ主トシテ水運ニ依リタルハ前述ノ如クナルヲ以テ、其ノ搬出上特ニ貯木場ヲ設置セルカ如キハ極テ近世ノ事蹟ニ屬シ、其ノ實例亦決シテ多カラサルカ如シ、特別經營開始以來林道ノ開通ニ伴ヒ各所ニ貯木場設置ノ必要ヲ認メラレタルモ、當初計畫中其ノ豫定ナカリシヲ以テ、僅ニ林道附屬ノ事業トシテ之ヲ設備シ得タルニ過キス、然レトモ官行斫伐官營製材等ニ併行シテ陸上運材ノ途漸ク開クルニ從ヒ之カ設置ノ急ヲ告グルニ至リ、明治三十七年以降森林土木事業中獨立シタル主要項目ト爲シ、面積二百八十七町步經費百七十一萬七十一圓ヲ計上セシカ、爾來著々計畫ヲ實行シテ之カ擴張増設ニ努メタリ、而シテ青森、増川、岱野、能代、木津川、田野、鹿兒島ノ各貯木場ノ如キ其ノ規模稍大ナルモノニ屬シ、其ノ



他各主要林道ノ起終點ニハ何レモ其ノ設備ヲ見ルニ至レリ、因テ三十二年度以降大正十年度ニ至ル設置面積三百七十町步經費合計百五十七萬四千六百四十四圓ト成レリ、尙貯木場設置ニ付特記スヘキハ本經費中二十萬三千七百八十八圓ハ増川外十二官營製材所ノ敷地十二萬八千六百七十三坪ノ購入及貯材設備ニ充當セラレタルコトニシテ、當時官營製材事業ノ操業漸ク進ミ、一面國有林生產材ノ利用及販路ヲ開拓シ、他面ニ木材工業ノ普及發達ニ資スルヤ民間事業類々トシテ簇出シ、我邦木材業界ニ一新紀元ヲ劃シ、延テ今日ノ盛況ヲ誘致スルニ至リタルハ特別經營事業成績ノ一端トシテ閑却スヘカラサルモノトス。

(ハ) 砂防設備

國有林野ニ於ケル砂防設備ノ内造林ヲ主トスル砂防植栽ノ事業ハ特別經營開始當時造林計畫中ニ於テ面積五千町步、經費百三十八萬八千二百八十圓ヲ計上シ、明治三十二年度以降八箇年間ニ實行スル豫定ナリシモ、工事ヲ主トスル砂防工ノ事業ハ當時經費ノ關係上計畫スルニ至ラザリキ、是ヨリ先明治三十年砂防法ノ發布セララル、アリテ、爾後各地ニ於ケル工事ハ本法ニ依リ施行スルコト、ナリシカ其ノ範圍ハ主務大臣ノ指定區域ニ限ラレ、未タ以テ一般ノ森林地ニ施工スルノ運ヒニ至ラザリシカハ、四十三年農商務省ニ於ケル公有林野造林獎勵及荒地復舊事業ノ創始ト共ニ治水上重要ノ關係アル林野ノ地盤保護ニ努ムルニ會シ、國有林野ニ於テモ獨リ從來ノ砂防植栽ノミニ委スル能ハサルニ至リタレハ、大正二年度以來土木費ノ一分ヲ割キテ砂防工事ヲ施行スルニ至リシト雖經費尙十分ナル能ハス、之ニ加フルニ三十九年度以降八箇年繼續ノ豫定ヲ以テ計畫セラレタル足尾國有林復舊事業ハ行政並財政整理ノ爲大正元年度ヲ以テ打切ラレタレハ、其ノ殘務ヲ國有林野經營費ヲ以テ整理スルニ會シ、其ノ他ノ國有林ト併セテ積極的工事ノ施設ヲ

進ムルノ必要ヲ認メ、大正三年十月新ニ計畫ヲ立案シテ五年度以降十年度迄六箇年間ヲ期シ、國有林野中六十餘流域ニ互リテ砂防設備トシテ土木事業ヲ進捗セシムルコトトシ、經費二百五萬八千二百五十圓ヲ計上スルニ至リ、爾後繼續施行シテ今日ニ及ヘリ、其ノ大正三年以降十年度ニ至ル實行成績ハ二百十四箇所經費百七十九萬七千五百二十三圓ニ達セリ、而シテ國有林野砂防設備ノコトタル一般民有林野ノ施設ト相併行シテ施工スルニアラサレハ所期ノ成果ヲ收ムルコト困難ナルハ言ヲ俟タサル所ナルモ、完全ナル施設ニ至リテハ多大ナル經費ヲ必要トシ國庫並地方財政上到底之カ負擔ニ堪エサル所ナルヲ以テ、從來ノ施設程度カ聊彌縫的ノ感ヲ與フルハ固ヨリ已ムヲ得サルヘシト雖、之ヲ治水政策ヨリ觀ルトキハ頗ル遺憾トスル所ナリ、從テ國有林ニ於ケル本施設ノ如キモ其ノ數量僅少ニ過キサレトモ、既往實行ニ徴スルニ成績顯著ナルモノナキニアラス、就中足尾國有林ノ如キハ復舊ノ跡歷然タルハ何人モ首肯スル所ニシテ、其ノ他ノ地方ニ在リテモ之カ國土保安並治水上好影響ヲ齎ラセルハ疑ナキ所ナリトス。

六、森林買上

國有林野ノ經營上土地ノ買上ヲ必要トスルニ至リシハ植伐ニ關スル事業ノ著々進捗セシ以後ニ屬シ、從テ森林ノ施業上ノミニ關シ土地森林等ノ買上方針ヲ決定セルハ明治三十二年度ニ於ケルモノニ止マレリ、即チ國有林野整理方針ニ依レハ國土保安上重大ナル關係アルヲ以テ、國有林トシテ嚴正ナル保護管理ノ下ニ置クノ要アルモノ又國有林野ト民有地トノ境界整理ノ爲買上ニ依リテ保護管理ノ便ヲ圖ルノ要アルモノハ之ヲ買上、賣拂又ハ交換ニ依リテ整理スヘキモノトシテ、特別經營事業ノ開始以來前述ニ該當セル施業林ノ買上ヲ實行セルモノトス、而シテ本事業創始當時ノ計畫ニ於テハ五箇年間ニ經費五百五十九萬四千圓ヲ支



出シ、保安林五萬町步施業林九萬町步ノ買上ヲ豫定セルモ、施設ノ急ヲ要スル事業績出セルト買上價格ノ協定困難ナルモノアリシトニ因リ、大正十年度迄ニ買上ケタル施業林ハ面積二千四百三十町步餘經費七萬七千三百二十三圓ニ過キササルヲ以テ、施業上顯著ナル效果ヲ認め難シトスルモ、本買上箇所ノ約八割ハ四國吉野川流域ノ荒廢民地ニ該當シ、其ノ他ハ境界整理ノ爲ニセルモノニシテ、何レモ國有林經營上無形のノ利益ヲ收メタルモノ少カラサルヘシ、尙運搬設備中林道貯木場敷地、造林事業中苗圃敷地トシテ民有地ヲ買上ケ森林附屬地ニ編入セルモノハ明治四十一年度以降ニ於テ面積約五百四十八町步ヲ算シ、是等何レモ當該事業ノ爲供用セラレ其ノ效果決シテ没スヘカラサルモノアリトス。

### 七、林業試驗

特別經營事業開始以前ニ於ケル我邦ノ林業試驗ハ經費ノ不足、技術員ノ缺乏等ニ因リテ遲々トシテ進マズ、其ノ成績ノ見ルヘキモノナキノ状態ナリシカ、明治三十二年度ニ於テ林野經營ノ事業遽然擴張セララル、ニ及ヒ、從テ林業上諸種ノ試驗ヲ施行スルノ必要ヲ生セシカハ、當時林野整理局ハ民有地ヲ買上ケテ目黒試驗苗圃ヲ創設セリ、是レ今日ノ中央ニ於ケル林業試驗場ノ前身ニシテ、爾來其ノ官制組織ニ於テハ數次ノ變遷アリタルモ、其ノ經費ハ國有林野經營費ヲ以テ支辨セラレ特別經營事業ノ一體ヲ爲シ、漸次事業ヲ擴張シテ、最近仙臺、熊本ニ支場ノ設立ニ依リ一段ノ發達ヲ示スニ至リ、其ノ明治三十二年度乃至大正十年度間ノ經費總額ハ百四十一萬千八百八十三圓ニ達セリ、而シテ此間物理化學、木材工藝、森林施業、造林、保護、氣象及混農林業等ノ各試驗事項ニ付調査研究ヲ進メ、隨時其成績ヲ公表シテ斯業界ヲ指導シ、殊ニ四十四年度ニ於ケル鍛冶屋澤木工所設立ノ後ヲ承ケ林業試驗ヲ續行シテ我邦ニ於ケル瀾葉樹木ノ利用ヲ促進シ

タルカ如キ、或ハ木材乾餾、製炭、種苗改良等ニ於テ直接間接ニ當業者ヲ誘掖シタルカ如キ、我邦林業ノ發展ニ貢獻セル所尠カラサルヘシ、故ヲ以テ近時林業ノ進歩發達ニ伴ヒ民有林野ニ關スル試驗研究並質疑應答ノ如キ頓ニ増加セルニ際シ、將來林業試驗ノ事項ヲ以テ依然國有林野經營業務ノ一トシテ取扱フノ不合理ナルハ今ヤ明白ナル事情ヲ示スニ及ヒタレハ、十一年度年ヲ以テ從來ノ林業試驗場ヲ獨立セシメ、本省直轄ノ下ニ移管セララル、ニ至リタルハ將來ノ發展上一段ノ地步ヲ固フシタルモノナリトス。

### 八、下戻調査

國有土地森林原野ノ下戻處分ハ社寺土地處分又ハ改租當時ニ於ケル官民有區別處分ノ誤謬ヲ訂正シ、其ノ正當ナル所有者ニ復歸セシムルヲ以テ目的トシ、明治二十三年以來之カ實行ニ著手セシモ取扱ノ形式一定セサル爲其ノ處分往々區々ニ互ルノ嫌アルノミナラス、特別經營事業ノ創始後ニ於ケル林野整理ノ進行ヲ防クルノ虞アルニ依リ、三十二年下戻ニ對スル法律ノ發布ヲ見、次テ之カ審査機關ノ特設セララル、アリテ著々調査ヲ進行セシカ、三十五年度ヨリ之ヲ特別經營ノ事務トシテ處理スルコト、ナリ、以テ今日ニ至レリ、而シテ下戻申請件數ハ二萬二百七十三件ノ多數ニ及ヒ、其ノ目的物ハ面積二百七萬餘町步、立木二千五百三十八萬餘石ニ達セリ、爾來調査ノ進捗ニ伴ヒ三十七年度ニ於テ全部ノ下戻處分ヲ完了セシモ、申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルモノニシテ更ニ行政訴訟ヲ提起シタルモノ千九百二十六件ニ達シ、之カ事務處理ハ延テ今日ニ及ヒ大正十年度迄ノ經費總額六十五萬五千五百四十四圓ニ上リタルモ、既ニ大部分ヲ完結シ今ヤ未解決ノモノ僅ニ五十件ヲ餘セルノミ、從テ早晚之カ解決ヲ見ルヘキノ状態ニ達セシハ洵ニ喜ハシキ現象ナリ。從來下戻ニ關スル訴訟繫屬期間中ハ國有林ノ施業ヲ中止セルモノ多カリシモ、其ノ勝訴



ニ歸シタル分ニ對シテハ著々施業案ノ計畫ヲ進メ、經營上遺憾ナキヲ期シタルハ勿論ニシテ、其ノ民有ニ歸屬セシモノモ下戻ノ許可ヲ得タル林野ハ概シテ申請者ニ於テ保護管理宜シキヲ得、相當收益ヲ擧ケツ、林業經濟ノ發展ニ資セルモノ少カラサリシト雖不許可處分ニ對シテ行政訴訟ヲ提起シ勝訴トナリタル林野ノ如キハ多年ノ失費報償等ノ爲林木ノ伐採林地ノ分割行ハレ、申請者ハ遂ニ何等得ル所ナキニ至レルノ現況ナルハ林政上甚ク遺憾トスル所ナリ。

#### 九、學生養成林業講習及外國出張

以上各項ニ互リテ絮說セル以外ニ於テモ特別經營業務トシテ其ノ成績ヲ特記スヘキモノハ、本事業ニ從事スヘキ吏員ノ養成カ延テ我邦ノ林政林業上一般ノ進歩發達ヲ促シタルノ點ナルヘシ、即チ特別經營事業ノ創始當時ニ於テハ施業案ノ編成林野ノ測量及ヒ造林等ニ關スル業務ノ執行上斯道専門ノ技術者ヲ要スルコト急且大ナリシト雖、遽ニ其ノ多數ヲ求ムルコト至難ナリシヲ以テ、明治三十二年乃至三十七年度ノ五箇年間ニ農科大學林業部ノ學生生徒ニ學資ヲ支給シテ其ノ補助養成ニ努メ又中等普通教育修了者ヲ募集シテ林業講習生ヲ命シ、森林技術ノ學業實務ヲ練習セシメタルカ如キ、何レモ應急ノ對策ニ過キサリシト雖、依テ以テ學生生徒ノ養成者三十九名講習生二百八十名ヲ得ルニ至レリ、之カ爲支出セル經費ハ僅ニ十二萬九千七百二圓ニ過キスト雖、當時尨大ナル特別經營事業ノ企畫ニ對シ技術者ヲ得ル事極メテ至難ナリシニ拘ラズ能ク本計畫ノ遂行ヲ完フシ、剩サヘ豫期以上ノ成績ヲ收ムルニ至リタルハ全ク本施設ノ時宜ニ適シタルニ因ラスンハアラス、尙特別經營施行期間ニ於テ林業林政上ノ研究視察ノ爲海外ニ派遣セラレタル吏員ハ留學生十名視察出張員四十一名ニシテ、其經費二十二萬四千七百四十圓ニ達セリ。以上各種ノ吏員カ國有林野

ノ事業上直接貢獻スル所多大ナリシハ更テ贅說スルヲ要セスト雖、爾來廣ク官界民間上下ノ間ニ在職シテ活動ヲ繼續シ延テ國運ノ進展ニ資セルモノアルハ偏ニ本特別經營事業ノ賜物ト謂ハサルヘカラサルナリ。

### 第五節 結 論

之ヲ要スルニ國有林野特別經營事業ノコトタル全國各地ニ基布散在セル國有林野ヲ整理シ、其不要存置林野ハ之カ拂下處分ヲ爲シテ本事業ノ經營資金ニ充當シ、要存置林野ニ對シテハ官民有ノ境界ヲ査定シ、其ノ面積ヲ測量シ、以テ森林經營上最モ合理的ナル施業案ヲ編成シテ國有林經營ノ基礎計畫ヲ確立スルト共ニ、從來ノ無立木地ニ造林シテ森林ヲ増殖シ、禿裸地崩壞地等ニ砂防設備ヲ施工シテ國土保安ニ資セシメ、運搬設備ヲ完成シテ林產物ノ利用ヲ増進シ、又試驗場ヲ創設シテ林業上ノ指導獎勵ニ努メ、或ハ民有下戻處分ヲ進行シテ官民係争ノ累ヲ解決セル等我邦ノ國有林經營上根本的革新ノ機運ヲ促進シ以テ永遠ノ基礎ヲ確立スルニ至リ、遂ニ今日ノ隆昌ヲ出現セシメタルノミナラス、延テ一般林業上ニハ維新以來衰微セル林業界ニ對シテ廣ク規範ヲ示シテ殖林ノ獎勵ニ資シ、愛林ノ思想ヲ鼓吹シ、或ハ勞働觀念ヲ誘致シテ地方民ノ經濟ヲ潤ホシ、或ハ民間製材業木工業ノ勃興ヲ促シ、或ハ運材事業ノ革新ヲ惹起セシメタル等、爲ニ民業ノ發達ヲ促シタルコト尠カラズ、從テ我邦林業經濟上一大效果ヲ齎シタルカ如キハ獨リ國有林經營ノ進展上慶賀スヘキコトタルニ止マラス、將又一般林政上一新紀元ヲ畫シタルモノト謂フヘシ、而シテ其ノ實行期間タルヤ決シテ之ヲ短カシトセス、爲ニ支出セル經費亦決シテ小ナカラスト雖、單ニ之ヲ國有林事業ノ收入狀況ニ付大觀スルモ特別經營開始當時ニ於ケル森林收入ハ僅ニ百七十三萬餘圓ニ過キサリシカ、大正十一年度豫算ニ於テハ約三千百二十



餘萬圓ニ達シ、即チ當初ニ比シ方ニ十八倍ニ激増セルモノニシテ、洵ニ隔世ノ感ナキ能ハス、若シ夫レ更ニ將來ヲ豫想センカ、自今十年後ニ於ケル森林收入ハ約四千三百萬圓ニ昇騰スル見込ニシテ、進テ現實國有林カ第一次更新ヲ一循スルノ時期漸ク近ツクニ從ヒ、其ノ收入ハ正ニ億ヲ以テ數フルニ至ラントス、即チ本事業ノ施設カ既往ニ於テハ國有財産ノ價值ヲ増殖シ、將來ニ亘リテハ莫大ナル富ヲ蓄積シテ國富ヲ増進セルノミナラス、爲ニ我邦林産物ノ需要供給ヲ調節シ、國民經濟上ニ好影響ヲ及ホスヘキカ如キハ、一ニ以テ當該特別經營事業ノ效果ニ外ナラスト信ス。

## 第二章 施業

### 第一節 施業案ノ編成方針

國有林ノ施業案編成ハ、特別經營事業中ニ企畫セラレタル一業務ニ屬シ、其ノ沿革及成績ハ明治林業史要ニ詳記セルヲ以テ、本節ニ於テハ之ヲ省略シ、單ニ特殊ノ取扱ニ關スル事項ノミヲ掲記セントス。

#### 其一、大材ノ生産保續

國有林野特別經營事業開始ノ當時、閣裁ヲ經タル國有林經營並整理方針中第二、第二項ニ於テ「特ニ造船用材、橋梁用材其ノ他大建築用材ノ如キ特殊ノ材種若ハ巨材ヲ要シテ其ノ產出民業ニ適セサルモノハ、國有林ニテ繁殖シ、常ニ國ノ需要ニ缺乏ナカラシムルコトヲ期スヘシ」ト云ヒ、其ノ第四ニ於テ「特殊ノ用材タルヘキ樟、樟並巨材ヲ仕立ツヘキ目的ノ扁柏、杉、松林等ノ輪伐齡ハ二百年以上ニ於テ定ムヘシ」ト明示セラレタル

カ爲施業案モコノ方針ニ則リテ編成セラレ、漸次其ノ檢訂ヲ施行シツ、アリト雖、特殊ノ大材生産ニ就テハ尙計畫上遺漏ナシトセス。而シテ歐洲戰亂ノ影響ハ、吾人ヲシテ産業上ノ自足自給策ニ付、幾多重要ナル事例ヲ目撃セシメタルカ如ク、木材ニ於テモ亦其ノ生産ニ付單ニ豐富ヲ期スヘキニ非ラス、大材生産ノ一事ヲモ忽諸ニスヘカラサルヲ思ハシムルニ至レリ、政府ニ於テモ其ノ取扱ヲ決定スルノ必要ヲ認メ、山林局長ヨリ左記通牒ヲ各大林区長ニ發シ之ニ據ラシムルコトナレリ。

#### 木材ノ生産保續ニ關スル件(大正八年二月七日 林第一三七號通牒)

國有林ノ施業案編成上大材ノ生産保續ニ關シテハ自今左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候也

追テ此際左記ノ要領ヲ參酌シテ豫察調査ヲ遂ケ管内全般ヲ通セル見込計畫案提出相成度尙本件ニ付檢訂期ヲ俟ツテ不得業ト認ムル事業區ニ在リテハ施業ノ一部修正方取計相成度

#### 記

第一、大材ノ生産保續計ルカ爲左記各號ニ依リ長期輪伐作業級ヲ設置スヘシ

一、作業級ノ組織ハ次ノ如ク爲スコト  
 長期輪伐作業級ハ一事業區ニ於テ一定齡階以上ノ特定林分ト普通作業級中ニ包含セララル、右ノ一定齡階以下ノ不特定林分ヨリ特定林分ノ更新ニ付當該林分ト之ニ相當スル面積ノ不特定林分ト相互ニ繰替フヤモノトス因テ法正年伐量ノ關係次ノ如シ  
 長期輪伐作業級中ノ特定林分面積ヲ $y$ 、輪伐期ヲ $n$ 、年伐面積ヲ $x$ 、不特定林ノ限界齡階ヲ $m$ トシ又普通作業級面積ヲ $z$ 、輪伐期ヲ $l$ 、年伐面積ヲ $u$ トスレハ次ノ算式ヲ得

$$\frac{y}{n} = \frac{z}{l} \quad \frac{y}{n} = \frac{z}{l} \quad \frac{y}{n} = \frac{z}{l}$$

前式ニ於テ  $m = \frac{z}{l}$  トスレバ